



GLK-Class

取扱説明書



Mercedes-Benz

表記と記載内容について

マーク	内容
*	オプションや仕様により異なる装備には * マークが付いています。
	警告 重大事故や命にかかわるけがを未然に防ぐために必ず守っていただきたいことです。
	環境 環境保護のためのアドバイスや守っていただきたいことです。
	注意 けがや事故、車の損傷を未然に防ぐため、必ず守っていただきたいことです。
	知識 知っていると便利なことや、知っておいていただきたいことです。
	操作手順などを示しています。
(▷ ページ)	関連する内容が他のページにもあることを示しています。

お客様へ

このたびはメルセデス・ベンツ車をお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書は、車の取り扱い方法をはじめ、機能を十分に発揮させるための情報や、危険な状況を回避するための情報、万一のときの処置などを記載しています。

車をご使用になる前に、本書を必ずお読みください。

- 取扱説明書は、いつでも読めるように必ず車内に保管してください。
- 表紙の画像はイメージであり、日本仕様とは異なる場合があります。
- この取扱説明書には、日本仕様とは異なる記述やイラスト、操作方法などが含まれている場合があります。
- この取扱説明書には、日本仕様には設定されない装備の記述が含まれている場合があります。
- この取扱説明書には、走行速度が100km/hを超えたときの車両機能や状態などについての記述がありますが、公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

- 装備や仕様の違いなどにより、一部の記述やイラストが、お買い上げいただいた車とは異なることがあります。
- スイッチなどの形状や装備、操作方法などは予告なく変更されることがあります。
- オーディオやナビゲーションに関しては、別冊の「COMAND システム 取扱説明書」をお読みください。
- 車を次のオーナーにお譲りになる場合は、車と一緒にすべての取扱説明書と整備手帳をお渡しください。
- ご不明な点は、お買い上げの販売店またはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

 メルセデス・ベンツ日本(株) 公式サイト

<http://www.mercedes-benz.co.jp/>

メルセデス・ベンツ日本株式会社

さくいん	4
はじめに	13

各部の名称	23
安全装備	33
車両の操作	67
日常の取り扱い	231
万一のとき	267
サービスデータ	331

ア

アクティブパーキングガイドンス	177	送風口の調整	208
アクティブブラインドスポットアシスト	191	送風量の調整	204
アクティブレーンキーピングアシスト	196	ゾーン機能の作動 / 解除	204
アシストグリップ	229	通常の使い方	202
アダプティブハイビームアシスト	103	デフロスターモード	205
アダプティブブレーキライト	60	内気循環モード	206
アテンションアシスト	190	リアデフォグガー	206
安全のために	13	エアバッグ	38
オートマチック車の取り扱い	17	ウインドウバッグ	42
寒冷時の取り扱い	19	運転席 / 助手席ペルビスバッグ	42
警告ラベル	15	運転席 / 助手席エアバッグ	40
子供を乗せるとき	16	運転席ニーバッグ	40
こんなことにも注意	21	エアバッグの作動条件	43
診断ソケット	14	サイドバッグ	41
全体的な注意事項	13	重要な安全上の注意	38
走行する前に	15	エマージェンシーキー	298
保証の適用	15	エンジンオイル	239、336
メルセデス・ベンツ指定サービス工場	15	エンジンオイル量に関する注意	239
イージーエントリー機能	87	エンジンオイルレベルゲージを	
イグニッション位置	79	使用してのオイル量の点検	239
キー	79	エンジンオイルを補給する	240
キーレスゴー	79	エンジンの始動	113
インストルメントパネル	24	エンジンの停止	120
インテリジェントライトシステム	101	エンジンルーム	237
アクティブライトシステム	101	エンジンオイル	239
コーナリングライト	102	エンジンルーム	238
全体的な注意事項	101	他のサービス用品の点検と補給	241
ハイウェイモード	102	ウインドウウォッシャー /	
フォグランプ強化機能	102	ヘッドライトウォッシャーの補給	242
ウィンタータイヤ	342	冷却水の量の点検	241
ウォッシャー液	338	ボンネット	237
エアコンディショナー	200	エンジン冷却水温度計	132
AC モード	202	応急用スペアタイヤ	270
AUTO モードの解除	202	オートマチックトランスミッション	124
エアコンディショナー作動表示	200	DIRECT SELECT レバー	124
エアコンディショナー使用時の注意	201	運転のヒント	127
コントロールパネル	201	オートマチック走行モード	128
重要な安全上の注意	200	オートマチックトランスミッションの	
設定温度の調整	203	トラブル	131
送風口の選択	204	ギアシフト操作	127
		シフトポジション	126
		重要な安全上の注意	124
		走行モード選択スイッチ	127

ティップシフト	128
パドル	128
マニュアルギアシフト	129
オフロード走行装備	153
4MATIC	153

カ

外気温度表示	132
カップホルダー	225
センターコンソールのカップホルダー	225
リアアームレストのカップホルダー	225
可変スピードリミッター	157
ウィンタータイヤスピードリミッター	160
可変スピードリミッター	158
環境保護について	13
寒冷時の取り扱い	19
キー	68
キーの機能	68
キーのトラブル	72
キーレスゴー	69
重要な安全上の注意	68
ロッキングシステムの設定の変更	70
キーの電池交換	300
キーの電池を点検する	301
重要な安全上の注意	300
電池の交換手順	301
キーレスゴー	69
救急セット	269
クルーズコントロール	154
グローブボックス	215
けん引	323
4MATIC 車両の注意点	325
けん引始動（緊急エンジン始動）	326
けん引フックの取り付け / 取り外し	324
車両を運搬する	325
重要な安全上の注意	323
ぬかるみなどから復帰するとき	326
両アクスルを接地させて車両をけん引する	324
子供を乗せるとき	46
チャイルドセーフティシート	46

チャイルドブルーフロック	56
小物入れ	213
グローブボックス	215
シートポケット	216
センターコンソールの小物入れ	215
フロントアームレストの小物入れ	215
リアアームレストの小物入れ	216

サ

サービスプロダクトと容量	334
ウォッシュャー液	338
エンジンオイル	336
重要な安全上の注意	334
燃料	334
ブレーキ液	337
冷却水	337
サイドウインドウ	108
コンビニエンスオープニング機能	109
コンビニエンススクローリング機能	110
サイドウインドウの開閉	109
サイドウインドウのトラブル	111
サイドウインドウのリセット	111
重要な安全上の注意	108
サイドビューカメラ	183
サンバイザー	226
バニティミラー	226
シート	81
シートヒーター	85
電動ランバーサポート	85
フロントシートの調整	
（4ウェイパワーシート）	82
フロントシートの調整	
（メモリー付パワーシート）	83
ヘッドレストの調整	83
ランバーサポート	85
シート位置の記憶	92
シートヒーター	85
シートベルト	93
運転席と助手席のシートベルト着用警告	96
シートベルト調整機能	95
シートベルトテンショナー /	
ベルトフォースリミッター	37

シートベルトの高さ調整	95	車両の電子機器	333
シートベルトを着用する	94	電子部品の改造	333
シートベルトを外す	96	車両のバッテリー	316
重要な安全上の注意	93	VRLA バッテリー	320
正しい運転姿勢	96	インジケーター付きバッテリー	320
中央のシートベルトを着用する	95	重要な安全上の注意	316
事故・故障のとき	268	バッテリーの充電	319
室内装備	225	ジャンプスタート	320
12V 電源ソケット	228	収納ネット	216
アシストグリップ	229	乗員安全装備	34
カップホルダー	225	NECK PRO アクティブヘッドレスト	46
サンバイザー	226	PRE-SAFE®	45
灰皿	226	SRS（乗員保護補助装置）	35
フロアマット	229	エアバッグ	38
ライター	227	子供を乗せるとき	46
車外ライト	97	重要な安全上の注意	34
アダプティブハイビームアシスト	103	チャイルドブルーブロック	56
インテリジェントライトシステム	101	診断ソケット	14
コンビネーションスイッチ	100	ステアリング	86
パッシング	100	イージーエントリー機能	87
方向指示	100	重要な安全上の注意	86
車外ライトの設定	97	ステアリング位置の調整（手動式）	87
設定	97	ステアリング位置の調整（電動式）	87
ヘッドライトオートモード	98	スピードメーター	133
ライトスイッチ	97	セーフティネット	221
ロービーム	98	積載荷物の制限重量	339
非常点滅灯	100	前席上方の操作部	30
ヘッドライトウォッシャー	101	センターコンソール	28
ヘッドライトの内側が曇るとき	104	下部センターコンソール	29
ルームランプ	105	上部センターコンソール	28
車載工具	269	走行安全装備	57
応急用スペアタイヤが車載されている場合	270	ABS	58
タイヤフィットが車載されている場合	270	BAS	58
車載品の収納場所	268	BAS プラス（ブレーキアシスト・プラス）	59
応急用スペアタイヤ	270	EBD	63
救急セット	269	ESP®	61
事故・故障のとき	268	PRE-SAFE® ブレーキ	63
車載工具	269	アダプティブブレーキライト	60
停止表示板	269	重要な安全上の注意	57
非常信号用具	268	走行安全装備の概要	57
車両に保存されるデータ	22	走行時の注意	251
故障データ	22		
データが保存されるその他の装備	22		

雨降りや濃霧時の運転	257	タイヤの清掃	251
エンジンを停止しての走行	251	タイヤの選択、装着と交換	244
走行するとき	255	タイヤの保管	250
走行中に異常を感じたら	255	冬季の使用	244
タイヤのグリップについて	253	ホイールおよびタイヤの定期的な点検	243
駐車するとき	256	タイヤとホイールの組み合わせ	339
濡れた路面での走行	254	ウインタータイヤ	342
ブレーキ	251	応急用スベアタイヤ	342
雪道や凍結路面の走行	254	全体的な注意事項	339
走行装備	154	標準タイヤ	341
アクティブパーキングガイドンス	177	タコメーター	132
アクティブブラインドスポットアシスト	191	正しい運転姿勢	96
アクティブレーンキーピングアシスト	196	チャイルドセーフティシート	46
アテンションアシスト	190	ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート	
可変スピードリミッター	157	固定装置	49
クルーズコントロール	154	重要な安全上の注意	46
サイドビューカメラ	183	助手席へのチャイルドセーフティシートの装着	48
ディストロニック・プラス	161	推奨チャイルドセーフティシート	54
パーキングアシストリアビューカメラ	184	チャイルドセーフティシートの適切な装着位置	52
パークトロニック	173	テザーアンカー	50
ホールド機能	171	チャイルドブルーフロック	56
走行と停車	112	重要な安全上の注意	56
ECO スタートストップ機能	115	リアサイドウィンドウのチャイルドブルーフロック	56
ECO 表示	117	リアドアのチャイルドブルーフロック	56
エンジンの始動	113	駐車	119
エンジンの停止	120	パーキングブレーキ	120
エンジンのトラブル	122	停止表示板	269
重要な安全上の注意	112	ディストロニック・プラス	161
駐車	119	クルーズコントロールレバー	163
長期間駐車するとき	121	現在の速度を記憶させ、それを維持させるようにディストロニック・プラスを作動させる	163
パーキングブレーキ	120	現在の速度を記憶させる、または記憶された速度を呼び出す	167
発進	114	車間距離の設定	167
ヒルスタートアシスト	114	重要な安全上の注意	161
		スピードメーターのディストロニック・プラス表示	168
		速度の設定	167

タ

タイヤとホイール	242
回転方向	250
車輪の入れ替え	250
重要な安全上の注意	242
操作	243
タイヤ空気圧	246
タイヤ空気圧警告システム	248
タイヤトレッド	244

ディストロニック・プラスで 走行するときのヒント……………	170
ディストロニック・プラスの解除……………	169
ディストロニック・プラスの選択……………	163
マルチファンクションディスプレイの ディストロニック・プラス表示……………	168
ディスプレイメッセージ……………	272
安全装備……………	273
エンジン……………	280
キー……………	288
車両……………	287
走行装備……………	282
タイヤ……………	286
ディスプレイメッセージを非表示にする ……………	272
はじめに……………	272
メッセージメモリー……………	272
ライト……………	277
テールゲート開口時の寸法……………	339
テールゲートのコートフック……………	223
テクニカルデータに関する注意事項……………	332
電球の交換……………	302
重要な安全上の注意……………	302
電球交換の概要……………	303
電動ランバーサポート……………	85
ドア……………	74
内側から集中して 車両を施錠および解錠する……………	74
内側からドアを解錠して開く……………	74
車速感応ドアロック……………	75
重要な安全上の注意……………	74
ドアの操作部……………	31
ドアミラー……………	89
施錠時のドアミラー格納……………	90
ドアミラーが適正な位置にないとき……………	90
ドアミラーの格納 / 展開……………	89
ドアミラーの設定……………	90
ドアミラーの調整……………	89

ナ

慣らし運転……………	232
最初の約 1,500km まで……………	232

重要な安全上の注意……………	232
日常の手入れ……………	259
外装の手入れ……………	259
手入れに関する注意事項……………	259
内装の手入れ……………	265
荷物の積み方 / 小物入れ……………	213
カップホルダー……………	225
小物入れ……………	214
収納ネット……………	216
セーフティネット……………	221
テールゲートのコートフック……………	223
荷物の固定……………	218
荷物固定用リング……………	218
荷物を積むときの注意点……………	213
バッグホルダー……………	219
分割可倒式リアシート……………	217
ラゲッジフロアボード下の収納スペース ……………	223
ラゲッジルームカバー……………	220
ルーフラック……………	224
燃料……………	334
燃料の給油……………	232
燃料と燃料タンクのトラブル……………	236
燃料を給油する……………	232

ハ

パーキングアシストリアビューカメラ……………	184
パーキングブレーキ……………	120
パークトロニック……………	173
灰皿……………	226
フロントの灰皿……………	226
リアの灰皿……………	227
バッグホルダー……………	219
パノラミックスライディングルーフ……………	210
重要な安全上の注意……………	210
パノラミックスライディングルーフの操作 ……………	211
パノラミックスライディングルーフの 電動サンシェードの操作……………	211
パノラミックスライディングルーフの トラブル……………	213
パンクしたとき……………	305

応急用スペアタイヤが搭載されている車種	306
タイヤ交換およびタイヤ修理の準備	305
タイヤフィットが搭載されている車種	312
ビークルプレート	333
エンジン番号	333
車台番号	333
車台番号やカラーコードが記載された	
ビークルプレート	333
非常時の解錠 / 施錠	298
運転席ドアの解錠	
(エマージェンシーキー)	298
エマージェンシーキー	298
車両の施錠	298
テールゲートの非常解除	299
非常信号用具	268
ヒューズ	326
エンジンルーム内のヒューズボックス	327
ヒューズ一覧	328
ヒューズを交換する前に	327
ラゲッジルーム内のヒューズボックス	328
ブレーキ	251
下り坂を走行するとき	251
凍結防止剤を散布した路面で	
ブレーキ性能の制限について	252
パーキングブレーキについて	253
ブレーキシステムに	
強い負荷がかかったとき	252
ブレーキパッドについて	253
路面が濡れているとき	252
ブレーキ液	337
フロアマット	229
分割可倒式リアシート	217
ヘッドライトウォッシャー	101
ホールド機能	171
保証の適用	15
ボンネット	237
ボンネットを閉じる	238
ボンネットを開く	237

マ

マニュアルギアシフト	129
-------------------	------------

マルチファンクションステアリング	27
マルチファンクションディスプレイ	134
TEL メニュー	142
着信を受ける	142
通話の拒否、または終了	143
電話帳からの発信	143
はじめに	142
リダイヤル	143
アシストメニュー	143
PRE-SAFE® ブレーキの解除 / 作動	144
アクティブブラインドスポットアシスト	
の設定 / 解除	145
アクティブレーンキーピングアシストの	
設定 / 解除	145
アテンションアシストの設定 / 解除	145
車間ディスプレイの表示	144
はじめに	143
オーディオメニュー	140
DVD ビデオの操作	142
オーディオ機器またはメディアの操作	141
テレビの操作	141
ラジオ放送局を選局する	140
重要な安全上の注意	134
設定メニュー	146
コンフォート	152
車両	150
設定項目の初期化	153
はじめに	146
メーター	146
ライト	147
トリップメニュー	137
ECO 表示	137
概算の走行可能距離と燃料消費の表示	137
基本画面	137
数値のリセット	138
デジタルスピードメーター	138
トリップコンピューター "スタート後 "	
または "リセット後 "	138
ナビメニュー	139
ナビゲーション案内の表示	139
ナビゲーションシステムの他の状況表示	140
ルート案内を行っていないとき	139

ルート案内を行なっているとき	139
マルチファンクションディスプレイの操作	134
メニューの概要	137
メニューリスト	136
メンテナンスメニュー	146
ミラー	89
自動防眩機能	90
ドアミラー	89
パーキングヘルプ機能	90
メーターパネル	25、132
エンジン冷却水温度計	132
外気温度表示	132
スピードメーター	133
タコメーター	132
表示灯 / 警告灯	26
メーターパネルの表示灯 / 警告灯	290
安全装備	291
エンジン	295
シートベルト	290
走行装備	297
メモリー機能	92
シート位置の呼び出し	92
設定の記憶	92
メルセデス・ベンツ指定サービス工場	15
メルセデス・ベンツ純正部品	332
メンテナンス	257
メンテナンスインジケーター	258

ラ

ライター	227
ラゲッジフロアボード下の収納スペース	223
ラゲッジルーム	75
車外から自動で開閉する	76
車外からの開閉	76
車内から自動で開閉する	78
重要な安全上の注意	75
テールゲートの開口角度の設定	78
ラゲッジルームカバー	220
ランバーサポート	85
リモコン機能	68

ルーフラック	224
ルームライト	105
緊急時点灯機能	105
ルームライトの概要	105
ルームライトの操作	105
冷却水	337

ワ

ワイパー	106
フロントウインドウワイパーの 作動 / 停止の切り替え	106
リアウインドウワイパーの 作動 / 停止の切り替え	107
ワイパーのトラブル	107
ワイパーブレードの交換	303
重要な安全上の注意	303
フロントウインドウのワイパーブレードの 交換	304
リアワイパーのワイパーブレードの交換	304

A

ABS	58
------------	-----------

B

BAS	58
BAS プラス (ブレーキアシスト・プラス)	59

E

EBD	63
ESP®	61
4ETS (トラクションコントロール)	62
ESP® の機能の設定 / 解除	62
重要な安全上の注意	61

N

NECK PRO アクティブヘッドレスト	46
NECK PRO アクティブヘッドレストの リセット	300

P

PRE-SAFE®	45
PRE-SAFE® ブレーキ	63

S

SRS（乗員保護補助装置）	35
SRS 警告灯	35
シートベルトテンショナー /	
ベルトフォースリミッター	37
シートベルトテンショナー、ベルトフォース	
リミッターとエアバッグの作動	36
はじめに	35

数字

12V 電源ソケット	228
使用する際の注意点	228
ラゲッジルームの 12V 電源ソケット ..	229
リアの 12V 電源ソケット	228
24 GHz レーダーセンサーシステム	343
4MATIC	153

環境保護について

Daimler AG では、大気汚染の抑制、資源の有効利用をはじめとする環境保護対策に取り組んでいます。環境保護のため、お車をご使用になるときは以下の点にご協力ください。

- 短距離短時間の走行を控えることで、燃料の余分な消費が抑えられます。
- タイヤの空気圧が適正であることを確認してください。
- 停車したままの暖機運転は必要ありません。
- 急発進や急加速は避けてください。
- エンジン回転数とその車の許容限度の 2/3（許容限度が 6,000 回転のときは約 4,000 回転）を超えないように運転してください。
- 不必要な荷物を車に載せたままにしないでください。
- スキーラックやルーフラックが必要でないときは、車から取り外してください。
- 長時間の停車時は、エンジンを停止してください。
- メルセデス・ベンツ指定サービス工場で適切な時期に点検整備を受けてください。
- エンジン始動時は、アクセルペダルを踏み込まないでください。
- 慎重に運転をし、前車との車間距離を適切に保ってください。

🌱 環境

Daimler AG は、資源を有効活用するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

安全のために

全体的な注意事項

⚠️ 警告

車両へのあらゆる作業、特に安全や安全に関連したシステムに関する作業は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

⚠️ 警告

いくつかの安全システムはエンジンがかかっているときにのみ機能します。そのため、走行しているときはエンジンを停止しないでください。さもないと、車両の安全システムが適切に機能しなくなり、その結果、想定したように運転者や他の方を保護できなくなります。さらに、車両のコントロールを失い、事故の原因になる危険性があります。

警告

不適切に行なわれた作業、またはカバー内のケーブルの再配線などの車両への変更は、車両の安全システムが適切に作動しなくなる原因になります。安全システムは、想定したように運転者や他の方を保護しなくなります。さらに、車両のコントロールを失い、事故の原因になる危険性があります。

装着や改造など、車両へのあらゆる作業や変更は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

警告

電気装備やそのソフトウェアへの作業が不適切に行なわれたときは、これらの装備が作動しなくなるおそれがあります。電気装備は、車両インターフェースを通じてネットワークされています。電気装備の変更は、改造を施していないシステムの誤作動の原因になります。これらの誤作動は、車両の安全な操作、さらに運転者自身の安全を著しく損なうおそれがあります。

そのため、電気構成部品へのあらゆる作業や改造は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

診断ソケット

警告

診断ソケットに機器を接続すると、車両システムの作動に影響を及ぼすおそれがあります。これにより、車両の安全性が損なわれます。事故の危険性があります。

診断ソケットには、いかなる機器も接続しないでください。

警告

診断機器や機器のケーブルを診断ソケットに接続すると、ペダル操作の障害になります。突然のブレーキ操作やアクセル操作の際に機器やケーブルがペダルの間に挟まることがあります。その結果、ペダルの動きが妨げられ、事故を起こすおそれがあります。

運転席の足元にはいかなる機器やケーブルも接続しないでください。

! エンジンが停止している状態で診断ソケットに機器を接続すると、バッテリーを消耗します。

診断ソケットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場での診断機器の接続のために装備されています。

診断ソケットに機器を接続すると、排出ガスのモニター情報がリセットされるおそれがあります。これにより、次の車両検査時に排出ガス基準に適合しなくなることがあります。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場

メルセデス・ベンツ指定サービス工場には、車両に適切な作業を行なうために必要な専門知識と専用工具、ならびに設備が備わっています。上記の内容は、特に安全に関わる作業について重要です。

以下の作業については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

- 安全に関わる作業
- 点検および整備
- 修理作業
- 装備などの変更や装着、加工作業
- 電気装備に関わる作業

点検整備は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

警告ラベル

警告

車両にはさまざまな警告ラベルが貼付されています。それらの目的は、注意事項やさまざまな危険に対してお客様の注意を引くためです。そのため、たとえステッカーがきれいな状態であっても、いかなる警告ラベルもはがさないでください。

ステッカーをはがした場合は、お客様や他の乗員が危険を認識することができずにけがをするおそれがあります。

保証の適用

車両の操作を行なうときや車両に損傷が発生したときは、必ず本書に記載されている指示に従ってください。指示に従わないで発生した車両の損傷については、保証の対象外になります。

走行する前に

点検と整備

日常点検や定期点検は、使用者自身の責任において実施することが法律で義務付けられています。これらの点検項目については、別冊の「整備手帳」をお読みください。

夏季の取り扱い

- 夏を迎える前にエアコンディショナーの冷媒に不足がないか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
- オーバーヒートの予防策として、いつもより頻繁に冷却水量を点検してください。

日ごろの状態と異なるとき

エンジンをかけたとき、いつもと異なる音やにおいを感じたり、駐車していた場所に水やオイルの跡が残っているときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ドアを開くと

ドアを開くと、一部の装置が自動的に動き始め、作動音などが聞こえることがあります。異常ではありません。

タイヤの点検

タイヤの空気圧や溝の深さが十分あり、タイヤに損傷や異常な摩耗がないことを点検してください。タイヤの空気圧が低かったり、損傷したタイヤで走行すると、タイヤが破裂したり、火災が発生するなど、事故を起こすおそれがあります。

運転席足元に注意

- 運転席の足元には、物を置かないでください。ペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。
- フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

シートベルトは必ず着用

走行を開始する前に、すべての乗員がシートベルトを着用してください。

車庫内では

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

ウォーミングアップ（暖機運転）

エンジンが冷えているときでも、停車したままでの暖機運転は必要ありません。エンジンの始動後は、急加速を避けて車をウォーミングアップしてください。

荷物を積むとき

- 荷物はできるだけラゲッジルームに積んでください。
- 車内に荷物を積むときは、動かないように確実に固定してください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。
- ラゲッジルームカバーの上に荷物を置かないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。
- 鋭い角のあるものは、角の部分に必ずカバーをしてください。
- 荷物をシートのバックレストよりも、高く積み上げないでください。

燃えるものは積まない

燃料を入れた容器や可燃性のスプレー缶などを積まないでください。万一のときに引火や爆発のおそれがあります。

子供を乗せるとき

子供にも必ずシートベルトを着用

- 子供であっても、シートベルトを正しく着用し、シートやヘッドレストが正しい位置になっていることを大人が確認してください。正しくシートベルトが着用できない小さな子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。

- 乳児や子供を抱いたり、ひざの上に乘せて走行しないでください。急ブレーキ時や事故のときなどに、大人と車の間に挟まれて重大なけがをするおそれがあります。

小さな子供にはチャイルドセーフティシート

6歳未満の子供にはチャイルドセーフティシート（▷46 ページ）を使用することが法律で義務付けられています。

子供は後席に

- 子供はできるだけ後席に乗せてください。助手席では、子供の動きが気になったり、子供が運転装置に触れるなど、運転の妨げになることがあります。
- チャイルドセーフティシートは、必ず後席の左右いずれかに装着してください。やむを得ず助手席に装着するときは、車の進行方向に向けてチャイルドセーフティシートを装着し、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。
- 子供を助手席に座らせるときは、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。エアバッグの作動時に大きな衝撃を受けるおそれがあります。

子供には操作させない

- ドアやサイドウィンドウは大人が開閉してください。子供が操作すると、身体を挟んだり、けがをするおそれがあります。

- リアドアやリアサイドウィンドウのチャイルドプルーフロック（▷56 ページ）を活用してください。

サイドウィンドウやパノラミックスライディングルーフ*の開閉口から身体を出さない

子供がサイドウィンドウやパノラミックスライディングルーフの開閉口から身体を出さないように注意してください。けがをするおそれがあります。

車から離れるとき

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

また、炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

オートマチック車の取り扱い

運転する前に、オートマチック車の特性や操作上の注意を理解し、正しく操作してください。"走行と停車"もあわせてお読みください（▷112 ページ）。

オートマチック車の特性

クリープ現象：エンジンがかかっているとき、トランスミッションが **P**、**N** 以外になっていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくり動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウン：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

エンジンの始動前

- ブレーキペダルは必ず右足で操作してください。不慣れな左足で操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- ブレーキペダルを踏み込んだときに、ペダルが一定のところで停止することやペダルの踏みしろの量を確認してください。

エンジンの始動

トランスミッションがポジション **P** になっていることを確認して、ブレーキペダルを確実に踏んでエンジンを始動します。アクセルペダルを踏む必要はありません。

発進

- エンジンが適正なアイドル回転数になっていることを確認してください。
- トランスミッションをポジション **D**、**R** にシフトするときは、必ずブレーキペダルを十分に踏み込んでください。
- アクセルペダルを踏んだまま、DIRECT SELECT レバーを動かさないでください。車が急発進するおそれがあります。
- 急な上り坂で発進するときは、パーキングブレーキを効かせたままアクセルペダルを静かに踏み込み、車がわずかに動き出すのを確認してからパーキングブレーキを解除して発進してください。

また、坂道で発進するときは、ヒルスタートアシストも作動します(▶114 ページ)。

走行中

- 走行中はトランスミッションをポジション **N** にシフトしないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため事故につながったり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなったり、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。また、安全装備が作動しなくなるおそれがあります。

停車

- 停車中はエンジンの空ぶかしをしないでください。万一、DIRECT SELECT レバーが走行位置に入ると、車が急発進して事故を起こすおそれがあります。
- 急な上り坂などでは、アクセルペダルの踏み加減によって停止状態を保たないでください。トランスミッションに負担がかかり、過熱や故障の原因になります。
- 完全に停車する前に、トランスミッションをポジション **P** にシフトしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

駐車

- 駐車時や車から離れるときは、必ずトランスミッションをポジション **P** にシフトして、パーキングブレーキを確実に効かせて、エンジンを停止してください。
- 後退したあとは、すぐにトランスミッションをポジション **P** か **N** にするように心がけてください。**R** になっていることを忘れてアクセルペダルを踏み込むと、車が後退して事故を起こすおそれがあります。

寒冷時の取り扱い

寒冷時には、通常とは異なった取り扱いが必要です。必ず以下の注意事項を守ってください。

冷却水 / バッテリー

メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、冷却水の不凍液の濃度が適正であることやバッテリーの液量や充電状態に不足がないことを点検してください。

エンジンオイル

車を使用する場所の外気温度に合わせたグレードと粘度のエンジンオイルを使用してください。

ウォッシャー液

ウォッシャー液には、夏用と冬用があります。冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

冬季の手入れ

凍結防止剤がまかれた道路を走行したときは、早めに下回りの洗車をしてください。凍結防止剤が付着したまま放置すると、腐食の原因になります。凍結防止用の塩類をまく地域の場合、少なくとも1年に一度ボディ下回りの防錆処理をすることをお勧めします。

積雪

ボディやウインドウに雪が積もったときはすべて取り除いてください。走行中に雪が落ちて視界を妨げるおそれがあります。

ドアやテールゲートの凍結

ドアやテールゲートが凍結しているときは以下のような方法で走行する前に解凍するか、氷を取り除いてください。

- 氷を取り除くときは、樹脂製のへらなどを使用し、ボディやウインドウを損傷しないように注意してください。
- ドアやテールゲートが凍結して開かないときは、開口部周囲にぬるま湯をかけ、解凍してから開いてください。また、キーシリンダーにはぬるま湯がかからないようにしてください。
- 再凍結を防止するため、余分な水分はきれいに拭き取ってください。
- 凍結したまま無理にドアやテールゲートを開こうとすると、周囲の防水シールやウェザーストリップを損傷するおそれがあります。

ボディ下側の着氷

- 走行前にボディ下部やフェンダーの内側を点検してください。ブレーキ関連部品やステアリング関連部品、サスペンションなどに雪や氷塊が付着していたり凍結していると、ボディを損傷したり、ステアリング操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。
- 雪や氷塊が付着しているときは、ぬるま湯をかけるなどして、部品やボディを損傷しないように注意しながら、雪や氷塊を取り除いてください。
- 走行中にも、はね上げた雪や水しぶきが凍結し、氷となってボディ下部やフェンダーの内側に付着し、ステアリング操作ができなくなるおそれがあります。休憩時などにこまめに点検し、雪や氷塊が付着しているときは、大きくなる前に取り除いてください。

ワイパーなどの凍結

ワイパーやドアミラー、ウインドウ、パノラミックスライディングルーフ*などが凍結しているときに、無理に動かすとモーターを損傷するおそれがあります。

周囲にぬるま湯をかけるなどして、必ず解凍してから操作してください。

乗車前に

靴底などに付着した雪や氷を落としてから乗車してください。ペダルを操作するときに滑ったり、車内の湿度が高くなってウインドウの内側が曇りやすくなります。

雪道で動けないとき

雪道で動けなくなったときは、先にマフラー（排気ガスの出口）と車の周囲から雪を取り除いてください。排気ガスが車内に侵入してくるおそれがあります。

警告

マフラーなどが雪に埋もれた状態でエンジンをかけていると、排気ガスが車内に入り一酸化炭素中毒を起したり、中毒死するおそれがあります。

駐車するとき

寒冷時や積雪地での駐車時は以下の点に注意してください。

- パーキングブレーキが凍結するおそれがある場合は、パーキングブレーキを使用せず、トランスミッションをポジション **P** にシフトして、確実に輪止めをしてください。
- できるだけ風下や建物の壁、日光の当たる方向にエンジンルームを向けて駐車し、エンジンが冷えすぎないようにしてください。
- 軒下や樹木の陰には駐車しないでください。雪やつららが落ちてきてボディを損傷するおそれがあります。
- エンジンを毛布でカバーしたり、フロントグリルの内側にダンボールや新聞紙などを挟まないでください。放置したままエンジンを始動すると、火災や故障の原因になります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

こんなことにも注意

運転するときの注意事項

- 服用後の運転が禁止されている薬や、酒類を飲んだ後は絶対に運転しないでください。
- ペダル操作の妨げになるような靴（厚底靴など）やサンダル履きで運転しないでください。

日射に関する注意事項

- ウインドウなどに吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズの働きをして、火災が発生するおそれがあります。
- メガネやサングラスを車内に放置しないでください。炎天下では車内が高温になるため、レンズやフレームが変形したり、ひび割れするおそれがあります。

ライターに関する注意事項

- ライターを車内に放置しないでください。炎天下の車内は非常に高温になるため、ライターが発火したり爆発するおそれがあります。
- ライターをグローブボックスや小物入れなどに入れたままにしたり、車内に落としたままにしないでください。

荷物を押し込んだときやシートを操作したときにライターの操作部に触れてライターが誤作動し、火災が発生するおそれがあります。

給油に関する注意事項

給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料漏れのおそれや、エンジンが不調になったり停止するおそれがあります。

違法改造はしない

- 違法改造はしないでください。違法改造や純正でない部品の使用は、保証の適用外になるだけでなく、事故の原因になります。
- 定期交換部品などは純正品だけを使用し、燃料や油脂類などは指定品を使用してください。
- エンジンオイルには添加剤を入れないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。
- 燃料の添加剤は、純正品または承認されている製品のみを使用してください。エンジン内部の摩耗が進んだり、エンジンを損傷するおそれがあります。故障が発生したときは、保証の対象外になります。
- 無線機やオーディオなどの電装品を取り付けたり取り外すときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

自動車電話、携帯電話の使用

運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話を使用しないでください。道路交通法違反になります。なお、ハンズフリー機能は使用できますが、注意力が散漫になり事故の原因になります。安全な場所に停車してから使用してください。

COMAND システムの操作

COMAND システムの操作は、できるだけ走行中を避け、安全な場所に停車してから操作してください。走行中に COMAND ディスプレイを見るときは、必要最小限（約 1 秒以内）にとどめてください。

きびしい条件下での運転

発進、停止を繰り返す市街地走行、山間部や路面の悪い道路などきびしい条件下での走行が多いときは、タイヤやエアクリナー、エンジンオイル、エンジンオイルフィルター類の点検整備や交換を、定期的な交換時期よりも早く行なうことが必要になります。

車両に保存されるデータ

故障データ

車両には、故障時や異常時のデータを保存する機能があります。

保存されたデータは、安全装備などが作動するとき、または故障や異常の原因の特定、車両開発などに使用されます。データを使用して、車両の動きをさかのぼって調べることはできません。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、故障診断機によって読み取られたデータは、使用後に消去されます。

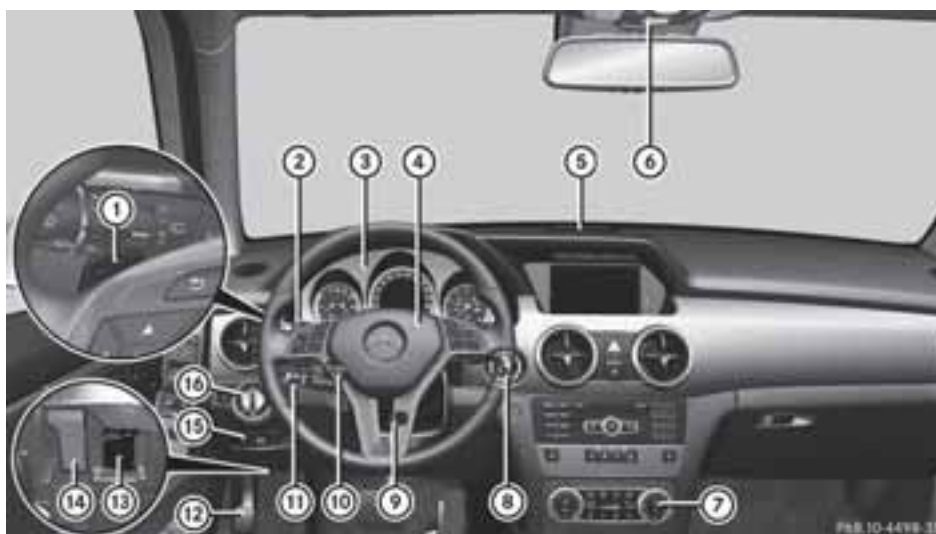
データが保存されるその他の装備

COMAND システムでは、ナビゲーションや電話などでデータを保存したり、編集することができます。詳しくは、別冊「COMAND システム取扱説明書」をご覧ください。

インストルメントパネル.....	24
メーターパネル.....	25
マルチファンクションステアリング	27
センターコンソール.....	28
前席上方の操作部.....	30
ドアの操作部.....	31



インストルメントパネル



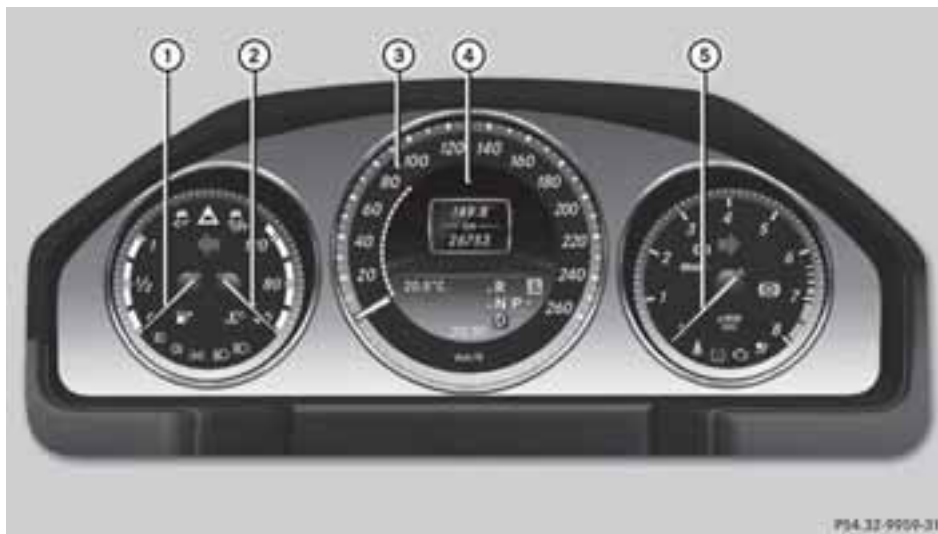
	名称	ページ
①	パドル	128
②	コンビネーションスイッチ	100
③	メーターパネル	132
④	ホーン	
⑤	パークトロニックインジケーター / 作動表示灯	175
⑥	前席上方の操作部	30
⑦	エアコンディショナーコントロールパネル	201
⑧	エンジンスイッチ	79
	キーレスゴースイッチ *	80
⑨	ステアリング調整ロック解除ハンドル *	87

	名称	ページ
⑩	ステアリング調整レバー *	87
⑪	クルーズコントロールレバー	155 158 163
⑫	パーキングブレーキペダル	121
⑬	診断ソケット	14
⑭	ボンネットロック解除レバー	238
⑮	パーキングブレーキ解除ハンドル	121
⑯	ライトスイッチ	97

* オプションや仕様により、異なる装備です。

メーターパネル

メーターパネル



P94.32-9999-31

	名称	ページ
①	燃料計	
②	エンジン冷却水温度計	132
③	スピードメーター	133

	名称	ページ
④	マルチファンクションディスプレイ	134
⑤	タコメーター	132

表示灯 / 警告灯



P94-33-9947-31

	名称	ページ
①	 ESP® 表示灯	293
		294
②	 車間距離警告灯	297
③	 ESP® オフ表示灯	293
		294
④	 ブレーキ警告灯 (赤色)	291
		293
		294
⑤	  方向指示表示灯	100
⑥	 ブレーキ警告灯 (黄色)	
⑦	 ABS 警告灯	291
		292
		293
⑧	 SRS 警告灯	295

	名称	ページ
⑨	 エンジン警告灯	295
⑩	 シートベルト警告灯	290
⑪	日本仕様車には装備されません	
⑫	 冷却水警告灯	295
		296
⑬	 ハイビーム表示灯	100
⑭	 ヘッドライト表示灯	98
⑮	 車幅灯表示灯	99
⑯	 リアフォグランプ 表示灯	99
⑰	日本仕様車には装備されません	
⑱	 燃料残量警告灯	295

※日本仕様車では車間距離警告灯は機能しません。また、ブレーキ警告灯（黄色）と車幅灯表示灯は点灯しないことがあります。

マルチファンクションステアリング



	名称	ページ
①	マルチファンクションディスプレイ	134
②	COMAND ディスプレイ	別冊
③	 音声認識スイッチ	別冊
④	  通話開始 / 終了スイッチ (電話)   音量スイッチ  消音スイッチ	135

	名称	ページ
⑤	  スクロールスイッチ (メインメニューの選択)   スクロールスイッチ (サブメニューの選択 / リストのスクロール)  確定スイッチ	135
⑥	 リターンスイッチ / 音声認識解除スイッチ	136

センターコンソール

上部センターコンソール



	名称	ページ
①	非常点滅灯スイッチ	100
②	日本仕様車には装備されません	
③	日本仕様車には装備されません	
④	ESP® オフスイッチ	62
⑤	COMAND コントロールパネル	別冊
⑥	シートヒータースイッチ *	85

	名称	ページ
⑦	ECO スタートストップスイッチ	115
⑧	パークトロニックオフスイッチ	175
⑨	走行モード選択スイッチ	127
⑩	日本仕様車には装備されません	
⑪	日本仕様車には装備されません	

* オプションや仕様により、異なる装備です。

下部センターコンソール



	名称	ページ		名称	ページ
①	灰皿 ライター	226 227	③	フロントアームレストの 小物入れ	215
②	センターコンソールの カップホルダー	225	④	COMAND コントロー ラー	別冊

前席上方の操作部

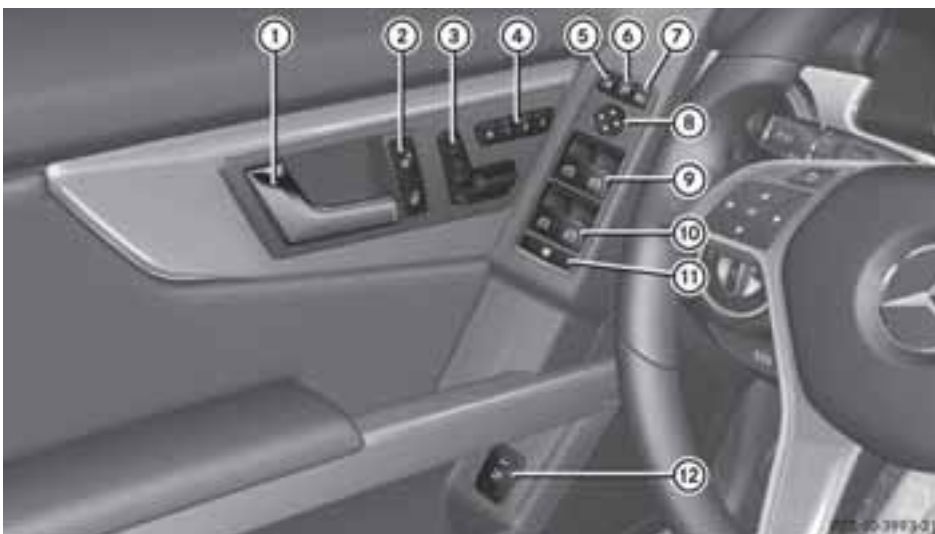


	名称	ページ
①	 リアルームライトスイッチ	105
②	 点灯モード切り替えスイッチ	105
③	 フロント読書灯（右側）スイッチ	105
④	日本仕様車には装備されません	
⑤	 パノラミックスライディングルーフスイッチ *	211

	名称	ページ
⑥	ルームミラー	90
⑦	日本仕様車には装備されません	
⑧	 フロント読書灯（左側）スイッチ	105
⑨	 フロントルームライトスイッチ	105

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ドアの操作部



	名称	ページ
①	ドアレバー	74
②	  ドアロックスイッチ	74
③	シート調整スイッチ *	83
④	    メモリースイッチ * ポジションスイッチ *	92 92
⑤	 ドアミラー選択スイッチ (左側)	89
⑥	 ドアミラー格納 / 展開スイッチ	89
⑦	 ドアミラー選択スイッチ (右側)	89

	名称	ページ
⑧	 ドアミラー調整スイッチ	89
⑨	 サイドウィンドウスイッチ (フロントサイドウィンドウ)	109
⑩	 サイドウィンドウスイッチ (リアサイドウィンドウ)	109
⑪	 リアサイドウィンドウのチャイルドブローックスイッチ	56
⑫	 テールゲートスイッチ *	78

* オプションや仕様により、異なる装備です。

乗員安全装備	34
子供を乗せるとき	46
走行安全装備	57



乗員安全装備

重要な安全上の注意

シートベルトや SRS（乗員保護補助装置）は、効果を高めるために補い合い、連携する乗員保護装置です。

これらは、想定される事故の状況において、乗員が負傷する可能性を最小限に抑えて安全性を高めます。

シートベルトとエアバッグは、物が外部から車内に入り込んだときの衝撃から乗員を保護する効果はありません。

乗員保護装置を適切に機能させるため、以下のことに注意してください。

- シートやヘッドレストは正しい位置に調整してください（▶82、83 ページ）。
- シートベルトを正しく着用してください（▶94 ページ）。
- エアバッグの作動が妨げられていないことを確認してください（▶38 ページ）。
- ステアリングを正しい位置に調整してください。
- 乗員保護装置を改造しないでください。

i エアバッグはシートベルトを正しく着用しているときのみ、乗員保護機能を高めることができます。しかし、エアバッグは組み合わされることで効果を発揮する付加的な保護補助装置で、シートベルトの代わりになるものではありません。エアバッグが装備されていても、必ず乗員全員がシートベルトを正しく着用してください。

また、エアバッグは、あらゆる種類の事故で作動するわけではありません。状況によっては、乗員が正しくシートベルトを着用している場合は、エアバッグが作動しても乗員保護効果が高まらないことがあります。以下の理由から、エアバッグはシートベルトを正しく着用している場合にのみ、シートベルトの保護機能を高めることができます。

- シートベルトを着用することで、乗員とエアバッグの適切な位置関係を保つことができます。
- シートベルトを着用することで、正面からの衝突のときなどに乗員が前方に投げ出されるのを防ぎます。これにより、けがの危険性を減らすことができます。

衝突時にエアバッグが作動したときは、エアバッグは正しく着用されたシートベルトの保護機能に加えて効果を発揮します。

警告

不適切な作業を行なうと、車両の走行安定性が損なわれる可能性があります。その結果、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。また、安全装備が正常に作動しなくなり、乗員保護効果が得られないおそれがあります。

点検整備や修理などは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

⚠ 警告

乗員保護装置の以下の構成部品を改造したり、不適切な作業を行なわないでください。正常に作動しなくなるおそれがあります。

- シートベルトやベルトアンカー、シートベルトテンショナー、ベルトフォースリミッター、エアバッグを含む乗員保護装置
- 配線
- 車載ネットワークで接続された電子制御部品

衝突時の衝撃の強さが乗員保護装置が作動するレベルに達していても、エアバッグとシートベルトテンショナーが作動しなかったり、誤作動するおそれがあります。決して乗員保護装置を改造しないでください。

また、絶対に車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。

SRS（乗員保護補助装置）

はじめに

SRSは以下の装備により構成されます。

- SRS 警告灯 
- エアバッグ
- エアバッグコントロールユニット（クラッシュセンサーを含む）
- シートベルトテンショナー
- ベルトフォースリミッター

SRS は、事故の際に乗員が車室内の部品にぶつかる危険性を低減します。また、事故の際に乗員が受ける衝撃を緩和させます。

SRS 警告灯

SRS の機能は、イグニッション位置が **1** か **2** のとき、またエンジンがかかっているときに定期的に診断されます。そのため、異常が発生した場合は適時検出されます。

メーターパネルの SRS 警告灯  は、イグニッション位置を **1** か **2** にすると点灯します。イグニッション位置を **1** にしたときは数秒後に、イグニッション位置を **2** にしたときはエンジンを始動してから数秒後に消灯します。

⚠ 警告

SRS に異常が発生すると、各システムが不意に作動したり、減速度の大きい事故が起きても正常に作動しなくなるおそれがあります。

以下のときは異常が発生しています。

- イグニッション位置を **1** か **2** にしたときに SRS 警告灯  が点灯しないとき
- イグニッション位置を **1** にしたときは数秒後に、イグニッション位置を **2** にしたときはエンジンを始動してから数秒間経過しても SRS 警告灯  が消灯しないとき
- エンジンがかかっているときに SRS 警告灯  が再度点灯したとき

このような場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場 で SRS の点検を受けてください。

シートベルトテンショナー、ベルトフォースリミッターとエアバッグの作動

衝突の最初の段階において、エアバッグコントロールユニットは、車両の減速度または加速度に関連する以下の重要な物理的データの評価を行いません。

- 持続時間
- 方向
- 強さ

このデータの評価に基づいて、エアバッグは初期の段階で最初にシートベルトテンショナーを作動させます。

i 前席のシートベルトテンショナーは、前席のシートベルトの先端がシートベルトバックルに正しく差し込まれているときのみに作動します。

前後方向にさらに高い度合いの車両の減速度または加速度があるときは、運転席 / 助手席エアバッグが作動します。

車両には、衝撃の大きさに応じて展開力を2段階に制御する、2ステージ式の運転席 / 助手席エアバッグが装備されています。衝突の際に、エアバッグコントロールユニットは車両の減速度または加速度の評価を行いません。作動の最初の段階で、運転席 / 助手席エアバッグには負傷の危険性を軽減させるための火薬ガスが充填されます。1000分の数秒の間に2度目の作動のための規定値を超えたとき、運転席 / 助手席エアバッグは完全に作動します。

シートベルトテンショナーおよびエアバッグの作動規定値は変動するものであり、車両の減速度または加速度に合われます。本来、この作動は予防的なものです。作動は衝突の開始から適切なタイミングで行なわれます。

i エアバッグはすべての種類の事故で作動するわけではありません。それぞれのエアバッグシステムは独立して作動します。

エアバッグシステムの作動内容は、検知された衝突の強さ、特に車両の減速度または加速度、および以下のような事故の形態により決定されます。

- 前方からの衝突
- 側面からの衝突
- 横転

車両の減速度または加速度、および衝撃の方向は基本的に以下の要素により決定されます。

- 事故の間の衝撃の配分
- 衝撃の角度
- 車両の変形特性
- 車両に衝突した障害物の特性

衝突の後に発生し、測定された衝撃は、エアバッグの作動に決定的な役割を行なわないだけではなく、エアバッグの作動に指示を与えるものでもありません。

ボンネットやフェンダーなどの車体は、エアバッグが作動することなく著しく変形することがあります。これは、比較的容易に変形するパーツのみで、影響や減速度合いが高くない場合です。対照的に、車両がほんの少しの変形を受けたのみでもエアバッグが作動することもあります。これは、縦方向のボディメンバーなどの非常にかたい車両部分がぶつかり、結果として高い減速度が発生した場合です。

シートベルトテンショナー / ベルトフォースリミッター

フロントシートベルトと後席左右のシートベルトにはシートベルトテンショナーが装備されています。

シートベルトテンショナーは、事故のときにシートベルトを引き込み、乗員の身体をシートに密着させます。

シートベルトテンショナーは、不適切なシート位置や、正しく着用されていないシートベルトを補正することはできません。

シートベルトテンショナーは、バックレストに乗員の身体を引き寄せるためのものではありません。

フロントシートベルトと後席左右のシートベルトにはベルトフォースリミッターが装備され、作動すると衝突時に巻き上げたベルトの拘束力を緩め、乗員の身体を加わる負担を軽減します。

フロントのベルトフォースリミッターは、フロントエアバッグと連動し、減速力の一部を吸収します。乗員の身体にかかる力を広い範囲に分散させます。

シートベルトテンショナーは、以下のときに作動します。

- イグニッション位置が **2** のとき
- SRS に異常がないとき（ ≥ 35 ページ）
- フロントのシートベルトテンショナーは、それぞれのシートベルトがバックルに正しく差し込まれているとき

後席左右のシートベルトテンショナーは、シートベルトの着用とは独立して作動します。

シートベルトテンショナーは、事故の状況や衝撃の強さが以下のようなときに作動します。

- 車両が横転するような特定の状況で、シートベルトテンショナーの作動が乗員保護効果を高めるとシステムが判断したとき
- 前方または後方からの衝突の際に、衝突の初期段階で車両の縦方向に高い度合いの車両の減速度または加速度を伴うとき
- 側面衝突の際に、衝突の初期段階で車両の横方向に高い度合いの車両の減速度または加速度を伴うとき

シートベルトテンショナーが作動したときは、作動音が聞こえ、白煙が発生します。ごくまれに作動音が聴力に影響することがあります。発生した白煙は人体への影響はありません。SRS 警告灯  が点灯します。

 警告

シートベルトテンショナーが作動したときは、他の事故で補助的な保護を行なうことができません。そのため、作動したシートベルトテンショナーはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

シートベルトテンショナーを廃棄するときは、廃棄規則を守ってください。この規則について、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 助手席に乗車していないときは、シートベルトのプレートバックルに差し込まないでください。さもないと、事故のときに、シートベルトテンショナーが作動することがあります。

エアバッグ

重要な安全上の注意

エアバッグの作動により、乗員の身体の動きがゆるやかになり、制限されます。

エアバッグが作動したときは、作動音が聞こえ、白煙が発生します。ごくまれに作動音が聴力に影響することがあります。発生した白煙は人体への影響はありません。SRS 警告灯  が点灯します。

エアバッグの収納部には、AIRBAG のマークがあります。

 警告

エアバッグは補助的な乗員保護装置で、シートベルトの代わりになるものではありません。

エアバッグの作動により重大な、または致命的なけがをする危険性を軽減するため、以下の注意事項を守ってください。

- 乗員全員がシートベルトを正しく着用し、バックレストをできるだけ垂直の位置にして、シートに深く腰かけてください。ヘッドレストは、目の高さで後頭部が支えられるように調整してください。
- 妊娠中の女性は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。
- 身長 150cm 未満または 12 歳未満の子供は、適切なチャイルドセーフティシートにより確実に身体を固定してください。
- すべての乗員は、できるだけエアバッグから離れた位置にシートを調整してください。運転席シートは安全に車を操作できる位置に調整してください。運転者の胸部を運転席エアバッグ収納部の中央からできるだけ遠ざけてください。
- 助手席シートはできるだけ後方に動かしてください。このことは特に子供を乗せたチャイルドセーフティシートを助手席シートに装着しているときに重要です。
- 乗員、特に子供はサイドバッグやウインドウバッグが作動するウインドウ周辺に頭部を寄りかけないでください。

- 助手席シートには後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを装着しないでください。

子供を乗せたチャイルドセーフティシートは、後席の適切な位置に装着してください。前向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを助手席シートに装着する場合は、助手席シートをできるだけ後方に動かしてください。

- 衣服のポケットなどに重い物や鋭利な物が入っていないことを確認してください。
- 特に走行中は、運転席 / 助手席エアバッグ収納部の上に寄りかからないでください。
- ダッシュボードに足をのせないでください。
- ステアリングは必ず外側のみを握ってください。これにより、エアバッグは完全に展開します。ステアリングの内側を握った状態でエアバッグが作動すると、けがをすおそれがあります。
- ドアなどの内張りに寄りかからないでください。
- エアバッグ作動範囲と乗員の間に人やペットまたは荷物がいないことを確認してください。
- バックレストとドアの間に物を置かないでください。
- アシストグリップやコートフックには、コートハンガーなどのかたい物をかけないでください。
- カップホルダーなどのアクセサリをドアに取り付けしないでください。

エアバッグは瞬時に作動するため、エアバッグによるけがの危険性を避けることはできません。

警告

エアバッグの機能は、以下の部分が覆われることなく、またバッジやステッカーなどが貼付されていないときにのみ保証されます。

- ステアリングパッド部
- ステアリングコラム下部のニーバッグ収納部
- 助手席エアバッグ収納部
- フロントシートのバックレスト外側
- リアシートのバックレスト左右端部
- 前席の A ピラーから後席の C ピラー間のルーフフレーム収納部

警告

エアバッグの作動時にわずかに白煙が発生することがあります。この白煙を吸い込むと、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがあります。

呼吸障害を防ぐため、安全を確認のうえすみやかに車外へ出てください。サイドウインドウを開き、新鮮な空気で車内を換気することもできます。この白煙は人体への影響はありません。また、車両火災の心配もありません。

⚠ 警告

エアバッグが作動した直後は、エアバッグの構成部品が熱くなっています。火傷をするおそれがあるため、エアバッグの構成部品には触れないでください。

エアバッグはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換しなければなりません。さもないと、次に事故が起こった際にエアバッグで乗員を保護できません。

運転席 / 助手席エアバッグ

運転席 / 助手席エアバッグは、運転席乗員および助手席乗員の頭部および胸部の保護を行ないます。



運転席エアバッグ①はステアリング前で、助手席エアバッグ②はグローブボックス前部および上部で作動します。

運転席 / 助手席エアバッグは、以下のように作動します。

- 衝突の初期段階で車両の縦方向に高い度合いの車両の減速度または加速度を伴うとき
- 運転席 / 助手席エアバッグの作動が、シートベルトによる乗員保護機能を高めるとシステムが判断したとき
- シートベルトが着用されている場合
- 他のエアバッグとは独立

車両が横転したときは、運転席 / 助手席エアバッグは基本的に作動しません。運転席 / 助手席エアバッグは、車両の縦方向に一定以上の減速度を検知したときに作動します。

助手席エアバッグ②は、助手席に乗りしているとシステムが判断したときにのみ作動します。

! 助手席に重い荷物を置かないでください。システムが助手席に乗員がいると判断し、事故のときに助手席エアバッグが作動することがあります。作動したエアバッグは交換する必要があります。

運転席ニーバッグ

運転席ニーバッグ①は、運転者の以下のような傷害を軽減します。

- 膝のけが
- 大腿部のけが
- 下肢のけが



運転席ニアバッグ①は、運転席エアバッグに連動してステアリングの下方で作動します。

サイドバッグ

⚠ 警告

シートカバーを使用する場合は、安全上の理由により、メルセデス・ベンツ車のために承認されたシートカバーのみを使用することをお勧めします。

シートカバーはサイドバッグ / ペルビスバッグにより裂ける、特別な縫い目を備えた物でなければなりません。さもないと、サイドバッグ / ペルビスバッグが適切に作動できなくなり、事故のときに本来の保護効果を発揮することができません。適切なシートカバーは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場などで入手できます。

サイドバッグが作動すると、衝撃が発生した側の乗員の胸部に対する保護を高めます。ただし、以下の部分は保護しません。

- 頭部
- 頸部
- 腕部



フロントサイドバッグ①とリアサイドバッグ②は、シートクッション外側で作動します。

サイドバッグは以下のように作動します。

- 衝撃が発生した側で作動
- 側面衝突のように、衝突の初期段階で車両の横方向に高い度合いの車両の減速度または加速度を伴うとき
- シートベルトの着用とは独立して作動
- 運転席 / 助手席エアバッグとは独立して作動
- シートベルトテンショナーとは独立して作動

車両が横転したときは、サイドバッグは基本的には作動しません。ただし、システムが横方向に高い度合いの車両の減速度または加速度を検知して、作動がシートベルトによる保護を高めると判断したときは例外です。

運転席 / 助手席ペルビスバッグ

⚠ 警告

シートカバーを使用したい場合は、安全上の理由により、メルセデス・ベンツ車のために承認されたシートカバーのみ使用することをお勧めします。

シートカバーはサイドバッグ / ペルビスバッグにより裂ける、特別な縫い目を備えた物でなければなりません。さもないと、サイドバッグ / ペルビスバッグが適切に作動できなくなり、事故のときに本来の保護効果を発揮することができません。適切なシートカバーは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場などで入手できます。

運転席 / 助手席ペルビスバッグは、衝撃が発生した側の乗員の保護レベルを高めます。



運転席 / 助手席ペルビスバッグ①は、シートクッション外側下部で作動します。

運転席 / 助手席ペルビスバッグは以下のように作動します。

- 衝撃が発生した側で作動
- 側面衝突のように、衝突の初期段階で車両の横方向に高い度合いの車両の減速度または加速度を伴うとき
- シートベルトの着用とは独立して作動
- 運転席 / 助手席エアバッグとは独立して作動
- シートベルトテンショナーとは独立して作動

車両が横転したときは、運転席 / 助手席ペルビスバッグは基本的には作動しません。ただし、システムが横方向に高い度合いの車両の減速度または加速度を検知して、作動がシートベルトによる保護を高めると判断したときは例外です。

ウインドウバッグ

ウインドウバッグは、衝撃が発生した側の乗員の、胸部または腕部ではなく、頭部の保護レベルを高めます。

ウインドウバッグはルーフフレーム側部に内蔵されており、A ピラーから C ピラーの範囲で作動します。

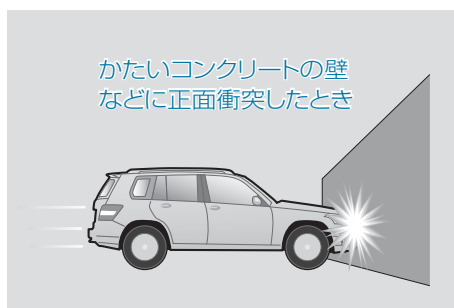


ウインドウバッグ ① は以下のように作動します。

- 衝撃が発生した側で作動
- 側面衝突のように、衝突の初期段階で車両の横方向に高強度の減速度または加速度を伴うとき
- 前席乗員の乗車とは関係なく作動
- シートベルトの着用とは独立して作動
- 車両の横転したときは、シートベルトによる乗員保護を高めるとシステムが判断したとき
- 運転席 / 助手席エアバッグとは独立して作動

エアバッグの作動条件

運転席 / 助手席エアバッグ、運転席ニーバッグが作動するとき



運転席 / 助手席エアバッグ / 運転席ニーバッグが作動しないとき



運転席 / 助手席エアバッグ、運転席ニーバッグが作動しない場合があるとき

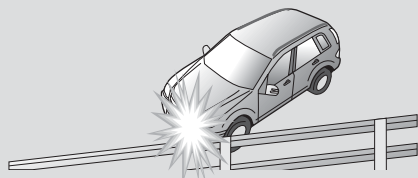
立木や電柱への衝突のとき



トラックの下に潜り込んだとき

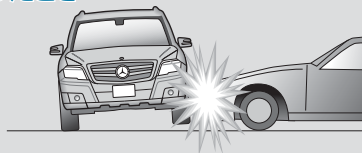


斜め前方への衝突のとき



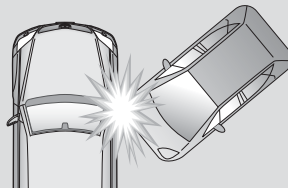
サイドバッグ、ペルビスバッグ、ウィンドウバッグが作動するとき

客室部分に横方向から強い衝撃を受けたとき

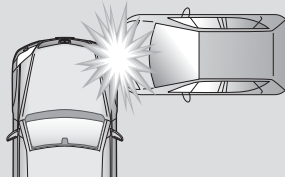


サイドバッグ、ペルビスバッグ、ウィンドウバッグが作動しない場合があるとき

斜め方向から衝撃を受けたとき



客室以外の側面に衝撃を受けたとき

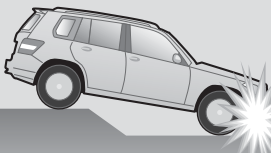


いずれかのエアバッグが作動する場合
があるとき

中央分離帯や縁石などに
衝突したとき



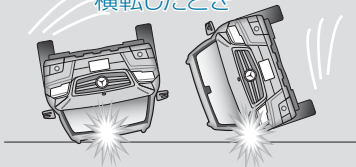
深い穴や溝に落ちたとき



床下に強い衝撃を受けたとき



横転したとき



PRE-SAFE®

PRE-SAFE® は、車が危険な状態にあることを察知して、乗員保護を高める機能をもたらします。

PRE-SAFE® は、以下のときに作動します。

- BAS が作動するような急ブレーキを効かせたとき
- 物理的な限界を超え、強いアンダーステア状態やオーバーステア状態になるような危機的な状況のとき

PRE-SAFE® は、約 30km/h 以上で走行しているとき、以下のように作動します。

- 前席シートベルトを引き込みます。
- メモリー付パワーシート装備車では、助手席シートが不適切な位置にある場合は、適正な位置に調整します。
- 車が横滑りをすると、サイドウィンドウとパノラミックスライディングルーフ*が少し開いた状態まで自動的に閉じます。

事故が起こることなく車が危険な状態から脱したときは、PRE-SAFE® によりシートベルトの張力が緩みます。PRE-SAFE® により変更されたすべての設定が元に戻ります。

- ▶ シートベルトの張力が緩まないときは、停車しているときに、バックレストやシートを少し後方に動かします。

シートベルトの張力が緩み、ロック機構が解除されます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

 警告

シートを調整するときは、挟まれるものが何もないことを確認してください。

! シートを後方に動かすときは、足元や後方に物がなことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

シートベルトの調整と PRE-SAFE® に組み込まれたコンビニエンス機能に関する情報は、"シートベルト調整機能"をご覧ください (▷95 ページ)。

NECK PRO アクティブヘッドレスト

NECK PRO アクティブヘッドレストは、運転席および助手席乗員の頭部と頸部の保護度合いを高めます。追突など後方から大きな衝撃を受けたときに、運転席および助手席のヘッドレストが前方および上方に動きます。これにより、乗員の頭部が効果的に支持されます。

 警告

フロントシートには、必ず純正のシートカバーだけを使用してください。

市販のシートカバーを使用すると、NECK PRO アクティブヘッドレストの作動が妨げられるおそれがあります。そのため、NECK PRO アクティブヘッドレストは本来の保護効果を発揮することができません。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

事故の際に NECK PRO アクティブヘッドレストが作動した場合は、運転席と助手席のヘッドレストをリセットしてください (▷300 ページ)。さもないと、次に衝撃を受けたときに保護効果が得られません。作動した NECK PRO アクティブヘッドレストは前方に動いた状態になり、調整することはできません。

子供を乗せるとき**チャイルドセーフティシート****重要な安全上の注意** **警告**

急な進路変更時や急ブレーキ時、衝突時などに、子供が重大な、または致命的なけがをすることを防ぐため、以下の点に注意してください。

- 身長 150cm 未満かつ 12 歳未満の子供は、常に適切なシートに装着したチャイルドセーフティシートに乗せて身体を固定してください。シートベルトは子供向けに設計されていないため、チャイルドセーフティシートが必要です。
- 子供を乗車させた後ろ向きチャイルドセーフティシートを助手席に装着して走行しないでください。
- 助手席にチャイルドセーフティシートを装着するときは、助手席シートをできるだけ後方に動かしてください。

- 絶対に子供を他の乗員のひざの上に乘せて走行しないでください。急な進路変更時や急ブレーキ時、衝突時などに子供を保護することができません。子供が車内の部品にぶつかり重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。

警告

チャイルドセーフティシートは、適切なシートに正しく装着しないと、保護機能を発揮できません。衝突時や急ブレーキ時、急な進路変更時に子供の身体が保護されません。子供が重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。この理由により、チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に付属の取扱説明書の指示およびチャイルドセーフティシートの正しい使用方法に従ってください。

チャイルドセーフティシートは後席に装着してください。子供の安全性が高くなります。

チャイルドセーフティシートの底面全体がシートクッションに接していなければなりません。そのため、チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。

チャイルドセーフティシートのクッションカバーは、専用品のみを使用してください。損傷したカバーは、メルセデス・ベンツ純正品のみと交換してください。

メルセデス・ベンツ車のために承認されたチャイルドセーフティシートのみを使用することをお勧めします。

子供を乗車させるときは、子供の体格や年齢、体重に合ったチャイルドセーフティシートを使用して、身体を固定してください。チャイルドセーフティシートは適切な後席に装着してください。走行している間は、子供の身体がチャイルドセーフティシートに固定されていることを確認してください。

適切なチャイルドセーフティシートについての詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

-  チャイルドセーフティシートの清掃は、メルセデス・ベンツ純正カーケア用品の使用をお勧めします。このことに関する詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

警告

子供をチャイルドセーフティシートに乗車させている場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。車内の部品でけがをするおそれがあります。また、車内が高温または低温になると重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。

チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。

子供が誤ってドアを開くと、子供や周りの人がけがをするおそれがあります。子供が車外に出てけがをしたり、車にはねられるおそれがあります。

⚠ 警告

固定されていなかったり適切な位置に置かれていない荷物は、以下のような場合に子供と他の乗員すべてがけがをする危険性を増加させます。

- 事故のとき
- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時

固定されていないときは、車内には重い物や硬い物は積まないでください。詳しい情報は "積載のガイドライン" に記載されています。

助手席へのチャイルドセーフティシートの装着



助手席サンバイザーに貼付された警告ステッカー



チャイルドセーフティシートを後ろ向きに装着することを禁止する警告ステッカー

⚠ 警告

日本仕様車では、助手席シートにチャイルドセーフティシート検知システムを装備していないため、助手席エアバッグが解除されません。

- 助手席エアバッグが作動すると、助手席に装着したチャイルドセーフティシートに乗車した子供が重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。これは子供が助手席エアバッグの近くに着座して作動した場合に特に危険性が高まります。
- 絶対に後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを助手席に装着して、子供を乗車させないでください。後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートは、適切な後席にのみ装着してください。
- 前向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを助手席に装着して、子供を乗車させるときは、必ず助手席シートを最後方の位置にしてください。

チャイルドセーフティシートに関する注意事項を記載したステッカーが、ダッシュボードと助手席側サンバイザーの両面に貼付されています。

推奨チャイルドセーフティシートについての情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを、助手席シートに装着して使用しないでください。

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置

ISOFIX は、専用のチャイルドセーフティシートを後席に装着するための標準規格化された固定方式です。左右の後席には、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを装着できる 2 組の固定装置が装備されています。

警告

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置を使用してチャイルドセーフティシートを装着した場合、体重約 22kg 以上の子供には十分な保護機能を発揮することができません。この理由により、体重約 22kg 以上の子供は、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置で装着されたチャイルドセーフティシートには乗車させないでください。体重約 22kg 以上の子供を乗車させるときは、チャイルドセーフティシートを 3 点式シートベルトで装着してください。さらに、チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に付属の取扱説明書の指示およびチャイルドセーフティシートの正しい使用方法に従ってください。

警告

チャイルドセーフティシートは、適切なシートに正しく装着しないと、保護機能を発揮できません。衝突時や急ブレーキ時、急な進路変更時に子供の身体が保護されません。子供が重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。この理由により、チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に付属の取扱説明書の指示およびチャイルドセーフティシートの正しい使用方法に従ってください。

安全上の理由により、チャイルドセーフティシートを後席に装着するときは、メルセデス・ベンツ車向けに推奨された ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを使用してください。

正しく装着されていないチャイルドセーフティシートは外れるおそれがあり、子供や他の方が重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。チャイルドセーフティシートを装着したときは、必ず左右の固定装置に確実に装着されていることを確認してください。

⚠ 警告

チャイルドセーフティシートや固定装置が事故で損傷したり強い負荷を受けた場合は、保護機能を発揮できなくなるおそれがあります。その結果、衝突時や急ブレーキ時、急な進路変更時に、子供が重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。

この理由により、事故で損傷したり強い負荷を受けたチャイルドセーフティシートや固定装置は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! チャイルドセーフティシートを装着するときは、中央後席のシートベルトを挟み込んでいないことを確認してください。さもないと、シートベルトを損傷するおそれがあります。

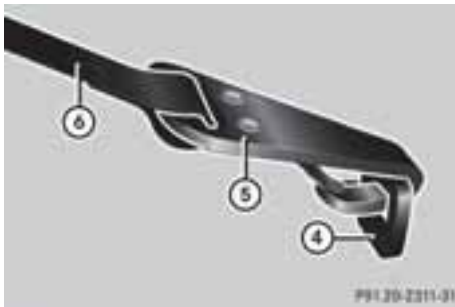


- ▶ カバー ② を押し込みます。
- ▶ 固定装置 ① に ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを装着します。ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に付属の取扱説明書の指示に従ってください。

テザーアンカー

テザーアンカーは、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートと後席を接続するための補助的な固定装置です。この装置は、けがの危険性をさらに低減します。

テザーアンカーは後席バックレストの背面にあります。



- ▶ ヘッドレスト ③ を上げます。
- ▶ 製品に付属している取扱説明書の指示に従い、テザーベルトと ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを取り付けます。
- ▶ ヘッドレスト ③ の 2 本の支柱の間にテザーベルト ⑥ を通します。

- ▶ ラゲッジルームカバー ① とバックレスト ② との間にテザーベルト ⑥ を通します。

- ▶ テザーベルト ⑥ のテザーフック ⑤ をテザーアンカー ④ にかけます。

以下のことを確認してください。

- 図のように、テザーフック ⑤ がテザーアンカー ④ にかかっていること
 - テザーベルト ⑥ がねじれていないこと
 - ラゲッジルームカバー ① が取り付けられているときは、テザーベルト ⑥ がバックレスト ② とラゲッジルームカバー ① の間を通っていること
 - セーフティネットが取り付けられているときは、テザーベルト ⑥ がバックレスト ② とセーフティネットの間を通っていること
- ▶ 必要であれば、ヘッドレスト ③ を少し下げます。テザーベルト ⑥ の動きが妨げられていないことを確認します。

チャイルドセーフティシートの適切な装着位置

下表の記号説明：

- X このカテゴリー（適応体重）の子供には適切でないシート
- U このカテゴリー（適応体重）での使用が承認されたユニバーサルカテゴリーのチャイルドセーフティシートに適合
- UF このカテゴリー（適応体重）に適合する "ユニバーサル" の前向きチャイルドセーフティシートに適合
- L 推奨しているようなチャイルドセーフティシートに適合。以下の表 "推奨チャイルドセーフティシート"（▷54 ページ）をご覧ください。

	シート位置			
カテゴリー（適応体重）	助手席シート		リアシート	
	助手席エアバッグが解除されていない	助手席エアバッグが解除されている ¹	左、右	中央
グループ 0： ～ 10kg	X	U ² , L ²	U, L	U, L
グループ 0+： ～ 13kg	X	U ² , L ²	U, L	U, L
グループ I： 9 ～ 18kg	U ² , L ²	U ² , L ²	U, L	U, L
グループ II： 15 ～ 25kg	U ² , L ²	U ² , L ²	U, L	U, L
グループ III： 22 ～ 36kg	U ² , L ²	U ² , L ²	U, L	U, L

- 1: 日本仕様車では、チャイルドセーフティシート検知システムが装備されないため、助手席エアバッグは解除されません。助手席にチャイルドセーフティシートを装着しないでください。
- 2: 助手席シートを最も後方および最も高い位置に移動し、バックレストをほぼ直角の位置にして、ベルトの高さを最も低い位置に調整します。

"ユニバーサル" のチャイルドセーフティシートは、オレンジ色の認証ラベルが目印です。

* 上記の内容は本国仕様のもので、日本仕様とは異なる場合があります。適切なチャイルドセーフティシートについては、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。



純正チャイルドセーフティシート の認証ラベルの例

下表の記号説明：

X この体重やサイズのカテゴリーでの ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートに適さない ISOFIX の位置

IUF この体重カテゴリーでの使用が承認された "ユニバーサル" カテゴリーに属している ISOFIX 対応前向きチャイルドセーフティシートに適合

IL 推奨しているような ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートに適合。以下の表 "推奨チャイルドセーフティシート" (▷54 ページ) をご覧ください。

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートの装着のための後席の適合性

カテゴリー（適応体重）	サイズ等級	装着器具タイプ	左右リアシート
キャリーコット	F	ISO/L1	X
	G	ISO/L2	X
0：～ 10kg 生後約 6 カ月位まで	E	ISO/R1	IL
0+：～ 13kg 生後約 15 カ月位まで	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	IL
	C	ISO/R3	IL
I：9 ～ 18kg 生後約 9 カ月～ 4 歳位	D	ISO/R2	IL
	C	ISO/R3	IL
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF

* 上記の内容は本国仕様のもので、日本仕様とは異なる場合があります。適切なチャイルドセーフティシートについては、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

推奨チャイルドセーフティシート

日本仕様車では、チャイルドセーフティシート検知システムは装備されません。

▶ チャイルドセーフティシートを助手席シートに装着する場合は、助手席シートを最後方の位置に動かします。

カテゴリー (適応体重)	メーカー	タイプ	認 証 番 号 (E1 ...)	注 文 番 号 (A 000 ...)	チャイルド セーフティ シート検知 システム
グループ 0 : ～ 10kg 生後約 6 カ月 位まで	Britax Römer	ベビーセー フプラス ³	03 301146 04 301146	970 10 00	対応
グループ 0+ : ～ 13kg 生後約 15 カ 月位まで	Britax Römer	ベビーセー フプラス ³	03 301146 04 301146	970 10 00	対応
グループ I : 9 ～ 18kg 生後約 9 カ月 ～ 4 歳位	Britax Römer	デュオ プラス ³	03 301133 04 301133	970 11 00	対応
				970 16 00	非対応
グ ル ー プ II/III : 15 ～ 36kg 約 4 歳 ～ 12 歳位	Britax Römer			970 12 00	対応
				970 17 00	非対応

3: 助手席シートを最も後方および最も高い位置に移動してください。

* 上記の内容は本国仕様のもので、日本仕様とは異なる場合があります。適切なチャイルドセーフティシートについては、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

推奨 "ユニバーサル" ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート：

カテゴリー (適応体重)	サイズ 等級	メーカー	タイプ	認証番号 (E1 ...)	注文番号	チャイルド セーフティ シート検知 システム
キ ャ リ ー コ ッ ト	F	—	—	—	—	—
	G	—	—	—	—	—
グループ 0： ～ 10kg	E	—	—	—	—	—
グループ 0+： ～ 13kg	E	Britax Römer	ベビー セーフ ISOFIX プラス	04 301146	B6 6 86 8224	非対応
	D	—	—	—	—	—
	C	—	—	—	—	—
グループ I： 9 ～ 18kg	D	—	—	—	—	—
	C	—	—	—	—	—
	B	—	—	—	—	—
	B1	Britax Römer	デュオ プラス	03 301133 04 301133	A000 970 11 00	対応
	A	—	—	—	—	—

* 上記の内容は本国仕様のもので、日本仕様とは異なる場合があります。適切なチャイルドセーフティシートについては、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

チャイルドブルーロック

重要な安全上の注意

⚠ 警告

子供が後席に乗車するときは、リアサイドウィンドウのチャイルドブルーロックを設定してください。さもないと、走行中に子供がリアドアやリアサイドウィンドウを開き、子供や周りの方がけがをするおそれがあります。

⚠ 警告

子供をチャイルドセーフティシートに乗車させている場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。車内の各部に触れてけがをするおそれがあります。車内が高温または低温になると重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。

子供が誤ってドアを開くと、子供や他の方がけがをするおそれがあります。子供が車外に出ると、けがをしたり、車にはねられるおそれがあります。

リアドアのチャイルドブルーロック

リアドアのチャイルドブルーロックは左右独立して設定できます。チャイルドブルーロックが設定されたリアドアは、車内からは開かなくなります。車が解錠されているときは、ドアは車外から開くことができます。



設定する

- ▶ レバーを矢印 ① の方向に上げます。
- ▶ チャイルドブルーロックが確実に設定されていることを確認します。

解除する

- ▶ レバーを矢印 ② の方向に下げます。

リアサイドウィンドウのチャイルドブルーロック



設定 / 解除する

▶ スイッチ ② を押します。

表示灯 ① が点灯しているときは、リアドアのスイッチでのリアサイドウインドウの操作はできません。運転席ドアのスイッチのみでリアサイドウインドウを操作できます。表示灯 ① が消灯しているときは、リアドアのスイッチでリアサイドウインドウを操作することができます。

走行安全装備

走行安全装備の概要

この章では、以下の走行安全装備に関する情報を記載しています。

- ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）
- BAS（ブレーキアシスト）
- アダプティブブレーキライト
- ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）
- EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）

重要な安全上の注意

適切な運転スタイルをとっていない場合や注意が散漫な場合は、走行安全装備は事故の危険性を低減させることはできず、また物理的法則を無効にすることもできません。走行安全装備は、運転の補助のために設計された支援のみを行なうシステムです。先行車との距離や車両の速度、適切なブレーキ操作の責任は運転者にあります。常に実際の道路や天候状況に適するように運転スタイルを合わせ、先行車との安全な距離を保ってください。注意して運転してください。

i 走行安全装備は、タイヤが路面を十分にグリップしているときにのみ最大限に効果を発揮します。" タイヤとホイール "（▶242 ページ）に記載されている、タイヤや推奨されるタイヤの残り溝の最小値などの注意事項に特に注意してください。

冬の走行状況では、必ずウィンタータイヤ（M+S タイヤ）を装着し、必要であればスノーチェーンを使用してください。このようにすることによってのみ、本書に記載されている走行安全装備の効果を十分に発揮させることができます。

ABS

重要な安全上の注意

i "重要な安全上の注意" をご覧ください (▶57 ページ)

 警告

ABS に異常があるときは、ブレーキ時に車輪がロックすることがあります。これにより、ステアリングでの操縦性およびブレーキ性能が著しく損なわれ、制動距離が長くなります。

故障により ABS が解除されたときは、BAS と ESP® も解除されます。特定の状況で横滑りや事故を起こす危険性が高まります。

運転者は常に実際の道路や天候状況に適するように運転スタイルを合わせてください。

ABS に異常があるときは、走行安全装備を含む他のシステムも作動しなくなります。ABS 警告灯 (▶291 ページ) と、マルチファンクションディスプレイに表示されるディスプレイメッセージ (▶273 ページ) の指示に従ってください。

ABS は、ブレーキ圧をコントロールすることによりブレーキ時の車輪のロックを防ぐ装置です。これにより、ブレーキを効かせながら、ステアリング操作を続けることができます。

ABS は路面の状況に関わらず、走行速度が約 8km/h を超えると作動可能になります。滑りやすい路面では、軽くブレーキペダルを踏んだだけでも ABS は作動します。

イグニッション位置を **2** にすると、ABS 警告灯  が点灯します。エンジンを始動すると消灯します。

ブレーキ操作をする

ABS が作動したとき

▶ 必要なだけ、そのままブレーキペダルを踏み続けてください。

強い制動力が必要なとき

▶ ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込んでください。

ABS が作動すると、ブレーキペダルに振動を感じることがあります。

ブレーキペダルの振動は路面状況が危険であることを知らせるものであり、より慎重に運転することを促す役割を果たします。

BAS

i "重要な安全上の注意" をご覧ください (▶57 ページ)

 警告

BAS に異常があるときは、緊急ブレーキ時に制動距離が長くなります。事故のおそれがあります。

緊急ブレーキ時には、ブレーキペダルを最大限の力で踏み込んでください。ABS が車輪のロックを防ぎます。

BAS (ブレーキアシスト) は、緊急ブレーキ時に作動します。ブレーキペダルを素早く踏み込むと、BAS は自動的に制動力を高めて制動距離を短縮します。

- ▶ 緊急ブレーキの状況が解消されるまで、ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込みます。ABS が車輪のロックを防ぎます。

ブレーキペダルから足を放すと、ブレーキは通常の状態に戻ります。BAS の機能は解除されます。

BAS プラス（ブレーキアシスト・プラス）

※ BAS プラスは、日本仕様車には装備されません。

警告

電波望遠鏡施設の周辺では、レーダーセンサーシステムは自動的に停止します。

i "重要な安全上の注意" をご覧ください（▶57 ページ）

BAS プラスは、ディストロニック・プラスを装備した車両でのみ使用可能です。

BAS プラスは、7km/h 以上の速度での危険な状況で、レーダーセンサー技術を使用して交通状況を判断し、ブレーキ操作の補助を行いません。

レーダーセンサーシステムの補助により、BAS プラスは一定時間車両の進路上にある障害物を検知することができます。

約 70km/h 以下の速度では、BAS プラスは停車または駐車している車両など、静止している障害物も検知します。

追突を防ぐため、BAS プラスは以下のときに必要な制動力を算出します。

- 障害物に接近しているとき
- BAS プラスが衝突の危険性を検知したとき

30km/h 以上の速度で走行しているとき：急激にブレーキペダルを踏むと、BAS プラスは交通状況に合わせて制動圧力を上げます。

30km/h 以下の速度で走行しているとき：ブレーキペダルを踏むと、BAS プラスが作動し、ブレーキは効き続けます。

特に高い制動力が必要と BAS プラスが判断したときは、PRE-SAFE® も同時に作動します。

- ▶ 緊急ブレーキの必要性がなくなるまでブレーキペダルを踏み続けます。

ABS が車輪のロックを防ぎます。

以下のときは、ブレーキは再度通常通り作動するようになります。

- ブレーキペダルから足を放したとき
- 追突の危険性がなくなったとき
- 車両前方に障害物が検知されなくなったとき

その後、BAS プラスは解除されます。

走行中の BAS プラスの補助のためには、レーダーセンサーシステムが設定されていなければなりません。詳しくは（▶151 ページ）をご覧ください。

レーダーセンサーシステムに異常があるときは、BAS プラスは作動しなくなります。ブレーキシステムは、最大制動力まで BAS とともに使用できます。

警告

BAS プラスは常に障害物や複雑な交通状況を認識できるわけではありません。状況によっては、BAS プラスは介入することができません。事故の危険性があります。

常に交通状況に十分注意し、運転者自身でブレーキ操作を行ってください。

以下のときは特に、障害物の検知が行なわれないことがあります。

- センサーに汚れがあるときやカバーが覆われているとき
- 雪や激しい雨が降っているとき
- 他の電波の発生源と干渉しているとき
- 自走式タワー駐車場の内部など、電波の強い反射が起きているとき
- バイクなど、幅の狭い車両が前方を走行しているとき
- 前方を走行している車両の位置が右または左にずれているとき

警告

BAS プラスは以下には反応しません。

- 人間や動物
- 対向車
- 横切る車
- カーブを走行しているとき

結果として、危険な状況で BAS プラスが介入を行なわないことがあります。事故の危険性があります。常に交通状況に十分注意し、運転者自身でブレーキ操作を行ってください。

フロントバンパーを損傷したときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ですレーダーセンサーの設定と作動の点検を行なってください。低速で衝突し、フロントバンパーに外見上の損傷がないときも、このことに該当しますので注意してください。

アダプティブブレーキライト

約 50km/h 以上の速度で走行中に急ブレーキを効かせたとき、またはブレーキ操作中に BAS が作動したときは、ブレーキライトが素早く点滅します。このように、後続車により目立つ方法で警告が行なわれます。

約 70km/h 以上からの急ブレーキにより停車したときは、非常点滅灯が自動的に点滅します。ブレーキペダルを再度踏み込むと、ブレーキライトは点灯し続けます。非常点滅灯は、走行速度が約 10km/h 以上になると自動的に消灯します。非常点滅灯スイッチ（▷100 ページ）を押すことにより、非常点滅灯を消灯することもできます。

ESP®

重要な安全上の注意

i "重要な安全上の注意" をご覧ください (▶57 ページ)

⚠ 警告

故障により ESP® が解除されたときは、ESP® による車両の制御は行なわれません。さらに、他の走行安全装備の機能も停止します。これにより、横滑りや事故の危険性が高まります。

注意して走行してください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で ESP® の点検を受けてください。

! 以下のときはイグニッション位置を **0** か **1** にしてください。

- ブレーキダイナモを使用してパーキングブレーキを点検するとき
- 前輪または後輪を上げてけん引されるとき

ESP® によるブレーキの作動により、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

! フロントまたはリアをつり上げた状態でけん引しないでください。駆動装置などを損傷するおそれがあります。

エンジンがかかっているときに ESP® 表示灯  が点灯し続けているときは、ESP® の機能が解除されています。

ESP® 表示灯  と ESP® オフ表示灯  が点灯し続けるときは、故障により、ESP® が作動しなくなります。

警告灯 (▶293 ページ) と、マルチファンクションディスプレイに表示されるディスプレイメッセージ (▶273 ページ) の指示に従ってください。

ESP® は、車の走行ラインが運転者の望む進行方向から外れていると判断すると、1 本または複数のタイヤにブレーキを効かせ、車の走行姿勢を安定させます。必要であれば、エンジン出力を調整して、物理的な限界内で運転者の望む方向に車の向きを保つように作動します。濡れた路面や滑りやすい路面で発進する際に、ESP® は運転者を支援します。また、ESP® はブレーキ時の車の姿勢も安定させることができます。

ESP® が作動すると、メーターパネル内の ESP® 表示灯  が点滅します。

ESP® が作動したときは、以下のようになっています。

- ▶ 状況を問わず、ESP® の機能を解除しないでください。
- ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要な分だけ踏んでください。
- ▶ 実際の道路と天候状況に運転スタイルを合わせてください。

i 指定されたサイズのタイヤのみを装着してください。この場合にのみ、ESP® は正しく作動します。

4ETS（トラクションコントロール）

i " 重要な安全上の注意 " をご覧ください (▶57 ページ)

トラクションコントロールは ESP® の一部です。

車輪が空転したときは、トラクションコントロールが、空転した駆動輪に個別にブレーキを効かせます。これにより駆動輪の空転を防ぎ、片側が滑りやすい路面などで発進や加速を可能にします。さらに、より多くの駆動力が駆動している車輪に分配されます。

ESP® の機能を解除しても、トラクションコントロールは作動します。

ESP® の機能の設定 / 解除

i " 重要な安全上の注意 " をご覧ください (▶57 ページ)

警告

ESP® の機能を解除したときは、ESP® による車両の制御は行なわれません。横滑りや事故の危険性が高まります。

ESP® は、以下の状況が許すときのみ解除してください。



ESP® の機能を解除する

- ▶ ESP® オフスイッチ ① を押します。
メーターパネルの ESP® オフ表示灯  が点灯します。

ESP® を待機状態にする

- ▶ ESP® オフスイッチ ① を押します。
メーターパネルの ESP® オフ表示灯  が消灯します。

エンジンを始動したとき、ESP® は常に待機状態になります。

ESP® の機能を解除しているときに 1 本または複数のタイヤが空転したときは、ESP® 表示灯  が点滅します。この状況では ESP® は車両の制御を行いません。

以下の状況では、ESP® の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

- スノーチェーンを装着して走行するとき
- 深い雪の上を走行するとき
- 砂や砂利の上を走行するとき

ESP® の機能を解除すると、以下のようになります。

- ESP® は作動せず、車両安定性を高められなくなります。
- エンジン出力の制御は行なわれず、駆動輪が空転することがあります。車輪の空転により地面を掘ることによって、より強い駆動力が得られる場合があります。
- トラクションコントロールシステムは引き続き作動します。
- ブレーキを効かせたときは ESP® は自動的に作動します。

EBD

i "重要な安全上の注意" をご覧ください (▷57 ページ)

 警告

EBD に異常があるときは、急ブレーキ時などには後輪がロックするおそれがあります。これにより、横滑りや事故の危険性が高まります。

変化した車両操縦性に運転スタイルを合わせなければなりません。必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場でのブレーキシステムの点検を受けてください。

警告灯 (▷292 ページ) と、マルチファンクションディスプレイに表示されるディスプレイメッセージ (▷274 ページ) の指示に従ってください。

EBD は、後輪のブレーキ圧を検知して制御を行ない、ブレーキ時の走行安定性を高めます。

PRE-SAFE® ブレーキ

※ PRE-SAFE® ブレーキは、日本仕様車には装備されません。

 警告

電波望遠鏡施設の周辺では、レーダーセンサーシステムは自動的に停止します。

i "重要な安全上の注意" をご覧ください (▷57 ページ)

PRE-SAFE® ブレーキは、ディストロニック・プラスを装備した車両でのみ使用可能です。

PRE-SAFE® ブレーキは、前方にいる車両へ衝突する危険性を最小限にしたり、衝突の際の影響を減らすための補助を行ないます。PRE-SAFE® ブレーキが衝突の危険性を検知したときは、自動ブレーキの作動とともに、警告灯および警告音により運転者に警告します。PRE-SAFE® ブレーキは、自動的に衝突を防ぐシステムではありません。

本機能は以下のような警告を行ないます。

- 速度が約 30km/h 以上で、前方を走行している車両との距離が数秒間にわたって不十分なままのとき

このときは、メーターパネルの距離警告灯  が点灯します。

- 速度が約 7km/h 以上で、前方にいる車両に急速に接近しているとき

このときは、断続的な警告音が鳴り、メーターパネルの距離警告灯  が点灯します。

- ▶ 前方の車両との車間距離を増やすため、ただちにブレーキを効かせてください。

または

- ▶ 安全な状況であれば、回避操作を行なってください。

速度が約 7km/h 以上で、運転者および助手席の乗員がシートベルトを着用しているときは、約 200km/h までの速度で、PRE-SAFE® ブレーキは自動的に車両にブレーキを効かせます。

※ 上記は車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

特に複雑な走行状況では、不必要な PRE-SAFE® ブレーキの警告や介入が発生する可能性があります。

以下により、PRE-SAFE® ブレーキの介入をいつでも中止することができます。

- アクセルペダルを踏み込む
- キックダウンさせる
- ブレーキペダルから足を放す

PRE-SAFE® ブレーキのブレーキ操作は、以下のときに終了します。

- 障害物を回避する操作を行なったとき
- 追突の危険性がなくなったとき
- 自車の前方に障害物が検知されなくなったとき

レーダーシステムの補助により、PRE-SAFE® ブレーキは、一定時間自車の前方にある障害物を検知することができます。

約 70km/h までの速度では、PRE-SAFE® ブレーキは停車または駐車している車両など、静止している障害物も検知できます。

障害物に接近していて、PRE-SAFE® ブレーキが衝突の危険性を検知したときは、まず警告灯および警告音により運転者に警告します。運転者がブレーキや回避操作を行なわなかったときは、システムは車両に自動的に軽くブレーキを効かせることで、運転者に警告を行ないます。衝突の危険性が高まったときは、PRE-SAFE® が作動します。衝突の危険性が残り、運転者がブレーキや回避操作、または急加速を行なわないときは、自動緊急ブレーキの強さまでのブレーキ操作が自動で行なわれます。可避できない事故の直前までは、自動緊急ブレーキは行なわれません。

警告

差し迫った衝突の前に PRE-SAFE® ブレーキが車両の速度を下げたときでも、運転者が回避操作を行なわないときは、システムでは衝突を回避することはできません。事故の危険性があります。状況に応じてブレーキを効かせるか、回避操作を行なってください。運転者の回避操作が遅れたときは、事故につながります。

 警告

PRE-SAFE® ブレーキは常に障害物や複雑な交通状況を明確に認識できるわけではありません。

そのようなとき、PRE-SAFE® ブレーキは：

- 不必要な警告と自動ブレーキを作動させる場合があります。
- 警告と自動ブレーキを作動させない場合があります。

事故の危険性があります。

常に交通状況に注意して、特に PRE-SAFE® ブレーキが警告を行なったときは、運転者自身でブレーキ操作を行ってください。危険な状況でない場合には、自動ブレーキの作動を解除してください。

以下のときは特に、障害物の検知が行なわれないことがあります。

- カバーが汚れているときやセンサーが覆われているとき
- 雪や激しい雨が降っているとき
- 他の電波の発生源と干渉しているとき
- 自走式タワー駐車場の内部など、電波の強い反射が起きているとき
- バイクなどの幅の狭い車両が前方を走行しているとき
- 前方を走行している車両の位置が右または左にずれているとき

 警告

PRE-SAFE® ブレーキは、以下の物には反応しません。

- 人間や動物
- 対向車
- 横切る車
- カーブを走行しているとき

結果として、危険な状況で PRE-SAFE® ブレーキが警告や自動ブレーキを作動させないことがあります。事故の危険性があります。

常に交通状況に注意して、運転者自身でブレーキ操作を行なってください。

前方の車両との適切な距離を維持し、衝突を防ぐために、運転者自身がブレーキを効かせてください。

PRE-SAFE® ブレーキを設定する / 解除する

- ▶ マルチファンクションディスプレイで PRE-SAFE® ブレーキの設定 / 解除を行ないます。

ホールド機能（▷171 ページ）が作動していない状態で PRE-SAFE® ブレーキを設定したときは、マルチファンクションディスプレイ下部に  マークが表示されます。

電波望遠鏡施設の周辺では、レーダーセンサーシステムは自動的に停止します。

走行中の PRE-SAFE® ブレーキの補助のためには、レーダーセンサーシステムがオンになっていて、作動していなければなりません。

安全装備
フロントバンパーを損傷したときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場
でレーダーセンサーの設定と作動の点検を行なってください。低速で衝突し、フロントバンパーに外見上の損傷がないときも、このことに該当しますので注意してください。

キー	68
ドア	74
ラゲッジルーム	75
イグニッション位置	79
シート	81
ステアリング	86
ミラー	89
メモリー機能	92
シートベルト	93
車外ライト	97
ルームライト	105
ワイパー	106
サイドウインドウ	108
走行と停車	112
オートマチックトランスミッション	124
メーターパネル	132
マルチファンクション	
ディスプレイ	134
オフロード走行装備	153
走行装備	154
エアコンディショナー	200
パノラミックスライディングルーフ	210
荷物の積み方 / 小物入れ	213
室内装備	225



キー

重要な安全上の注意

⚠ 警告

子供だけを車内に残した場合は、彼らは以下を行なうおそれがあります。

- 施錠されているにもかかわらず、車内からドアを開く
- 車内に残されたキーを使用して車両を始動する
- パーキングブレーキを解除する

それにより、彼ら自身および他の方が危険にさらされるおそれがあります。子供だけを車内に残して車から離れないでください。ごく短時間離れる場合でも、車両から離れるときは常にキーを携帯してください。

⚠ 警告

エンジンスイッチに差し込んであるキーに、重い、または大きなアクセサリを取り付けしないでください。アクセサリが重すぎたり、大きすぎる場合は、重量によりエンジンスイッチでキーがまわるにつながったり、ステアリングにひっかかるおそれがあります。これにより、エンジンが突然停止することにつながります。車両のコントロールを失ったり、事故につながるおそれがあります。

キーを以下に近付けないでください。

- 携帯電話または他のキーなどの電子機器
- 硬貨やアルミホイールなどの金属類
- 金属ケースなどの金属類

キーの機能に影響を及ぼします。

強い電磁波を発生させる物の近くでキーを使用しないでください。さもないと、リモコン機能に影響を及ぼすおそれがあります。

キーの機能

キーで以下のすべての解錠 / 施錠ができます。

- ドア
- テールゲート
- 燃料給油フラップ



- ①  車両を施錠する
- ②  テールゲートを開閉する *
- ③  車両を解錠する

* オプションや仕様により、異なる装備です。

解錠したときは方向指示灯が 1 回点滅します。施錠したときはそれらが 3 回点滅します。

周囲が暗いとき、マルチファンクションディスプレイで設定しているときは、解錠時点灯機能が作動します (▷149 ページ)。

車両が施錠されたことを確認するための確認音を設定することもできます。確認音は、マルチファンクションディスプレイを使用して作動または解除させることができます (▷151 ページ)。

集中して解錠する

▶  スイッチを押します。

解錠から約 40 秒以内に車両を開かない場合は、車両が再度施錠されます。

集中して施錠する

▶  スイッチを押します。

キーレスゴー *

全体的な注意事項

キーが車室内にあるときは、乗員の誰もがエンジンを始動できることに留意してください。

警告

- 埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器を装着されている方や、その他の医療用電子機器を使用されている方は、車を使用する前に、あらかじめ医師や医療用電子機器メーカーなどにキーレスゴーによる電波の影響についてご相談ください。
- 埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器を装着されている方は、キーレスゴーアンテナから約 22cm 以内に近付かないようにしてください。キーレスゴー操作で車を解錠 / 施錠するときやテールゲートを開閉するとき、エンジンを始動するときなどは、キーとアンテナの間で電波が送受信されるため、埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

集中して施錠 / 解錠する

キーレスゴーを使用して、エンジンの始動や車の施錠または解錠ができます。そのためには、常にキーを携帯する必要があります。キーレスゴー機能と従来のキーの機能を組み合わせて使用することができます。キーレスゴーを使用して解錠し、キーの  スイッチで施錠することができます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

キーレスゴーにより施錠または解錠するときは、キーと対象のドアハンドルとの距離は約 1m 以内でなければなりません。

キーレスゴーは、車両とキーとの間で定期的に通信を行ない、車内に有効なキーがあるか確認します。キーの照合は以下のときに行なわれます。

- 車外のドアハンドルに触れたとき
- エンジンを始動したとき
- 車両の走行中



解錠する

- ▶ ドアハンドルの裏側に触れます。

施錠する

- ▶ ドアハンドルの施錠操作部 ① に触れます。

コンビニースクロージング機能を作動させる。

- ▶ コンビニースクロージング機能が作動するまでドアハンドルのコンビニースクロージング操作部 ② に触れます。

コンビニースクロージング機能について、詳しくは (▷110 ページ) をご覧ください。

テールゲートのハンドルを引くと、テールゲートのみが解錠されます。

車を長期間使用しなかったときは、ドアハンドル表面のセンサー機能が自動的に解除されます。ドアハンドルを引いてドアを解錠し、イグニッション位置を **2** にしてセンサーを待機状態にしてください。

ロッキングシステムの設定の変更

運転席ドアと燃料給油フラップのみを解錠するようにロッキングシステムの設定を変更できます。これは運転者が単独で走行することが多い場合に便利です。

設定を変更する

- ▶ キーのバッテリーチェックランプが 2 回点滅するまで、 および  スイッチを同時に約 6 秒間押して保持します (▷68 ページ)。

キーの表示灯が 2 回点滅し、設定が切り替わります。

- i** 車両の信号範囲内でロッキングシステムの設定を変更した場合は、 または  スイッチを押すと以下ようになります。

- 車両が施錠します。または
- 車両が解錠します。

このとき、キーは以下のように作動します。

運転席ドアを解錠する

- ▶  スイッチを 1 回押します。

集中して解錠する

- ▶  スイッチを 2 回押します。

集中して施錠する

- ▶  スイッチを押します。

キーレスゴー * では以下のように作動します。

運転席ドアを解錠する

- ▶ 運転席ドアのドアハンドルの裏側に触れます。

集中して解錠する

- ▶ 助手席ドアまたはリアドアのドアハンドルの裏側に触れます。

集中して施錠する

- ▶ いずれかのドアハンドルの施錠操作部に触れます。

初期設定に戻す

- ▶ キーのバッテリーチェックランプが 2 回点滅するまで、 および  スイッチを同時に約 6 秒間押して保持します (▶68 ページ)。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

キーのトラブル	
トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
リモコン操作で施錠 / 解錠できない。	キーの電池が消耗している。 ▶ リモコン機能を使用して、再度車両を施錠 / 解錠してください。キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向け、至近距離から  /  ボタンを押してください。
	リモコン操作ができないとき： ▶ キーの電池を点検し、必要であれば交換してください。 ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを施錠 / 解錠してください (▶298 ページ)。
	キーが故障している。 ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを施錠 / 解錠してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーの点検を受けてください。
キーレスゴー操作で施錠 / 解錠できない。	車両を長期間解錠しなかったため、キーレスゴーが待機モードになっている。 ▶ ドアハンドルを引き、イグニッション位置を 2 にしてください。
	強い電波や超音波などの干渉を受けている。 ▶ リモコン機能を使用して、再度車両を施錠 / 解錠してください。キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向け、至近距離から  /  ボタンを押してください。
	キーレスゴーが故障している。 ▶ リモコン機能を使用して、再度車両を施錠 / 解錠してください。キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向け、至近距離から  /  ボタンを押してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーの点検を受けてください。 リモコン操作ができないとき： ▶ キーの電池を点検し、必要であれば交換してください。 ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを施錠 / 解錠してください (▶298 ページ)。
キーを紛失した。	▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、紛失したキーを無効にしてください。 ▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。
エマージェンシーキーを紛失した。	▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
キーによるエンジン始動ができない。	バッテリーの電圧が低下している。 ▶ シートヒーターやルームライトなど、必要のない電気装備を停止してから再度エンジンスイッチをまわしてください。 それでもエンジンスイッチがまわらないとき： ▶ バッテリーを点検し、必要であれば充電してください。 または ▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（▶320 ページ）。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ステアリングロックが効いている。 ▶ ステアリングを軽く左右にまわしながら、エンジンスイッチからキーを抜き、再度差し込んでください。
キーが車内にある状態で、キーレスゴースイッチを押しても、エンジンが始動しない。	ドアが開いているため、キーが認識されにくくなっている。 ▶ ドアを閉じてから、再度始動操作を行なってください。 強い電波や超音波などの干渉を受けている。 ▶ エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外し、エンジンスイッチにキーを差し込んで、始動操作を行なってください。

ドア

重要な安全上の注意

⚠ 警告

子供だけを車内に残した場合は、彼らは以下を行なうおそれがあります。

- 施錠されているにもかかわらず、車内からドアを開く
- 車内に残されたキーを使用して車両を始動する
- パーキングブレーキを解除する

それにより、彼ら自身および他の方が危険にさらされるおそれがあります。子供だけを車内に残して車から離れないでください。ごく短時間離れる場合でも、車両から離れるときは常にキーを携帯してください。

内側からドアを解錠して開く

車が施錠されているにもかかわらず、車内からドアを開くことができます。



開く

- ▶ ドアレバー ② を引きます。

ドアが施錠されているときは、ロックノブ ① が上がります。ドアが解錠され、開くことができます。

内側から集中して車両を施錠および解錠する

内側から集中して車両を施錠または解錠できます。

キーまたはキーレスゴーにより車両が施錠されている場合は、内側から車両を集中して解錠することはできません。

集中施錠スイッチまたは集中解錠スイッチでは、燃料給油フラップの施錠または解錠はできません。



解錠する

- ▶ スイッチ ① を押します。

施錠する

- ▶ スイッチ ② を押します。

助手席ドアが閉じているときは、車両が施錠されます。

車が施錠されているにもかかわらず、車内からドアを開くことができます。

集中施錠スイッチまたは集中解錠スイッチを押したときは、燃料給油フラップは施錠または解錠されません。

車速感応ドアロック

イグニッション位置が **0** 以外のときに車輪が回転すると、車両は自動的に施錠されます。

そのため、以下のときに閉め出されるおそれがあります。

- 車が押される
- 車がけん引される
- ダイナモメーター上で車両がテストされる



解除する

- ▶ 音が鳴るまで、スイッチ ① を約 5 秒間押して保持します。

設定する

- ▶ 音が鳴るまで、スイッチ ② を約 5 秒間押して保持します。

i 2 つのうちのいずれかのスイッチを押して、音が鳴らない場合は、対応する設定がすでに選択されています。

車速感応ドアロックはマルチファンクションディスプレイを使用しても設定または解除できます (▶150 ページ)。

ラゲッジルーム

重要な安全上の注意

ラゲッジルームにキーを置いたままにしないでください。さもないと、閉め出されるおそれがあります。

⚠ 警告

エンジンをかけた状態でテールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

! 開くときは、テールゲートは上方および後方に動きます。そのため、テールゲートの上方および後方に十分な間隔があることを確認してください。

i テールゲート開口部の寸法についての詳細は、(▶339 ページ) をご覧ください。

EASY-PACK 自動開閉テールゲート 非装備車

- 車外から手で開閉できます。
- 車内からエマージェンシーキーで解錠できます。

EASY-PACK 自動開閉テールゲート 装備車

- 車外から手で開閉できます。
- 車外から自動で開閉できます。
- 車内から自動で開閉できます。
- テールゲートの開口角度を制限できます。
- 車内からエマージェンシーキーで解錠できます。

車外からの開閉

開く

- ▶ キーの  スイッチを押します。



- ▶ テールゲートハンドル ① を引きます。
- ▶ テールゲートを上げます。

EASY-PACK 自動開閉テールゲート
装備車

テールゲートハンドル ① を引いたままにすると、テールゲートを手動で開くことができます。ハンドルから手を放すと、テールゲートは自動で開きます。

閉じる

 警告

テールゲートを閉じるときに、挟まれるおそれのある人がいないことを確認してください。



- ▶ グリップ ① に手をかけてテールゲートを引き下げます。
 - ▶ 外側からテールゲートを押さえます。
 - ▶ 必要であれば、キーの  スイッチまたはキーレスゴー機能 * を使用して、車両を施錠します。
- i** キーレスゴー装備車は、ラゲッジルームにキーが検知されたときは、テールゲートは施錠されません。

車外から自動で開閉する *

 警告

身体や物が挟まれないようにテールゲートの動きに注意してください。開閉動作を停止するときは、テールゲートのスイッチを押すか、テールゲートのハンドルを引いてください。

- !** 開くときは、テールゲートは上方および後方に動きます。そのため、テールゲートの上方および後方に十分な間隔があることを確認してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

- i** テールゲート開口部の寸法についての詳細は、(▶339 ページ) をご覧ください。

開く

キーまたはテールゲートのハンドルを使用して、テールゲートを自動で開くことができます。

テールゲートを途中の位置で停止したときは、テールゲートを自動で全開または全閉してください。

- ▶ テールゲートが開き始めるまで、キーの  スイッチを押して保持します。

または

- ▶ テールゲートが解錠されているときに、テールゲートのハンドルを引いて、ただちにハンドルから手を放します。

- i** テールゲートが完全に開いているときは、手動で閉じることがもできます。

- !** テールゲートを自動で開いてから手動で閉じるときは、少しの間待ってください。

閉じる

キーまたはテールゲートのクローザースイッチ *、またはテールゲートのキーレスゴースイッチ * を使用して、テールゲートを閉じることができます。



クローザースイッチとキーレスゴースイッチ (EASY-PACK テールゲートおよびキーレスゴー装備車)

閉じる

- ▶ テールゲートのクローザースイッチ ① を押します。

または

- ▶ テールゲートが閉じ始めるまで、キーの  スイッチを押して保持します。

閉じて同時に施錠する

- ▶ テールゲートのキーレスゴースイッチ ② を押します。

- i** テールゲートは、エンジンスイッチにキーが差し込まれていないときにのみ、キーにより開閉できます。

テールゲートが閉じているときに障害物に接触すると、テールゲートは停止し、開きます。

- i** キーレスゴー装備車は、ラゲッジルームにキーを残したままのときは、テールゲートは施錠されません。

キーが検知されていないときは、テールゲートは閉じません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

車内から自動で開閉する *

 警告

身体や物が挟まれないようにテールゲートの動きに注意してください。開閉動作を停止するときは、運転席ドアのテールゲートのスイッチを押すか、引いてください。

! 開くときは、テールゲートは上方および後方に動きます。そのため、テールゲートの上方および後方に十分な間隔があることを確認してください。

i テールゲート開口部の寸法についての詳細は、(▶339 ページ)をご覧ください。

車両が停車していて、解錠されているときは、運転席ドアのスイッチでテールゲートを開閉できます。



開く

▶ テールゲートが開き始めるまで、テールゲートスイッチ ① を引きます。

閉じる

- ▶ イグニッション位置を 1 か 2 にします。
- ▶ テールゲートが閉じ始めるまで、テールゲートスイッチ ① を押します。

テールゲートの開口角度の設定 *

重要な安全上の注意

テールゲートの開口角度を設定できます。約半分ほど開いた位置から全開位置の約 20cm 下の間で設定できます。

たとえば、テールゲートの上方に十分な空間がないときなどに便利です。

! テールゲートの開口角度を設定するときは、テールゲートが全開しても十分な空間があることを確認してください。さもないと、テールゲートを損傷するおそれがあります。開口角度の設定は、できるだけ屋外で行なってください。

設定する

テールゲートを開く

▶ テールゲートのハンドルを引きます。

好みの位置でテールゲートを開く操作を停止する

▶ テールゲートのクローゼースイッチを押すか、テールゲート外側のハンドルを再度引きます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

位置を記憶させる

- ▶ 確認音が 1 回鳴るまで、テールゲートのクローザースイッチを押して保持します。

開口角度が設定されます。次にテールゲートを開いたときは、設定された開口角度で停止します。

- i** テールゲートを全開するには、テールゲートが自動的に停止した後に、テールゲートハンドルを再度引きます。これにより設定した角度が解除されることはありません。

解除する

- ▶ 確認音が 2 回鳴るまで、テールゲートのクローザースイッチを押して保持します。

イグニッション位置

キー



- 0** キーを抜く位置
- 1** ワイパーなど複数の電気装備に電源を供給する位置
- 2** イグニッション（すべての電気装備への電源供給）および運転するときの位置
- 3** エンジンを始動する位置

- i** 異なる車両のキーを差し込んだときも、エンジンスイッチをまわせることがあります。ただし、エンジンスイッチの位置は選択できません。エンジンの始動はできません。

キーレスゴー *

注意事項

キーを以下の物の近くに置かないでください。

- 携帯電話や他のキーなどの電子機器
- コインや金属製フィルムなどの金属物
- 金属ケースなどの金属物

キーのキーレスゴー機能に影響を与えるおそれがあります。

キーレスゴー装備車には、キーレスゴー機能を内蔵したキーと、着脱可能なキーレスゴースイッチが装備されています。

キーレスゴースイッチをエンジンスイッチに取り付けてあり、車内にキーがあることを確認してください。

ブレーキペダルを踏んでいないときにキーレスゴースイッチを押すことは、エンジンスイッチのキー位置を変更することに相当します。

ブレーキペダルを踏んでキーレスゴースイッチを押した場合は、エンジンが始動します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。



イグニッション位置が 0

- ▶ キーレスゴースイッチ ① がまだ押されていない場合は、エンジンスイッチからキーを抜いていることに相当します。

イグニッション位置が 1

- ▶ キーレスゴースイッチ ① を 1 回押します。ワイパーなどを作動させることができます。

- i** この位置で運転席ドアを開くと、電力供給が遮断されます。

イグニッション位置が 2

- ▶ キーレスゴースイッチ ① を 2 回押します。

- i** 以下のときは、電力供給が再度遮断されます。

- 運転席ドアを開き、さらに
- この位置でキーレスゴースイッチ ① を 1 回押す

キーレスゴースイッチを取り外す

エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外し、キーを使用することができます。

- i** 車両から離れるときは、エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外す必要はありません。



- ▶ エンジンスイッチ ② からキーレスゴースイッチ ① を取り外します。

- i** エンジンスイッチにキーレスゴースイッチを取り付けてから約 2 秒間は、キーレスゴースイッチでのイグニッション位置の選択やエンジン始動ができません。

シート

 警告

エンジンスイッチにキーを差し込まれていないときやイグニッション位置が **0** のときも、シート調整を調整することができます。この理由により、子供だけを車内に残して車から離れないでください。シートを調整して挟まれるおそれがあります。

 警告

運転席シートは、停車しているときのみに調整してください。さもないと、シートが動くことにより道路や交通状況から注意がそれ、車両のコントロールを失うおそれがあります。事故の原因になるおそれがあります。

 警告

シートの高さを不用意に調整すると、乗員が挟まれて、けがをするおそれがあります。特に子供は、スイッチを不意に操作して電動シートを調整し、挟まれるおそれがあります。

以下のことに注意してください。

- シート調整システムのレバー部品の下に手を入れないでください。
- 車内の子供がレバー下に手を入れないようにしてください。

 警告

シートを調整している間は、挟まれるおそれのある人がいないことを確認してください。

エアバッグの注意事項も確認してください。

推奨されているように子供を固定してください。"子供を乗せるとき"の項目をご覧ください。

 警告

後頭部がヘッドレストの中央で目の高さで支えられていることを確認してください。頭部がヘッドレストに適切に支えられていないと、事故のときに、頸部に重大なけがをするおそれがあります。ヘッドレストが固定されていないとき、または適切に調整されていないときは、決して走行しないでください。

 警告

シートベルトは、バックレストができるだけ垂直で、乗員が上体を起こして座っている場合にのみ、想定された保護の効果を発揮することができます。シートベルトを適切に着用できないようなシート位置は避けてください。バックレストはできるだけ直立になるように調整してください。バックレストを後方に寝かせすぎた状態で走行しないでください。さもないと、事故や急ブレーキ時に重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。

! シートやシートヒーター * の損傷を防ぐため、以下の点に注意してください。

- シートに液体をこぼさないでください。シートに液体をこぼしたときは、すみやかに乾燥させてください。
- シートカバーが濡れたときなどは、シートヒーターを作動させないでください。また、シートを乾燥させるためにシートヒーターを使用しないでください。
- 推奨されているようにシートの表皮を清掃してください。" 内装の手入れ " をご覧ください。
- シートの上で重い物を運搬しないでください。ナイフ、くぎまたは工具のような鋭利な物をシートクッションの上に置かないでください。可能であれば、シートは人のみを乗せてください。
- シートヒーターを使用しているときは、ブランケット、コート、バッグ、シートカバー、チャイルドセーフティシートなどの被覆物でシートを覆わないでください。

! シートを後方に動かすときは、足元やシートの後方に物が無いことを確認してください。シートや物を損傷する危険性があります。

i 後席のヘッドレストは取り外すことができます。

詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i 関連する項目：

ラゲッジルームの拡大（リアシートの取り外し / 前方への折りたたみ）

フロントシートの調整（4 ウェイパワーシート）



- ① バックレストの角度の調整
- ② シートの高さの調整
- ③ シートクッションの角度の調整
- ④ シートの前後位置の調整

i 太もも部分が軽く支えられるように、シートクッションの角度を調整してください。

シートの前後位置の調整

- ▶ レバー ④ を上げ、シートを前方または後方にスライドさせます。
- ▶ レバー ④ を再度放します。

シートが固定されていることを確認します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

シートクッションの角度の調整

- ▶ ダイヤル ③ を好みの位置にまわします。

フロントシートの調整（メモリー付パワーシート）



- ① ヘッドレストの高さの調整
- ② シートクッションの角度の調整
- ③ シートの高さの調整
- ④ シートの前後位置の調整
- ⑤ バックレストの角度の調整

i メモリー付パワーシート装備車は、助手席シートが不適切な位置にあるときに PRE-SAFE® が作動したときは、助手席シートが適切な位置に自動的に調整されます。

i シートのメモリー機能については（▷92 ページ）をご覧ください。

ヘッドレストの調整

ヘッドレストの手動調整

ヘッドレストの高さの調整



上げる

- ▶ 好みの高さにはッドレストを引き上げます。

下げる

- ▶ 解除ノブ ① を矢印の方向に押して、好みの高さにはッドレストを押し下げます。

ヘッドレストの角度の調整



- ▶ ヘッドレストの下部を持って矢印の方向に動かします。

メモリー付パワーシート

ヘッドレストの高さの調整

- ▶ スイッチを矢印の方向（▷83 ページ）に操作します。

リアヘッドレスト

ヘッドレストの高さの調整



解除ノブ ① を押して、ヘッドレストを一度もっとも低い位置にします。

上げる

- ▶ 好みの高さにヘッドレストを引き上げます。

下げる

- ▶ 解除ノブ ① を押して、好みの高さにヘッドレストを押し下げます。

ヘッドレストの角度の調整

頭部になるべく近づくようにヘッドレストを調整します。

左右シートのみヘッドレスト角度を調整できます。



- ▶ ヘッドレスト上部を押す、または引いて好みの位置にします。

リアヘッドレストの脱着

⚠ 警告

乗員は、ヘッドレストが装着されているシートの上に座って走行してください。事故のときに乗員が重大なけがをする危険性が低減します。



取り外す

- ▶ ヘッドレストを停止するまで引き上げます。
- ▶ 解除ノブ ① を押しながら、ヘッドレストをガイドから引き抜きます。

取り付け

- ▶ 前方から見て支柱の切り欠きが左側になるようにして、ヘッドレストを差し込みます。
- ▶ 固定した音が聞こえるまで、ヘッドレストを押し下げます。

ランバーサポート *

背中での最適な支持が得られるように、運転席のバックレストの形状を個別に調整できます。



- ▶ バックレストが好みの形状になるまで、調整レバー ① を矢印の方向に操作します。

電動ランバーサポート *

背中での最適な支持が得られるように、前席のバックレストの形状を個別に調整できます。



- ① サポートを上げる
- ② サポートを弱くする
- ③ サポートを下げる
- ④ サポートを強くする

シートヒーター *

シートヒーターの使用と停止

⚠ 警告

シートヒーターを繰り返しレベル 3 に設定すると、シートの温度が過度に上がることがあります。温度の感じ方が鈍い乗員や過度に高い温度に反応しにくい乗員の健康に影響を与えたり、低温火傷（紅斑、水ぶくれ）を起こすおそれがあります。シートヒーターを繰り返しレベル 3 で使用しないでください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ 警告

以下の事項に該当する方は、熱すぎたり、低温火傷をするおそれがありますので、十分に注意してください。

- ・ 乳幼児、お年寄り、病人、身体が不自由な方
- ・ 皮膚の弱い方
- ・ 疲労の激しい方
- ・ 眠気を誘う薬を服用された方
- ・ 飲酒した方

スイッチの 3 個の赤い表示灯は、選択したヒーターレベルを示しています。

- i** バッテリーの電圧が低下すると、シートヒーターが停止することがあります。



システムは、約 8 分後に自動的にレベル 3 からレベル 2 に低く切り替わります。

システムは、約 10 分後に自動的にレベル 2 からレベル 1 に低く切り替わります。

レベル 1 に設定されてから約 20 分後に、システムは自動的に停止します。

- ▶ イグニッション位置が 1 または 2 であることを確認します。

使用する

- ▶ 希望のヒーターレベルに設定されるまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

停止する

- ▶ 表示灯が消灯するまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

シートヒーターのトラブル

シートヒーターが短時間で停止したり、作動できなくなります。多くの電気装備が使用されているために電圧が低下しています。

- ▶ リアデフォグガーやルームライトのような、必要のない電気装備を停止してください。

ステアリング

重要な安全上の注意

⚠ 警告

走行中にステアリング位置を調整しないでください。走行中にステアリング位置を調整したり、ステアリング調整機構が適切な位置に固定されていない状態で走行すると、運転者が車両のコントロールを失うおそれがあります。

電動調整式ステアリングは、いつでも調整することができます。そのため、子供だけを車内に残して車から離れたり、車を解錠したままにしないでください。子供が車内に入り、事故や重大なけがをするおそれがあります。

ステアリング位置の調整（手動式）



- ① ステアリング調整ロック解除レバー
- ② 上下位置の調整
- ③ 前後位置の調整

- ▶ ステアリング調整ロック解除レバー ① を完全に押し下げます。

ステアリングのロックが解除されます。

- ▶ 希望の位置にステアリングを調整します。

- ▶ ステアリング調整ロック解除レバー ① を完全に押し上げます。

- ▶ ステアリングが固定されていることを確認します。そのときは、ステアリングを上下に押し、または前後に動かしてみます。

ステアリング位置の調整（電動式）



- ① 上下位置の調整
- ② 前後位置の調整

i 関連する項目：

イージーエントリー機能（▷88 ページ）

メモリー機能（▷92 ページ）

イージーエントリー機能 *

重要な安全上の注意

⚠ 警告

イージーエントリー機能が作動しているときは、挟まれるおそれのある人がいないことを確認してください。

挟まれる危険があるときは、機能を停止してください。以下の操作をしてください。

- ステアリング調整レバーをいずれかの方向に操作する
- いずれかのポジションスイッチ（▷92 ページ）を押す

ステアリングの動きがただちに停止します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ポジションスイッチを押したまま保持しないでください。ステアリングとシートが動き出すおそれがあります。

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転席ドアを開くと、イージーエントリー機能が作動して、身体を挟まれるおそれがあります。

イージーエントリー機能は、運転席への乗り降りを容易にする機能です。

マルチファンクションディスプレイにより、この機能の設定と解除ができます（▷152 ページ）。

イージーエントリー機能設定時のステアリング位置

以下のいずれかの操作をすると、ステアリングが上方に移動します。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- キーレスゴー装備車は、イグニッション位置が **1** のときに運転席ドアを開く
- イグニッション位置が **0** か **1** のときに運転席ドアを開く

i ステアリングが上方の位置にあるときは、イージーエントリー機能は作動しないことがあります。

走行時のステアリング位置

ステアリングは、以下のいずれかの操作をすると元の位置に戻ります。

- 運転席ドアを閉じ、さらに
- エンジンスイッチにキーを差し込む

または

- キーレスゴー装備車は、キーレスゴースイッチを一度押す

エンジンスイッチにキーが差し込まれた状態で運転席ドアを閉じた場合は、イグニッション位置を **2** にすると、ステアリングは自動的に元の位置に戻ります。

エンジンスイッチからキーを抜いたとき、またはメモリー機能で位置を記憶させたときは、そのときのステアリング位置が記憶されます（▷92 ページ）。

クラッシュセンサー連動機能

事故などによりクラッシュセンサー連動機能が作動すると、運転席ドアを開いたときにステアリングが上方に移動します。これはイグニッション位置に関わらず作動します。これにより、車外への脱出と乗員の救出を容易にします。

クラッシュセンサー連動機能は、マルチファンクションディスプレイでイージーエントリー機能を設定しているときにのみ作動します。

ミラー

ドアミラー

ドアミラーの調整

 警告

ドアミラーは像の大きさを小さくします。対象物は表示されているものよりも実際は近くにあります。車線変更のときなどに、後方を走行している車両との距離を見誤り、事故の原因になるおそれがあります。この理由により、肩ごしに視認することにより後方の車両との実際の距離を確認してください。

より広い視界を確保するため、ドアミラーは凸面になっています。

リアデフォッガーが作動し、外気温度が低いときは、ドアミラーは自動的に温められます。ドアミラーのヒーティング機能は、約 10 分以内に停止します。

i リアデフォッガーを作動させることにより、ドアミラーを温めることができます。



▶ イグニッション位置が 1 か 2 になっていることを確認します。

▶ 左側ドアミラースイッチ ① または右側ドアミラースイッチ ② を押します。

対応するスイッチの表示灯が赤く点灯します。

しばらくすると表示灯は消灯します。表示灯が点灯している間に調整スイッチ ③ を使用して、選択したミラーを調整します。

▶ ドアミラーを適切な位置に調整できるまで、調整スイッチ ③ を上下または左右に押します。交通状況を適切に視認できるようにします。

ドアミラーの格納 / 展開



▶ イグニッション位置が 1 か 2 になっていることを確認します。

▶ スイッチ ① を軽く押します。

ドアミラーが格納 / 展開します。

i 走行するときはドアミラーが完全に展開されていることを確認してください。さもないと、振動するおそれがあります。

ドアミラーの設定

バッテリーの接続が外れたり、完全に放電したときは、ドアミラーをリセットしなければなりません。さもないと、マルチファンクションディスプレイで " 施錠時のドアミラー格納 " を設定していても、ドアミラーは格納しません (▷152 ページ)。

- ▶ イグニッション位置が **1** になっていることを確認します。
- ▶ スイッチ ① を軽く押します。

施錠時のドアミラー格納

マルチファンクションディスプレイで " 施錠時のドアミラー格納 " (▷152 ページ) が設定されているときは、以下のようになります。

- 車外から車両を施錠するとすぐに、ドアミラーが自動的に格納します。
- 車両を解錠し、運転席または助手席ドアを開くとすぐに、ドアミラーは自動的に展開します。

i ドアミラー格納 / 展開スイッチでドアミラーを格納したときは、ドアミラーは展開しません。

ドアミラーが適正な位置にないとき

ドアミラーが押されて適正な位置にないときは、以下のようにしてください。

- ▶ ミラーが適正な位置で固定される音が聞こえるまで、ドアミラー格納 / 展開スイッチ (▷89 ページ) を繰り返し押します。

ドアミラーが再度固定され、通常通りドアミラーを調整できるようになります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

自動防眩機能

警告

車内に高く積んだ荷物などにより、ヘッドライトから照射された光がルームミラーのセンサーに当たらないときは、ミラーの自動防眩機能は作動しません。

照射された光により眩惑するおそれがあります。交通状況から注意がそれ、結果として事故の原因になることがあります

以下の条件が同時に満たされたときは、ルームミラーと運転席側ドアミラーが自動的に防眩モードになります。

- イグニッション位置が **1** か **2** で、さらに
- ヘッドライトから照射された光がルームミラーのセンサーに当たったとき

リバースギア **R** にシフトしているときは、ミラーは防眩モードになりません。

パーキングヘルプ機能 *

駐車時の位置に設定し記憶させる

リバースギアを使用する

リバースギア **R** にシフトするとすぐに、助手席側ドアミラーを助手席側後輪が見えるような位置にすることができます。

この位置を記憶させることができます。



▶ 車両が停車していて、イグニッション位置が **2** になっていることを確認します。

▶ 助手席側ドアミラースイッチ ② を押します。

▶ リバースギア **R** に入れます。

助手席側ドアミラーが、あらかじめ設定させていた駐車時の位置に動きます。

▶ ドアミラー調整スイッチ ③ を使用して、ドアミラーを調整します。後輪および路肩がドアミラーに見えるようにします。

駐車時の位置が記憶されます。

i トランスミッションを他の位置にシフトすると、助手席側ドアミラーは走行時の位置に戻ります。

メモリースイッチを使用する

リバースギア **R** にシフトするとすぐに、助手席側ドアミラーを助手席側後輪が見えるような位置にすることができます。

メモリースイッチ **M**④ を使用して、この位置を記憶させることができます。

▶ イグニッション位置が **2** になっていることを確認します。

▶ 助手席側ドアミラーを選択しているときに、ドアミラー調整スイッチ ③ で、後退時に後方を確認しやすい角度に助手席側ドアミラーを調整します。

▶ 運転席ドアのメモリースイッチ **M**④ を押し、約 3 秒以内にドアミラー調整スイッチ ③ をいずれかの方向に押します。

このとき助手席側ドアミラーが動かなければ、そのときの角度に記憶されます。

▶ 助手席側ドアミラーが動いたときは最初からやり直します。

記憶させた助手席側ドアミラー角度の呼び出し

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ 助手席側ドアミラー選択スイッチ ② を押します。

▶ リバースギア **R** に入れます。

助手席側ドアミラーの角度が、あらかじめ記憶させていた角度になります。

助手席側ドアミラーは次のいずれかのときに元の角度に戻ります。

- 走行速度が約 15km/h 以上になったとき
- 運転席側ドアミラー選択スイッチ ① を押したとき

メモリー機能 *

設定の記憶

⚠ 警告

運転席側のメモリー機能は、停車中のみ使用してください。さもないと、メモリー機能によるシートの移動により交通状況から注意がそれ、結果として事故の原因になるおそれがあります。

⚠ 警告

エンジンスイッチにキーが差し込まれていなくてもメモリー機能は使用することができます。この理由により、子供だけを車内に残して車から離れないでください。さもないと、シートを調整して、挟まれるおそれがあります。

メモリー機能で、例えば 3 人の異なる運転者などの 3 つの異なる位置を記憶させることができます。

以下の項目がひとつの設定として記憶されます。

- シートとバックレスト、ヘッドレストの位置
- 運転席側は、ステアリングの位置
- 運転席側は、運転席側および助手席側ドアミラーの角度



- ▶ シート位置を調整します (▷83 ページ)。
- ▶ 運転席では、ステアリングの位置 (▷87 ページ) とドアミラーの角度 (▷89 ページ) を調整します。
- ▶ メモリースイッチ **M** を押し、約 3 秒以内にポジションスイッチの **1**、**2**、または **3** を押します。

選択したポジションに設定が記憶されます。設定が完了すると、確認音が鳴ります。

シート位置の呼び出し

- ❗ バックレストを大きく後方に傾けているときは、記憶位置を呼び出す前に、バックレストを起してください。さもないと、シートを損傷するおそれがあります。
- ▶ シートとステアリング、ドアミラーが記憶した位置になるまで、対応するポジションスイッチ **1**、**2**、または **3** を押して保持します。

i ポジションスイッチを放すとすぐに、設定の作動は中断します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

シートベルト

重要な安全上の注意

シートベルトは、事故のときに乗員の身体の移動を最も効果的に抑えることができる拘束装置です。乗員を拘束することにより、乗員が車内の部品にぶつかる危険性を軽減させます。

警告

シートベルトを正しく着用していなかったり、シートベルトがバックルに確実に差し込まれていないと、本来の保護効果を発揮することができません。そのような状況では、事故のときに重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。

そのため、乗員全員が常にシートベルトを正しく着用していることを確認してください。

- 妊娠中の女性は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。
- シートベルトは身体に密着させて、ねじれないように着用してください。そのため、コートなどの厚手の衣類は着用しないでください。肩を通るベルトは肩の中央にかけてください。絶対に首や脇の下には通さないでください。そして、シートベルトを引き上げて上半身に密着させてください。腰を通るベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかけてください。腹部にはかけないでください。必要であれば、ベルトを少し押し下げてから引き戻して、たるみを取ってください。

- シートベルトが鋭利な物やこわれやすい物にかからないようにしてください。特に眼鏡やペン、キーなどがその位置にあたり、衣服のポケットに入っていないことを確認してください。事故のときにシートベルトが損傷して裂け、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。
- それぞれのシートベルトは必ず1人だけが使用してください。子供は決して他の乗員のひざの上に座らせて走行しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに子供を保護することができません。その結果、子供と他の方が重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。
- 身長 150cm 未満の乗員はシートベルトを正しく着用することができません。この理由により、身長 150cm 未満の乗員は、体格に合った専用の乗員保護装置を使用してください。
- 身長 150cm 未満かつ 12 歳未満の子供は、シートベルトを正しく着用することができません。この理由により、子供の体格に合ったチャイルドセーフティシートを適切なシートに装着して、子供を固定してください。追加の情報は「子供を乗せるとき」(P46 ページ)をご覧ください。チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に付属の取扱説明書の指示に従ってください。
- 乗員が使用しているシートベルトで荷物を固定しないでください。

⚠ 警告

バックレストをできるだけ垂直に近い位置にしないと、シートベルトは本来の効果を発揮することができません。そのような状況では、事故のときに重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。

走行する前に、シートが正しい位置に調整され、バックレストができるだけ垂直に近い位置にあることを確認してください。

⚠ 警告

汚れたり損傷したシートベルトや、改造または事故により衝撃を受けたシートベルトは、本来の保護効果を発揮することができません。そのような状況では、事故のときに重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。

この理由により、シートベルトに汚れや損傷がないか定期的にチェックしてください。

損傷したシートベルトや事故により衝撃を受けたシートベルトは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

安全上の理由により、車両のためにメルセデス・ベンツにより承認されたシートベルトのみを使用することをお勧めします。

シートベルトを着用する



- ▶ シートを調整し、バックレストをできるだけ垂直に近い角度にします。
- ▶ シートベルトをベルトアンカー①からゆっくりと引き出します。
- ▶ シートベルトにねじれがないことを確認して、肩を通るベルトが肩の中央に、腰を通るベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにします。
- ▶ プレート②の先端をバックル③に差し込みます。

シートベルト調整機能：必要に応じて、運転席と助手席のシートベルトが上半身に密着するように自動調整されます。

- ▶ 必要であれば、シートベルトの高さを調整します（▷95 ページ）。
- ▶ 必要であれば、肩を通るベルトを上方に引いて、シートベルトを身体に密着させます。

解除ボタン④でシートベルトを外す方法については、"シートベルトを外す"の記載事項をご覧ください（▷96ページ）。

シートベルト調整機能

シートベルト調整機能では、運転席と助手席のシートベルトが乗員の上半身に密着するように調整されます。

シートベルトは、以下のときに少し引き込まれます。

- プレートの先端をバックルに差し込み、イグニッション位置を **2** にしたとき
- イグニッション位置が **2** のときに、プレートの先端をバックルに差し込んだとき

シートベルト調整機能は、乗員とシートベルトの間のたるみを検知すると、それらを密着させるように作動します。作動している間はシートベルトを強く保持しないでください。マルチファンクションディスプレイにより、シートベルト調整機能の設定と解除ができます（▷152ページ）。

シートベルト調整機能は、PRE-SAFE®のコンビニエンス機能に組み込まれています。PRE-SAFE®に関する詳しい情報は、"PRE-SAFE®（予防乗員保護）"をご覧ください（▷45ページ）。

シートベルトの高さ調整

運転席シートと助手席シートのシートベルトは、高さを調整することができます。



肩にかかるシートベルトが肩の中央を通るように高さを調整してください。

上げる

- ▶ ベルトアンカーを上スライドさせます。

ベルトアンカーが好みの位置に固定されます。

下げる

- ▶ ベルトアンカーのロック解除ボタン①を押して保持します。
- ▶ そのままベルトアンカーを下にスライドさせます。
- ▶ ロック解除ボタン①から指を放し、ベルトアンカーがロックされていることを確認します。

中央のシートベルトを着用する

左側リアシートのバックレストを倒した後にバックレストを元の位置に戻したときは、リア中央のシートベルトがロックして引き出せないことがあります。このときは以下のようにしてシートベルトのロックを解除してください。

リア中央のシートベルトを緩める

- ▶ シートベルトをいったん下方に強く引いてから約 2cm 程度巻き取らせ、再度引き出します。

シートベルトを外す

- ▶ バックルの解除ボタン④を押し、プレート②をベルトアンカー①のほうに巻き取らせませす。

! シートベルトが完全に巻き取られていることを確認してください。さもないと、シートベルトやプレートがドアやシートに挟まれるおそれがあります。ドアや内張り、シートベルトを損傷するおそれがあります。損傷したシートベルトは乗員保護効果を十分に発揮できないため、交換しなければなりません。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

運転席と助手席のシートベルト着用警告

メーターパネルのシートベルト警告灯  は、前席の乗員にシートベルトの着用を促します。警告灯は点灯し続けるか点滅します。また、警告音が鳴る場合もあります。

運転者と助手席乗員がシートベルトを着用すると、シートベルト警告灯  が消灯します。

i シートベルト警告灯  について、詳しくは、"メーターパネルの表示灯 / 警告灯"をご覧ください (▷290 ページ)。

正しい運転姿勢



- ▶ シート調整に関する安全ガイドラインに従ってください (▷81 ページ)。
- ▶ シート③を適切に調整していることを確認します。

4 ウェイパワーシートの調整 (▷82 ページ)

メモリー付パワーシートの調整 (▷83 ページ)

シートを調整するときは、以下のことを確認してください。

- 運転席エアバッグからできるだけ離れている
- 通常の起きた姿勢で着座している
- シートベルトを適切に着用できる
- バックレストをできるだけ垂直の位置に調整している
- 大腿部が軽く支えられるようにシートの角度を調整している
- ペダルを適切に踏める

- ▶ ヘッドレストを適切に調整していることを確認します (▷83 ページ)。そのためには、後頭部がヘッドレストの中央で目の高さで支えられるようにヘッドレストを調整したことを確認します。

- ▶ ステアリング調整に関する安全ガイドラインに従ってください (▷86 ページ)。

- ▶ ステアリング ① を適切に調整していることを確認します。

ステアリングの調整 (▷86 ページ)

ステアリングを調整するときは、以下のことを確認してください。

- 腕を少し曲げてステアリングを握ることができる
- 足を自由に動かせる
- メーターパネルのすべての表示を確認できる
- ▶ シートベルトに関する安全ガイドラインに従ってください (▷93 ページ)。
- ▶ シートベルト ② を適切に着用していることを確認します。

シートベルトは以下のようになっていなければなりません。

- 身体に密着している
- 肩の中央にかかっている
- 骨盤の腰骨にかかっている
- ▶ 走行する前に、道路や交通状況が十分視認できるようにルームミラーとドアミラーを調整します。

メモリー付パワーシート装備車：

- ▶ シートとドアミラーの設定を記憶させます (▷92 ページ)。

車外ライト

車外ライトの設定

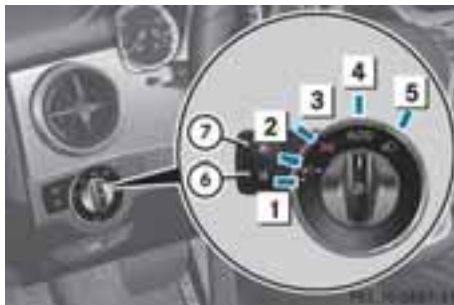
設定

車外ライトは以下により設定します。

- ライトスイッチ
- コンビネーションスイッチ
- マルチファンクションディスプレイ

ライトスイッチ

操作



- ① 左側パーキングライト
- ② 右側パーキングライト
- ③ 車幅灯、ライセンスライト、メーターパネルなどの照明
- ④ オートモード
- ⑤ ロービーム / ハイビームヘッドライト
- ⑥ リアフォグランプ
- ⑦ 日本仕様車には装備されません

車両から離れるときに警告音が聞こえるときは、ライトがまだ点灯しています。

- ▶ ライトスイッチを **AUTO** にまわします。

車外ライト（パーキングライトを除く）は以下のときに自動的に消灯します。

- エンジンスイッチからキーを抜いたとき
- イグニッション位置が **0** のときに、運転席側ドアを開いたとき

ヘッドライトオートモード

警告

ライトスイッチが **AUTO** のときは、霧や雪、または視界が悪いときにロービームヘッドライトは自動的に点灯しません。お客様または他の方が危険にさらされるおそれがあります。そのような状況では、ライトスイッチを  にまわしてください。

ヘッドライトオートモード機能は単に補助のみを行ないます。運転者には常に、車両のライトに関する責任があります。

ライトの設定は、以下のときに周囲の明るさ（霧や雪、霧雨などの天候による視界の悪さを除く）に応じて、自動的に選択されます。

- イグニッション位置が **1** のときは、周囲の明るさに応じて、車幅灯が自動的に点灯 / 消灯します。

- エンジンがかかっているときは、周囲の明るさに応じて、車幅灯、LEDドライビングライト、ロービームヘッドライトが自動的に点灯 / 消灯します。

オートモードにする

- ▶ ライトスイッチを **AUTO** の位置にします。

デイトタイムライトは、昼間走行時に他車に対する自車の認識を高めます。デイトタイムライトは、マルチファンクションディスプレイを使用して設定します（▶147 ページ）。

ロービームヘッドライトが点灯しているときは、メーターパネルの  表示灯が点灯します。

ロービーム

警告

ライトスイッチが **AUTO** のときは、霧や雪、または視界が悪いときにロービームヘッドライトは自動的に点灯しません。お客様または他の方が危険にさらされるおそれがあります。そのような状況では、ライトスイッチを  にまわしてください。

ヘッドライトオートモード機能は単に補助のみを行ないます。運転者には常に、車両のライトに関する責任があります。

ライトセンサーが暗さを検知していないときにも、イグニッション位置が **2** で、ライトスイッチが  の位置のときは、車幅灯とロービームヘッドライトは点灯します。これは特に降雨時や霧のときに便利な機能です。

ロービームヘッドライトを点灯する

- ▶ イグニッション位置を **2** にするか、エンジンを始動します。
- ▶ ライトスイッチを  にまわします。

メーターパネルの緑色の  表示灯が点灯します。

リアフォグランプ

リアフォグランプは、濃い霧のときに、後方の交通に対して自車の認識をより容易にします。リアフォグランプの使用は、法規に従ってください。

リアフォグランプを点灯する

- ▶ イグニッション位置を **2** にするか、エンジンを作動します。
- ▶ ライトスイッチを  または **AUTO** にまわします。
- ▶  スイッチを押します。

メーターパネルの黄色の  表示灯が点灯します。

リアフォグランプを消灯する

- ▶  スイッチを押します。
- メーターパネルの黄色の  表示灯が消灯します。

車幅灯

! バッテリーが過度に放電しているときは、次のエンジン始動を可能にするために、車幅灯またはパーキングライトが自動的に消灯します。法規に沿って、常に車両を安全かつ十分明るい場所に駐車してください。車幅灯  を数時間使用し続けることは避けてください。可能であれば、 右側または  左側のパーキングライトを点灯してください。

- ▶ ライトスイッチを  の位置にします。

仕様により、メーターパネルの緑色の  表示灯が点灯します。

パーキングライト

パーキングライトを点灯すると、車両の片側の車幅灯が点灯します。

パーキングライトを点灯する

- ▶ キーがエンジンスイッチに差し込まれていない状態にするか、イグニッション位置を **0** にします。
- ▶ ライトスイッチを  (車両左側) または  (車両右側) の位置にします。

コンビネーションスイッチ

方向指示



- ① ハイビームヘッドライト
- ② 方向指示、右
- ③ パッシング
- ④ 方向指示、左

短時間作動させる

- ▶ コンビネーションスイッチを矢印②または④の方向に、抵抗がある位置まで軽く操作します。

対応する方向指示灯が3回点滅します。

作動させる

- ▶ コンビネーションスイッチを矢印②または④の方向に、抵抗がある位置を越えて操作します。

ハイビームヘッドライト

ハイビームヘッドライトを点灯する

- ▶ イグニッション位置を2にするか、エンジンを始動します。
- ▶ ライトスイッチを または にまわします。

- ▶ コンビネーションスイッチを矢印①の方向に、抵抗がある位置を越えて操作します。

位置では、周囲が暗く、エンジンがかかっているときにのみ、ハイビームヘッドライトが点灯します。

ハイビームヘッドライトが点灯しているときは、メーターパネルの 表示灯が点灯します。

ハイビームヘッドライトを消灯する

- ▶ コンビネーションスイッチを通常的位置に戻します。

メーターパネルの 表示灯が消灯します。

パッシング

点灯する

- ▶ イグニッション位置を1か2にするか、エンジンを始動します。
- ▶ コンビネーションスイッチを矢印③の方向に引きます。

非常点滅灯



非常点滅灯は、以下のときに自動的に作動します。

- エアバッグが作動したとき
- 約 70km/h 以上の速度から、車両が急減速して停車したとき

非常点滅灯を作動させる

- ▶ スイッチ ① を押します。

すべての方向指示灯が点滅します。このときにコンビネーションスイッチを使用して方向指示灯を作動させたときは、車両の対応する側の方向指示灯のみが点滅します。

非常点滅灯を解除する

- ▶ スイッチ ① を押します。

フルブレーキを効かせた後は、車両の速度が再度 10km/h に達すると、非常点滅灯は自動的に解除されます。

- i** 非常点滅灯はイグニッションがオフのときでも作動します。

ヘッドライトウォッシャー

ヘッドライトが点灯しているとき、エンジンがかかっているときは、"ウォッシャー液を使用した拭き取り" 機能を約 5 回作動させると、ヘッドライトが自動的に清掃されます (▶106 ページ)。イグニッション位置を **0** にしたときは、ヘッドライトウォッシャーはリセットされ、回数は 0 に戻ります。

インテリジェントライトシステム

全体的な注意事項

インテリジェントライトシステムは、そのときの走行や天候の状況に合わせてヘッドライトを自動的に調整するシステムです。車両の速度や天候状況などに応じて路面の照射を向上させる先進機能があります。

システムには、アクティブライトシステム、コーナリングライト、ハイウェイモード、フォグランプ強化機能が含まれます。システムは、周囲が暗いときにのみ作動します。

マルチファンクションディスプレイを使用して、"インテリジェントライトシステム" を設定または解除することができます (▶148 ページ)。

アクティブライトシステム



アクティブライトシステムは、前輪のステアリング動作に応じて、ヘッドライトを動かすシステムです。このようにして、走行している間は関連する範囲が照射されたままになります。これにより、歩行者、自転車や動物を認識しやすくなります。

作動：ライトが点灯しているとき

コーナリングライト



コーナリングライトは、曲がる方向の広い角度にわたる路面の照射を向上させ、急カーブなどでのより良い視界を可能にします。コーナリングライトは、ロービームヘッドライトが点灯しているときにのみ作動します。

作動：

- 約 40km/h 以下の速度で走行していて、方向指示灯を作動させるか、またはステアリングをまわした場合
- 約 40 km/h から 70km/h の間の速度で走行していて、ステアリングをまわした場合

非作動：約 40km/h 以上の速度で走行するか、または方向指示灯を停止する、またはステアリングを直進位置にまわした場合。

コーナリングライトは短時間点灯したままになることがあります、最大約 3 分後に自動的に消灯します。

ハイウェイモード



ハイウェイモードは、照射範囲を増やします。

作動：

- 約 110km/h 以上の走行速度で、約 1000m ステアリングを大きく動かさなかった場合
- 約 130km/h 以上の速度で走行した場合

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

非作動：作動した後に、約 80km/h 以下の速度で走行した場合。

フォグランプ強化機能



フォグランプ強化機能は、運転者が感じる眩しさを軽減し、道路の端の照射を向上させます。

作動：約 70km/h 以下の速度で走行していて、リアフォグランプを点灯した場合。

非作動：作動した後に、約 100km/h 以上の速度で走行した場合、またはリアフォグランプを消灯した場合。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

アダプティブハイビームアシスト

警告

アダプティブハイビームアシストは走行を支援するための補助機能です。実際の明るさ、視界および交通状況に車両の照明を調整する責任は運転者にあります。

以下のときは、システムが作動しなかったり解除されることがあります。

- 雪、雨、霧または霧雨などの視界が悪い場合
- 光学センサー周囲のフロントウインドウ範囲が汚れていたり、曇っている、またはステッカーで覆われている場合

以下のときは、歩行者や自転車を認識しないことがあります。

- 歩行者や自転車が照明やライトなどを点灯していない場合
- 歩行者や自転車が照明やライトなどを点灯していても暗い場合
- 歩行者や自転車がガードレールの後ろにいるなど、歩行者や自転車の照明が明確に見えない場合

- まれな場合：照明を持っている歩行者やライトを点灯した自転車の認識が非常に遅れたり、またはまったく認識されないことがあります。

歩行者や自転車が前方にいる、または車両に接近しているにもかかわらず、ハイビームヘッドライトが自動的に解除されなかったり、または作動することがあります。

このように、事故やお客様自身または他の方のけがにつながるおそれがあります。常に交通状況に従い、必要であれば手動でライトを下向きにしてください。

この機能を使用すると、ヘッドライトがハイビームとロービームの間で自動的に切り替わるように設定できます。反対方向から接近してくる、または車両の前方を走行しているライトを点灯した車両を認識し、それに従ってヘッドライトをハイビームからロービームに切り替えます。

システムは、他の車両との距離に応じてロービームヘッドライトの範囲を自動的に調整します。システムが他の車両を検知しなくなると、ハイビームヘッドライトを再作動させます。

システムの光学センサーは、フロントウインドウ裏側の上方操作部付近にあります。



作動させる

- ▶ マルチファンクションディスプレイを使用して、アダプティブハイビームアシストを作動させます（▶148ページ）。
- ▶ ライトスイッチを **AUTO** にまわします。
- ▶ コンビネーションスイッチを抵抗がある位置を越えて、矢印 ① の方向に押します（▶100 ページ）。
暗く、ライトセンサーがロービームヘッドライトを作動させた場合は、マルチファンクションディスプレイに **[H]** 表示灯が表示されます。

約 45km/h 以上の速度で走行している場合は、車両と他の道路使用者との間の距離に応じて、ヘッドライトの範囲が自動的に設定されます。

約 55km/h 以上の速度で走行し、他の道路使用者が認識されない場合は、自動的にハイビームヘッドライトが点灯します。メーターパネルの **[H]** 表示灯も点灯します。

約 45km/h 以下の速度で走行しているか、または他の道路使用者が認識されている、または道路が十分に照らされているときは、自動的にハイビームヘッドライトが消灯します。メーターパネルの **[H]** 表示灯が消灯します。マルチファンクションディスプレイの **[H]** 表示灯は点灯したままになります。

解除する

- ▶ コンビネーションスイッチを通常的位置に動かして戻します。
マルチファンクションディスプレイの **[H]** 表示灯が消灯します。

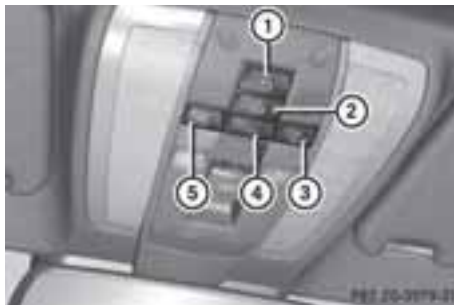
ヘッドライトの内側が曇るとき

外気の湿度が高いときは、ヘッドライトの内側が曇ることがあります。

- ▶ ヘッドライトを点灯して走行してください。
走行距離や天候（湿度と気温）に応じて、ヘッドライト内側の曇り具合は低減します。
- ▶ ヘッドライト内側の曇りが低減しない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ヘッドライトの点検を受けてください。

ルームライト

ルームライトの概要



上方の操作部

- ① リアルームライトスイッチ
- ② 点灯モード切り替えスイッチ
- ③ フロント読書灯（右側）スイッチ
- ④ フロントルームライトスイッチ
- ⑤ フロント読書灯（左側）スイッチ

ルームライトの操作

全体的な注意事項

車両のバッテリーの放電を防ぐため、イグニッション位置が **2** 以外のときは、点灯したルームライト機能は一定時間後に自動的に解除されます。

ルームライトのオート制御

作動 / 解除する

- ▶ 点灯モード切り替えスイッチ を押します。

オート制御が作動しているときは、スイッチが押されていない状態になります。

ルームライトは以下のときに自動的に点灯します。

- 車両を解錠したとき
- ドアを開いたとき
- エンジンスイッチからキーを抜いたとき

エンジンスイッチからキーを抜いた後も、ルームライトは短時間点灯します。マルチファンクションディスプレイを使用して、この遅延機能を作動させることができます（▶150 ページ）。

ルームライトの手動制御

フロントルームライトの点灯 / 消灯を切り替える

- ▶ スイッチ を押します。

リアルームライトの点灯 / 消灯を切り替える

- ▶ スイッチ を押します。

読書灯を点灯 / 消灯する

- ▶ スイッチ を押します。

緊急時点灯機能

車両が事故に巻き込まれたときは、ルームライトが自動的に点灯します。

緊急時点灯機能を解除する

- ▶ 非常点滅灯スイッチを押します。
- または
- ▶ キーを使用して車両を施錠および解錠します。

ワイパー

フロントウィンドウワイパーの作動 / 停止の切り替え

⚠ 警告

ワイパーブレードが摩耗すると、フロントワイパーが適切に拭き取れなくなります。交通状況を把握する妨げになり、そのため事故の原因になるおそれがあります。ワイパーブレードは定期的に交換してください。

! ワイパーブレードを損傷するおそれがあるため、フロントウィンドウが乾いているときはワイパーを作動させないでください。さらに、フロントウィンドウが乾いているときに拭き取ると、フロントウィンドウに付着している汚れにより、ガラスに傷が付くおそれがあります。

! 自動洗車機で洗車した後に、フロントウィンドウワイパーがフロントウィンドウに油膜を残すときは、ワックスや他の残留物が原因であることがあります。自動洗車機で洗車した後は、ウォッシャー液でフロントウィンドウを清掃してください。



コンビネーションスイッチ

- ① **0** フロントウィンドウワイパーの停止
- ② **...** 間欠作動、低（レインセンサーが低い感度に設定）
- ③ **....** 間欠作動、高（レインセンサーが高い感度に設定）
- ④ **—** 連続作動、低速
- ⑤ **==** 連続作動、高速
- ⑥  1 回作動 /  ウォッシャー液を使用した拭き取り

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ 対応する位置にコンビネーションスイッチをまわします。

! 雨が降っていない状況でフロントウィンドウが汚れたときはフロントウィンドウワイパーが不意に作動することがあります。これにより、フロントウィンドウワイパーのブレードが損傷したり、フロントウィンドウを傷つけるおそれがあります。

この理由により、雨が降っていないときは常に、フロントウィンドウワイパーを停止してください。

リアウインドウワイパーの作動 / 停止の切り替え



コンビネーションスイッチ

- ① スイッチ
- ② ウォッシャー液を使用した拭き取り
- ③ 間欠拭き取りの作動
- ④ 間欠拭き取りの停止
- ⑤ ウォッシャー液を使用した拭き取り

- ▶ イグニッション位置を 1 か 2 にします。
- ▶ 対応する位置にスイッチ ① をまわします。

リアウインドウワイパーが作動しているときは、メーターパネルにマークが表示されます。

ワイパーのトラブル

ワイパーが妨げられている

葉や雪などが、ワイパーの動きを妨げています。ワイパーモーターの作動が停止しています。

- ▶ 安全上の理由により、エンジンスイッチからキーを抜きます。

または

- ▶ キーレスゴースイッチ * を使用して、エンジンを停止し、運転席ドアを開きます。
- ▶ 原因となっている障害物を取り除きます。
- ▶ 再度、ワイパーを作動させます。

ワイパーが作動しない

ワイパーが故障しています。

- ▶ コンビネーションスイッチの他のワイパーの作動を選択します。
- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのワイパーの点検を受けてください。

噴射ノズルの位置がずれている

噴射ノズルからのウインドウウォッシャー液がフロントウインドウの中央に当たらなくなっています。噴射ノズルの位置がずれています。

- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での噴射ノズルを調整してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

サイドウインドウ

重要な安全上の注意

 警告

サイドウインドウを開くときは、サイドウインドウとドアフレームとの間に挟まれるおそれがある人がいないことを確認してください。開いている動作の間に、サイドウインドウに触れたり、もたれかけないでください。サイドウインドウが下降しているときに、サイドウインドウとドアフレームとの間に挟まれるおそれがあります。挟まれる危険性があるときは、スイッチを放すか、スイッチを上方に引いてサイドウインドウを再度閉じてください。

 警告

サイドウインドウを閉じるときは、挟まれるおそれがある人がいないことを確認してください。挟まれる危険性があるときは、スイッチを放すか、スイッチを押してサイドウインドウを再度開いてください。

 警告

子供がサイドウインドウを開閉する場合は、けがをすることがあります。子供だけを車内に残して車から離れないでください。ごく短時間離れる場合でも、車両から離れるときは常にキーを携帯してください。

 警告

チャイルドセーフティシートに固定している場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。

子供が以下のようなおそれがあります。

- 車両の部品で、重大な、または致命的なけがをする
- 非常に高い、または非常に低い温度に長時間さらされ、重大な、または致命的なけがをする

子供がドアを開いた場合は、彼らが以下のようなおそれがあります。

- 他の人が重大な、または致命的なけがをする
- 車外に出てけがをしたり、通過車両により重大な、または致命的なけがをする

子供が車内に乗車する場合は、チャイルドプルーフロックを設定してください。さもないと、車両が動いているときに彼らがドアやサイドウインドウを開き、それにより彼らや他の方がけがをするおそれがあります。

サイドウインドウの開閉



- ① フロント左
- ② フロント右
- ③ リア右
- ④ リア左

運転席ドアには、すべてのサイドウインドウのスイッチがあります。各ドアにも、対応するサイドウインドウのスイッチがあります。

運転席ドアのスイッチに優先権があります。

- i** サイドウインドウのチャイルドブルーロックを設定しているときは、リアからサイドウインドウを操作することはできません (▶56 ページ)。
- ▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

開く

- ▶ 対応するスイッチを押します。

閉じる

- ▶ 対応するスイッチを引きます。
- i** 抵抗がある位置を越えてスイッチを操作した場合は、対応する方向に自動開閉作動が開始します。再度押すことにより、自動作動を停止できます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

- i** イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いた後でも、サイドウインドウの操作を続けることができます。この機能は約 5 分間または運転席ドアか助手席ドアを開くまで働きます。

コンビニエンスオープニング機能

走行を開始する前に、車両を換気することができます。以下の機能を同時に実行するためにキーを使用します。

- 車両を解錠する
- サイドウインドウを開く
- パノラミックスライディングルーフ*と電動サンシェード*を開く

- i** コンビニエンスオープニング機能は、キーを使用してのみ操作することができます。キーが運転席ドアハンドルの近くになければなりません。

- ▶ キーの先端部を運転席ドアハンドルに向けます。
- ▶ サイドウインドウとパノラミックスライディングルーフが好みの位置になるまで、 スイッチを押して保持します。

パノラミックスライディングルーフの電動サンシェードが閉じているときは、電動サンシェードが最初に開きます。

- ▶ パノラミックスライディングルーフが好みの位置になるまで、 スイッチを再度押して保持します。

コンビニエンスオープニング機能を中断する

- ▶  スイッチを放します。

コンビニエンスクロージング機能

全体的な注意事項

車両を施錠するときに、同時に以下ができます。

- サイドウィンドウを閉じる
- パノラミックスライディングルーフ*を閉じる

パノラミックスライディングルーフ装備車では、その後に電動サンシェードを閉じることができます。

警告

コンビニエンスクロージング機能を使用しているときは、挟まれるおそれのある人がいないことを確認してください。挟まれる危険性があるときは、以下の操作を行なってください。

キーで操作しているとき：

-  スイッチを放してください。
- サイドウィンドウとパノラミックスライディングルーフが再度開くまで、 スイッチを押して保持してください。

キーレスゴー*で操作しているとき：

- ドアのコンビニエンスクロージング操作部から指を放します。
- ただちにドアハンドルを引いて保持します。

サイドウィンドウとパノラミックスライディングルーフが開きます。

キー操作での作動

-  キーが運転席ドアハンドルの近くになければなりません。

- ▶ キーの先端部を運転席ドアハンドルに向けます。
- ▶ サイドウィンドウとパノラミックスライディングルーフが完全に閉じるまで、 スイッチを押して保持します。
- ▶ すべてのサイドウィンドウとパノラミックスライディングルーフが閉じていることを確認します。

パノラミックスライディングルーフ装備車：

- ▶ パノラミックスライディングルーフの電動サンシェードが完全に閉じるまで、 スイッチを再度押して保持します。

コンビニエンスクロージング機能を中断する

- ▶  スイッチを放します。

キーレスゴー操作での作動*

キーが車外にあり、すべてのドアが閉じているときに操作できます。



* オプションや仕様により、異なる装備です。

- ▶ すべてのサイドウィンドウとパノラミックスライディンググループが閉じるまで、ドアハンドルのコンビニエンススクローリング操作部①に触れ続けます。

i コンビニエンススクローリング操作部①のみに触れていることを確認してください。

パノラミックスライディンググループ装備車：

- ▶ パノラミックスライディンググループの電動サンシェードが完全に閉じるまで、ドアハンドルのコンビニエンススクローリング操作部①に触れ続けます。

コンビニエンススクローリング機能を中断する

- ▶ コンビニエンススクローリング操作部①から指を放します。

サイドウィンドウのリセット

サイドウィンドウが全閉しないときは、サイドウィンドウのリセットを行なってください。

- ▶ すべてのドアを閉じます。
- ▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。
- ▶ サイドウィンドウが完全に閉じるまで、運転席ドアコントロールパネルの対応するスイッチを引きます (▶109 ページ)。
- ▶ さらに 2 秒間スイッチを保持します。

サイドウィンドウが再び少し開くときは：

- ▶ ただちにサイドウィンドウスイッチを軽く引いて、サイドウィンドウを全閉します。
- ▶ スwitchを軽く引いたまま 2 秒以上保持します。
- ▶ スwitchを放した後に対応するサイドウィンドウがそのままになっている場合は、サイドウィンドウは適切にリセットされています。そのような状況でない場合は、上記の手順を再度繰り返してください。

サイドウィンドウのトラブル

トラブル：ウィンドウガイドに葉などの物がありブロックされているため、サイドウィンドウを閉じることができない。

- ▶ 物を取り除いてください。
- ▶ サイドウィンドウを閉じてください。

警告

強い力で、または挟み込み防止機能がない状態でサイドウィンドウを閉じるときは、重大な、または致命的なけがにつながるおそれがあります。サイドウィンドウを閉じるときは、挟まれるおそれがある人がいないことを確認してください。

閉じている間にサイドウィンドウが妨げられ、再度少し開く場合は、以下のようにしてください。

- ▶ サイドウィンドウが妨げられた後に、サイドウィンドウが閉じるまで、ただちに対応するスイッチを再度引きます。

強い力でサイドウィンドウが閉じます。

閉じている間にサイドウィンドウが再度妨げられて、再度少し開く場合は、以下のようにしてください。

- ▶ サイドウィンドウが停止した後に、サイドウィンドウが閉じるまで、ただちに対応するスイッチを再度引きます。

挟み込み防止機能がない状態で、サイドウィンドウが閉じます。

走行と停車

重要な安全上の注意

警告

運転者の足元にある物は、ペダルの動きを制限したり、ペダルを踏むことを妨げるおそれがあります。車両の操作や走行安全性が脅かされます。事故の危険性があります。

車両内のすべての物が適切に収納され、運転者の足元に入り込まないことを確認してください。フロアマットは確実に、およびペダルに十分な間隔を確保できるように装着してください。固定されていないフロアマットは使用しないでください。

警告

以下のような不適切な履物はペダルの適切な使用を妨げるおそれがあります。

- 厚い底の靴
- 高いヒールの靴
- スリッパ

ペダルの適切な使用を確保するために、適切な履物を着用してください。

警告

走行している間にエンジンを停止すると、安全に関連した機能が制限付きでのみ使用できるか、または完全に使用できなくなります。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキブースターの機能に影響を与えるおそれがあります。ステアリングやブレーキの操作に非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行している間はエンジンを停止しないでください。

警告

走行している間にパーキングブレーキが完全に解除されていない場合は、パーキングブレーキが以下になるおそれがあります。

- 過熱、およびそれによる火災
- 制動能力の喪失

火災や事故のおそれがあります。走行する前に、パーキングブレーキを完全に解除してください。

! エンジンの暖機は素早く行なってください。使用温度に達するまでは、エンジンの最大限の性能を使用しないでください。

オートマチックトランスミッションは、車両が停止しているときにのみそれぞれの位置にシフトしてください。

滑りやすい路面で発進するときは、駆動輪が空転しないようにしてください。さもないと、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

エンジンの始動

重要な安全上の注意

警告

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、意識不明になったり死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

! エンジンを始動するときは、アクセルペダルを踏まないでください。

▶ トランスミッションをポジション P にシフトします。

マルチファンクションディスプレイのシフト位置表示に **P** が表示されます。

i トランスミッションがポジション **N** のときもエンジンを始動することができます。

キーによるエンジンの始動

i キーレスゴー * の代わりにキーを使用してエンジンを始動するためには、エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外します。

▶ エンジンスイッチ (▷79 ページ) のキーを **3** の位置にまわして、エンジンが始動したらすぐに放します。

キーレスゴー * によるエンジンの始動

警告

有効なキーを使用すれば、エンジンを始動することができます。この理由のため、子供だけを車内に残さないでください。

短時間でも車から離れるときは、常にキーを携帯してください。

i キーレスゴースイッチ (▷80 ページ) により、エンジンスイッチにキーを差し込むことなく、エンジンを始動することができます。キーが車内にあり、キーレスゴースイッチがエンジンスイッチに差し込まれていなければなりません。このエンジン始動操作は、ECO スタートストップ機能の自動エンジン始動機能とは独立して作動します。

▶ ブレーキペダルを踏んで、踏み続けます。

▶ キーレスゴースイッチを 1 回押します。

エンジンが始動します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

発進

 警告

エンジン回転数がアイドリング以上のときに、トランスミッションのポジションを **D** または **R** にした場合は、車両が急に発進するおそれがあります。事故の危険性があります。

トランスミッションのポジションを **D** または **R** にするときは、常にブレーキペダルをしっかりと踏み、アクセルペダルは同時に踏まないでください

 ブレーキペダルを踏んでいる場合にのみ、トランスミッションをポジション **P** から好みの位置にシフトすることができます。そのときにのみ、パーキングロックが解除されます。

- ▶ ブレーキペダルを踏んで、保持します。
- ▶ トランスミッションをポジション **D** または **R** にシフトします。
- ▶ パーキングブレーキを解除します。
- ▶ ブレーキペダルから足を放します。
- ▶ 慎重にアクセルペダルを踏みます。

 発進すると、車が自動的に施錠されます。ドアのロックノブが下がります。

ドアは車内からいつでもロックを解除して開くことができます。

また、車速感応ドアロックを解除することもできます (p.75 ページ)。

 エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。これにより、排気ガスを浄化する触媒がより早く適正温度に達します。

ヒルスタートアシスト

ヒルスタートアシストは、坂道発進時に車が後退または前進することを防ぎ、運転者の発進操作を補助します。ブレーキペダルから足を放した後に短時間、車を停止したまま保持します。そのため、車が動き出す前に、ブレーキペダルからアクセルペダルへ余裕を持って踏みかえることができます。

 警告

ヒルスタートアシストは、短時間で車へのブレーキ力がなくなるため、発進するおそれがあります。事故やけがの危険性があります。

そのため、ブレーキペダルからアクセルペダルに素早く足を動かしてください。ヒルスタートアシストで車を停止させているときは、決して車から離れないでください。

- ▶ ブレーキペダルから足を放します。
車両はその後約 1 秒間停止します。
- ▶ 発進します。

以下のときは、ヒルスタートアシストは作動しません。

- 傾斜していない路面や下り坂で発進するとき
- トランスミッションがポジション **N** のとき
- パーキングブレーキが効いているとき
- ESP[®] が故障しているとき

ECO スタートストップ機能

重要な安全上の注意

⚠ 警告

エンジンが自動的に停止しているときに車から離れると、エンジンは自動的に再始動します。車が動き出します。事故やけがをするおそれがあります。

車から離れるときは、常にイグニッション位置を **0** にして、車が動き出さないように固定してください。

全体的な注意事項

ECO スタートストップ機能は、車両が停止すると、自動的にエンジンを停止します。

再び発進しようとする、自動的にエンジンが始動します。ECO スタートストップ機能は、燃料消費と排出ガスを低減させます。

キーまたはキーレスゴースイッチ*によりエンジンを始動するたびに、ECO スタートストップ機能は待機状態になります。

マルチファンクションディスプレイに ECO インジケーター **ECO** が緑色で表示されている場合は、システムは作動可能です。

エンジン自動停止のすべての条件が満たされていない場合は (▶116 ページ)、マルチファンクションディスプレイの ECO インジケーター **ECO** は黄色で表示されます。

ECO スタートストップ機能が手動で解除されたとき、または故障によりシステムが解除されているときは、ECO インジケーター **ECO** は表示されません。

ECO スタートストップ機能の解除 / 作動



ECO スタートストップスイッチ

解除する

- ▶ スイッチ ① を押します。

スイッチ ① の表示灯 ② とマルチファンクションディスプレイの ECO インジケーター **ECO** が消えます。

待機状態にする

- ▶ スイッチ ① を押します。

表示灯 ② が点灯します。エンジン自動停止のすべての条件 (▶116 ページ) が満たされている場合は、マルチファンクションディスプレイに ECO インジケーター **ECO** が緑色で表示されます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ECO スタートストップ機能のすべての作動条件が満たされていない場合は、マルチファンクションディスプレイの ECO インジケーター **ECO** は黄色で表示されます。この場合には、ECO スタートストップ機能は作動しません。

i 表示灯 ② が消灯しているときは、ECO スタートストップ機能は手動で、または故障により解除されます。車両が停止したときも、エンジンは自動的に停止しません。

i エンジンを再始動するたびに、ECO スタートストップ機能は待機状態になります。

エンジンの自動停止

全体的な注意事項

以下のときは ECO スタートストップ機能が作動し、マルチファンクションディスプレイに ECO インジケーター **ECO** が緑色で表示されます。

- ECO スタートストップスイッチの表示灯が緑色で点灯しているとき
- 車両が停止しているとき
- 外気温度が適切な範囲内にあるとき
- エンジンが正常な作動温度にあるとき
- 車内の設定温度に達しているとき
- バッテリーが十分に充電されているとき
- エアコンディショナーが作動しているときに、システムがフロントウィンドウの曇りを検知していないとき
- ボンネットが閉じているとき

- 運転席ドアが閉じていて、運転者がシートベルトを着用しているとき

エンジン自動停止のためのすべての条件が満たされていないときは、マルチファンクションディスプレイの ECO インジケーター **ECO** が黄色で表示されます。

i エンジンは連続して最大 4 回（最初の停止と、それに続く 3 回の停止）まで自動的に停止します。エンジンが 4 回自動的に始動した後は、マルチファンクションディスプレイの ECO インジケーター **ECO** が黄色で表示されます。マルチファンクションディスプレイの ECO インジケーター **ECO** が緑色で表示されたときに、エンジンの自動停止は再度可能になります。

i エンジンが自動的に停止している間は、エアコンディショナーの作動能力が低下します。最大限の能力でエアコンディショナーを作動させたいときは、ECO スタートストップスイッチを押して、ECO スタートストップ機能を解除してください。

車両にブレーキを効かせて停止し、トランスミッションのポジションが **D** または **N** でブレーキペダルを踏み続けている場合は、ECO スタートストップ機能は自動的にエンジンを停止します。

i トランスミッションを **R** から **D** にシフトした場合は、マルチファンクションディスプレイの ECO インジケーター **ECO** が緑色で再表示された後にはのみ、ECO スタートストップは作動します。

i 車が停車していてエンジンが自動停止しているときは、ホールド機能を作動させることもできます。自動停止の間はブレーキを効かせ続ける必要はありません。アクセルペダルを踏むとエンジンが自動的に始動し、ホールド機能のブレーキ作動は解除されます。最初にエンジンを始動させる必要があるため、アクセルペダルは静かに踏み込んでください。

エンジンの自動再始動

エンジンは以下のときに自動的に始動します。

- ECO スタートストップスイッチを押して、ECO スタートストップ機能を解除したとき
- 運転席の乗員がシートベルトを外すか、運転席ドアを開いたとき
- 車両が動き出したとき
- ブレーキシステムが要求したとき
- 車内の温度が設定温度範囲から外れたとき
- エアコンディショナーが作動しているときに、システムがフロントウィンドウの曇りを検知したとき
- バッテリーの充電状態が低すぎる時
- トランスミッションがポジション **D** または **N** のときに、ブレーキペダルから足を放したとき
- アクセルペダルを踏んだとき
- リバースギア **R** にシフトしたとき
- トランスミッションをポジション **P** 以外にしたとき

i トランスミッションをポジション **P** にしても、エンジンは始動しません。

i トランスミッションをポジション **R** から **D** にすると、マルチファンクションディスプレイに ECO インジケーター **ECO** が再表示された後に、ECO スタートストップ機能が再び使用可能になります。

ECO 表示

ECO 表示により、運転スタイルがどの程度経済的であるかを確認できます。ECO 表示は、選択されている走行モードや運転状況での最も経済的な運転スタイルを達成する支援になります。燃費は運転スタイルによって大きな影響を受けます。



例：ECO 表示

ECO 表示は、以下の 3 つのバーから構成されます。

- アクセル操作
- 平均
- ブレーキ操作

パーセンテージ数は、3 本のバーの数値の平均値です。3 本のバーと平均値は 50% から開始します。高いパーセンテージ数は、より経済的な運転スタイルを示しています。

ECO 表示は、実際の燃費を示すものではありません。

運転スタイルに加えて、燃費は以下のような他の多くの要因に影響されます。

- 荷物
- タイヤ空気圧
- エンジン始動からの時間
- 走行している道路の状況
- 電気装備の使用

これらの要因は、ECO 表示には反映されません。

ECO 表示では、運転スタイルは以下の 3 つの基準により評価されます。

アクセル操作（加速操作の評価）

バーの塗り部分	バーの空白部分
穏やかな加速の割合	スポーティな加速の割合

平均（速度変動の評価）

バーの塗り部分	バーの空白部分
一定速度での走行、および不必要な加速や減速を回避している走行の割合	速度を変動させて走行している割合

ブレーキ操作（減速操作の評価）

バーの塗り部分	バーの空白部分
車間距離を保ち、早めにアクセルペダルを放すなどの予測運転を行ない、ブレーキを使用することなく惰性走行を行なっている割合	頻繁なブレーキ操作を行なっている割合

i 経済的な運転スタイルはエンジン回転数を抑えることにより達成できます。そのため、走行モード **E** で走行することにより、"アクセル操作" および "平均" で高い数値を得ることができます。

i 自動車専用道路などでの長距離にわたる一定速度での走行では、"平均" のバーのみが変化します。

i ECO 表示は、走行開始から終了までの運転スタイルの概要を示したものです。そのため、走行開始時は、バーが頻繁に変化します。運転時間が長くなると、これらの変化は小さくなります。バーが頻繁に変化する場合は、手動でリセットを行なってください。

ECO 表示に関するさらなる情報は (▷117 ページ) をご覧ください。

駐車

重要な安全上の注意

 警告

葉や草、小枝などの燃えやすい物が熱くなった排気システムの部品に長時間触れ続けた場合は、発火するおそれがあります。火災の危険性があります。

燃えやすい物が、熱くなった車両部品に触れないように車両を駐車してください。乾いた草地や畑などには駐車しないように、特に注意してください。

 警告

走行している間にエンジンを停止すると、安全に関連した機能が制限付きでのみ使用できるか、または完全に使用できなくなります。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキブースターの機能に影響を与えるおそれがあります。ステアリングやブレーキの操作に非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行している間はエンジンを停止しないでください。

 警告

車内に子供のみを残したままにすると、彼らは以下のようなことをするおそれがあります。

- パーキングブレーキを解除する
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** 以外にシフトする
- エンジンを始動する

彼らは、車両の装備を操作するおそれもあります。事故やけがの危険性があります。

車両を離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。車内に子供のみを残したままにしないでください。

 車両が動くと、車両の損傷や駆動系部品の損傷につながるおそれがあります。

車両が不意に動き出すことを防ぐために、以下のことを確認してください。

- パーキングブレーキが確実に効いていること
- トランスミッションがポジション **P** になっていて、エンジンスイッチからキーが抜かれていること
- 坂道で駐車するときは、前輪が歩道方向に向いていること

エンジンの停止

重要な安全上の注意

警告

エンジンを停止したときは、オートマチックトランスミッションはニュートラルポジション **N** に切り替わります。車両が動き出すことがあります。事故の危険性があります。

エンジンを停止した後は常に、パーキングポジション **P** に切り替えてください。パーキングブレーキを効かせて、駐車した車両が動き出さないようにしてください。

- ▶ パーキングブレーキペダルを確実に踏みます。
- ▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトします。

キーを使用しているとき

- ▶ エンジンスイッチのキーを **0** の位置にして、キーを抜きます。
イモビライザーが作動します。
- i** トランスミッションがポジション **P** にシフトされているときにのみ、キーを抜くことができます。

キーレスゴーを使用しているとき

- ▶ キーレスゴースイッチを押します (▷80 ページ)。

エンジンが停止し、メーターパネルのすべての表示灯が消灯します。

i 運転席ドアが閉じているときは、イグニッション位置は **1** になります。運転席ドアが開いているときは、イグニッション位置はキーを抜いているときと同様の **0** になります。

i 車両が動いている間は、キーレスゴースイッチを約 3 秒間押すことによりエンジンを停止することができます。この機能は ECO スタートストップのエンジン停止機能とは独立して作動します。

パーキングブレーキ

警告

パーキングブレーキで車両にブレーキを効かせなければならない場合、制動距離は著しく長くなり、車輪がロックするおそれがあります。これにより、横滑りや事故の危険性が増えます。

ブレーキが故障しているときにのみ、車両にブレーキを効かせるためにパーキングブレーキを使用してください。パーキングブレーキを効かせ過ぎないでください。車輪がロックした場合は、車輪が再度回転し始めるまで、パーキングブレーキを解除してください。

⚠ 警告

車内に子供のみを残したままにすると、彼らは以下のようなことをするおそれがあります。

- パーキングブレーキを解除する
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション P 以外にシフトする
- エンジンを始動する

彼らは、車両の装備を操作するおそれもあります。事故やけがの危険性があります。

車両を離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。車内に子供のみを残したままにしないでください。



パーキングブレーキを効かせる

- ▶ パーキングブレーキペダル ② を確実に踏みます。

エンジンがかかっている場合は、メーターパネルのブレーキ警告灯 ① が点灯します。

パーキングブレーキを解除する

- ▶ ブレーキペダルを踏み、踏んだままにします。

- ▶ 解除ハンドル ① を手前に引きます。
メーターパネルのブレーキ警告灯 ① が消灯します。

長期間駐車するとき

約 4 週間以上駐車したままにすると、バッテリーが完全放電して損傷するおそれがあります。このようなときは、以下のようにしてください。

- ▶ バッテリーからケーブルを外すか、バッテリー充電器を接続してください。

i バッテリー充電器については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

約 6 週間以上駐車したままにすると、不具合が発生するおそれがあります。このようなときは、別途対応が必要です。

- ▶ 対応について、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

エンジンのトラブル

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンが始動しない。 イグニッション位置を 3 にするとスターターモーターの音がする。	• エンジンの電気システムに異常がある。 • 燃料供給に異常がある。 ▶ エンジンを再始動する前に、エンジンスイッチのキーを0の位置に戻してください。 または ▶ メーターパネルの表示灯 / 警告灯が消灯するまで、キーレスゴースイッチを繰り返し押してください。 ▶ 再度、始動操作を行なってください。バッテリーがあがるおそれがあるため、長時間で頻繁なエンジン始動操作は避けてください。 何度始動を試みても、エンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
エンジンが始動しない。スターターモーターの音がする。燃料残量警告灯が点灯していて、燃料計の指針が0を示している。	燃料タンクが空になっている。 ▶ 燃料を給油してください。
エンジンが始動しない。スターターモーターの音がしない。	バッテリーがあがっているか、充電されていないため、バッテリーの電圧が低くなっている。 ▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（▷320 ページ）。エンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 過度の負荷によりスターターモーターが過熱している。 ▶ スターターが冷えるまで、約 2 分間待ってください。 ▶ 再度、始動操作を行なってください。 エンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
エンジンの回転が滑らかでなく、ミスファイアも起きている。	エンジンの電気システム、またはエンジン制御システムに異常がある。 ▶ アクセルペダルを踏みすぎないでください。 触媒を損傷するおそれがあります。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
冷却水温度が約 120℃を超えている。 冷却水警告灯が点灯し、警告音も鳴った。	リザーブタンクの冷却水量が非常に不足している。冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。
	▶ すみやかに安全に停車し、エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ エンジンと冷却水が冷えてから冷却水量を点検し、必要であれば、冷却水補給時の注意事項を読んでから、冷却水を補給してください (▶241 ページ)。
	冷却水量が正常なときは、ラジエターの冷却ファンが故障している可能性がある。冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。 ▶ 冷却水温度が約 120℃以下の場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行を続けることができます。 ▶ 山道の走行や発進と停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷がかかる走行は避けてください。

オートマチックトランスミッション

重要な安全上の注意

警告

エンジン回転数がアイドリング以上のときに、トランスミッションのポジションを **D** または **R** にシフトした場合は、車両が急に発進するおそれがあります。事故の危険性があります。

トランスミッションのポジションを **D** または **R** にシフトするときは、常にブレーキペダルをしっかりと踏み、アクセルペダルは同時に踏まないでください

DIRECT SELECT レバー

シフトポジションの概要

DIRECT SELECT レバーは、ステアリングの右側にあります。



- P** パーキングロック付きパーキングポジション
- R** リバース
- N** ニュートラル
- D** ドライブ

i DIRECT SELECT レバーから手を放すと、自動的に中立の位置に戻ります。現在のトランスミッションのポジション **P**、**R**、**N** または **D** は、マルチファンクションディスプレイのシフトポジション表示に表示されます。

トランスミッションのシフトポジションと走行モードの表示



- ① トランスミッションのシフトポジション表示
- ② 走行モード表示

i シフトポジション表示の矢印は、DIRECT SELECT レバーを使用して変速できるシフトポジションとその方向を示しています。

! マルチファンクションディスプレイのトランスミッションのシフトポジション表示が作動しないときは、選択したシフトポジションにあるかどうかを調べるために慎重に発進してください。このときは、トランスミッションのシフトポジションは **D**、走行モードは **E** または **S** を選択してください。ティップシフトは使用しないでください。

現在のトランスミッションのシフトポジションと走行モードは、マルチファンクションディスプレイに表示されます。

パーキングポジション P に入れる

- ▶ DIRECT SELECT レバーを矢印 **P** の方向に押します。

マルチファンクションディスプレイのトランスミッションのシフトポジション表示に **P** が表示されます。

i 以下のときは、トランスミッションがポジション **P** に自動的にシフトします。

- 車両が停止していてトランスミッションがポジション **D** または **R** にある間に運転席ドアを開く
- ごく低速で走行していてトランスミッションがポジション **D** または **R** にある間にドアを開く

i ブレーキペダルを踏み、DIRECT SELECT レバーを上または下に操作すると、パーキングロックが解除され、トランスミッションがニュートラル **N** になります。

トランスミッションをパーキングポジション **P** から直接 **D** か **R** にシフトするためには、

- ブレーキペダルを踏み、
- DIRECT SELECT レバーを上または下に抵抗がある位置を越えて押します。

! エンジン回転数が高すぎるときは、**D** から **R**、または **R** から **D** に直接、または直接 **P** にシフトしないでください。さもないと、オートマチックトランスミッションを損傷するおそれがあります。

自動的なパーキングポジション P へのシフト

以下のときは、自動的にパーキングポジション **P** になります。

- キーを使用してエンジンを停止し、キーを抜いたとき
- キーレスゴースイッチを使用してエンジンを停止し、いずれかのフロントドアを開いたとき
- ホールド機能 (▶171 ページ) が車両にブレーキを効かせ、以下の条件が満たされたとき
 - システムに故障がある
 - 車両が緩い上り坂または下り坂にある。

リバースギア R にシフトする

! 車両が停止しているときにのみ、トランスミッションを **R** にシフトしてください。

- ▶ DIRECT SELECT レバーを、抵抗がある位置を越えて上に押します。

ニュートラル N での ECO スタートストップ機能の作動

以下のときは、ECO スタートストップ機能によりエンジンが自動的に停止します。

- ニュートラル **N** で停止するまで車両にブレーキを効かせ、
 - さらにブレーキを効かせ続けたとき
- ECO スタートストップ機能について、詳しくは (▷115 ページ) をご覧ください。

ニュートラル **N** にシフトする

- ▶ DIRECT SELECT レバーを、最初に抵抗がある位置まで上または下に押しします。

ドライブポジション **D** での ECO スタートストップ機能の作動

以下のときは、ECO スタートストップ機能によりエンジンが自動的に停止します。

- トランスミッションがポジション **D** で停止するまで車両にブレーキを効かせ、
 - さらにブレーキを効かせ続けたとき
- ECO スタートストップ機能について、詳しくは (▷115 ページ) をご覧ください。

ドライブポジション **D** に入れる

- ▶ DIRECT SELECT レバーを、最初に抵抗がある位置を越えて下に押しします。

シフトポジション

P パーキングポジション

停止中に車両が動き出すのを防ぎます。停車しているとき以外はトランスミッションをポジション **P** にシフトしないでください。

以下のときは、オートマチックトランスミッションが自動的に **P** にシフトします。

- キーを抜いたとき
- **D** または **R** のときにエンジンを停止し、いずれかのフロントドアを開いたとき

R リバースギア

停車しているときにのみ、トランスミッションを **R** にシフトしてください。

N ニュートラル

走行している間は、トランスミッションを **N** にシフトしないでください。さもないと、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

押したりけん引するときなどに、ブレーキを解除すると車両を動かすことができません。

ESP® の機能が解除されているときや異常がある場合は、凍結路などで車がスリップする危険があるときにのみ、トランスミッションを **N** にシフトしてください。

! ニュートラル **N** で車両を動かすと、トランスミッションの損傷につながります。

D**ドライブ**

オートマチックトランスミッションが自動変速します。すべての前進ギアを使用できます。

ギアシフト操作

オートマチックトランスミッションは、トランスミッションのポジションが **D** のときに自動的に変速を行いません。ギアシフトは以下により決定されます。

- 選択されているときは、ギアレンジ
- 選択された走行モード(▷127ページ)
- アクセルペダルの踏み具合
- 走行速度

運転のヒント**アクセルペダルの位置**

運転スタイルは以下のようにオートマチックトランスミッションの変速に影響を与えます。

- 軽く踏んだときは、早くシフトアップします。
- 深く踏み込んだときは、遅くシフトアップします。

キックダウン

急な加速が必要な場合はキックダウンを行ないます。

- ▶ アクセルペダルを抵抗がある位置を越えて踏み込みます。

エンジン回転数に応じて自動的に低いギアに変速します。

- ▶ 希望する速度に達したら、アクセルペダルをゆるめます。

オートマチックトランスミッションが元のギアにシフトアップします。

走行モード選択スイッチ**全体的な注意事項**

走行モード選択スイッチにより、異なる走行特性の走行モードを選択することができます。



E エコノミー	快適で経済的な走行
S スポーツ	スポーティな走行スタイル
M マニュアル	マニュアルギアシフト

- ▶ マルチファンクションディスプレイに希望する走行モードが表示されるまで、走行モード選択スイッチ ① を繰り返し押します。

i エンジンを始動するたびに、オートマチックトランスミッションの走行モードは **E** に切り替わります。

i 走行モードについて、詳しくは (▷127 ページ) をご覧ください。

パドル



① 左側パドル

② 右側パドル

オートマチック走行モードのときは、ステアリングのパドルを使用して、ギアレンジを狭くしたり、または広くすることができます (▷128 ページ)。

マニュアル走行モードのときは、ステアリングのパドルを使用して、ギアを変換することができます (▷129 ページ)。

i パドルによるギアシフト操作は、トランスミッションがポジション **D** のときにのみ行なえます。

オートマチック走行モード

走行モードが **E** のときは、以下のような特性になります。

- 快適性を重視したエンジンとオートマチックトランスミッションの設定になります。
- シフトアップが早めに行なわれるため、燃料の余分な消費が抑えられます。
- 前進・後退ともに、アクセルペダルをいっぱいまで踏み込まないときは、穏やかに発進します。
- 滑りやすい路面などでの車両操縦性や走行安定性が向上します。
- オートマチックトランスミッションが早めにシフトアップするため、エンジン回転数が低く抑えられ、車輪が空転しにくくなります。

ティップシフト

はじめに

オートマチックトランスミッションがポジション **D** のときは、ギアレンジを狭くしたり、広げることができます。

選択されたギアレンジはマルチファンクションディスプレイに表示されます。オートマチックトランスミッションは、選択されたギアの範囲内でのみシフトされます。

ギアレンジ

- | | |
|---|--|
| 3 | エンジンブレーキを効かせるために使用 |
| 2 | 以下のような下り坂で走行しているときに、エンジンブレーキを効かせるために使用 <ul style="list-style-type: none"> • 急な坂道 • 山道 • 過酷な状況 |
| 1 | 非常に急な下り坂や長い下り坂などでエンジンブレーキを効かせるために使用 |

ギアレンジを狭くする

- ▶ 左側のパドルを引きます。
- オートマチックトランスミッションがシフトダウンし、適切なギアにギアレンジを狭くします。

i シフトダウンするときエンジン
の最大回転数を超える場合は、シフト
ダウンを行なわないことでオート
マチックトランスミッションはエン
ジンの損傷を防ぎます。

i ギアレンジに対応するエンジンの
最大回転数に達し、さらに加速を続
けた場合は、エンジンの過回転を防
ぐため、ギアレンジが狭くなってい
てもオートマチックトランスミッ
ションはシフトアップします。

ギアレンジを広くする

- ▶ 右側のパドルを引きます。
- ギアレンジが広がります。

ギアレンジの制限を解除する

- ▶ マルチファンクションディスプレイ
に **D** が再表示されるまで、右側の
パドルを引いて保持します。
- オートマチックトランスミッション
が現在のギアレンジから直接 **D** に
シフトします。

理想的なギアレンジを選択する

- ▶ 左側のパドルを引いて保持します。
- オートマチックトランスミッションは
最適な加減速を行なうことができるギ
アにシフトします。このために、オー
トマチックトランスミッションは、1
つまたはそれ以上低いギアにシフトダ
ウンします。

マニュアルギアシフト

マニュアルギアシフトの作動

マニュアルギアシフト **M** は、走行モ
ード選択スイッチを使用して選択する
ことができます。マニュアルギアシ
フト **M** では、トランスミッションが
ポジション **D** の場合にステアリング
のパドルを使用してギアを変速でき
ます。選択され変速されたギアはマ
ルチファンクションディスプレイに表
示されます。

- ▶ マルチファンクションディスプレイに **M** が表示されるまで、走行モード選択スイッチ（▷127 ページ）を繰り返し押します。

シフトアップする

- ▶ 右側のパドルを引きます。
オートマチックトランスミッションが次のギアにシフトアップします。

シフトダウンする

- ▶ 左側のパドルを引きます。
オートマチックトランスミッションが次のギアにシフトダウンします。
- i** 最大限の加速をしたい場合は、トランスミッションが現在の走行速度に対して最適なギアを選択するまで、左側のパドルを引きます。

キックダウンする

マニュアルギアシフト **M** のときにも、キックダウンを行なうことができます。

- ▶ アクセルペダルを抵抗がある位置を越えて踏み込みます。
エンジン回転数に応じて自動的に低いギアに変速します。

マニュアルギアシフトを解除する

- ▶ マルチファンクションディスプレイに **E** または **S** が表示されるまで、走行モード選択スイッチ（▷127 ページ）を繰り返し押します。

オートマチックトランスミッションのトラブル

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
トランスミッションが正しく変速しない。	トランスミッションオイルが減っている。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。
加速性能が悪化している。 トランスミッションが変速しない。	トランスミッションに異常があり、エマージェンシーモードになっている。 2 速ギアからリバースギアで走行できる場合があります。 ▶ 停車してください。 ▶ シフトポジションを P にしてください。 ▶ エンジンを停止します。 ▶ 約 10 秒以上待ってから、エンジンを再始動します。 ▶ シフトポジションを D にします。 2 速ギアになります。 または ▶ シフトポジションを R にします。 リバースギアになります。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。

メーターパネル

メーターパネルの各部の名称については（▶25 ページ）をご覧ください。

 警告

メーターパネルまたはマルチファンクションディスプレイが故障しているときは、メッセージが表示されません。

その結果、速度や外気温度、警告灯や表示灯、ディスプレイメッセージまたはシステム故障などの走行状況の情報を見るができなくなります。車両操縦性が損なわれるおそれがあります。状況に応じて、運転スタイルと車両の速度を調整してください。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

エンジン冷却水温度計

エンジン冷却水温度計は、メーターパネルの左側にあります。

冷却水が適切に充填されているときでも、通常の作動条件で冷却水温度の表示が約 120℃ 付近を示すことがあります。

暑い日や上り坂が続くときなどには、冷却水温度の指針が上限付近を示すことがあります。

タコメーター

タコメーターのレッドゾーンは、エンジンの許容回転数を超えた範囲を示しています。

 許容回転数を超えた範囲で走行しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

レッドゾーンに達すると、エンジン保護のため、燃料供給が中断されます。

外気温度表示

マルチファンクションディスプレイ内に外気温度表示があります。

 警告

氷点に近い温度では、特に山間部や橋の上では路面が凍結しやすくなります。状況に運転スタイルを合わせないと、車両が滑るおそれがあります。この理由により、天候状況に運転スタイルや速度を合わせてください。

外気温度の変化は、少し遅れて表示されます。

スピードメーター

スピードメーター内のセグメントは、使用できる速度の範囲を示しています。

- クルーズコントロール（▷154 ページ）が作動しているとき

設定速度から最高速度までのセグメントが点灯します。

- 可変スピードリミッター（▷157 ページ）が作動しているときは、

最初の目盛りから設定速度までのセグメントが点灯します。

- ディストロニック・プラス（▷161 ページ）が作動しているときは、

設定速度の 1 個または 2 個のセグメントが点灯します。

- ディストロニック・プラスが先行車を検知したときは、

先行車の速度と設定速度の間のセグメントが点灯します。

※ ディストロニック・プラスは、日本仕様車には装備されません。

マルチファンクションディスプレイ

重要な安全上の注意

 警告

道路および交通状況が許されているときにのみ、マルチファンクションディスプレイを使用してください。注意が散漫になり、運転に適切に集中することができず、事故の原因になります。

 警告

メーターパネルまたはマルチファンクションディスプレイが故障しているときは、メッセージが表示されません。

その結果、速度や外気温度、警告灯や表示灯、ディスプレイメッセージまたはシステム故障などの走行状況の情報を見るができなくなります。車両操縦性が損なわれるおそれがあります。状況に応じて、運転スタイルと車両の速度を調整してください。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

 警告

マルチファンクションディスプレイは、特定のシステムからのメッセージや警告のみを記録し、表示します。この理由により、運転者は車両が安全に運転できる状態であることを常に確認しなければなりません。安全でない車両を運転することにより、事故の原因になります。

 警告

メンテナンス作業が適切に行なわれなかったときは、車両の操作に関する安全性が損なわれているおそれがあります。車両のコントロールを失い、事故の原因になるおそれがあります。安全装備が本来の目的通りにお客様または他の方を保護できなくなるおそれがあります。

点検整備や修理などは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

メーターパネルのイラストについては、"各部の名称"の章をご覧ください(▷25 ページ)。

マルチファンクションディスプレイの操作

概要

イグニッション位置を **1** にすると、マルチファンクションディスプレイは作動します。

マルチファンクションステアリングのスイッチを使用して、マルチファンクションディスプレイの操作と設定を行なうことができます。



- ① マルチファンクションディスプレイ
- ② 音声認識スイッチ（別冊の取扱説明書をご覧ください）
- ③ 右側キーパッド
- ④ 左側キーパッド
- ⑤ リターンスイッチ

左側キーパッド

◀▶	• メインメニューおよびメニューリストの呼び出し
▲▼	軽く押す： • リストのスクロール • サブメニューまたは機能の選択 • オーディオメニュー：プリセットされた放送局の選局、音楽トラックまたはビデオシーンの選択 • TEL（電話）メニュー：電話帳の表示および電話帳の名前または電話番号の選択

▲▼	押して保持する： • オーディオメニュー：高速スクロールによる、前 / 次の放送局または音楽トラック、ビデオシーンの選択 • TEL（電話）メニュー：電話帳を開いている場合、高速スクロールの開始
OK	• 選択項目 / ディスプレイメッセージの確定 • TEL（電話）メニュー：電話帳への切り替えと発信の開始 • オーディオメニュー：希望の放送局で放送局サーチ機能を停止

右側キーパッド

📞	• 通話を拒否する、または終了 • 電話帳 / 発信履歴の終了
📞	• 電話を発信する、または着信を受ける • リダイアルメモリーに切り替える
+ -	• 音量の調節
🔇	• 消音

リターンスイッチ

	機能
	軽く押す： ・戻る ・音声認識の終了：別冊の取扱説明書をご覧ください。 ・ディスプレイメッセージの消去 / 最後に使用したトリップメニュー機能の呼び出し ・電話帳 / 発信履歴の終了
	押して保持する： ・トリップメニューの基本画面の呼び出し

メニューリスト

数値や設定、ディスプレイメッセージは、マルチファンクションディスプレイに表示されます。



- ① 表示エリア
- ② メニューリスト
- ③ 走行モード
- ④ トランスミッション表示
- ⑤ 時刻
- ⑥ 外気温度または速度 (▷147 ページ)

メニューリスト ② を表示させる

▶ ステアリングの  または  スイッチを押します。

メニューリスト②は数秒後に消えます。

表示エリア ① には選択したメニューやサブメニュー、ディスプレイメッセージが表示されます。

i COMAND システムを使用して時刻を設定することができます。別冊の取扱説明書をご覧ください。

マルチファンクションディスプレイには以下のメッセージが表示されることがあります。

 リアワイパー (▷107 ページ)

 アダプティブハイビームアシスト (▷103 ページ)

 アテンションアシスト (▷190 ページ)

ECO ECO スタートストップ機能 (▷115 ページ)

 アクティブレーンキーピングアシスト (▷196 ページ)

HOLD ホールド機能 (▷171 ページ)

 PRE-SAFE® ブレーキ (▷63 ページ)

※ アクティブレーンキーピングアシスト、PRE-SAFE® ブレーキは、日本仕様車には装備されません。

メニューの概要

以下のメニューを呼び出すことができます。

- **トリップ**メニュー (▷137 ページ)
- **ナビ**メニュー (▷139 ページ)
- **オーディオ**メニュー (▷140 ページ)
- **TEL**メニュー (▷142 ページ)
- **アシスト**メニュー (▷143 ページ)
- **メンテナンス**メニュー (▷146 ページ)
- **設定**メニュー (▷146 ページ)

トリップメニュー

基本画面



- ▶ マルチファンクションディスプレイにトリップメーター①とオドメーター②を含む**トリップ**メニューが表示されるまで、ステアリングの  スイッチを押して保持します。

概算の走行可能距離と燃料消費の表示



- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**トリップ**メニューを選択します。

- ▶  または  スイッチを押して、概算の走行可能距離と現在の燃費を選択します。

概算の走行可能距離は、燃料の残量やそのときの運転スタイルによって変わります。燃料タンク内に残っている燃料の量が少ないときは、給油中マーク  が、走行可能距離の代わりにディスプレイに表示されます。

ECO 表示



- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**トリップ**メニューを選択します。

- ▶  または  スイッチを押して、**ECO 表示**を選択します。

イグニッションがオフになってから約4時間以上経過したときは、ECO表示は自動的にリセットされます。

ECO 表示について、詳しくは (▷117 ページ) をご覧ください。

トリップコンピューター "スタート後" または "リセット後"



"スタート後" トリップコンピューターの例

- ① 距離
- ② 時間
- ③ 平均速度
- ④ 平均燃費

▶ ステアリングの または スイッチを押して、**トリップ** メニューを選択します。

▶ または スイッチを押して、**スタート後** または **リセット後** を選択します。

スタート後 サブメニューの数値は、走行開始から算出されるものであり、**リセット後** サブメニューの数値は、サブメニューが最後にリセットされたときから算出されるものです (▶138 ページ)。

スタート後 のトリップコンピューターは、以下のときに自動的にリセットされます。

- イグニッションがオフになってから約 4 時間以上経過したとき
- 999 時間を超えたとき
- 9,999km を超えたとき

リセット後 のトリップコンピューターは、値が 9,999 時間または 99,999 km を超えると、自動的にリセットされます。

デジタルスピードメーター



① デジタルスピードメーター

▶ ステアリングの または スイッチを押して、**トリップ** メニューを選択します。

▶ または スイッチを押して、デジタルスピードメーターを選択します。

数値のリセット



"スタート後" トリップコンピューターのリセットの例

▶ ステアリングの または スイッチを押して、**トリップ** メニューを選択します。

▶ または スイッチを押して、リセットしたい機能を選択します。

▶ スイッチを押します。

▶ スイッチを押して、**はい** を選択し、 スイッチを押します。

以下の機能の数値をリセットできます。

- トリップメーター
- トリップコンピューター "スタート後"
- トリップコンピューター "リセット後"
- ECO 表示

ナビメニュー

ナビゲーション案内の表示

ナビメニューでは、マルチファンクションディスプレイにナビゲーション案内が表示されます。詳しい情報については別冊の取扱説明書をご覧ください。

- ▶ COMAND システムをオンにします（別冊の取扱説明書をご覧ください）。
- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、ナビメニューを選択します。

ルート案内を行っていないとき



① 進行方向

ルート案内を行なっているとき

進路変更の案内がないとき



- ① 目的地までの距離
- ② 次の進路変更までの距離
- ③ "案内ルートを進む" のマーク

車線変更を伴わない進路変更の案内があるとき



- ① 進路変更地点
- ② 進路変更までの距離と距離ディスプレイ表示
- ③ 進路変更マーク

進路変更の案内があるときは、距離ディスプレイ表示 ② が進路変更マーク ③ の横に表示されます。案内のあった進路変更地点に近づくにつれて、この表示は下から上へ短くなります。

車線変更を伴う進路変更の案内があるとき



- ① 進路変更までの距離
- ② 推奨車線
- ③ 進路変更マーク

複数の車線がある道路では、次の進路変更のための推奨車線 ② が表示されます。進路変更の間、追加の車線が表示されることがあります。

推奨車線は、デジタル地図に関連するデータがあるときにのみ表示されます。

ナビゲーションシステムの他の状況表示

- ・ ：目的地または立ち寄り地点に到着しました。
- ・ **新ルート**または**ルート計算中**：新しいルートを探索中です。
- ・ **案内ルート外**：車両の位置が地図の範囲外（地図外の位置）にあります。
- ・ **ルートなし**：選択されている目的地へのルートを計算できませんでした。

オーディオメニュー

ラジオ放送局を選局する

i 周波数バンドの切り替えと放送局のプリセットの情報は、別冊の取扱説明書をご覧ください。

- ▶ COMAND システムをオンにします（別冊の取扱説明書をご覧ください）。
- ▶ ステアリングの または スイッチを押して、**オーディオメニュー**を選択します。



- ① 周波数バンド
- ② プリセットされたチャンネル周波数

プリセットされている放送局を選局する

- ▶ または スイッチを軽く押します。

放送局リストから放送局を選局する

- ▶ または スイッチを軽く押して保持します。

放送局リストが受信されない場合は、以下の操作を行ないます。

放送局サーチを使って放送局を選局する

- ▶ または スイッチを軽く押して保持します。

オーディオ機器またはメディアの操作

車両に装着された装備に応じて、多彩なオーディオ機器やメディアから音楽データを再生できます。

- ▶ COMAND システム をオンにします（別冊の取扱説明書をご覧ください）。
- ▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、**オーディオ**メニューを選択します。



音楽 CD モードの表示例

① 現在のトラック

次 / 前のトラックを選択する

- ▶ ▼ または ▲ スイッチを軽く押します。

トラックリストからトラックを選択する（高速スクロール）

- ▶ 希望のトラックが表示されるまで、▼ または ▲ スイッチを押して保持します。

▼ または ▲ スイッチを長押しすると、スクロール速度が速くなります。すべてのオーディオ機器またはメディアがこの機能をサポートしているわけではありません。

オーディオ機器またはメディアにトラック情報が保存されているときは、マルチファンクションディスプレイにトラック名と番号が表示されます。オーディオ AUX モード（外部オーディオモード）では、現在のトラックは表示されません。

テレビの操作



① 現在のチャンネル

- ① プリセット番号は、放送局がプリセットされている場合には、必ず放送局 ① と一緒に表示されます。

- ▶ COMAND システムをオンにして、DVD ビデオを選択します（別冊の取扱説明書をご覧ください）。

- ▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、**オーディオ**メニューを選択します。

プリセットされている放送局を選局する

- ▶ ▼ または ▲ スイッチを軽く押します。

放送局リストから放送局を選局する

- ▶ ▼ または ▲ スイッチを軽く押して保持します。

- ① 放送局のプリセットの情報は、別冊の取扱説明書をご覧ください。

DVD ビデオの操作

- ▶ COMAND システムをオンにして、DVD ビデオを選択します（別冊の取扱説明書をご覧ください）。
- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**オーディオ**メニューを選択します。



DVD ビデオモードの表示の例

① 現在のチャプター

次 / 前のチャプターを選択する

- ▶  または  スイッチを軽く押します。

チャプターリストからチャプターを選択する（高速スクロール）

- ▶ 希望のチャプター ① が表示されるまで、 または  スイッチを押して保持します。

TEL メニュー

はじめに

警告

運転者は走行中に携帯電話を操作しないでください。交通状況への注意が散漫になり、事故の原因になったり、お客様または他の方がけがをするおそれがあります。

- ▶ 携帯電話と COMAND システムの電源をオンにします（別冊の取扱説明書をご覧ください）。
- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**TEL** メニューを選択します。

マルチファンクションディスプレイに、以下のメッセージのいずれかが表示されます。

- **電話 待ち受け**またはネットワークのキャリア名：携帯電話がネットワークの探索を完了し、受信可能な状態です。
- **発信できません**：ネットワークに接続できない状態にあるか、携帯電話がネットワークを探索中の状態です。

着信を受ける

TEL メニューのときに電話が着信すると、マルチファンクションディスプレイにディスプレイメッセージが表示されます。



- ▶ ステアリングの  スイッチを押して、着信した電話を受けます。

TEL メニューでないとくも、着信した電話を受けることができます。

通話の拒否、または終了

- ▶ ステアリングの  スイッチを押します。

TEL メニューでないときも、通話を終了または拒否できます。

電話帳からの発信

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、TEL メニューを選択します。
- ▶   または  スイッチを押して、電話帳を呼び出します。
- ▶  または  スイッチを押して、希望の名称を選択します。

または

高速スクロールを開始する

- ▶  または  スイッチを約 1 秒以上押し続けます。

スイッチを放すか、リストの最後まで行くと、スクロールは停止します。

名称に 1 件だけ電話番号が保存されているとき

- ▶  または  スイッチを押して、発信を開始します。

または

その名称に 1 つ以上の番号があるとき

- ▶  または  スイッチを押して、電話番号を表示させます。
- ▶  または  スイッチを押して、発信先の番号を選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、発信を開始します。

または

電話の発信を止める

- ▶  または  スイッチを押します。

リダイヤル

マルチファンクションディスプレイでは、最後に発信した名称と番号がリダイヤルメモリーに保存されています。

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、TEL メニューを選択します。
- ▶  スイッチを押して、リダイヤルメモリーに切り替えます。
- ▶  または  スイッチを押して、希望の名称と番号を選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、発信を開始します。

または

電話の発信を止める

- ▶  または  スイッチを押します。

アシストメニュー

はじめに



※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

アシストメニューでは、以下の選択を行なうことができます。

- 車間ディスプレイの表示 (▷144 ページ)
- PRE-SAFE® ブレーキの設定 / 解除 (▷144 ページ)
- アテンションアシストの設定 / 解除 (▷145 ページ)
- アクティブブラインドスポットアシストの設定 / 解除 (▷145 ページ)
- アクティブレーンキーピングアシストの設定 / 解除 (▷145 ページ)

※ 車間ディスプレイ、PRE-SAFE® ブレーキ、アクティブブラインドスポットアシスト、アクティブレーンキーピングアシストは、日本仕様車には装備されません。

車間ディスプレイの表示

この機能は、ディストロニック・プラス装備車のみ表示できます。

※ ディストロニック・プラスは、日本仕様車には装備されません。

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、アシストメニューを選択します。
- ▶  または  を押して、**車間ディスプレイ**を選択します。
- ▶  スイッチを押します。

マルチファンクションディスプレイにディストロニック・プラスの車間ディスプレイ (▷168 ページ) が表示されます。

センサー 停止しましたと表示されたときは、レーダーセンサーシステムが解除されています。

- ▶ そのときの状況またはレーダーセンサーシステムが解除されていないか確認してください (▷343 ページ)。
- ▶ レーダーセンサーシステムをオンにしてください (▷151 ページ)。

PRE-SAFE® ブレーキの解除 / 作動

PRE-SAFE® ブレーキは、ディストロニック・プラス装備車のみ表示できます。

※ ディストロニック・プラスは、日本仕様車には装備されません。

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、アシストメニューを選択します。
 - ▶  または  スイッチを押して、**プレーフブレーキ**を選択します。
 - ▶  スイッチを押します。
- 現在の選択内容が表示されます。

設定 / 解除する

- ▶ 再度  スイッチを押します。

PRE-SAFE® ブレーキを設定した状態で、ホールド機能を作動していないときは、マルチファンクションディスプレイに  マークが表示されます (▷63 ページ)。

パーキングガイド機能装備車

パークトロニックが待機状態にあり、走行速度が約 35km/h 以下のときは、 マークの代わりにパーキングガイドマーク  が表示されます。

ブレーフブレーキ：センサー 停止しましたと表示されたときは、レーダーセンサーシステムが解除されています。

- ▶ そのときの状況やレーダーセンサーシステムが解除されていないか確認してください（▷343 ページ）。
- ▶ レーダーセンサーシステムをオンにしてください（▷151 ページ）。

PRE-SAFE® ブレーキについての詳しい情報は（▷63 ページ）をご覧ください。

アテンションアシストの設定 / 解除

- ▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、**アシスト**メニューを選択します。
- ▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、**アテンションアシスト**を選択します。
- ▶ **OK** スイッチを押します。

現在の選択内容が表示されます。

設定 / 解除する

- ▶ 再度 **OK** スイッチを押します。

アテンションアシスト（▷190 ページ）を設定しているときは、イグニッション位置が **2** のときに、マルチファンクションディスプレイに  マークが表示されます。

アテンションアシストについての詳しい情報は（▷190 ページ）をご覧ください。

アクティブブラインドスポットアシストの設定 / 解除

※ アクティブブラインドスポットアシストは、日本仕様車には装備されません。

- ▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、**アシスト**メニューを選択します。
- ▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、**ブラインドスポット**を選択します。
- ▶ **OK** スイッチを押します。

現在の選択内容が表示されます。

設定 / 解除する

- ▶ 再度 **OK** スイッチを押します。

アクティブ B スポットアシスト センサー 停止しましたと表示されたときは、レーダーセンサーシステムが解除されています。

- ▶ そのときの状況やレーダーセンサーシステムが解除されていないか確認してください（▷343 ページ）。
- ▶ レーダーセンサーシステムをオンにしてください（▷151 ページ）。

アクティブブラインドスポットアシストについての詳しい情報は（▷191 ページ）をご覧ください。

アクティブレーンキーピングアシストの設定 / 解除

※ アクティブレーンキーピングアシストは、日本仕様車には装備されません。

- ▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、**アシスト**メニューを選択します。
- ▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、**レーンキーピングアシスト**を選択します。

- ▶ **OK** スイッチを押します。
現在の選択内容が表示されます。
- ▶ **OK** スイッチを押して、確定します。
- ▶ **▼** または **▲** スイッチを押して、**オフ**、**標準**、または**アダプティブ**に設定します。
- ▶ **OK** スイッチを押して、設定を保存します。

アクティブレーンキーピングアシスト (▶196 ページ) を設定していて、イグニッション位置が **2** のときは、マルチファンクションディスプレイに  マークが表示されます。

アクティブレーンキーピングアシストについての詳しい情報は (▶196 ページ) をご覧ください。

メンテナンスメニュー



メンテナンスメニューには、以下の項目があります。

- ディスプレイメッセージの呼び出し (▶272 ページ)
- タイヤ空気圧警告システムの再起動 (▶248 ページ)
- メンテナンスインジケータの呼び出し (▶258 ページ)

設定メニュー

はじめに



設定メニューには、以下の項目があります。

- メーターパネルの設定の変更
- ライトの設定の変更 (▶147 ページ)
- 車両の設定の変更 (▶150 ページ)
- コンフォートの設定の変更 (▶152 ページ)
- 設定項目の初期化 (▶153 ページ)

メーター

距離単位の設定

距離単位表示の機能により、マルチファンクションディスプレイの特定の表示のキロメートルまたはマイル表示を選択できます。

- ▶ ステアリングの **◀** または **▶** スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。
- ▶ **▼** または **▲** スイッチを押して、**メーター**サブメニューを選択します。
- ▶ **OK** スイッチを押して、確定します。

- ▶ または スイッチを押して、**表示単位 速度 / 距離**：機能を選択します。

選択された設定が表示されます。：
km または **miles**

- ▶ スイッチを押して、設定を保存します。

選択された距離の表示単位は、以下の項目に適用されます。

- **トリップ** メニューのデジタルスピードメーター
- オドメーターおよびトリップメーター
- トリップコンピューター
- 概算の走行可能距離と燃料消費
- クルーズコントロール
- 可変スピードリミッター
- ディストロニック・プラス
- メンテナンスインジケーターの表示

※ ディストロニック・プラスは、日本仕様車には装備されません。

常時表示機能の選択

マルチファンクションディスプレイに速度あるいは外気温度を常時表示させるかどうかを選択できます。

- ▶ ステアリングの または スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。
- ▶ または スイッチを押して、**メーター**サブメニューを選択します。
- ▶ スイッチを押して、確定します。

- ▶ または スイッチを押して、**サブメーター**：機能を選択します。

選択されている設定が表示されます。**外気温度表示**または**速度 [mph]**：

- ▶ スイッチを押して、設定を保存します。

速度は mph で表示されます。

ライト

メーターパネル / スイッチ照明照度の設定

- ▶ ステアリングの または スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。
- ▶ または スイッチを押して、**ライト**サブメニューを選択します。
- ▶ スイッチを押して、確定します。
- ▶ または スイッチを押して、**明るさ ディスプレイ / スイッチ**：機能を選択します。

現在の選択内容が表示されます。

- ▶ スイッチを押して、確定します。
- ▶ または スイッチを押して、照度を**レベル 1**から**レベル 5**の間で調整します。
- ▶ スイッチまたは スイッチを押して、設定を保存します。

ヘッドライト点灯モードの設定

- ▶ ステアリングの または スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

▶  または  スイッチを押して、**ライト**サブメニューを選択します。

▶  スイッチを押して、確定します。

▶  または  スイッチを押して、**デイトタイムライト**機能を選択します。

常時点灯モードに設定されているときは、車両イラストのライトと  マークが赤色に表示されます。

▶  スイッチを押して、設定を保存します。

ヘッドライト点灯モードの詳しい情報は (▷97 ページ) をご覧ください。

インテリジェントライトシステムの設定

▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。

▶  または  スイッチを押して、**ライト**サブメニューを選択します。

▶  スイッチを押して、確定します。

▶  または  スイッチを押して、**インテリジェントライトシステム** 機能を選択します。

インテリジェントライトシステムが設定されているときは、車両イラストのライトと  マークが赤色に表示されます。

▶  スイッチを押して、設定を保存します。

インテリジェントライトシステム を設定したときは、以下の機能が作動します。

- ハイウェイモード
- アクティブヘッドライト
- コーナリングライト
- フォグランプ強化機能

ヘッドライト照射範囲の設定で、**右側通行用**を設定しているときは (▷149 ページ)、インテリジェントライトシステム設定画面の代わりに**インテリジェントライトシステム作動できません 右側通行設定では無効**というディスプレイメッセージが表示されます。

インテリジェントライトシステムの詳しい情報は (▷101 ページ) をご覧ください。

アダプティブハイビームアシストのオン/オフ

▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。

▶  または  スイッチを押して、**ライト**サブメニューを選択します。

▶  スイッチを押して、確定します。

▶  または  スイッチを押して、**アダプティブハイビーム** 機能を選択します。

アダプティブハイビームアシストが設定されているときは、車両イラストのライトと  マークが赤色に表示されます。

▶  スイッチを押して、設定を保存します。

アダプティブハイビームアシストの詳細情報は(▷103 ページ)をご覧ください。

ヘッドライト照射範囲の設定

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**ライト**サブメニューを選択します。
- ▶ **OK** スイッチを押して、確定します。
- ▶  または  スイッチを押して、**ヘッドランプロービーム 設定**機能を選択します。

選択されている設定が表示されます。**左側通行用**または**右側通行用**

- ▶ **OK** スイッチを押して、設定を保存します。

設定を変更すると、次に停車したときに変更が実行されます。

この機能は、インテリジェントライトシステム装備車のみで使用できます。

この機能を使用して、ロービームヘッドライトを左右対称または左右非対称に切り替えることができます。

ロービームヘッドライトを**右側通行用**に設定しているときは、ハイウェイモードおよびフォグランプ強化機能が解除されます。

ロービームヘッドライトを右側通行 / 左側通行に適した設定に切り替えるときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で作業を行なってください。

ロケイターライティングの設定

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**ライト**サブメニューを選択します。
- ▶ **OK** スイッチを押して、確定します。
- ▶  または  スイッチを押して、**ロケイターライティング** 機能を選択します。

解錠時点灯機能と車外ライト残照機能が設定されているときは、車両イラストの車外ライトが赤色に表示されます。

- ▶ **OK** を押して、設定を変更します。

車外ライト残照機能を一時的に解除するには、以下のようにします。

- ▶ 車両から離れる前に、イグニッション位置を **0** にします。
- ▶ イグニッション位置を **2** にします。

車外ライト残照機能が解除されます。

次にエンジンを始動すると、車外ライト残照機能が再び設定されます。

ロケイターライティング 機能を設定していて、ライトスイッチが **AUTO** の位置にあるときは、周囲が暗いときに以下の機能が作動します。

- **解錠時点灯機能**：キーで車を解除すると、車外ライトが約 40 秒間点灯し続けます。エンジンを始動するとロケイターライティングの機能が解除され、ヘッドライトオートモードが作動します (▷98 ページ)。

- ・ **車外ライト残照機能**：エンジンを停止した後、約 60 秒間点灯し続けます。すべてのドアとテールゲートを閉じると、約 15 秒後に車外ライトが消灯します。

i ロケイターライティングおよび車外ライト残照機能を設定すると、車両の装備に応じて以下のライトが点灯します。

- ・ 車幅灯
- ・ テールライト
- ・ LED ドライビングライト
- ・ ライセンスライト

ルームライト残照機能の設定 / 解除

ルームランプ^o 消灯遅延 機能を設定したときは、エンジンスイッチからキーを抜いた後、ルームライトが約 20 秒間点灯したままになります。

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**ライト**サブメニューを選択します。
- ▶ **OK** スイッチを押して、確定します。
- ▶  または  スイッチを押して、**ルームランプ^o 消灯遅延** 機能を選択します。

ルームライト残照機能が設定されているときは、車両イラストのウィンドウ部分が赤色に表示されます。

- ▶ **OK** スイッチを押して、設定を保存します。

車両

ウィンタータイヤスピードリミッターの設定

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**車両**サブメニューを選択します。
- ▶ **OK** スイッチを押して、確定します。
- ▶  または  スイッチを押して、**速度制限(冬タイヤ)**を選択します。
- ▶ **OK** スイッチを押して、確定します。
- ▶  または  スイッチを押して、10km/h 単位 (**160km/h ~ 240 km/h**) でウィンタータイヤスピードリミッターを調整します。**オフ**設定で、ウィンタータイヤスピードリミッターは解除されます。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

- ▶ **OK** スイッチを押して、入力を確定します。

ウィンタータイヤスピードリミッターの詳しい情報は (▷158 ページ) をご覧ください。

車速感応ドアロックのオン / オフ

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**車両**サブメニューを選択します。

▶ **OK** スイッチを押して、確定します。

▶ **▼** または **▲** スイッチを押して、**車速感应ドアロック**機能を選択します。

車速感应ドアロックが設定されているときは、車両イラストのドア部分が赤色に表示されます。

▶ **OK** スイッチを押して、設定を保存します。

車速感应ドアロックが設定されているときは、走行速度が約 15km/h 以上になると自動的にすべてが施錠されます。

車速感应ドアロックの詳しい情報は (▷75 ページ) をご覧ください。

アンサーバック機能の設定 / 解除

キ アンサーバック 機能を設定しているときは、車を施錠すると確認音が鳴ります。

▶ ステアリングの **◀** または **▶** スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。

▶ **▼** または **▲** スイッチを押して、**車両**サブメニューを選択します。

▶ **OK** スイッチを押して、確定します。

▶ **▼** または **▲** スイッチを押して、**キ アンサーバック** 機能を選択します。

アンサーバック機能が設定されているときは、イラストの **🔒** マークが赤色に表示されます。

▶ **OK** スイッチを押して、設定を保存します。

レーダーセンサーシステムの設定 / 解除

※ レーダーセンサーシステムは、日本仕様車には装備されません。

▶ ステアリングの **◀** または **▶** スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。

▶ **▼** または **▲** スイッチを押して、**車両**サブメニューを選択します。

▶ **OK** スイッチを押して、確定します。

▶ **▼** または **▲** スイッチを押して、**レーダーセンサー** (取扱説明書を参照) : 機能を選択します。

選択されている設定が表示されます。**オン**または**オフ**

▶ **OK** スイッチを押して、設定を保存します。

i 電子望遠鏡施設の周辺に入ったときは、手動でレーダーセンサーシステムを停止することができます。レーダーセンサーシステムの詳しい情報は (▷343 ページ) をご覧ください。

電子望遠鏡施設の周辺では、レーダーセンサーシステムは自動的に停止します。

レーダーセンサーシステムを停止すると、以下の機能も解除されます。

- ディストロニック・プラス (▷161 ページ)
- BAS プラス (▷59 ページ)
- PRE-SAFE® ブレーキ (▷63 ページ)
- アクティブブラインドスポットアシスト (▷191 ページ)

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

コンフォート

イージーエントリー機能のオン / オフ

警告

イージーエントリーが作動すると、ステアリングが上方に動きます。乗員が挟まれるおそれがあります。イージーエントリー機能を作動させる前に、挟まれるおそれのある人がいないことを確認してください。

子供の身体をチャイルドセーフティシートに固定している場合でも、子供だけを残して車から離れないでください。子供が運転席ドアを開いてイージーエントリー機能が作動することにより、身体が挟まれるおそれがあります。

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。
 - ▶  または  スイッチを押して、**コンフォート**サブメニューを選択します。
 - ▶ **OK** スイッチを押して、確定します。
 - ▶  または  スイッチを押して、**イージーエントリー**機能を選択します。
- イージーエントリーが設定されているときは、車両イラストのステアリング部分がオレンジ色に表示されます。
- ▶ **OK** スイッチを押して、設定を保存します。

イージーエントリー機能の詳しい情報は（▷87 ページ）をご覧ください。

シートベルト調整機能のオン / オフ

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。
 - ▶  または  スイッチを押して、**コンフォート**サブメニューを選択します。
 - ▶ **OK** スイッチを押して、確定します。
 - ▶  または  スイッチを押して、**ベルト調整**機能を選択します。
- シートベルト調整機能が設定されているときは、車両イラストのシートベルト部分が赤色に表示されます。
- ▶ **OK** スイッチを押して、設定を保存します。

シートベルト調整機能の詳しい情報は（▷95 ページ）をご覧ください。

施錠時のドアミラー格納のオン / オフ

この機能は、メモリー機能装備車にのみ表示されます。

ロック時のミラー格納 機能を設定しているときは、車を施錠するとドアミラーが自動的に格納されます。車を解錠してドアを開くと、格納されたドアミラーが再び展開します。

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**コンフォート**サブメニューを選択します。

- ▶ **[OK]** スイッチを押して、確定します。
- ▶ **[▼]** または **[▲]** スイッチを押して、**ロック時のミラー格納** 機能を選択します。
施錠時のドアミラー格納機能が設定されているときは、車両イラストのドアミラー部分が赤色に表示されます。
- ▶ **[OK]** スイッチを押して、設定を保存します。

ロック時のミラー格納 機能をオンにしているときに、ドアのスイッチを使用してドアミラーを格納すると、ドアミラーは自動的に展開しません（▶90 ページ）。ドアミラーはスイッチを使用してのみ展開することができます。

設定項目の初期化

- ▶ ステアリングの **[◀]** または **[▶]** スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。
- ▶ **[▼]** または **[▲]** スイッチを押して、**設定初期化** サブメニューを選択します。
- ▶ **[OK]** スイッチを押して、確定します。
全ての設定を 初期化しますか？ のメッセージが表示されます。
- ▶ **[▼]** または **[▲]** スイッチを押して、**はい** または **いいえ** を選択します。
- ▶ **[OK]** スイッチを押して、選択を確定します。
はい を選択したときは、マルチファンクションディスプレイに確認メッセージが表示されます。

安全上の理由により、すべての機能が初期化されるとは限りません。ウィンタータイヤスピードリミッターの**速度制限（冬タイヤ）**：機能は、**車両サブメニュー**でのみ設定できます。**ライト** サブメニューの**デイトタイムライト**を初期化したいときは、エンジンを停止しなければなりません。

オフロード走行装備

4MATIC

警告

4MATIC では、速すぎる速度での走行に対して、事故の危険性を軽減することはできません。

駆動力が不足して駆動輪が空転したときは、以下の操作を行ってください。

- 発進するときは、アクセルペダルを必要な分だけ踏んでください。
- 走行しているときは、加速を緩めてください。
- 道路と交通状況に運転スタイルを合わせてください。

! フロントまたはリアをつり上げてけん引しないでください。ブレーキシステムや駆動装置を損傷するおそれがあります。上記による故障については、保証の対象外になります。すべての車輪を接地させるか、または持ち上げてください。すべての車輪が接地した状態でけん引するときは、けん引時の指示に従ってください。

4MATIC は、常に 4 輪すべてが駆動します。ESP® や ETS とともに、滑りやすい路面で駆動輪が空転するような場合には常に駆動力を制御します。

i 積雪路などでは、ウィンタータイヤ (M+S タイヤ) や必要に応じてスノーチェーンを装着することにより、4MATIC の効果が最大限に発揮されます。

! ダイナモメーターを使用してパーキングブレーキをテストするときは、イグニッション位置を **0** か **1** にして、約 10 秒間以内でテストを行なってください。駆動系部品やブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

! ダイナモメーター上で走行テストを行なうときは、2 軸ダイナモメーターのみを使用してください。ダイナモメーターでの車両の操作を行なう前に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。さもないと、駆動系部品やブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

走行装備

クルーズコントロール

重要な安全上の注意

クルーズコントロールは一定の走行速度を維持します。設定速度を超えないようにするために自動的にブレーキを効かせます。長い急な下り坂で、特に車両に荷物を積載しているときは、適時シフトレンジを **1**、**2**、または **3** に選択する必要があります。そうすることにより、エンジンブレーキの効果を利用できます。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキが過熱して早く摩耗することを防ぎます。

警告

滑りやすい路面では、シフトダウン操作による急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がグリップを失い、車両が横滑りするおそれがあります。

道路や交通状況が長時間の一定速度の維持に適している場合にのみ、クルーズコントロールを使用してください。約 30km/h 以上の走行速度を記憶できます。

⚠ 警告

クルーズコントロールは道路や交通事情を考慮することはできません。

クルーズコントロールが作動していても常に交通状況に注意してください。

クルーズコントロールは運転中に運転者を補助するためだけに設計されたものです。運転者は、車両の速度に注意して、適時減速する責任があります。

⚠ 警告

以下のような場合はクルーズコントロールを使用しないでください。

- 一定の速度を維持できないような道路や交通状況のとき（例えば、混雑した交通状況やカーブしている道路）。さもないと、事故を起こすおそれがあります。
- 滑りやすい路面。ブレーキや加速により駆動輪が駆動力を失い、車両が横すべりするおそれがあります。
- 霧や激しい雨、雪のときなど、十分な視界が得られないとき。

クルーズコントロールレバー

クルーズコントロールレバーでクルーズコントロールと可変スピードリミッターを操作できます。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯は、選択したシステムを示しています。

- **LIM 表示灯が消灯**：クルーズコントロールが選択されています。
- **LIM 表示灯が点灯**：可変スピードリミッターが選択されています。



- ① 現在の走行速度に設定する、または設定速度を上げる
- ② LIM 表示灯
- ③ 現在の走行速度に設定する / 記憶されている前回の設定速度に設定する
- ④ 現在の走行速度に設定する、または設定速度を下げる
- ⑤ クルーズコントロールと可変スピードリミッターを切り替える
- ⑥ クルーズコントロールを解除する

クルーズコントロールを作動させると、記憶された速度がマルチファンクションディスプレイに約 5 秒間表示されます。その後、メーターパネルには、記憶された速度と最高速度の間のセグメントが点灯します。

クルーズコントロールを選択する

- ▶ LIM 表示灯 ② が消灯しているかどうかを確認します。

消灯しているときは、すでにクルーズコントロールが選択されています。

そうでないときは、クルーズコントロールレバーを矢印 ⑤ の方向に押します。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が消灯します。クルーズコントロールが選択されます。

現在の速度を記憶および維持する

約 30km/h 以上の速度を走行しているときは、現在の速度を記憶できます。

- ▶ 希望の速度に加速します。
- ▶ クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ④ に軽く押します。

- ▶ アクセルペダルから足を放します。
クルーズコントロールが作動します。車両は自動的に記憶された速度を維持します。

i クルーズコントロールは、急な上り坂では記憶された速度を維持できないことがあります。勾配が平坦になると記憶された速度に復帰します。クルーズコントロールは急な下り坂では自動的にブレーキを効かせることにより記憶された速度を維持します。

現在の速度を記憶する、また最後に記憶した速度を呼び出す

⚠ 警告

記憶されている速度を認識していて、また現在の交通や走行状況に合っているときにのみ、記憶させた速度を呼び出してください。さもないと、意図せずに突然の加速やブレーキ作動が起こり、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。

- ▶ クルーズコントロールレバーを運転者の方向 ③ に軽く引きます。
- ▶ アクセルペダルから足を放します。

最初にクルーズコントロールを作動させたときは現在の速度が記憶され、または以前に記憶した速度に走行速度を制御します。

速度の設定

- ▶ クルーズコントロールレバーを、高い速度へは上 ① に、低い速度へは下 ④ に押します。
- ▶ 希望した速度に達するまでクルーズコントロールレバーを保持します。
- ▶ クルーズコントロールレバーから手を放します。
新しい速度が記憶されます。

1km/h 単位での調整

- ▶ クルーズコントロールレバーを、高い速度へは上 ① に、低い速度へは下 ④ に、抵抗がある位置まで軽く押します。

最後に記憶された速度が 1km/h 単位で上がる、または下がります。

10km/h 単位での調整

- ▶ クルーズコントロールレバーを、高い速度へは上 ① に、低い速度へは下 ④ に、抵抗がある位置を越えて軽く押します。

最後に記憶された速度が 10km/h 単位で上がる、または下がります。

- i** クルーズコントロールは、アクセルペダルを踏んでも解除されません。例えば、追い越しのために一時的に加速したときは、追い越しが完了した後に、クルーズコントロールは、最後に記憶された速度に車両の速度を調整します。

クルーズコントロールの解除

クルーズコントロールを解除するにはいくつかの方法があります。

- ▶ クルーズコントロールレバーを前方 ⑥ に軽く押します。

または

- ▶ ブレーキペダルを踏みます。

または

- ▶ クルーズコントロールレバーを矢印 ⑤ の方向に軽く押します。

可変スピードリミッターが選択されます。クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が点灯します。

クルーズコントロールは、以下のときに自動的に解除されます。

- パーキングブレーキを効かせたとき
- 走行速度が約 30km/h 以下になったとき
- ESP® が作動したときや、ESP® の機能を解除したとき

- 走行中にポジション N にシフトしたとき

クルーズコントロールが解除されると、確認音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに **クルーズコントロール 解除** というメッセージが約 5 秒間表示されます。

- i** エンジンを停止すると、記憶されている速度は消去されます。

可変スピードリミッター

重要な安全上の注意

警告

ブレーキペダルの上に常に軽く足を置くなど、決してブレーキを踏んだ状態で運転しないでください。ブレーキシステムが過熱する原因になります。制動距離が長くなり、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

警告

滑りやすい路面では、シフトダウン操作による急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がグリップを失い、車両が横滑りするおそれがあります。

警告

可変スピードリミッターは運転を補助するために設計されたものです。運転者は、車両の速度に注意して、適時減速する責任があります。

可変スピードリミッターは、設定された速度を超えないように自動的にブレーキを効かせます。長い急な下り坂で、特に車両に荷物を積載しているときは、適時シフトレンジを **1**、**2**、または **3** にする必要があります。そうすることにより、エンジンブレーキの効果を利用できます。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキの過熱と早期の摩耗を防ぎます。制動力がより必要な場合は、継続的にではなく、繰り返しブレーキペダルを踏んでください。

可変スピードリミッターまたはウィンタータイヤスピードリミッターを設定することができます。

• 可変スピードリミッター

市街地などの速度制限のためのものです。

• ウィンタータイヤスピードリミッター

ウィンタータイヤを装着して走行するときなど、速度を長期間制限するためのものです（▶160 ページ）。

- i** スピードメーターに表示された速度は、記憶された制限速度と若干異なる場合があります。

可変スピードリミッター

全体的な注意事項

クルーズコントロールレバーで、クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスと可変スピードリミッターを操作できます。

※ ディストロニック・プラスは、日本仕様車には装備されません。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯は、選択したシステムを示しています。

- **LIM 表示灯が消灯**：クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスが選択されています。
- **LIM 表示灯が点灯**：可変スピードリミッターが選択されています。

エンジンがかかっているときに、クルーズコントロールレバーを使用して、約 30km/h 以上の速度を制限できます。



- ① 現在の走行速度、またはより速い速度を記憶する
- ② LIM 表示灯
- ③ 現在の速度を記憶する、または最後に記憶した速度を呼び出す
- ④ 現在の走行速度、またはより遅い速度を記憶する
- ⑤ クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスと可変スピードリミッターを切り替える
- ⑥ 可変スピードリミッターを解除する

可変スピードリミッターを選択する

- ▶ LIM 表示灯 ② が点灯しているかどうかを確認します。

点灯しているときは、すでに可変スピードリミッターが選択されています。

そうでないときは、クルーズコントロールレバーを矢印 ⑤ の方向に押します。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が点灯します。可変スピードリミッターが選択されます。

警告

運転者を交代する場合は、交代する運転者に記憶されている制限速度を伝えてください。

可変スピードリミッターは、制限速度に設定された速度以上に加速する必要がないときにのみ使用してください。さもないと、事故を起こすおそれがあります。

以下の操作を行ない可変スピードリミッターを解除することによってのみ、記憶されている制限速度を超えて走行できます。

- クルーズコントロールレバーを使用する。
- アクセルペダルを抵抗がある位置を越えて踏み込む（キックダウン）。

ブレーキペダルを踏んで可変スピードリミッターを解除することはできません。

現在の速度を記憶する

エンジンがかかっているときに、クルーズコントロールレバーを使用して、約 30km/h 以上の速度を制限できます。

- ▶ クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ④ に軽く押します。

現在の速度が記憶されます。マルチファンクションディスプレイに**制限速度 100km/h**のように記憶した速度が約 5 秒間表示されます。

スピードメーターの目盛りの始まりから制限速度までのセグメントが点灯します。

現在の速度を記憶する、また最後に記憶した速度を呼び出す

警告

記憶されている速度を認識していて、また現在の交通や走行状況に合っているときにのみ、記憶させた速度を呼び出してください。さもないと、意図せずに突然の加速やブレーキ作動が起こり、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。

- ▶ クルーズコントロールレバーを運転者の方向 ③ に軽く引きます。

1km/h 単位での調整

- ▶ クルーズコントロールレバーを、高い速度へは上 ① に、低い速度へは下 ④ に、抵抗がある位置まで軽く押します。

または

- ▶ 希望する速度に設定されるまで、クルーズコントロールレバーを抵抗がある位置まで押して保持します。高い速度へは上 ① に、低い速度へは下 ④ に押します。

10km/h 単位での調整

- ▶ クルーズコントロールレバーを、高い速度へは上 ① に、低い速度へは下 ④ に、抵抗がある位置を越えて軽く押します。

または

- ▶ 希望する速度に設定されるまで、クルーズコントロールレバーを抵抗がある位置を越えて押して保持します。高い速度へは上 ① に、低い速度へは下 ④ に押します。

可変スピードリミッターを解除する

可変スピードリミッターを解除するためにはいくつかの方法があります。

- ▶ クルーズコントロールレバーを前方 ⑥ に軽く押します。

または

- ▶ クルーズコントロールレバーを矢印を ⑤ の方向に軽く押します。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が消灯します。可変スピードリミッターが解除されます。

クルーズコントロールが選択されます。

アクセルペダルを抵抗がある位置を越えて踏み込んだとき（キックダウン時）も、可変スピードリミッターは解除されます。ただし、記憶された速度より約 20km/h 以上低い速度までは解除されません。このときは警告音が鳴ります。

警告

ブレーキペダルを踏んで可変スピードリミッターを解除することはできません。

-  エンジンを停止すると、記憶されている速度は消去されます。

ウィンタータイヤスピードリミッター

マルチファンクションディスプレイを使用して、約 160 km/h（例えばウィンタータイヤで走行するとき）から最高速度までの間の値に、速度を常時制限できます（▶150 ページ）。

記憶された速度に到達する少し前に、マルチファンクションディスプレイに速度が表示されます。

可変スピードリミッターを解除しても、ウィンタータイヤスピードリミッターは作動したままになります。

アクセルペダルを抵抗がある位置を越えて踏み込んだ（キックダウン）、記憶された制限速度を超えることはできません。

ディストロニック・プラス

※ ディストロニック・プラスは、日本仕様車には装備されません。

警告

電波望遠鏡施設の周辺では、レーダーセンサーシステムは自動的に停止します。

重要な安全上の注意

ディストロニック・プラスは速度を制御し、前方に検知された車両との距離を自動的に維持するための補助を行います。また、設定された速度を超えないように自動的にブレーキを効かせます。

長い急な下り坂で、特に車両に荷物を積載しているときは、適時シフトレンジを **1、2、3** にしてください。それによりエンジンブレーキを使用することにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキの過熱と早期の摩耗を防ぎます。

前方を走行している遅い車両を検知すると、ディストロニック・プラスは自動ブレーキを作動させ、あらかじめ設定した先行車との距離を維持します。

警告

滑りやすい路面では、よりエンジンブレーキを効かせるためのシフトダウンは行なわないでください。駆動輪がグリップを失い、車両がスリップする原因になります。

警告

ディストロニック・プラスは運転の補助のみを行なうために設計されたものです。他の車両との距離、走行速度、タイミングに合ったブレーキ操作に関するすべての責任は運転者にあります。

ディストロニック・プラスは、特に以下のようなものには反応しません。

- 歩行者
- 駐停車している車両など、道路上の静止している障害物
- 対向車や横切る車両

ディストロニック・プラスは、オートバイなど前方を走行している幅の狭い車両や、左または右にずれて走行している車両を検知しないことがあります。そのため、ディストロニック・プラスを作動させているときでも、交通状況には常に注意してください。さもないと、適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

⚠ 警告

ディストロニック・プラスは道路や交通状況を考慮することはできません。ディストロニック・プラスが先行車を認識しない場合には、ディストロニック・プラスを作動させないようにするか、作動しているときは解除してください。特に以下の場合です。

- カーブの前
- 車線が狭くなった場合
- 流れの速い車線に車線変更する場合
- 複雑な運転状況、または高速道路での工事など、車線が迂回している場合

ディストロニック・プラスは現在設定されている速度を維持するか、設定した速度まで加速します。

ディストロニック・プラスは天候などの条件を考慮することはできません。以下のときは、ディストロニック・プラスを作動させないようにするか、解除してください。

- 道路が滑りやすいとき、雪で覆われているとき、または凍結しているとき。ブレーキを効かせたときや加速したときに車輪がグリップを失うことがあります。車両が滑り始めるおそれがあります。
- センサーが汚れていたり、雪、雨、または霧などで視界が悪いとき。距離の制御ができないことがあります。

ディストロニック・プラスが作動していても、交通状況には常に注意してください。さもないと、危険を適切に認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

電波望遠鏡施設の周辺では、レーダーセンサーシステムは自動的に停止します。

ディストロニック・プラスの補助のためには、レーダーセンサーシステムがオンになっていて、レーダーが作動していなければなりません。

前方に車両がないとき、ディストロニック・プラスは、約 30km/h ～ 約 200km/h の走行速度の範囲で、クルーズコントロールと同じように作動します。前方を車両が走行しているときは、ディストロニック・プラスは、0km/h ～ 約 200km/h の走行速度の範囲で作動します。

※ 上記は車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

急な坂道を走行しているときは、ディストロニック・プラスを使用しないでください。

⚠ 警告

ディストロニック・プラスは、走行速度により、最大 4m/s^2 で車両にブレーキを効かせます。これは、車両の最大制動力の約 40% に相当します。この制動力が不十分なときは、運転者自身でブレーキを効かせてください。

ディストロニック・プラスが車両の前方に衝突の危険性を検知したときは、断続的な警告音が鳴ります。さらに、メーターパネルの車間距離警告灯  が点灯します。衝突を避けるためにブレーキ操作を行なってください。

クルーズコントロールレバー

レバーでディストロニック・プラスや可変スピードリミッターを操作できます。

レバーの LIM 表示灯は選択したシステムを示しています。

- **LIM 表示灯が消灯**：ディストロニック・プラスが選択されています。
- **LIM 表示灯が点灯**：可変スピードリミッターが選択されています。



- ① 現在の走行速度に設定する、または設定速度を上げる
- ② 車間距離を設定する
- ③ LIM 表示灯
- ④ 現在の走行速度に設定する、または最後に記憶させた速度を呼び出す
- ⑤ 現在の走行速度に設定する、または設定速度を下げる
- ⑥ ディストロニック・プラスと可変スピードリミッターを切り替える
- ⑦ ディストロニック・プラスを解除する

ディストロニック・プラスの選択

- ▶ LIM 表示灯 ③ が消灯していることを確認します。

消灯しているときは、ディストロニック・プラスがすでに選択されています。

消灯していないときは、レバーを矢印 ⑥ の方向に押します。

レバーの LIM 表示灯が消灯します。ディストロニック・プラスが選択されます。

現在の速度を記憶させ、それを維持させるようにディストロニック・プラスを作動させる

重要な安全上の注意

⚠ 警告

ディストロニック・プラスが作動しているときは、車両にブレーキが効くことがあります。この理由により、他の方法（自走式洗車機に入れたり、けん引するときなど）で車両を動かすときは、ディストロニック・プラスを解除してください。

以下の条件を満たすときに、ディストロニック・プラスを作動させることができます。

- エンジンがかかっていること
 - 約 2 分以上走行するとディストロニック・プラスの使用準備が整います。
- パーキングブレーキが解除されていること
- ESP® が待機状態になっていて、作動していないこと

- トランスミッションがポジション **D** にあること
- ボンネットが閉じていること
- トランスミッションがポジション **P** から **D** にしたときに運転席ドアが閉じているか、運転者がシートベルトを着用していること
- 助手席側ドアと後席ドアが閉じていること
- 車両がスリップしていないこと

走行中の作動

約 30km/h 以下の速度で走行しているときは、先行車が検知されていて、マルチファンクションディスプレイに表示されているときにのみ、ディストロニック・プラスを作動させることができます。先行車が検知されなくなり、表示されなくなったときは、ディストロニック・プラスは解除され、確認音が鳴ります。

- ▶ レバーを運転者の方向 ④ に軽く引くか、クリックポイントまで上 ① または下 ⑤ に押します。
ディストロニック・プラスが選択されます。
- ▶ 希望の速度が設定されるまで、レバーを上 ① または下 ⑤ に押したままにします。
- ▶ アクセルペダルから足を放します。
設定速度以下で先行車が走行している場合、自車の速度が先行車と同じ速度に調整されます。

i アクセルペダルから足を完全に放していないときは、マルチファンクションディスプレイに**ディストロニック・プラス 制御待機中**というメッセージが表示されます。前方を走行している遅い車両との車間距離は維持されなくなります。アクセルペダルの踏み具合で自車の速度を調整してください。

停止している先行車に向かって走行しているときに作動させる

先行車が停車しているときは、自車が同様に停車してからのみ、ディストロニック・プラスを作動させることができます。

- ▶ レバーを運転者の方向 ④ に軽く引くか、クリックポイントまで上 ① または下 ⑤ に押します。

ディストロニック・プラスが選択されます。

i 約 30km/h 以下では、先行車が検知されたときにのみ、ディストロニック・プラスを作動させることができます。マルチファンクションディスプレイのディストロニック・プラス表示で確認してください。

- ▶ 希望の設定速度になるまで、レバーを上 ① または下 ⑤ に押したままにします。

i レバーを使用して記憶速度を設定したり、レバーのダイヤル ② を使用して車間距離を設定することができます。

発進

- ▶ 前方の車両が発進したときは、ブレーキペダルから足を放します。
- ▶ レバーを運転者の方向 ④ に軽く引きます。

または

- ▶ 軽くアクセルペダルを踏みます。
先行車の走行速度に合わせるようにして発進します。

走行

先行車がないときは、ディストロニック・プラスはクルーズコントロールと同じように作動します。

ディストロニック・プラスが先行車の減速を検知したときは、自動ブレーキを作動させて、設定した車間距離を維持します。

先行車が加速し、設定速度よりも速くなったときは、設定速度まで加速します。

警告

ブレーキペダルを踏んだとき、自車が停止しているとき以外はディストロニック・プラスが解除されます。この後は、ディストロニック・プラスが車両にブレーキを効かせることはありません。そのような場合は、運転者のブレーキ操作のみで先行車との距離を調整することになります。さもないと、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。他の車両との車間距離、走行速度、タイミングに合ったブレーキ操作に関するすべての責任は運転者にあります。

車線変更

以下の状況で追い越し車線に変更する場合は、ディストロニック・プラスの加速によって運転者の車線変更操作を補助します。

- 約 60 km/h 以上で走行しているとき
- 先行車の速度が自車の設定速度よりも遅く、ディストロニック・プラスが先行車との距離を維持して追従走行しているとき
- 対応する方向指示灯を作動させたとき
- ディストロニック・プラスが衝突の危険を検知していないとき

これらの条件を満たした場合は、車両は加速します。車線変更に時間がかかりすぎたり、自車と先行車との距離が短すぎるときは、加速は中断されます。

i 車線を変更するとき、ディストロニック・プラスは追い越し車線側または走行車線側の車両や障害物をモニターします。

※ 上記の機能は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

⚠ 警告

ディストロニック・プラスとアクティブブラインドスポットアシストは、運転を補助するために設計されたものです。運転者の責任や注意を軽減させるものではありません。他の車両との車間距離、走行速度、タイミングに合ったブレーキ操作に関するすべての責任は運転者にあります。常に交通状況や周囲に注意してください。さもないと、適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

停止

⚠ 警告

ディストロニック・プラスが作動しているときは車両から降りないでください。

ディストロニック・プラスを同乗者が操作したり、停車時に車外から作動または解除するような操作はしないでください。

ディストロニック・プラスはパーキングブレーキの代わりになるものではありません。駐車するために使用しないでください。

以下のときには、ディストロニック・プラスの自動ブレーキの作動が中断し、車両が動き出すことがあります。

- クルーズコントロールレバーを使用してディストロニック・プラスが解除されたとき

- アクセルペダルを踏んだとき
- システムに故障があるときやバッテリー故障などで電力供給が中断したとき
- エンジンルームの電気システムや、バッテリーまたはヒューズが改造されたとき
- バッテリーの接続を外したとき

車両から離れたり、駐車するときは、ディストロニック・プラスを解除し、車両が動き出さないようにしてください。

先行車が停止したことをディストロニック・プラスが検知すると、自車が停止するまでブレーキを効かせます。

一度自車が停止すると、停車したままになり、ブレーキペダルを踏む必要はありません。

- i** 設定した車間距離によっては、自車は先行車後方の十分な距離があるところで停止することがあります。車間距離はレバーのダイヤルを使用して設定します。

ディストロニック・プラスが作動しているときに以下のことを行なうと、トランスミッションが自動的にポジション **P** になります。

- 運転席ドアを開いて、運転席のシートベルトを外したとき
- ECO スタート / ストップで自動的に停止している場合を除き、エンジンを停止したとき
- ボンネットを開いたとき
- システムに故障が発生したとき
- 電力供給が不十分なとき

速度の設定

- ▶ レバーを、高い速度には上 ① に、低い速度には下 ⑤ に押します。
- ▶ 希望の速度が設定されるまで、レバーを押したままにします。
- ▶ レバーから手を放します。

新しい速度が記憶されます。ディストロニック・プラスが作動し、新しく記憶させた速度に車両の速度を調整します。

1km/h 単位での調整

- ▶ レバーを、高い速度には上 ① に、低い速度には下 ⑤ に、クリックポイントまで軽く押します。

記憶される速度が 1km/h 単位で変更されます。

10km/h 単位での調整

- ▶ レバーを、高い速度には上 ① に、低い速度には下 ⑤ に、クリックポイントを越えて押します。

記憶される速度が 10km/h 単位で変更されます。

- i** ディストロニック・プラスはアクセルペダルを踏んでも解除されません。追い越しを行なうために速度を上げたときは、追い越しが完了した後に、ディストロニック・プラスは車両の速度を設定速度に調整します。

現在の速度を記憶させる、または記憶された速度を呼び出す

⚠ 警告

記憶されている速度を認識していて、また現在の交通や走行状況に合っているときにのみ、記憶させた速度を呼び出してください。さもないと、意図せずに突然の加速やブレーキ作動が起こり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

- ▶ レバーを運転者の方向 ④ に軽く引きます。
- ▶ アクセルペダルから足を放します。
ディストロニック・プラスが作動し、現在の速度が記憶されます。または、以前に記憶されていた巡航速度に車両を設定します。

車間距離の設定

先行車との最小車間距離を約 1 秒から約 2 秒の範囲で設定できます。この機能では、ディストロニック・プラスが走行速度に応じて先行車との間で保持する最小車間距離を設定できます。車間距離はマルチファンクションディスプレイで確認できます (▶144 ページ)。



車間距離を長くする

- ▶ ダイヤル ③ を矢印 ② の方向にまわします。

ディストロニック・プラスは、自車と先行車の間に、より長い車間距離を維持します。

車間距離を短くする

- ▶ ダイヤル ③ を矢印 ① の方向にまわします。

ディストロニック・プラスは、自車と先行車の間に、より短い車間距離を維持します。

- ① 先行車と十分で安全な距離を維持していることを確認してください。必要であれば、先行車との距離を調整してください。

スピードメーターのディストロニック・プラス表示



ディストロニック・プラスを作動させたときは、設定速度域の 1 個または 2 個のセグメント ② が点灯します。

- ① デザイン上の理由により、スピードメーターに表示されている速度とディストロニック・プラスの設定速度が若干異なる場合があります。

ディストロニック・プラスが先行車を検知すると、先行車の速度 ① と設定速度 ③ の間のセグメント ② が点灯します。

マルチファンクションディスプレイのディストロニック・プラス表示

一般的な注意事項

マルチファンクションディスプレイのアシストメニュー (▶143 ページ) で、車間ディスプレイを選択することができます。

ディストロニック・プラスが解除されているときの表示

- ▶ マルチファンクションディスプレイで、**車間ディスプレイ** (▶144 ページ) を選択します。

ディストロニック・プラスが解除されているときは、マルチファンクションディスプレイに以下の画面が表示されます。



- ① PRE-SAFE® ブレーキの作動マーク
- ② 検知された先行車
- ③ 先行車との現在の距離を表示する車間距離インジケーター
- ④ 先行車との間に設定された車間距離 (調整可能)
- ⑤ 自車

ディストロニック・プラスが作動しているときの表示

- ▶ マルチファンクションディスプレイで、**車間ディスプレイ**（▷144 ページ）を選択します。

ディストロニック・プラスを作動させたときは、設定速度が約 5 秒間表示されます。この後、ディストロニック・プラスを作動させている間は、マルチファンクションディスプレイに以下の画面が表示されます。



- ① ディストロニック・プラス作動表示
- ② 自車
- ③ 先行車との間に設定された最小車間距離（調整可能）
- ④ 検知された先行車

ディストロニック・プラスの解除



ディストロニック・プラスの解除に

は、いくつかの方法があります。

- ▶ レバーを前方 ① に軽く押します。

または

- ▶ 停車していないときに、ブレーキペダルを踏みます。

または

- ▶ レバーを矢印 ③ の方向に軽く押します。

可変スピードリミッターが選択されます。レバーの LIM 表示灯 ② が点灯します。

ディストロニック・プラスを解除すると、マルチファンクションディスプレイに**ディストロニックプラス オフ**と約 5 秒間表示されます。

- ① エンジンを停止すると、記憶された設定速度は消去されます。

以下のときはディストロニック・プラスは自動的に解除されます。

- パーキングブレーキを効かせたとき
- 走行速度が 25km/h 以下のときに、先行車がいなくなったときや先行車が検知されなくなったとき
- ESP® が介入したときや ESP® を解除したとき
- トランスミッションをポジション **N** や **P**、**R** にしたとき
- 車両が電波望遠鏡施設の周辺にあるとき
- レーダーセンサーシステムを停止したとき
- 助手席ドアまたはいずれかの後席ドアが開いている状態で、発進させるためにレバーを手前に引いたとき
- 車両がスリップしたとき

ディストロニック・プラスが解除されると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに**ディストロニックプラス オフ**と約 5 秒間表示されます。

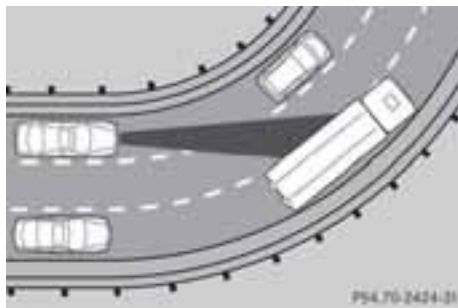
ディストロニック・プラスにより車両が停止しているときに、システムに異常が発生したときは、マルチファンクションディスプレイに**すぐにブレーキを踏んでください**と表示されます。車両が動き出さないように、ただちにブレーキペダルを踏んでください。ディストロニック・プラスが解除され、メッセージも消えます。

ディストロニック・プラスで走行するときのヒント

一般的な注意事項

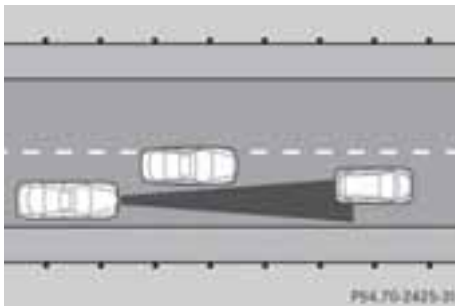
特に注意が必要な、道路と交通の特定の状況を以下に記載しています。このような状況下では、必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。ディストロニック・プラスが解除されます。

カーブでの走行、カーブに入るときやカーブを抜けるとき



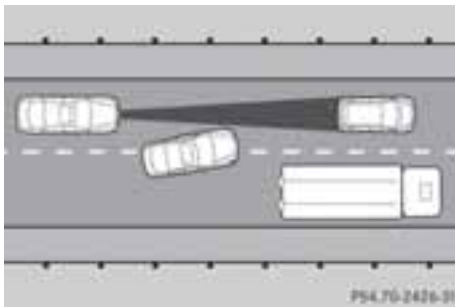
カーブでは、ディストロニック・プラスの機能が制限されます。車両が予想せずにブレーキを効かせたり、ブレーキが遅れることがあります。

自車の進路から左または右に少しずれた位置に車両が走行しているとき



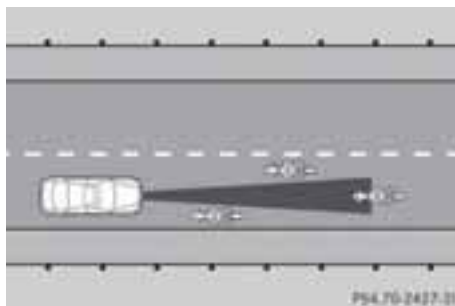
ディストロニック・プラスは、自車の進行方向から左または右にずれて走行している車両を検知できないことがあります。先行車との距離が非常に短くなることがあります。

自車の進路に車両が割り込んでくるとき



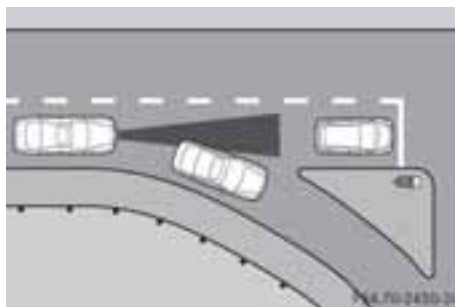
ディストロニック・プラスは割り込んでくる車両を検知できないことがあります。この車両との距離が非常に短くなることがあります。

横幅の狭い車両が前方を走行しているとき



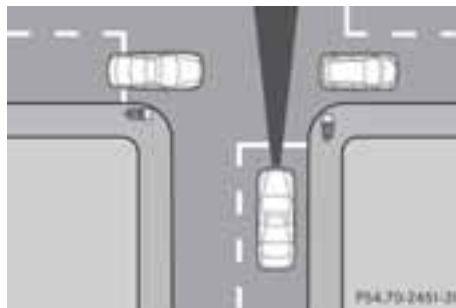
ディストロニック・プラスは、車線の端を走行している横幅の狭い車両を検知できないことがあります。先行車との距離が非常に短くなることがあります。

自車の進路に障害物や停車車両があるとき



ディストロニック・プラスは、障害物や停車車両に対して自動ブレーキを作動させません。例えば、自車が追従していた先行車がカーブを曲がり、障害物や停車車両が現れたときは、ディストロニック・プラスはこれらに対して自動ブレーキを作動させません。

車両が横切ったとき



ディストロニック・プラスは、誤って自車の車線を横切る車両を検知することがあります。交差点でディストロニック・プラスを作動させているときは、意図せずに自車が発進することがあります。

ホールド機能

全体的な注意事項

ホールド機能は以下の状況で運転者を補助します。

- 特に急な坂道で発進するとき
- 急な坂道で車を操作するとき
- 発進待ちをしているとき

運転者がブレーキペダルを踏まなくても、車両が停止した状態を保ちます。

発進するためにアクセルペダルを踏み込むと、ブレーキ効果が解除され、ホールド機能は解除されます。

- i** 不整地、上り坂や下り坂、またはぬかるみや滑りやすい路面を走行しているときは、ホールド機能を使用しないでください。そのような路面では、ホールド機能は車両を止めることができません。

作動条件

ホールド機能は以下のときに作動させることができます。

- 停車しているとき
- エンジンがかかっているとき、または ECO スタートストップ機能によりエンジンが自動的に停止しているとき
- 運転席ドアを閉じているとき、または運転席の乗員がシートベルトを着用しているとき
- パーキングブレーキが解除されているとき
- ボンネットが閉じているとき
- トランスミッションのポジションが **D**、**R**、**N** のいずれかのとき
- ディストロニック・プラスが解除されているとき

※ ディストロニック・プラスは、日本仕様車には装備されません。

ホールド機能を作動させる

- ▶ 作動条件を満たしていることを確認します。
- ▶ ブレーキペダルを踏みます。
- ▶ マルチファンクションディスプレイにホールド機能表示灯 **HOLD** が表示されるまで、ブレーキペダルを意識的に素早く深く踏み込みます。

ホールド機能が作動し、ブレーキペダルから足を放すことができます。

- i** 最初にブレーキペダルを踏んだときにホールド機能が作動しない場合は、少し待った後に再度試してください。

⚠ 警告

ホールド機能が作動しているときは車両にブレーキが効いています。この理由により、車両が他の方法で動かされている場合（例えば洗車機に入れる場合やけん引されるとき）にはホールド機能を解除してください。

ホールド機能を解除する

ホールド機能は以下のときに自動的に解除されます。

- トランスミッションがポジション **D** または **R** のときに、アクセルペダルを踏んだとき
- トランスミッションをポジション **P** にシフトしたとき
- ある一定以上の強さでブレーキペダルを再度踏み、マルチファンクションディスプレイのホールド機能表示灯 **HOLD** が消灯したとき
- ディストロニック・プラスを作動させたとき

⚠ 警告

ホールド機能が作動しているときは決して車両から降りないでください。ホールド機能は決して同乗者または車外から操作したり解除したりしないでください。

ホールド機能はパーキングブレーキの代わりになるものではありません。駐車するために使用しないでください。

以下のときは、ホールド機能のブレーキ作動が中断して、車両が動き出します。

- アクセルペダルまたはブレーキペダルを踏んでホールド機能を解除したとき
- システムに故障があるときやバッテリー故障などで電力供給が中断したとき
- エンジンルームの電気システムや、バッテリーまたはヒューズが改造されたとき

• バッテリーの接続を外したとき
車両から離れたり、駐車するときは、ホールド機能を解除し、車両が動き出さないようにしてください。

- 運転席ドアを開いて、運転席のシートベルトを外したとき
- ECO スタート / ストップ機能で自動的に停止している場合を除き、エンジンを停止したとき
- ボンネットを開いたとき
- システムに故障が発生したとき
- 電力供給が不十分なとき

ホールド機能を作動させているときに、システムまたは電力供給に異常（バッテリーあがりなど）が発生したときは、マルチファンクションディスプレイにメッセージが表示されます。警告メッセージが消えるまで、ただちにブレーキペダルを強く踏み込んでください。

トランスミッションをポジション **P** にすることによっても、ホールド機能は解除されます。

パークトロニック

重要な安全上の注意

警告

パークトロニックは補助のみを行なうものであり、すべての障害物を検知するわけではありません。注意を払った運転の代わりになるものではありません。

安全に対する責任は常に運転者であり、駐車や移動を行なうときは常に周囲に注意を払ってください。さもないと、お客様や他の方が危険にさらされるおそれがあります。

警告

車の周辺に人や動物がいないことを確認してください。さもないと、人や動物がけがをするおそれがあります。

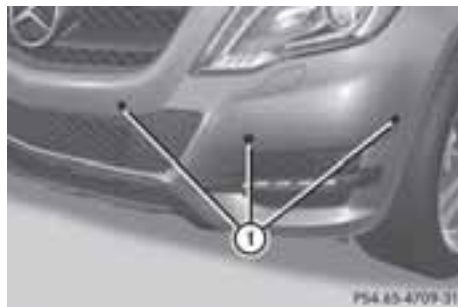
パークトロニックは、超音波センサーによる電子式駐車補助システムです。車両と障害物との距離を視覚的、聴覚的に示します。

パークトロニックは、以下のときに自動的に作動します。

- イグニッション位置が **2** のとき
- トランスミッションのポジションが **D**、**R**、**N** のいずれかのとき
- パーキングブレーキが解除されているとき

パークトロニックは、走行速度が約 18km/h 以上になると作動を停止し、それより低い速度のときに再度作動します。

パークトロニックは、フロントバンパーの 6 個のセンサーとリアバンパーの 4 個のセンサーにより、車両周辺のエリアをモニターします。



① フロントバンパー左側のセンサーの例

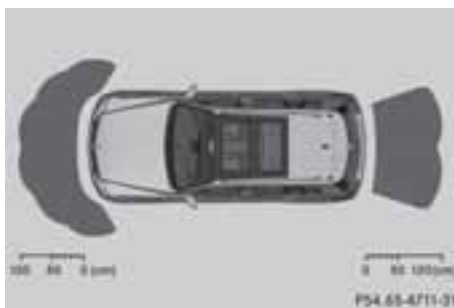
センサーの検知範囲

全体的な注意事項

センサーに汚れや氷および泥が付着しないようにしてください。さもないと、適切に機能しないことがあります。擦り傷や損傷を与えないように注意して、センサーを定期的に清掃してください（▶264 ページ）。



側方図



上方図

フロントセンサー

センター部 約 100cm

コーナー部 約 60cm

リアセンサー

センター部 約 120cm

コーナー部 約 80cm

! 駐車するときは、鉢植えやトレーラーけん引バーなどセンサーの上下にあるものに十分注意してください。パークトロニックは、これらが車両の至近距離にあるときは検知できません。車両や物を損傷するおそれがあります。

センサーは超音波を吸収しやすい雪やその他のものを検知しないことがあります。

自動洗車機や大型車の排気ブレーキ、空気圧ドリルなどの超音波により、パークトロニックが誤作動することがあります。

不整地などではパークトロニックが正しく作動しないことがあります。

最小範囲

センター部 約 20cm

コーナー部 約 15cm

この範囲内に障害物があるときは、対応する警告灯が点灯して警告音が鳴ります。距離が最小範囲以下になると、距離が表示されなくなることがあります。

警告ディスプレイ

警告ディスプレイはセンサーと障害物との距離を示します。前方エリアの警告ディスプレイは中央送風口上部のダッシュボードにあります。後方エリアの警告ディスプレイは後席のルーフライニングにあります。



前方エリアの警告ディスプレイ

- ① 車両左側のセグメント
- ② 車両右側のセグメント
- ③ 作動可能状態を示すセグメント

車両の各側の警告ディスプレイは、5個の黄色セグメントおよび2個の赤色セグメントに分けられます。作動可能状態を示す黄色セグメント③が点灯しているときは、パークトロニックは作動可能です。

エンジンがかかっているときに、選択したシフトポジションと車両の進行方向により、どの警告ディスプレイが作動するかが決定されます。

シフトポジション	警告ディスプレイ
D	前方エリアが作動します。
R、N	前方と後方のエリアが作動します。
P	どのエリアも作動しません。

車両が障害物に近づくにつれ、障害物からの車両の距離に応じて1個またはそれ以上のセグメントが点灯します。

- 6個目のセグメントになると、警告音が約2秒間断続的に鳴ります。
- 7個目のセグメントになると、警告音が約2秒間鳴ります。これは、最短距離に達していることを示しています。

パークトロニックの解除 / 設定



- ① パークトロニックの解除 / 設定
- ② 表示灯

表示灯②が点灯しているときは、パークトロニックが解除されています。

- i** イグニッション位置を2にすると、パークトロニックは自動的に設定されます。

パークトロニックのトラブル

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯している。 約 2 秒間 警 告 音 が 鳴った。 約 5 秒後にパークトロニックの機能が解除され、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯した。	パークトロニックの故障のため、機能が解除されている。 ▶ トラブルが続くようであれば、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でパークトロニックの点検を受けてください。
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯している。 約 5 秒後にパークトロニックの機能が解除された。	パークトロニックセンサーが汚れているか、付着物などがある。 ▶ パークトロニックセンサーを清掃してください (▶264 ページ)。 ▶ 再度、イグニッション位置を 2 にしてください。 外部の電波や超音波の干渉などにより、機能が解除されている。 ▶ 場所を変えて、パークトロニックの作動を確認してください (▶173 ページ)。

アクティブパーキングガイドンス

※ アクティブパーキングガイドンスは、日本仕様車には装備されません。

重要な安全上の注意

アクティブパーキングガイドンスは、超音波センサーによる電子式駐車補助システムです。超音波は車両両側の道路の計測に使用されます。適切な駐車スペースは駐車マークで示されます。ステアリングの介入操作により、駐車を補助します。パークトロニックも併せて利用できます（▶173 ページ）。パークトロニックが解除されているときは、アクティブパーキングガイドンスも使用できません。

警告

アクティブパーキングガイドンスは運転操作を補助するシステムであり、駐車に適さない場所を誘導することがあります。例えば、駐車禁止の場所や、私道、駐車に適さない路面などです。

アクティブパーキングガイドンスは駐車スペースを通過してから測定します。駐車スペースが変わってしまうと測定することができません。例えば、駐車スペースの前後に駐車している車両の位置が変わったり、駐車スペースに障害物が入った場合です。

アクティブパーキングガイドンスは運転者の注意に対する責任を軽減させるものではありません。アクティブパーキングガイドンスだけに頼ると、事故の原因になったり、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。

安全に対する責任は常に運転者であり、駐車や移動を行なうときは常に周囲への注意を払ってください。

警告

駐車スペースを計測しているときは、アクティブパーキングガイドンスの検知範囲外の高さにある障害物は検知されません。例えば、突き出している荷物や車両後部、積載用スロープなどは、システムが駐車手順を計算するときに考慮されません。状況によっては、アクティブパーキングガイドンスが駐車スペースを指示するタイミングが早すぎることがあります。衝突するおそれがあります。この理由により、そのような状況ではアクティブパーキングガイドンスは使用しないでください。

警告

駐車操作を行なっているときは、車両の前側が外側を向き、車両の向きが対向車の方向になります。状況によっては、駐車操作の間に車両が対向車線の部分に入ることもあります。

安全に対する責任は常に運転者であり、前方や後方の他の車両への注意を払い続けてください。

警告

車の周辺に人や動物がいないことを確認してください。さもないと、人や動物がけがをするおそれがあります。

駐車スペースが以下のときにアクティブパーキングガイダンスを使用してください。

- 走行する方向と平行なとき
- カーブしていない直線道路のとき
- 歩道以外の舗装路面など、道路と駐車スペースが同じ高さのとき

駐車知識：

- 狭い道では、できるだけ駐車スペースの近くを通過して走行してください。
- 駐車スペース内にゴミが落ちていたり、草が生い茂ってたり、トレーラーけん引部が突き出ている場合などは、正しく見分けられなかったり、検知できないことがあります。
- 雪や激しい雨により、正しく計測されていない駐車スペースに誘導することがあります。
- 駐車を行なっている間は、パークトロニックの警告に注意してください（▶173 ページ）。
- 運転者はいつでも、操作を修正するためにステアリング手順に介入できます。アクティブパーキングガイダンスは中止されます。
- 車両からはみ出た荷物を運搬しているときは、アクティブパーキングガイダンスを使用しないでください。
- スノーチェーンや応急用スペアタイヤを装着しているときは、決してアクティブパーキングガイダンスを使用しないでください。

- タイヤの空気圧が常に適正であることを確認してください。車両の駐車操作に直接影響します。

- 駐車スペースに車両を停める方法は、色々な要因により影響を受けます。それらは車両の前後に停車している車両の位置や形、場所の状態などです。場合により、アクティブパーキングガイダンスは駐車スペースからかなり離れていたり、十分に離れていない場所に誘導することがあります。場合により、縁石をまたいだり縁石に乗り上げることもあります。必要であれば、アクティブパーキングガイダンスによる駐車操作を中止してください。

- 運転者は駐車操作の間に前進ギアに入れることもできます。このときは車両が駐車スペースに向かって走行しなくなります。運転者がより良い駐車位置を得るためにギア操作を行った場合は、駐車手順が中止されます。

! 縁石のような障害物を避けられないときは、鋭角でない角度でゆっくりと乗り越えてください。さもないと、ホイールやタイヤを損傷するおそれがあります。

駐車スペースの検知

アクティブパーキングガイダンスは、前進しているときに自動的に作動します。システムは走行速度が約 35km/h になるまで作動します。作動中、システムは車両の両側の駐車スペースを独自に見つけて、測定します。走行速度が約 30km/h 以下のときは、メーターパネルにステータスインジケータとしてパーキングガイダンスマークが表示されます。通常では、アクティブパーキングガイダンスは助手席側のみの駐車スペースを表示します。運転席側の方向指示燈を作動させると、すみやかに運転席側の駐車スペースを表示します。運転席側に駐車するときは、運転席側の方向指示燈を作動させたままにしてください。運転者がマルチファンクションステアリングの **[OK]** スイッチを押してアクティブパーキングガイダンスの使用を確認するまで、方向指示燈は作動したままにしなければなりません。

駐車スペースが検知されたときは、右または左向きの矢印が表示されます。



駐車スペースが検知されたときの例

- ① 左側に駐車スペースが検知されたとき
- ② パーキングガイダンスマーク
- ③ 右側に駐車スペースが検知されたとき

アクティブパーキングガイダンスは、以下のときにのみ駐車スペースを検知します。

- 走行する方向と平行なとき
- 少なくとも約 1.5m 以上の幅があるとき
- 車両の全長よりも約 1.3m 以上長いとき

駐車スペースの表示は、駐車スペースを通り過ぎてから約 15m 離れるまで表示されます。

駐車する

警告

パークトロニックとアクティブパーキングガイダンスは運転操作を補助するものであり、すべての障害物を検知するわけではありません。注意を払った運転の代わりになるものではありません。

安全に対する責任は常に運転者であり、駐車や移動を行なうときは常に周囲に注意を払ってください。さもないと、運転者や他の人を危険にさらすおそれがあります。

⚠ 警告

駐車するとき、操作が行なわれている間は車の周辺に障害物がないことを確認する必要があります。

アクティブパーキングガイダンスは運転者の注意に対する責任を軽減させるものではありません。単にステアリング操作に介入して運転者を補助するものです。

車両を停車させたり事故を防ぐためには、運転者自身でブレーキ操作を行なう必要があります。

- ▶ 希望する場所の駐車スペースマークがマルチファンクションディスプレイに表示されたときは、停車します。

- ▶ ポジション **R** にシフトします。

マルチファンクションディスプレイに **パーキングアシストオン Yes: OK No: ** と表示されます。

操作を中止する

- ▶ マルチファンクションステアリングの  スイッチを押すか、走行します。

または

アクティブパーキングアシストを使って駐車する

- ▶ マルチファンクションステアリングの **OK** スイッチを押します。

マルチファンクションディスプレイに **パーキングアシスト作動中 アクセルとブレーキを操作 周囲を確認** と表示されます。

- ▶ ステアリングから手を放します。

- ▶ 常にブレーキ操作の準備をしながら後退します。後退中は速度が約 10km/h を超えないようにしてください。さもないと、アクティブパーキングガイダンスが解除されます。

i 狭い駐車スペースでは、できるだけ後方までバックすることにより最良の駐車結果が得られます。このときは、パークトロニックのメッセージにも従ってください。

- ▶ パークトロニックが継続的な警告音を発したらすみやかに停車します。警告を発する前ではありません。狭い駐車スペースでは位置の微修正が必要になります。

マルチファンクションディスプレイに **パーキングアシスト作動中 D にシフト 周囲を確認** と表示されます。

- ▶ 停車した状態で、トランスミッションのポジション **D** を選択します。

アクティブパーキングガイダンスがただちに反対の方向にステアリングをまわします。

マルチファンクションディスプレイに **パーキングアシスト作動中 アクセルとブレーキを操作 周囲を確認** と表示されます。

i 発進する前にステアリング操作が完了するまで待つことにより、最良の結果が得られます。

- ▶ 常にブレーキ操作の準備をしながら前進します。

▶ パークトロニックが継続的な警告音を発したらすみやかに停車します。警告を発する前ではありません。

マルチファンクションディスプレイに **パーキングアシスト作動中 R にシフト 周囲を確認** と表示されます。

- ▶ トランスミッションのさらなるシフト操作が必要になる場合があります。

駐車操作が完了すると、すみやかにマルチファンクションディスプレイに**パーキングアシスト 終了**と表示されます。アクティブパーキングガイダンスが解除されます。パークトロニックは引き続き作動します。

- ▶ 必要であれば、位置の微修正を行います。
- ▶ 常にパークトロニックの警告ディスプレイに従ってください（▶175ページ）。

駐車スペースから出る

警告

アクティブパーキングアシストは、道路交通のモニターは行ないません。駐車スペースから出るときは、場合によっては車両が対向車線部分に入ることもあります。

安全性に対する責任は常に運転者であり、接近してきたり通過する他の道路使用者への注意を払わなければなりません。必要であれば車両を停止して、アクティブパーキングアシストを中止してください。

アクティブパーキングアシストを使用して車両を駐車したときにのみ、アクティブパーキングアシストは駐車スペースから出る補助を行なうことができます。

- ▶ エンジンを始動します。
- ▶ 道路に面した側の方向指示灯を作動させます。

- ▶ トランスミッションをポジション **D** または **R** にシフトします。

マルチファンクションディスプレイに **パーキングアシスト On Yes: OK No: ** というメッセージが表示されます。

操作を中止する

- ▶ マルチファンクションステアリングの  スイッチを押すか、走行します。

または

アクティブパーキングアシストを使って駐車スペースから出る

- ▶ マルチファンクションステアリングの  スイッチを押します。

マルチファンクションディスプレイに **パーキングアシスト作動中 アクセルとブレーキを操作 周囲を確認**と表示されます。

- ▶ ステアリングから手を放します。
- ▶ 常にブレーキ操作の準備をしながら後退または前進します。駐車スペースから出るときは速度が約 10km/h を超えないようにしてください。さもないと、アクティブパーキングガイダンスが解除されます。
- ▶ パークトロニックが警告音を発する前ではなく、継続的な警告音を発したらすみやかに停車します。
- ▶ 必要に応じて、停車した状態でトランスミッションをポジション **D** または **R** にシフトします。
アクティブパーキングガイダンスがただちに反対の方向にステアリングをまわします。

i 発進する前に、ステアリング操作が完了することを待つことにより、最良の結果が得られます。

作動後に後退した場合は、ステアリングは直進の位置に動きます。

- ▶ 常にブレーキ操作の準備をしながら前進または後退します。
- ▶ パークトロニックが警告音を発する前ではなく、継続的な警告音を発したらすみやかに停車します。
- ▶ パークトロニックの指示に従って、前進または後退します。

駐車スペースから完全に出了た場合のみ、ステアリングは直進の位置に動きます。確認音が聞こえ、**パーキングアシスト 終了**というメッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます。その後は、運転者自身でステアリング操作を行ない、交通に合流しなければなりません。パークトロニックは引き続き作動します。

アクティブパーキングガイダンスの中止

アクティブパーキングガイダンスはいつでも中止できます。

- ▶ ステアリングの動きを停止するか、運転者自身でステアリング操作を行ないます。

アクティブパーキングガイダンスが解除されます。マルチファンクションディスプレイに**パーキングアシスト 中止**と表示されます。

または

- ▶ センターコンソールのパークトロニックオフスイッチを押します (▶175 ページ)。

パークトロニックが停止し、アクティブパーキングガイダンスがただちに中止されます。マルチファンクションディスプレイに**パーキングアシスト 中止**と表示されます。

アクティブパーキングガイダンスは、以下のときに自動的に中止されます。

- トランスミッションのシフト操作が早すぎる時
- アクティブパーキングガイダンスを使用した駐車ができないとき
- 約 10km/h 以上の速度で走行したとき
- 車輪が空転して ESP® が作動するか、ESP® が作動できないとき。メーターパネルの ESP® 警告灯  が点灯します。

警告音が鳴ります。パーキングガイダンスマークが消え、マルチファンクションディスプレイに**パーキングアシスト 中止**と表示されます。

アクティブパーキングガイダンスが中止されたときは、運転者自身でステアリングを再度まわさなければなりません。

サイドビューカメラ

重要な安全上の注意

サイドビューカメラは、COMANDディスプレイに助手席側のフロントタイヤ周辺や助手席ドア下方のエリアを表示します。

発進する際などには、必ずサイドビューカメラで助手席側のフロントタイヤ周辺や助手席ドア下方の状況を確認してください。

サイドビューカメラは、助手席側ドアミラー下部にあります。

警告

車の周辺に人や動物がいないことを確認してください。さもないと、人や動物がけがをするおそれがあります。

警告

サイドビューカメラは補助のみを行なうものであり、障害物の歪んだ映像を表示したり、不正確にまたはまったく表示しないことがあります。サイドビューカメラは運転者の注意に対する責任を軽減させるものではありません。サイドビューカメラでは、助手席側のフロントタイヤ周辺や助手席ドア下方のエリア以外の物体を表示することができません。

安全に対する責任は常に運転者であり、駐車するときや移動するとき、常に周囲に注意してください。車両の後方や前方、両側などがこれにあてはまります。さもないと、お客様や他の方が危険にさらされるおそれがあります。

警告

以下のような場合は、サイドビューカメラは機能しなかったり、機能が制限されます。

- 助手席ドアが完全に閉じていないとき
- 助手席側ドアミラーが完全に展開していないとき
- スノーチェーンや応急用スペアタイヤを装着しているとき
- 激しい雨や雪、霧のとき
- 夜間または非常に暗い場所のとき
- カメラが非常に明るい光にさらされたとき
- 周囲が蛍光灯やLEDライトで照らされているとき（映像にちらつきが出ることがあります）
- 寒冷時に暖房されたガレージに入ったときなど、急激な温度変化があったとき
- カメラのレンズが汚れていたり、付着物があるとき
- ドアミラーやカメラを損傷したとき。このときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でカメラの位置や設定を調整してください。この作業はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

上記のような場合はサイドビューカメラを使用しないでください。さもないと、発進や路肩への幅寄せをしたときに他の方がけがをしたり、物や車両を損傷するおそれがあります。

！ 乗車人数や荷物の積載量により、サイドビューカメラの映像範囲は変化します。必ず自分の目やミラーで周囲の状況を直接確認してください。

！ 必ず指定されたサイズのホイールやタイヤを装着してください。指定以外のホイールやタイヤを装着すると、システムに影響を及ぼすことがあります。

サイドビューカメラの作動 / 解除

作動させる

- ▶ イグニッション位置が **2** にあることを確認します。
- ▶ COMAND システムをオンにします。COMAND システムについて、詳しくは別冊の取扱説明書をご覧ください。
- ▶ COMAND コントロールパネルの  ボタンを押します。

または

- ▶ アプリケーションエリアの **システム** を選択します。
- ▶ **サイドビューカメラ** を選択します。

サイドビューカメラが作動し、助手席側のエリアがディスプレイに表示されます。

解除する

- ▶ サイドビューカメラは、以下のときに解除されます。
 - COMAND コントローラーを押すか、COMAND コントロールパネルの  ボタンを押したとき
 - COMAND コントロールパネルのアプリケーション選択ボタンか通話開始ボタンを押したとき
 - COMAND システムをオフにするか、イグニッション位置を **2** 以外にしたとき
 - 約 15km/h 以上の速度で走行したとき
 - COMAND システムの**リアビューカメラ**機能が設定されているときは、トランスミッションのポジションを **R** にしたとき。このときは、パーキングアシストリアビューカメラが作動します。

パーキングアシストリアビューカメラ

重要な安全上の注意

警告

車両の周辺に人や動物がいないことを確認してください。さもないと、人や動物がけがをするおそれがあります。

 警告

パーキングアシストリアビューカメラは補助のみを行なうものであり、障害物の歪んだ映像を表示したり、不正確にまたはまったく表示しないことがあります。パーキングアシストリアビューカメラは運転者の注意に対する責任を軽減させるものではありません。以下のエリアではカメラは物体を表示することができません。

- リアバンパーのすぐ近く
- リアバンパーの下方
- テールゲートハンドルのすぐ上方

安全に対する責任は常に運転者があり、駐車するときや移動するときは、常に周囲に注意してください。車両の後方や前方、両側などがこれにあてはまります。さもないと、お客様や他の方が危険にさらされるおそれがあります。

 警告

以下のような場合は、パーキングアシストリアビューカメラは機能しなかったり、機能が制限されます。

- テールゲートが開いているとき
- 激しい雨や雪、霧のとき
- 夜間または非常に暗い場所のとき
- カメラが非常に明るい光にさらされたとき
- 周囲が蛍光灯で照らされているとき（映像にちらつきが出ることがあります）
- 寒冷時に暖房されたガレージに入ったときなど、急激な温度変化があったとき
- カメラのレンズが汚れていたり、付着物があるとき
- 車の後部を損傷したとき。このときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でカメラの位置や設定を調整してください。この作業はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

上記のような場合はパーキングアシストリアビューカメラを使用しないでください。さもないと、駐車を行なっているときに他の方がけがをしたり、物や車両を損傷するおそれがあります。

全体的な注意事項



① パーキングアシストリアビューカメラ

パーキングアシストリアビューカメラ ① は、テールゲートハンドル内にあります。

パーキングアシストリアビューカメラ ① は、視覚的に駐車および移動を補助します。ガイドラインとともに COMAND ディスプレイに車両後方のエリアを表示します。

車両後方のエリアは、ルームミラーに写るように鏡像で表示されます。

パーキングアシストリアビューカメラの作動 / 解除



作動させる

- ▶ イグニッション位置が **2** にあることを確認します。

- ▶ COMAND システムの**リアビューカメラ**機能が設定されていることを確認します。COMAND システムについて、詳しくは別冊の取扱説明書をご覧ください。

- ▶ リバースギア **R** にシフトします。

車両後方のエリアが、ガイドラインとともにディスプレイに表示されます。

解除する

パーキングアシストリアビューカメラは、以下のときに解除されます。

- トランスミッションのポジション **P** を選択したとき
- 約 10m 前進したとき
- トランスミッションを **R** から他のポジションにシフトして約 15 秒経過したとき
- 約 10km/h 以上の速度で前進したとき

ディスプレイの表示

⚠ 警告

色覚異常の方や色の識別能力が低い方は、パーキングアシストリアビューカメラを使用すると危険な場合があります。

パーキングアシストリアビューカメラにより COMAND ディスプレイに表示されるすべての色のガイドラインを見ることが可能で、識別できるときにのみ、パーキングアシストリアビューカメラを使用してください。

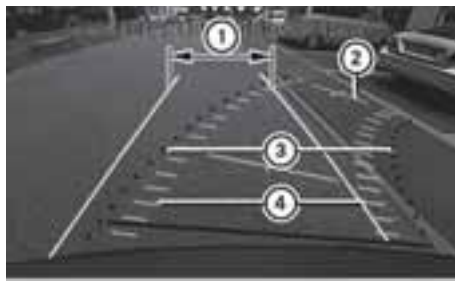
⚠ 警告

地面に接していないものは、実際よりも遠くにあるように見えるため、注意してください。例えば以下のようになります。

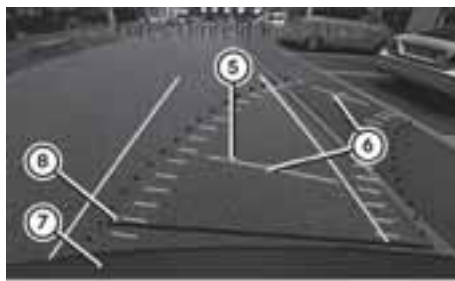
- 自車の後方に駐車している車両のバンパー
- トレーラーのけん引部
- トレーラーヒッチのボールカップリング
- 大型車両の後端
- 傾いたポスト

表示されるガイドラインは目安であり、障害物との正しい距離を測るためのものではありません。

そのため、障害物に近づいたときは、赤色ガイドラインを越えないようにしてください。さもないと、事故の原因になったり、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。



- ① ステアリングが直進状態のときのドアミラーを含む車両全幅を示す白色ガイドライン（固定）
- ② 車両後部から約 4.0m の距離を示す黄色ガイドライン
- ③ 現在のステアリング操舵角でのドアミラーを含む車両全幅を示す赤色ガイドライン（ステアリング連動）
- ④ 現在のステアリング操舵角でのタイヤの進路を示す黄色レーン（ステアリング連動）



- ⑤ 車両後部から約 1.0m の距離を示す黄色ガイドライン
- ⑥ 車両中心軸（補助マーカー）
- ⑦ バンパー
- ⑧ 車両後部から約 0.3m の距離を示す赤色ガイドライン

リバースギア **R** にシフトすると、ガイドラインが表示されます。

距離表示は地面にある障害物にのみ適用されます。



追加メッセージ

- ① フロント警告ディスプレイ
- ② パークトロニックの作動が可能であることを示す表示
- ③ リア警告ディスプレイ

パークトロニックが作動可能なときは (P173 ページ)、作動可能であることを示す表示 ② がディスプレイに表示されます。パークトロニック警告ディスプレイが点灯しているときは、それに応じて警告ディスプレイ ① と ③ もディスプレイ内で点灯します。

後退駐車機能

ステアリングをまわさないで、駐車スペースにまっすぐ後退する



- ① ステアリングが直進状態のときのドアミラーを含む車両全幅を示す白色ガイドライン (固定)
- ② 現在のステアリング操舵角でのドアミラーを含む車両全幅を示す赤色ガイドライン (ステアリング連動)
- ③ 車両後部から約 1.0m の距離を示す黄色ガイドライン
- ④ 車両後部から約 0.3m の距離を示す赤色ガイドライン

- ▶ パーキングアシストリアビューカメラが作動していることを確認します。

レーンとガイドラインが表示されます。

- ▶ 白色ガイドライン ① の補助により、車両が駐車スペースに合うかどうかを確認します。
- ▶ 白色ガイドラインを目安として使用して、後端位置に達するまで注意しながら後退します。

赤色ガイドライン④が駐車スペースの後端位置になります。車両は駐車スペースとほぼ平行になっています。

ステアリングをまわしながら、直角に後退する



ステアリングをまわす

① 現在のステアリング操舵角でのドアミラーを含む車両全幅を示す赤色ガイドライン（ステアリング連動）

② 駐車スペースのマーク

▶ パーキングアシストリアビューカメラが作動していることを確認します。

レーンとガイドラインが表示されます。

▶ 駐車スペースを通過したら、車両を停止します。

▶ 車両が停止しているときに、赤色ガイドライン①が駐車スペースのマーク②に達するまで、駐車スペースの方向にステアリングをまわします。

▶ ステアリングをその位置にしたまま注意して後退します。



ステアリングをまわして後退する

① 現在のステアリング操舵角でのドアミラーを含む車両全幅を示す赤色ガイドライン（ステアリング連動）

▶ 駐車スペースのほぼ前になったときに車両を停止します。

白色レーンが駐車スペースのマークに平行で、できるだけ接近するようにしてください。



後端位置まで後退する

① 現在のステアリング操舵角での車両の進路を示す白色ガイドライン

② 駐車スペースのマーク

▶ 車両を停止しているときに、ステアリングを直進位置にまわします。



- ① 車両後部から約 0.3m の距離を示す赤色ガイドライン
- ② ステアリングが直進状態のときの進路を示す白色ガイドライン
- ③ 駐車スペースの後端位置

▶ 後端位置に達するまで注意して後退します。

赤色ガイドライン ① が駐車スペースの後端位置 ③ になります。車両は駐車スペースとほぼ平行になっています。

アテンションアシスト

重要な安全上の注意

アテンションアシストは高速道路や幹線道路のような道路で、長時間にわたって変化の少ない走行をするときに運転者を補助します。約 80km/h から約 180km/h の範囲で作動します。

アテンションアシストが運転者の疲労の増加や集中力の欠如などの典型的な兆候を検知したときは、休憩を促します。

警告

アテンションアシストは運転者の補助のみを行なうものであり、疲労や注意力低下に対する警告が遅れたり、警告がまったく行なわれないことがあります。十分な休憩を取ったり、集中力のある運転者の代わりになるものではありません。

疲労により、危険な状況の認知が非常に遅れたり、また、状況の判断を誤ったり、反応が遅れることがあります。この理由により、運転前や運転中は運転者自身で疲労の度合いを認識してください。特に運転が長時間にわたるときは、適切な時間に定期的に休憩を取ってください。さもないと、適切に危険を認知することができず、事故の原因になったり、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。

アテンションアシストは以下のような基準を考慮して、運転者の疲労や集中力欠如の度合いを判断します。

- ステアリング操作などの運転スタイル
- 時刻や運転時間などの走行に関する要因

以下のときは、アテンションアシストの機能が制限され、警告が遅れたり、警告がまったく行なわれないことがあります。

- 路面が平坦でなかったり、穴があるなど、道路の状態が悪いとき
- 横風が強いとき

- 高いスピードでカーブを曲がっているときや急加速をしているときなど、スポーティな運転を行なっているとき
 - 約 80km/h 以下 や 約 180km/h 以上の速度で走行していることが多いとき
- ※ 上記は車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。
- COMAND システムを操作しているときや COMAND システムの電話機能で通話しているとき
 - 時刻の設定が正しくないとき
 - 車線を変えたり走行速度を変えるなど、活発な運転状況のとき

マルチファンクションディスプレイの警告とディスプレイメッセージ



- ▶ マルチファンクションディスプレイを使用して、アテンションアシストを設定します (▶145 ページ)。

マルチファンクションディスプレイにマーク ① が表示されます。

アテンションアシストが設定されたときは、運転を開始してから約 20 分以内は警告は行なわれません。断続的な警告音が 2 回鳴り、マルチファンクションディスプレイに**アテンションアシスト 休憩してください**と表示されます。

- ▶ 必要であれば、休憩を取ってください。
- ▶ **OK** スイッチを押して、メッセージを確認します。

長時間の運転では、確実に休息するために、適切な時間に定期的な休憩を取ってください。休憩を取らないときは、最短で約 15 分後に再度警告を行ないます。アテンションアシストが運転者の疲労や注意力低下の典型的な兆候を検知すると、再度警告を行ないます。

以下のことを行なって走行を続けたときは、アテンションアシストはリセットされ、再度運転者の疲労の検知を開始します。

- エンジンを停止する
- 運転を交代したり休憩を取るなどにより、運転者がシートベルトを外して、運転席ドアを開いたとき

アクティブブラインドスポットアシスト

- ※ アクティブブラインドスポットアシストは、日本仕様車には装備されません。

⚠ 警告

電波望遠鏡施設の周辺では、レーダーセンサーシステムは自動的に停止します。

重要な安全上の注意

アクティブブラインドスポットアシストはレーダーセンサーシステムを使用して、車両後方約 3m までの側方の範囲をモニターします。ドアミラーの警告灯によって、モニターしている範囲で検知された車両に運転者の注意を喚起します。車線変更するために対応する方向指示灯を作動させると、衝突に対する警告灯および警告音による警告を行ないます。後側方の障害物との衝突の危険性が検知されると、修正のためのブレーキが衝突回避を補助します。進路修正ブレーキの適用を補助するために、アクティブブラインドスポットアシストは前方のレーダーセンサーシステムも使用します。アクティブブラインドスポットアシストは約 30 km/h 以上の速度で運転者を補助します。

警告

アクティブブラインドスポットアシストは補助のみを行なうものであり、車両や障害物を正しく、またはまったく検知しないことがあります。

以下のときはシステムが影響を受けたり、機能しないことがあります。

- 雪や雨、霧や小雨などで視界が悪いとき
- リアやフロントのセンサーが汚れているとき

アクティブブラインドスポットアシストは、オートバイや自転車のような幅の狭い車両を検知しなかったり、非常に遅れて検知することがあります。至近距離で追い越して死角に入った車両を検知することはできません。

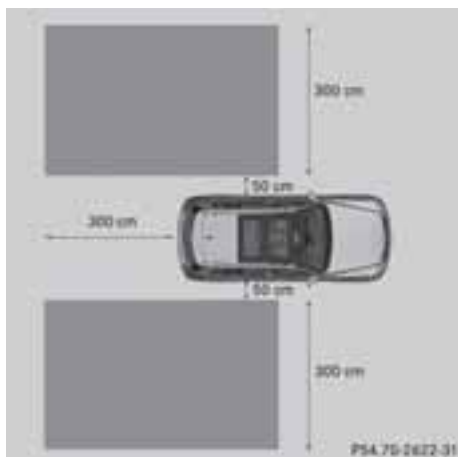
アクティブブラインドスポットアシストは道路や交通状況を検知できません。運転者の責任や注意を軽減させるものではありません。車両の速度やタイミングに合ったブレーキ操作、適切なステアリング操作の責任は運転者にあります。常に、運転スタイルを実際の道路や天候状況に合わせてください。常に交通状況や周囲の状況に注意してください。適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

レーダーセンサーシステムは電波望遠鏡施設の周辺では自動的に停止します。

運転中にアクティブブラインドスポットアシストが運転者を補助するためには、レーダーセンサーシステムがオンになっていて、作動していなければなりません。

モニター範囲

アクティブブラインドスポットアシストは図に示すように、車両後方約 3m までの側方の範囲をモニターします。このために、アクティブブラインドスポットアシストはリアバンパーのレーダーセンサーを使用します。



⚠ 警告

アクティブブラインドスポットアシストは、車両近辺の特定の範囲をモニターします。高速で近づいて通り過ぎていく車両は検知されません。警告灯および警告音による警告は発せられず、進路を修正するためにシステムが車両にブレーキを効かせることはしません。

車線の幅が非常に広いときは、隣の車線の幅すべてをモニターしないことがあります。このため隣の車線の車両が特にずれた位置を走行している場合は、その車両が検知されないことがあります。これは、車両が自車からかなり離れた車線の外端部を走行している場合などです。

常に交通状況や周囲に注意してください。適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

車線が狭い場合、特に車両が車線の中央を走行していない場合は、自車の2車線隣の車両を検知することがあります。これは、車線の自車寄りに車両がいる場合などです。

以下は、システムの特性に起因するものです。

- ガードレールや類似の連続している車線境界物の近くを走行しているときに、誤って警告が発せられることがあります。
- トラックのように特に長い車両の脇を長い間走行しているときに、警告が中断されることがあります。

2つのアクティブブラインドスポットアシストのレーダーセンサーがそれぞれフロントとリアのバンパーに内蔵されています。ラジエーターグリルのカバーの裏にもレーダーセンサーがあります。センサーとその周辺に、汚れ、氷、または泥がないことを確認してください。リアセンサーが自転車用ラック、または突き出た荷物などによって覆われないようにしてください。強い衝撃を受けたり、バンパーに損傷を与えたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの機能を点検してください。アクティブブラインドスポットアシストが正しく作動しないことがあります。

表示灯と警告表示



① 黄色表示灯 / 赤色警告灯

アクティブブラインドスポットアシストが設定されているとき、ドアミラーの表示灯 ① は、約 30km/h 以下の速度では黄色に点灯します。約 30km/h 以上の速度では表示灯は消え、アクティブブラインドスポットアシストが作動可能になります。

i レーダーセンサーシステムが自動的に停止したときは、ドアミラーの表示灯が黄色に点灯したままになります。

約 30km/h 以上の速度でアクティブブラインドスポットアシストのモニター範囲内に車両が検知されると、対応する側の警告灯 ① が赤色に点灯します。この警告は後方から、または側方から車両がブラインドスポットのモニター範囲に入ったときに常に行なわれます。遅い車両を追い越すときは、速度差が約 12km/h 以下の車両のみが警告の対象になります。

黄色の表示灯はリバースギアになると消灯します。アクティブブラインドスポットアシストは作動しなくなります。

表示灯 / 警告灯の明るさは周囲の明るさによって自動的に調整されます。

⚠ 警告

アクティブブラインドスポットアシストは約 30 km/h 以下の速度では作動しません。ドアミラーの表示灯は黄色に点灯します。モニター範囲にある車両の検知状況は表示されません。

常に交通状況や周囲に注意してください。適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

表示灯および警告音による衝突警告

側方のモニター範囲内で車両が検知され、対応する側の方向指示灯を作動させると、衝突警告が発せられます。警告音が聞こえ、赤色の警告灯 ① が点滅します。方向指示灯がそのままの状態のときは、車両の検知は赤色の警告灯 ① の点滅により示されます。警告音はそれ以上鳴りません。

進路修正ブレーキの適用

アクティブブラインドスポットアシストがモニター範囲で側方衝突の危険性を検知すると、進路修正ブレーキの適用が行なわれます。これは、運転者の衝突回避を補助するために設計されています。

進路修正ブレーキの適用は、約 30km/h から約 200km/h の範囲で行なわれます。

※ 上記は車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

進路修正ブレーキの適用が行なわれると、ドアミラーの赤色の警告灯①が点滅し、マルチファンクションディスプレイに以下のイラストが表示されます。



⚠ 警告

アクティブブラインドスポットアシストは、運転を補助するためだけに設計されています。安全運転の代わりになるものではありません。状況によっては、衝突を防ぐためにはシステムによる自動ブレーキでは不十分な場合があります。そのような場合は、運転者自身でステアリング操作、ブレーキ操作、またはアクセル操作を行なう必要があります。

ごくまれに、システムが誤って周辺にあるガードレール、または類似の車線境界物との衝突の危険を検知し、自動ブレーキを作動させることがあります。

アクティブブラインドスポットアシストは、すべての交通状況と道路使用者を検知するわけではありません。他の道路使用者や障害物との側方距離が十分であることを常に確認してください。ステアリングを反対方向に軽く操作する、または加速すると、不適切なブレーキの適用を中断できます。

車両の速度、適切なステアリング操作およびタイミングに合ったブレーキ操作の責任は運転者にあります。常に、運転スタイルを実際の道路や天候状況に合わせてください。常に交通状況や周囲に注意してください。適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

以下のときは、進路修正ブレーキの適用は少しだけ行なわれるか、またはまったく行なわれません。

- 車両の両側に車両やガードレールなどの障害物があるとき
- 側方すぐのところに車両が接近しているとき
- 高い速度でカーブを曲がるスポーティな運転を行なっているとき
- 明確にブレーキ操作またはアクセル操作を行なっているとき
- ESP® または PRE-SAFE® ブレーキのような走行安全装備が介入しているとき
- ESP® の機能が解除されているとき
- タイヤ空気圧の低下やタイヤの不具合が検知されたとき

アクティブブラインドスポットアシストを設定する

- ▶ マルチファンクションディスプレイで、レーダーセンサーシステムが設定されていることを確認します (▶151 ページ)。

- ▶ アクティブブラインドスポットアシストを設定します (▶145 ページ)。
アクティブブラインドスポットアシストが設定されているときは、イグニッション位置をに **2** したときに、ドアミラーの警告灯 ① が約 1.5 秒間赤色に点灯し、黄色に変わります。

アクティブレーンキーピングアシスト

※ アクティブレーンキーピングアシストは、日本仕様車には装備されません。

重要な安全上の注意

アクティブレーンキーピングアシストは、フロントウインドウ上部のカメラにより車両前方の範囲をモニターします。アクティブレーンキーピングアシストは路面の車線マークを検知し、運転者が意図せずに車線を外れそうになったときに警告を行ないます。運転者が警告に反応しないときは、車線修正ブレーキの適用により、車両を元の車線内に戻そうとします。



① アクティブレーンキーピングアシストカメラ

マルチファンクションディスプレイで**表示単位 速度 / 距離**: を選択していて、計測単位として **km** を選択しているとき、アクティブレーンキーピングアシストは速度が約 60km/h 以上のときに作動します。表示単位で **miles** を選択しているときは、補助範囲は約 40mph から開始されます。

⚠ 警告

アクティブレーンキーピングアシストは、車両を車線内に維持させるものではありません。補助のみを行なうものであり、路面の車線マークを正確に検知できなかったり、まったく検知できないことがあります。

以下のときは、システムの作動に影響を与えたり、機能しないことがあります。

- ひとつの車線に複数のマークがあったり、マークがないとき
- 道路の照明が不十分だったり、雪や雨、霧や小雨のときなどで視界が悪いとき
- 対向車、太陽、他の車両の反射などで眩惑があるとき
- フロントウインドウが汚れていたり、曇っているとき、またはカメラ付近にステッカーなどが貼付されて覆われているとき
- 車線マークが摩耗していたり、黒ずんでいるとき、または汚れや雪などに覆われているとき
- 前方の車両との距離が短すぎて、車線マークを検知できないとき
- 工事の周辺などで、路面の車線マークが不鮮明なとき

- 車線の分流や交差、合流などで車線マークが急に変わるとき
 - 道路が狭いときや曲がっているとき
- アクティブレーンキーピングアシストは、道路や交通状況を検知することはできません。安全運転の代わりになるものではありません。車両の速度、タイミングに合ったブレーキ、適切なステアリングの責任は運転者にあります。常に、運転スタイルを実際の道路や天候状況に合わせてください。常に交通状況や周囲に注意してください。適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

ステアリングホイールの振動による警告

警告は、前輪が車線マークを越えたときに行なわれます。警告は、ステアリングホイールを断続的に最大 1.5 秒間振動させることにより行なわれます。

車線マークを越えたときに必要かつ適切なタイミングで警告を行なうため、システムは状況を認識し、以下のように警告を行ないます。

以下のときは、振動による警告が早めに行われます。

- カーブの外側の車線マークに接近したとき
- 高速道路などの車線が広い道路のとき
- システムが切れ目のない車線マークを認識しているとき

以下のときは、振動による警告が遅めに行われます。

- 道路が狭い車線のとき
- カーブの内側の車線マークを超えたとき

以下のときは警告は行なわれません。

- 明確に、かつ意図的にステアリング操作やブレーキ操作、加速操作をしたとき
- きついカーブで車線ラインを超えたとき
- ABS、BAS または ESP® などの走行安全装備が介入したとき
- 方向指示灯を点滅させたとき

このときは、一定時間警告が停止することがあります。

車線修正ブレーキの適用

特定の状況下で車線を外れたとき、車両の片側に軽くブレーキが効きます。これは、車両を元の車線内に戻そうとするものです。

この機能は、約 60km/h ～ 約 200km/h の間で行なわれます。

※ 上記は車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

車線修正ブレーキの適用は、システムが認識できる車線マークを越えて走行した後にのみ行なわれます。これより前に、ステアリングホイールの断続的な振動による警告が必ず行なわれます。加えて、両側に車線マークがある車線であることが認識されていなければなりません。ブレーキの適用により、走行速度がわずかに下がります。

車線修正ブレーキの適用が行なわれたときは、マルチファンクションディスプレイに以下のイラストが表示されます。



- i** 次の車線修正ブレーキの適用は、車両が元の車線に戻った後にのみ、行なわれます。

⚠ 警告

アクティブレーンキーピングアシストは、車両を車線内に維持させるものではありません。運転の補助を行なうためのみに設計されています。運転者の注意についての責任を軽減させるものではありません。修正ブレーキが常に、車両を元の車線に戻すために十分なものであるわけではありません。そのようなときは、車線から出ないために、運転者自身が車両のステアリング操作を行なわなければなりません。

アクティブレーンキーピングアシストは、そのときの交通状況や他の車両などは検知できません。自車と他の車両などや障害物との間に、側面方向の十分な距離があることを常に確認してください。ごくまれに、破線のラインや道路表面にある特定の障害物が、システムに切れ目のない車線マークと検知されることがあります。切れ目のない車線マークを意図的に越えたいときなどは、その方向にステアリング操作を継続することにより、不適切なブレーキ操作を中断させることができます。

アクティブレーンキーピングアシストは、天候状況は考慮しません。

車両の速度、適切なステアリング操作、タイミングに合ったブレーキ操作の責任は運転者にあります。常に、運転スタイルを実際の道路や天候状況に合わせてください。常に交通状況や周囲に注意してください。適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

以下のときは、車線修正ブレーキの適用は行なわれません。

- 明確、かつ意図的にステアリング操作、ブレーキ操作、または加速を行なったとき
- 急なカーブで車線ラインを超えたとき
- 方向指示灯を点滅させているとき
- ESP[®]、PRE-SAFE[®] ブレーキ、アクティブブラインドスポットアシストなどの走行安全装備が介入しているとき
- 速い速度でカーブを走行したり、急加速を行なうなど、スポーティな走行をしているとき
- ESP[®] の機能が解除されているとき
- トランスミッションがポジション D 以外のとき
- タイヤ空気圧が低下しているときや不具合のあるタイヤが検知されて表示されたとき

アクティブレーンキーピングアシストは、道路や交通状況を検知しません。不適切なブレーキの適用は、以下によりいつでも中断できます。

- 進行方向と反対方向に軽くステアリング操作を行なったとき
- 方向指示灯を点滅させたとき
- 明確なブレーキ操作または加速を行なったとき

以下のときは、車線修正ブレーキの適用が自動的に中断されます。

- ESP[®]、PRE-SAFE[®] ブレーキ、アクティブブラインドスポットアシストなどの走行安全装備が介入したとき
- 車線マークが認識されなくなったとき

アクティブレーンキーピングアシストの設定



- ▶ マルチファンクションディスプレイを使用して、アクティブレーンキーピングアシストを設定します (▷145 ページ)。

マルチファンクションディスプレイにマーク ① が表示されます。

約 60km/h 以上の速度で走行していて、車線マークが検知されたときは、マーク ① が強調されます。アクティブレーンキーピングアシストを使用できる準備が整っています。

エアコンディショナー

重要な安全上の注意

⚠ 警告

エアコンディショナーの設定は、以降の説明に従って正しく行なってください。さもないと、ウィンドウが曇ります。これにより交通状況を把握できず、事故の原因になります。

エアコンディショナーは、車内の温度や湿度を制御し、空気中の不快な物質を除去します。

エアコンディショナーはエンジンがかかっているときにのみ作動します。サイドウィンドウやパノラミックスライディングルーフ*を閉じて走行しているときにのみ、最適な作動が行なわれます。

i 外気温度が高いときは、コンビニエンスオープニング機能(▷109ページ)を使用して、車内を一時的に換気してください。これにより、好みの車内温度により早く達することができます。

i エアコンディショナーのフィルター類は定期的な交換が必要です。また、交換時期は使用環境によって異なります。フィルター類が目づまりを起こしていると送風量が減ることがあります。

i エンジンスイッチからキーを抜いた後に約1時間、ACモードが自動的に作動することがあります。その後約30分間、換気が行なわれます。

エアコンディショナー作動表示



COMAND システムがオンのとき、エアコンディショナーの一部のスイッチやダイヤルを操作すると、COMAND ディスプレイ下部に、エアコンディショナーの主な作動内容が数秒間表示されます。

エアコンディショナー作動表示を消す

▶ COMAND コントローラーを操作します。

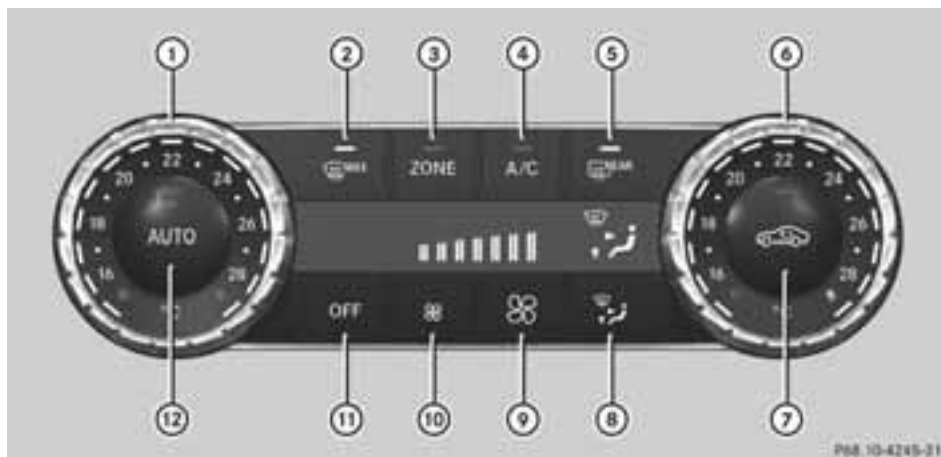
または

▶ COMAND コントロールパネルの **[CLEAR]** ボタン、コントローラー右側の **[C]** スイッチ、コントローラー左側の **[FAN]** スイッチを押します。

※ COMAND ディスプレイの表示内容によっては、エアコンディショナー作動表示が表示されないことがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

コントロールパネル



- ① 温度の設定、左側 (▷203 ページ)
- ② デフロスターの作動 / 停止 (▷205 ページ)
- ③ ゾーン機能の作動 / 停止 (▷204 ページ)
- ④ AC モードの作動 / 解除 (▷202 ページ)
- ⑤ リアデフォグガーの作動 / 停止 (▷206 ページ)
- ⑥ 温度の設定、右側 (▷203 ページ)
- ⑦ 内気循環モードの作動 / 解除 (▷206 ページ)
- ⑧ 送風口の選択 (▷204 ページ)
- ⑨ 送風量を上げる (▷204 ページ)
- ⑩ 送風量を下げる (▷204 ページ)
- ⑪ エアコンディショナーの作動 / 停止 (▷202 ページ)
- ⑫ AUTO モードの設定 (▷202 ページ)

エアコンディショナー使用時の注意

以下には、エアコンディショナーを最も効果的にご使用いただくための指示と推奨が含まれています。

- **AUTO** および **A/C** スイッチを使用してエアコンディショナーを作動させてください。**AUTO** および **A/C** スイッチの表示灯が点灯します。
- 通常は設定温度を 22℃にすることを勧めます。
- デフロスターモードは、フロントウインドウの曇りが取れるまでのみ、一時的に使用してください。
- 内気循環モードは、外気に不快な臭いがあるときやトンネル内でのみ、一時的に使用してください。さもないと、内気循環モードでは外気が車内に送風されないため、ウインドウが曇るおそれがあります。

- ・ゾーン機能は、運転席側の温度設定を助手席側にも適応させるときに使用してください。**[ZONE]** スイッチの表示灯が消灯します。

通常の使い方

エアコンディショナーを作動させる

- ▶ **AUTO** スイッチ **[AUTO]** を押します。

AUTO スイッチ **[AUTO]** の表示灯が点灯し、エアコンディショナーが **AUTO** モードで作動します。

送風口の組み合わせと送風量が自動的に調整されるようになります。

または

- ▶ オフスイッチ **[OFF]** を押します。

オフスイッチ **[OFF]** の表示灯が消灯し、エアコンディショナーが停止前の設定で作動します。

ただし、内気循環モードに設定されていたときは、外気導入モードに設定されます。

- i** リアデフォッガースイッチ以外のエアコンディショナーのスイッチやダイヤルを操作したときも、エアコンディショナーは作動します。

エアコンディショナーを停止する

- ▶ オフスイッチ **[OFF]** を押します。

オフスイッチ **[OFF]** の表示灯が点灯します。

- i** エアコンディショナーが停止しているときは、送風や内気循環も停止します。サイドウィンドウやパノラミックスライディングルーフ*が閉じているときは、エアコンディショナーの停止は一時的にとどめてください。ウィンドウが曇りやすくなります。

AUTO モードの解除

エアコンディショナーが **AUTO** モードで作動しているときに以下の操作を行ないます。

- ▶ 送風量調整スイッチ **[38]** または **[88]** を押します。

AUTO スイッチ **[AUTO]** の表示灯が消灯し、送風量の **AUTO** モードが解除されます。

ディスプレイに送風量インジケータが表示されます。

または

- ▶ 送風口選択スイッチ **[32]** を押します。

AUTO スイッチ **[AUTO]** の表示灯が消灯し、送風口の **AUTO** モードが解除されます。

ディスプレイに送風口インジケータが表示されます。

AC モード

AC モードは、エンジンがかかっているときのみ使用できます。設定温度に応じて、車内の空気が冷房または除湿されます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

AC モードが作動しているとき、除湿された水分は車体下方に排水されます。これは正常であり、故障ではありません。

- i** AC モードで使用される冷媒にはフロンガスが含まれていないため、オゾン層を破壊しません。冷媒に関する情報はメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

AC モードを解除する

- ▶ AC スイッチ  を押します。
AC スイッチ  の表示灯が消灯します。
除湿 / 冷房されていない空気が送風されます。

AC モードに設定する

- ▶ 再度、AC スイッチ  を押します。
AC スイッチ  の表示灯が点灯します。
除湿 / 冷房された空気が送風されます。

警告

AC モードが解除されているときは、車内の空気が除湿または冷房されません。サイドウィンドウやパノラミックスライディングルーフ*が閉じているときに AC モードを解除すると、ウィンドウの内側が曇りやすくなり、交通状況を把握できずに事故の原因になります。

環境

AC モードを解除すると、エンジンへの負担が軽減し、燃費が向上します。

- i** AUTO モードでエアコンディショナーを作動させたときは、自動的に AC モードになります。
- i** AC モードを解除しても、しばらくは除湿 / 冷房された空気が送風されることがあります。

AC モードのトラブル

- AC スイッチ  を押したときに、表示灯が 3 回点滅するか、消灯したままになります。このときは、AC モードに設定することができません。
- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

設定温度の調整

- i** 一度に大幅に設定温度を変更しても、設定温度に達するまでの時間はあまり変わりません。
通常は 22℃ に設定することをお勧めします。
- i** サイドウィンドウやパノラミックスライディングルーフ*が開いていると、設定温度を維持できません。

設定温度を上げる

- ▶ 設定温度調整ダイヤル ①⑥ を時計回りにまわします。

設定温度を下げる

- ▶ 設定温度調整ダイヤル ①⑥ を反時計回りにまわします。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

送風口の選択

- ▶ 送風口選択スイッチ  を押して、送風したい送風口マークをディスプレイに表示させます。

送風口 マーク	主に送風される送風口
	すべての送風口
	フロントウインドウ送風口、サイドウインドウ送風口、中央送風口、サイド送風口、リア中央送風口
	フロントウインドウ送風口、サイドウインドウ送風口、サイド送風口、リア中央送風口
	中央送風口、サイド送風口、リア中央送風口
	サイド送風口、中央送風口、フロント足元送風口、リア中央送風口、リア足元送風口
	サイド送風口、フロント足元送風口、リア中央送風口、リア足元送風口
	フロントウインドウ送風口、サイドウインドウ送風口、サイド送風口、フロント足元送風口、リア中央送風口、リア足元送風口

i 選択した送風口以外の送風口からも、微量の送風が行なわれることがあります。

i 送風口の選択にかかわらず、サイド送風口からは常に送風が行なわれます。サイド送風口からの送風を停止するときは、送風口開閉ダイヤルで送風口を閉じてください。

送風量の調整

送風量の調整

送風量を上げる

- ▶ 送風量調整スイッチ（強） を押します。

ディスプレイに表示される送風量インジケーターの点灯数が増えます。

送風量を下げる

- ▶ 送風量調整スイッチ（弱） を押します。

ディスプレイに表示される送風量インジケーターの点灯数が減ります。

ゾーン機能の作動 / 解除

作動させる

- ▶  スイッチを押します。
-  スイッチの表示灯が点灯します。

運転席側の温度設定は、助手席側には適用されません。

解除する

- ▶  スイッチを押します。
-  スイッチの表示灯が消灯します。

運転席側の温度設定が、助手席側に適用されます。

デフロスターモード

フロントウインドウの外側が凍結しているときや、フロントウインドウまたはサイドウインドウの内側が曇っているときに使用します。

i 曇りが取れたら、すみやかに解除してください。

i デフロスターモードに設定しているときも、送風量を調整することができます。

デフロスターモードに設定する

▶ デフロスタースイッチ  を押します。

デフロスタースイッチ  の表示灯が点灯し、以下の内容でエアコンディショナーが作動します。

- 除湿された空気が送風されます。
- 外気温度によっては、エアコンディショナーの送風量が上がり、送風温度が高くなります。
- フロントウインドウ送風口とサイドウインドウ送風口、サイド送風口を中心に送風されます。
- 内気循環モードが解除されます。

デフロスターモードを解除する

▶ 再度、デフロスタースイッチ  を押します。

デフロスタースイッチ  の表示灯が消灯し、送風温度、送風口の選択、送風量などが元の設定に戻ります。

または

▶ AUTO スイッチ  を押します。

AUTO スイッチ  の表示灯が点灯し、デフロスタースイッチ  の表示灯が消灯します。

エアコンディショナーがAUTOモードで作動します。

または

▶ 設定温度調整ダイヤル ① または ⑥ を操作します。

i デフロスターモードを解除すると、AC モードを解除していたときはACモードに設定され、内気循環モードにしていたときは内気循環モードが解除されます。

フロントウインドウの内側が曇るとき

- ▶ AC スイッチ  を押して、ACモードに設定します。
- ▶ AUTO スイッチ  を押します。
- ▶ 曇りが取れないときは、デフロスターモードに設定します。

フロントウインドウの外側が曇るとき

- ▶ ワイパーを作動させます。
- ▶ 送風口選択スイッチ  を押して、ディスプレイに送風口マーク  または 、 を表示させます。

i 上記の設定は、曇りが取れるまでの間にとどめてください。

リアデフォッガー

リアウインドウの曇りを取るときに使用します。

警告

ウインドウに氷や雪が付着しているときは、運転前にそれらを取り除いて視界を確保してください。事故を起こすおそれがあります。

リアデフォッガーを使用する

- ▶ イグニッション位置が **2** になっていることを確認します。
- ▶ リアデフォッガースイッチ  を押します。
リアデフォッガースイッチ  の表示灯が点灯します。

リアデフォッガーを停止する

- ▶ 再度、リアデフォッガースイッチ  を押します。
リアデフォッガースイッチ  の表示灯が消灯します。

リアデフォッガーは、数分後に自動的に停止します。

- !** 消費電力が大きいので、曇りが取れたら早めに停止してください。
- i** リアデフォッガーが自動的に停止するまでの時間は、外気温度や走行速度により異なります。

リアデフォッガーのトラブル

リアデフォッガーが短時間で停止したり、使用できないときは、以下のようになしてください。

- ▶ 読書灯やルームライトなど、必要でない電気装備を停止してください。
バッテリーの電圧が回復すると、リアデフォッガーは自動的に作動します。

内気循環モード

トンネル内など、空気が汚れた場所で外気を車内に入れたくないときに使用します。

内気循環モードに設定すると、車内の空気が循環されます。

内気循環モードの設定 / 解除に連動して、サイドウインドウやパノラミックスライディングルーフ * を開閉できません。

警告

外気温度が低いときは、内気循環モードの設定は短時間にとどめてください。ウインドウが曇りやすくなり、視界が損なわれ、交通状況を把握することができずに事故の原因になります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ 警告

サイドウィンドウを開閉するとき、身体を挟まれないようにしてください。また、身体や物がサイドウィンドウに触れないようにしてください。サイドウィンドウが作動しているときにサイドウィンドウに引き込まれたり、サイドウィンドウとウィンドウフレームの間に挟まれるおそれがあります。挟まれそうになったときは、サイドウィンドウスイッチを反対の方向に操作してください。

パノラミックスライディングルーフ*を開閉するとき、パノラミックスライディングルーフに身体を挟まれないようにしてください。挟まれそうになったときは、パノラミックスライディングルーフスイッチを反対の方向に操作してください。

内気循環モードに設定する

- ▶ 内気循環スイッチ  を押します。

内気循環スイッチ  の表示灯が点灯します。

または

- ▶ サイドウィンドウやパノラミックスライディングルーフ*が閉じはじめるまで、内気循環スイッチ  を押して保持します。

内気循環モードに設定され、サイドウィンドウやパノラミックスライディングルーフ*が自動で閉じます。

- ① 外気温度が非常に高いときは、自動的に内気循環モードに切り替わりますが、このときは内気循環スイッチ  の表示灯は点灯しません。約 30 分経過すると、一定の割合で外気導入をはじめます。

内気循環モードに設定されていても、一定時間が経過すると以下のように外気導入をはじめます。

外気温度が約 5℃以下 のとき	約 5 分後
AC モードを解除しているとき	約 5 分後
外気温度が約 5℃以上 のとき	約 30 分後

内気循環モードを解除する

- ▶ 再度、内気循環スイッチ  を押します。

内気循環スイッチ  の表示灯が消灯します。

または

- ▶ サイドウィンドウやパノラミックスライディングルーフ*が開きはじめるまで、内気循環スイッチ  を押して保持します。

内気循環モードが解除され、サイドウィンドウやパノラミックスライディングルーフ*が前回開いていた位置まで自動で開きます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

i 内気循環スイッチ  で閉じたサイドウィンドウやパノラミックスライディングルーフ*を別のスイッチで開いた場合、開いたサイドウィンドウやパノラミックスライディングルーフ*を内気循環モードの解除操作に連動して開くことはできません。

i 内気循環モードに設定しているときにACモードを解除すると、自動的に内気循環モードは解除されます。

送風口の調整

重要な安全上の注意

警告

送風口からは、非常に熱い、または非常に冷たい送風が行なわれることがあります。このため、送風口のすぐ近くでは火傷やしもやけの原因になるおそれがあります。これらの送風口から皮膚を離してください。必要であれば、車内の他の場所に送風を向けてください。

暖気が送風されているときは、送風口に身体を近付けたままにしていると低温火傷のおそれがあります。

また、送風温度を高めを設定してあるときは、送風口が過熱して高温になることがあり、火傷をするおそれがあります。

車内の送風口を通して外気を送風するために、以下の点に注意してください。

- フロントウィンドウとボンネットとの間の吸気口が、氷、雪、または葉などで覆われていないこと
- 車内の送風口や排気グリルが覆われていないこと

i 最適な通風を確保するために、送風口を中央の位置に調整してください。

中央送風口の調整



中央送風口を開く

- ▶ いずれかの中央送風口 ① をつまんで、反時計回りにまわします。

中央送風口を閉じる

- ▶ いずれかの中央送風口 ① をつまんで、停止するまで時計回りにまわします。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

サイド送風口の調整



- ① サイドウインドウのデフロスター送風口
- ② サイド送風口

サイド送風口を開く

- ▶ サイド送風口 ② をつまんで、反時計回りにまわします。

サイド送風口を閉じる

- ▶ サイド送風口 ② をつまんで、停止するまで時計回りにまわします。

グローブボックス送風口

エアコンディショナーが作動しているときは、例えば収納物を冷やしておくために、グローブボックス内に送風することができます。

送風量はエアコンディショナーの設定に連動します。

! エアコンディショナーの設定温度を上げるときは、グローブボックス内の送風口を閉じてください。

外気温が高いときは、グローブボックス送風口を開き、エアコンディショナーの AC モードを設定してください。収納物を損傷したり、ガスライターやボンベなどが入っている場合は爆発するおそれがあります。



- ① 開閉ダイヤル
- ② 送風口

開く / 閉じる

- ▶ 開閉ダイヤル ① を時計回り、または反時計回りにまわします。

リア送風口の調整



- ① リア送風口ダイヤル
- ② リア送風口、右
- ③ リア送風口、左

開く / 閉じる

- ▶ ダイヤル ① を上または下にまわします。

パノラミックスライディングルーフ*

重要な安全上の注意

⚠ 警告

パノラミックスライディングルーフを開閉するときは、挟まれるおそれがある人がいないことを確認してください。

挟まれる危険性があるときは、ただちにスイッチを放してください。自動作動の間は、スイッチをいずれかの方向に軽く押して、パノラミックスライディングルーフを停止してください。

⚠ 警告

子供がパノラミックスライディングルーフを操作する場合は、けがをすることがあります。

子供だけを車内に残して車から離れないでください。ごく短時間離れる場合でも、車両から離れるときは常にキーを携帯してください。

⚠ 警告

パノラミックスライディングルーフのガラスは事故のときに割れるおそれがあります。シートベルトを着用していないと、車が横転したときに開口部から投げ出される危険性があります。そのため、けがの危険を減らすために、常にシートベルトを着用してください。

❗ 雪や氷がないときにのみ、パノラミックスライディングルーフを開いてください。さもないと、故障が発生することがあります。

パノラミックスライディングルーフから物が突き出ないようにしてください。さもないと、シール部を損傷するおそれがあります。

i パノラミックスライディングルーフを開いているときは、走行風の影響などで空気の振動が感じられる場合があります。これは車内のわずかな圧力変動によるものです。この音を低減、またはなくすためには、パノラミックスライディングルーフの位置を変更するか、サイドウィンドウを少し開いてください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

パノラミックスライディンググループの操作

パノラミックスライディンググループの開閉



前席上方の操作部

- ① チルトアップする
- ② 開く
- ③ 閉じる / チルトダウンする

- ▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。
- ▶ 対応する方向に、 スイッチを押すか、引きます。

i 抵抗がある位置を越えて  スイッチを操作した場合は、対応する方向に自動開閉作動が始まります。再度操作することにより、自動作動を停止できます。

レインクローズ機能

イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いたときは、以下の場合にパノラミックスライディンググループが自動で閉じます。

- 雨が降りだした場合

- 外気温度が極端に高い、または低い場合
- 約 6 時間後
- 電力供給に故障がある場合

車内を換気するため、パノラミックスライディンググループがチルトアップした状態になります。

i レインクローズ機能で閉じているときにパノラミックスライディンググループの動きが妨げられたときは、再度少し開きます。その後レインクローズ機能は解除されます。

以下の場合、パノラミックスライディンググループは閉じません。

- チルトアップしている場合
- 動きが妨げられた場合
- 車両が橋の下にあるときなど、レインセンサーによりモニターされているフロントウインドウの範囲に雨が落ちない場合

パノラミックスライディンググループの電動サンシェードの操作

全体的な注意事項

電動サンシェードは、車内への日光を遮ります。パノラミックスライディンググループが閉じているときにのみ、2つの電動サンシェードを一緒に開閉することができます。

警告

電動サンシェードを開閉するときは、挟まれるおそれがある人がいないことを確認してください。

開閉



前席上方の操作部

- ① 開く
- ② 開く
- ③ 閉じる

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ 対応する方向に、 スイッチを押すか、引きます。

i 抵抗がある位置を越えて スイッチを操作した場合は、対応する方向に自動開閉作動が開始します。再度操作することにより、自動作動を停止できます。

パノラミックスライディングルーフおよび電動サンシェードのリセット

パノラミックスライディングルーフやフロントの電動サンシェードがスムーズに作動しない場合は、以下のようにパノラミックスライディングルーフと電動サンシェードをリセットしてください。

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ パノラミックスライディングルーフが約 10cm 開くまで、抵抗がある位置まで スイッチを矢印 ② の方向に押して保持します。

▶ パノラミックスライディングルーフが完全に閉じるまで、抵抗がある位置まで スイッチを矢印 ③ の方向に繰り返し引きます。

▶ さらに 2 秒間 スイッチを引いたままにします。

▶ パノラミックスライディングルーフが約 10cm 開くまで、抵抗がある位置まで スイッチを矢印 ② の方向に押して保持します。

▶ パノラミックスライディングルーフが完全に閉じるまで、抵抗がある位置まで スイッチを矢印 ③ の方向に繰り返し引きます。

▶ さらに 2 秒間 スイッチを引いたままにします。

▶ パノラミックスライディングルーフ (▷211 ページ) と電動サンシェード (▷212 ページ) が再度完全に開閉することを確認します。

▶ そのような状況でない場合は、上記の手順を再度繰り返してください。

! リセットした後に、パノラミックスライディングルーフまたは電動サンシェードが完全に開閉しない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

パノラミックスライディンググループのトラブル

トラブル：パノラミックスライディンググループを閉じることができず、原因がわからないとき

警告

強い閉じる力でパノラミックスライディンググループを閉じるとき、または挟み込み防止機能が解除されている場合は、重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。パノラミックスライディンググループを閉じるときは、挟まれるおそれがある人がいないことを確認してください。

閉じている間にパノラミックスライディンググループが妨げられ、再度少し開く場合は、以下のようにしてください。

- ▶ パノラミックスライディンググループが妨げられた後に、パノラミックスライディンググループが閉じるまで、ただちに前席上方の操作部の  スイッチを抵抗がある位置まで引き下げて保持します。

強い力でパノラミックスライディンググループが閉じます。

閉じている間にパノラミックスライディンググループが再度妨げられて、再度少し開く場合は、以下のようにしてください。

- ▶ パノラミックスライディンググループが妨げられた後に、パノラミックスライディンググループが閉じるまで、ただちに前席上方の操作部の  スイッチを抵抗がある位置まで引き下げて保持します。

挟み込み防止機能がない状態で、パノラミックスライディンググループが閉じます。

荷物の積み方 / 小物入れ

荷物を積むときの注意点

警告

荷物を積むときは、以降に記載されている注意点を守り、確実に固定してください。急ブレーキや急な進路変更時、事故のときなどに前方に投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

" 荷物の固定方法 " もご覧ください。

また、荷物を積むときの注意点を守ったとしても、荷物を積むことにより、事故などのときに乗員がけがをする可能性は高まります。

警告

エンジンをかけた状態でテールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

荷物の積み方は車の走行安定性に大きく影響します。以下の点に注意してください。

- 荷物の重量が、制限重量(▷339 ページ)を超えないようにしてください。
- 重い物は車の中心近く（ラゲッジルームの前方）の低い位置に積み、確実に固定してください。
- 荷物を車内に積むときは、シートのバックレストより高く積み上げないでください。
- ラゲッジルームに荷物を積むときは、リアシートまたはフロントシートのバックレストに接するようにしてください。
- 強度の十分な荷物固定用ストラップなどを使用して、荷物を確実に固定してください。
- なるべく乗員のいない席の後方に荷物を積んでください。
- 鋭い角のある荷物は、角の部分にカバーをしてください。
- 重量が偏らないよう均等に積んでください。
- 燃料を入れた容器やスプレー缶などを積まないでください。引火や爆発のおそれがあります。
- ウィンドウに荷物が当たらないようにしてください。ウィンドウガラスを損傷したり、リアデフォグガーの熱線やアンテナなどを損傷するおそれがあります。

i 荷物固定用のアクセサリーは Daimler AG の推奨品の使用をお勧めします。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

小物入れ

警告

荷物が収納されているときは、小物入れを必ず閉じてください。また、収納ネットは重い荷物を固定するためには設計されていません。

以下のときに荷物が投げ出されて乗員がけがをするおそれがあります。

- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時
- 事故のとき

収納ネットには、鋭利な角のある物やこわれやすい物を入れて運搬しないでください。

収納ポケットには、かたい物を入れて運搬しないでください。また収納ポケットの上部から、物がはみ出ないようにしてください。

! 小物入れのカバーが閉じなくなるような大きな物を小物入れに入れないでください。小物入れや収納物を損傷するおそれがあります。

! 小物入れには食料品を収納しないでください。

! 貴重品は小物入れに保管しないでください。

グローブボックス



グローブボックスを開く

- ▶ ハンドル ① を引きます。

グローブボックスを閉じる

- ▶ カバー ② を押してロックさせます。



キーシリンダーにエマージェンシーキーを差し込んでグローブボックスを施錠 / 解錠できます。

グローブボックスを施錠する

- ▶ エマージェンシーキーを差し込んで施錠位置 ② にまわします。

グローブボックスを解錠する

- ▶ エマージェンシーキーを差し込んで解錠位置 ① にまわします。

- i** グローブボックス内に送風することができます (▷209 ページ)。

センターコンソールの小物入れ



開く

- ▶ カバー ① を矢印の方向にスライドします。

フロントアームレストの小物入れ



フロントアームレストを開く

- ▶ 左右にあるボタン ① または ② を押します。

アームレストカバーが左右に開きます。

- i** フロントアームレスト内には 2 か所に小物入れがあります。前部の小物入れのトレーは取り外すことができます。

i フロントアームレストの小物入れ内には、USB インターフェース用端子とメディアインターフェース用端子があります。メディアインターフェースは、iPod® や USB 機器などのポータブル音楽機器のための接続端子です。詳しくは別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

リアアームレストの小物入れ



- ▶ リアアームレスト ② を引き出します。
- ▶ ハンドルを持ってアームレストのカバー ① を開きます。

! リアアームレストを収納するときには、アームレストカバーを閉じてから収納してください。再度リアアームレストを引き出すときに、アームレストのカバーやシートを損傷するおそれがあります。

シートポケット



フロントシートの背面にシートポケット ① があります。

⚠ 警告

シートポケットには、重い物やかたい物、ビンや缶、割れやすい物、鋭利な形状の物を入れないでください。また、シートポケットから収納物がはみ出さないようにしてください。

収納ネット

⚠ 警告

収納ネットには、重い物やかたい物、ビンや缶、割れやすい物、鋭利な形状の物を入れないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに収納物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

助手席足元とラゲッジルーム内左側に収納ネットがあります。

分割可倒式リアシート

リアシートのバックレストの左右いずれか一方、または両方を倒すことができます。

⚠ 警告

ラゲッジルームに重い荷物やかたい荷物を積載するときは、確実に固定してください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

⚠ 警告

エンジンをかけた状態でテールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

! リアシートのバックレストを前方に倒した状態でフロントシートを後方に動かしたり、フロントシートのバックレストを後方に倒すときは、リアシートに当たらないように注意してください。シートを損傷するおそれがあります。

i フロントシートを大きく後方に動かしたり、フロントシートのバックレストを大きく後方に倒すときは、リアシートのヘッドレストを取り外してください。

i 必要のないときは、リアシートのバックレストを起こしてロックしてください。

バックレストを倒す



▶ リアシートのヘッドレストを最も低い位置にします。

▶ フロントシートが後方の位置にあるときは、フロントシートを前方に移動します。

また、フロントシートのバックレストが後方に倒れているときは、前方に起こします。

! リアシートのバックレストを前方に倒す前に、リアシートのヘッドレストが最も低い位置になっていることを確認してください。ヘッドレストやフロントシートなどを損傷するおそれがあります。

▶ ロック解除レバー ② を引きます。
バックレストのロックが解除されます。

▶ バックレスト ① を前方に倒します。

▶ フロントシートを動かしたときは、フロントシートの位置を調整します。

バックレストを起こす



- ① バックレスト
- ② ロックインジケーター
- ③ ロック解除レバー

- ▶ フロントシートが後方の位置にあるときは、フロントシートを前方に移動します。

また、フロントシートのバックレストが後方に倒れているときは、前方に起こします。

- ▶ バックレスト ① を起こしてロックします。

! バックレストを起こすときは、シートベルトが挟まれていないことを確認してください。

- ▶ ロックインジケーター ② が見えない状態になっていることを確認します。

警告

バックレストを元の位置に戻したときは、バックレストが確実にロックされ、ロックインジケーター ② が見えない状態になっていることを確認してください。

ロックインジケーター ② が見えていたときは、バックレストは確実にロックされていません。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

- ▶ 必要であれば、リアシートのヘッドレストの高さを調整します。
- ▶ フロントシートを動かしたときは、フロントシートの位置を調整します。

荷物の固定

荷物固定用リング

警告

- 荷物固定用リングには均等に力がかかるようにしてください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。
- 荷物固定用のストラップなどを、リアシートバックレスト背面のテザーアンカー (p.50 ページ) につけないでください。

荷物を固定するときは、以下の点に注意してください。

- 荷物固定用リングを使用して、荷物を固定してください。
- 伸縮性のあるストラップやネットは軽い荷物の移動を防ぐためのものです。これらを使用して荷物を固定しないでください。
- 固定用具が荷物のとがった部分や角に当たらないようにしてください。
- 鋭い角のあるものは、角の部分にカバーをしてください。

ラゲッジルームに 4 個、リアシート足元に 2 個の荷物固定用リングがあります。

※ リアシート足元の荷物固定用リングは、日本仕様には装備されない場合があります。



① ラゲッジルームの荷物固定用リング



① リアシート足元の荷物固定用リング

バッグホルダー

⚠ 警告

バッグホルダーには軽い荷物のみを掛けてください。重い物やとがった物、壊れやすい物をかけないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

! バッグホルダーには、約 5kg 以上の荷物をかけないでください。また、荷物固定のためには使用しないでください。



ラゲッジルームの左側 2 カ所と右側 1 カ所にバッグホルダーがあります。

ラゲッジルームカバー

⚠ 警告

ラゲッジルームカバーは、荷物の移動を防ぐものではありません。ラゲッジルームカバーを使用しているときも、ラゲッジルームの荷物は確実に固定してください。

急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

! ラゲッジルームに荷物を積むときは、ラゲッジルーム左右のウィンドウ下端よりも高い位置に荷物を積み上げないでください。

! ラゲッジルームカバーの上に重い荷物を置かないでください。ラゲッジルームカバーを損傷するおそれがあります。

i ラゲッジルームカバーの後端部を上方に約 45 度傾けることができます。

ラゲッジルームカバーを使用する



▶ ラゲッジルームカバー ① を引き出し、後端部を左右の取り付け部にかけます。

ラゲッジルームカバーを収納する

▶ ラゲッジルームカバー ① を左右の取り付け部から取り外し、前方にゆっくり巻き取らせます。

ラゲッジルームカバーの取り外し / 取り付け



ラゲッジルームカバーを取り外す

- ▶ ラゲッジルームカバー ① が収納されていることを確認します。
- ▶ ラゲッジルームカバー右側下部のハンドル ② を左側に押します。
- ▶ ラゲッジルームカバー ① を取り外します。

ラゲッジルームカバーを取り付ける

- ▶ ラゲッジルームカバー ① の左側を取り付け部に差し込みます。
- ▶ ハンドル ② を左側に押します。
- ▶ ラゲッジルームカバー ① の右側を取り付け部に差し込みます。

セーフティネット

⚠ 警告

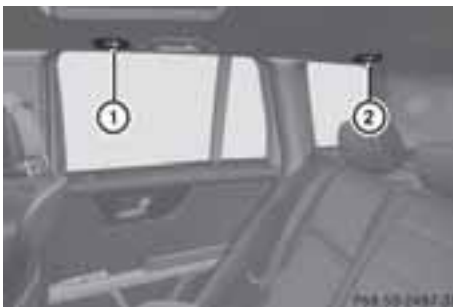
セーフティネットが上下の取り付け部に確実に固定されていることを確認してください。

損傷したセーフティネットは使用しないでください。

セーフティネットは重い荷物の移動を防ぐことはできません。重い荷物を積載するときは、確実に固定してください。

急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が前方に投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

セーフティネットの取り付け位置



セーフティネットはフロントシートの後方*、またはリアシートの後方に取付けることができます。

※ セーフティネットは、日本仕様には装備されない場合があります。

フロントシート後方に取り付ける*

- セーフティネット上部のロッドを、フロントシート後方の取り付け位置①に取り付けます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

- セーフティネット下部のフックを、リアシート足元の荷物固定用リング*に取り付けます (▶219 ページ)。

リアシート後方に取り付ける

- セーフティネット上部のロッドを、リアシート後方の取り付け位置②に取り付けます。
- セーフティネット下部のフックを、ラゲッジルーム前方の荷物固定用リングに取り付けます (▶219 ページ)。

セーフティネットは、ラゲッジフロアボード下に収納されています (▶223 ページ)。

- ▶ 両方のベルクロストラップを開き、セーフティネットを取り外します。
- ▶ セーフティネットを払って展開します。

セーフティネットの上下のバーは、カチッという音がするまで確実にロックさせてください。

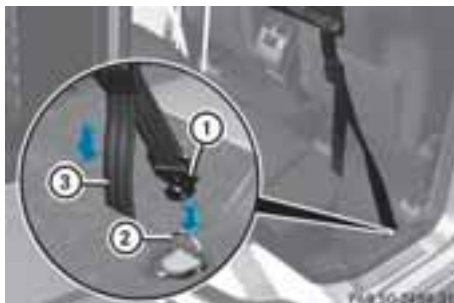
セーフティネットの取り付け



フロントシート後方に取り付けるとき

- ▶ 取り付け部 ① にセーフティネットのロッド ② を矢印の方向に差し込みます。
- ▶ ロッド ② を取り付け部 ① の前方に押し込んで固定します。

セーフティネットの締め付け



フロントシート後方に取り付けるとき

- ▶ リアシート足元の荷物固定用リング ② にフック ① を矢印の方向にかけます。
- ▶ セーフティネットが締め付けられるまで、ベルト ③ の端部を矢印の方向に引きます。
- ▶ 少しの間走行した後、ベルトがゆるんでいないことを確認します。ベルトがゆるんでいるときは、ベルトの端部を引き、ベルトを締めます。

セーフティネットを緩める



フロントシート後方に取り付けたとき

- ▶ アジャスター ① を矢印の方向に引き上げて、ベルトをゆるめます。
- ▶ 荷物固定用リング ③ からフック ② を外します。

セーフティネットの取り外しと収納

- ▶ ロッド ② を押し縮めながら、ロッドの端部を取り付け部 ① から取り外します (▷221 ページ)。
- ▶ セーフティネットの上下のバーにあるロック解除ボタンを押します。
- ▶ セーフティネットを折りたたんで包みます。走行中のノイズを避けるため、アジャスターとフックをセーフティネットの中に入れた状態で包みます。
- ▶ セーフティネットをラゲッジフロアボード下のラゲッジトレイ ⑥ (▷223 ページ) に収納します。

テールゲートのコートフック

⚠ 警告

テールゲートのコートフックには重い物をかけないでください。重みでテールゲートが閉じ、身体が挟まれてけがをするおそれがあります。

テールゲートフックには軽い衣類のみをかけてください。



① テールゲートのフック

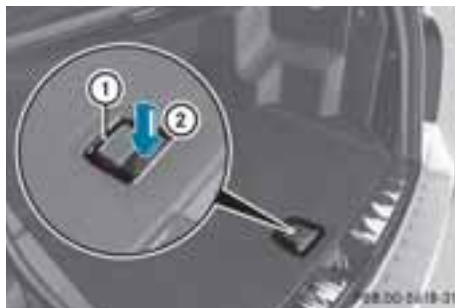
ラゲッジフロアボード下の収納スペース

⚠ 警告

ラゲッジフロアボードが開いているときは決して走行しないでください。

急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに収納物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

セーフティネットや応急用スペアタイヤなどは、ラゲッジフロアボードの下に収納されています。



ラゲッジフロアボードを開く

- ▶ テールゲートを開きます。
- ▶ ハンドル①の矢印の部分を押して、ハンドルを起こします。
- ▶ ハンドル①を持って、ラゲッジフロアボード②を引き上げます。



- ▶ ラゲッジフロアボードの背面からフック③を外します。



- ▶ フック③をテールゲート開口部④の上部にかけます。

i 小物入れ ⑤ には小さい物や軽い物を収納することができます。

! フックをテールゲート開口部の上部にかけたままテールゲートを閉じないでください。テールゲートやフックを損傷します。

ラゲッジフロアボードを閉じる

- ▶ テールゲート開口部 ④ の上部からフック ③ を外します。
- ▶ フック ③ をラゲッジフロアボードの背面に固定します。
- ▶ ラゲッジフロアボードを下げます。
- ▶ ラゲッジフロアボード ② がロックされるまで、ラゲッジフロアボードを押し下げます。

ルーフラック

警告

- 誤った取り付け方によってルーフラックやスキーラック、収納物などが脱落すると、乗員がけがをしたり、事故の原因になります。ルーフラックやスキーラックを取り付けるときは、製品に添付されている取扱説明書に従ってください。
- ルーフの最大積載量（約 75kg）を超えないよう注意してください。また、ルーフに荷物を積んでいるときは、車の重心位置が変化し、走行安定性に影響を与えます。路面や交通、天候に合わせた運転を行ってください。

警告

ルーフキャリアを取り付けているときは、パノラミックスライディングルーフ * を閉じてください。乗員がけがをするおそれがあります。

! 推奨品以外のルーフラックを取り付けると車を損傷するおそれがあります。

ルーフラックを取り付けるとき、また、ルーフラックに荷物を積んだときは下記に注意してください。車を損傷するおそれがあります。

- ルーフ後部のアンテナに接触しないこと
- パノラミックスライディングルーフ * を開いたときに接触しないこと
- テールゲートを開いたときに接触しないこと

ルーフラックの取り付け

- ▶ 注意しながらルーフラックをルーフレールに固定します。
- ▶ 製品に添付の取扱説明書の指示に従ってください。

i ルーフラックは Daimler AG の推奨品の使用をお勧めします。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

室内装備

カップホルダー

重要な安全上の注意

 警告

走行中はカップホルダーを閉じ、使用しないでください。以下のときに物が投げ出されて、乗員がけがをす
るおそれがあります。

- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時
- 事故に巻き込まれたとき

カップホルダーのサイズに合ったフタ付きの容器を使用してください。飲み物がこぼれるおそれがあります。熱い飲み物のためにカップホルダーを使用しないでください。火傷をす
るおそれがあります。

! カップホルダーに飲み物を置くと
きは、スイッチや電装品などに飲み
物をこぼしたり、結露した水滴が垂
れないように注意してください。

スイッチや電装品などを損傷した
り、ショートして発火するおそれが
あります。

センターコンソールのカップホルダー



① カップホルダー

リアアームレストのカップホルダー

! アームレストの上に座ったり、寄りかからないでください。アームレストを損傷するおそれがあります。

! アームレストを元の位置に戻す前に、カップホルダーを収納してください。カップホルダーやシートなどを損傷するおそれがあります。



カップホルダーを使用する

- ▶ リアアームレストを引き出して、カバーを開きます。
- ▶ ロック解除ボタン ① を押します。
カップホルダー ② が前方に展開します。

- i** カップホルダーを使用しているときも、アームレストのカバーを閉じることができます。

カップホルダーを収納する

- ▶ リアアームレストのカバーが開いている状態のときに、カップホルダー ② を元の位置に戻してロックします。

サンバイザー

警告

走行中はバニティミラーのカバーを閉じてください。眩惑により事故を起こすおそれがあります。



- ① 照明
- ② フック
- ③ クリップ
- ④ バニティミラー
- ⑤ バニティミラーカバー

前方からの眩しさを防ぐ

- ▶ サンバイザーを下げます。

横方向からの眩しさを防ぐ

- ▶ サンバイザーを下げます。
- ▶ サンバイザーをフック ② から外します。
- ▶ サンバイザーを横にまわします。

! サンバイザーを横にまわすときは、バニティミラーカバー ⑤ を閉じてください。バニティミラーカバーやルーフ内張りを損傷するおそれがあります。

バニティミラー

バニティミラーを使用する

- ▶ サンバイザーを下げます。
- ▶ バニティミラーカバー ⑤ を上方に開きます。

照明 ① が点灯します。

使用後はバニティミラーカバーを閉じます。

- i** 照明 ① はサンバイザーがフックにかかっているときに点灯します。

灰皿

フロントの灰皿

! 灰皿下部の収納スペースには耐熱性がありません。火がついたたばこを灰皿に置く前に、灰皿が確実に固定されていることを確認してください。さもないと、収納スペースを損傷するおそれがあります。



開く

- ▶ カバー ① を前方にスライドさせます。

取り外す

- ▶ 灰皿 ③ のカバーを開きます
- ▶ 灰皿 ③ の側面を持ち、矢印 ② の方向に引き上げて取り外します。

取り付ける

- ▶ ホルダーの中に、固定されるまで灰皿 ③ を押し込みます
- ▶ 灰皿 ③ のカバーを閉じます

閉じる

- ▶ カバー ① を後方に引きます。

リアの灰皿



灰皿を開く / 閉じる

- ▶ カバー ② の上端を持って開きます。
閉じるときはカバーを押します。

灰皿を取り外す

- ▶ 解除ボタン ③ を押して、灰皿 ① を取り出します。

灰皿を取り付ける

- ▶ 灰皿 ① を元の位置に合わせ、いっぱいまで押し込みます。

ライター

⚠ 警告

ライターは必ずノブの部分を持ってください。金属部を持つと火傷をするおそれがあります。

安全のため、子供を乗車させるときはライターを抜き取ってください。

- ❗ ライターを使用するときは、以下の点に注意してください。ライターを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。

- ライターを押し込んだ後、押さえ続けしないでください。
- 赤熱部に灰や異物が付着したまま使用しないでください。
- ライターを改造したり、純正品以外のライターを使用しないでください。

! ライターが戻らなくなったときは、エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にして、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。



- ▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

開く

- ▶ カバー ① を前方にスライドさせます。
- ▶ ライター ② を押し込みます。
熱せられると、ライター ② は元の位置に戻ります。
- ▶ ライター ② を引き抜きます。
使用後は灰皿に灰を落とし、元の位置に戻します。

閉じる

- ▶ カバー ① を後方に引きます。

12V 電源ソケット

使用する際の注意点

ソケットは最大消費電力 180W (15A) のアクセサリに使用できます。アクセサリには、照明や携帯電話の充電器のような機器が含まれます。

エンジンが停止しているときに、ソケットを長時間使用すると、バッテリーが放電することがあります。

- ▶ イグニッション位置を **1** または **2** の位置にします。

i 非常時の遮断機能により、バッテリー電圧の過度の低下を防ぎます。バッテリー電圧が過度に低下したときは、12V 電源ソケットへの電力が自動的に遮断されます。これにより、エンジン始動用の十分な電力が確保されます。

リアの 12V 電源ソケット



- ▶ カバー ② の上端を持って開きます。
- ▶ 12V 電源ソケットのカバー ① を開きます。

ラゲッジルームの 12V 電源ソケット



- ▶ 12V 電源ソケットのカバー ① を開きます。

アシストグリップ

各サイドウインドウの上方にアシストグリップがあります。コーナリング時の姿勢保持などに使用します。

リアのアシストグリップには、コートフックが装備されています。

⚠ 警告

SRS ウィンドウバッグの作動を妨げたり、作動時に物が飛んで乗員がけがをするおそれがありますので、以下の点に注意してください。

- アシストグリップにハンガーやアクセサリなど物をかけないでください。
- コートフックには軽く柔らかい衣服以外の物をかけないでください。
- コートフックを使用するときは、ハンガーなどを使用せず、衣服を直接かけてください。

❗ アシストグリップにぶらさがったり、必要以上の大きな荷重をかけないでください。アシストグリップを損傷するおそれがあります。

❗ 運転者は運転中にアシストグリップを使用しないでください。

❗ コートフックを使用するときは、衣服が運転者の視界の妨げにならないように注意してください。

フロアマット

⚠ 警告

- 運転席のフロアマットを使用するときは、ペダルとの間に十分な空間があり、確実に固定されていることを確認してください。
- フロアマットは、フロアの凸部とフロアマットの凹部で確実に固定してください。
- 走行前にフロアマットが確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、フロアマットが滑ったり、ペダル操作を妨げるおそれがあります。
- 運転席のフロアマットを重ねて使用しないでください。



フロントシートのフロアマットを取り付ける

- ▶ フロントシートを後方に動かします。
- ▶ フロアマットを敷きます。
- ▶ フロアマットの凹部 ① を押し、フロアの凸部 ② にはめ込みます。

フロントシートのフロアマットを取り外す

- ▶ フロアの凸部 ② からフロアマットを取り外します。

慣らし運転.....	232
燃料の給油.....	232
エンジンルーム.....	237
タイヤとホイール.....	242
走行時の注意.....	251
メンテナンス.....	257
日常の手入れ.....	259



慣らし運転

重要な安全上の注意

新品のブレーキパッド / ライニングは、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは制動性能を完全には発揮できません。この期間は、必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏み、制動力を補ってください。また、ブレーキディスクやブレーキパッド / ライニングの交換を行なったときも同様です。

最初の約 1,500km まで

最初から十分注意してエンジンを取り扱うことにより、その後、将来にわたって安定した性能を維持することができま

- 最初の約 1,500km までは、速度と回転数を変えて走行してください。
- この期間は、フルスロットルでの走行など、車両への過度の負担は避けてください。
- エンジン回転数がタコメーターのレッドゾーン（許容限度）の 2/3 を超えないように、適切なギアシフト操作を行なって走行してください。
- マニュアルギアシフトでのシフトダウン操作によりエンジンブレーキを効かせないでください。
- アクセルペダルをいっぱいまで踏み込む操作は避けてください（キックダウン）。
- ギアレンジ位置 **3**、**2** または **1** は山道などを低速で走行するときだけに使用してください。

走行距離が 1,500km を超えたら、エンジン回転数を徐々に高回転まで上げてください。

- i** エンジンや駆動系部品の交換を行なったときも、慣らし運転を行なってください。

燃料の給油

燃料を給油する

 警告

給油するときは、必ずエンジンを停止してください。また、周囲に燃料があるときや燃料の匂いがするときは、決して火気を近付けないでください。火災が発生するおそれがあります。

 警告

燃料は可燃性の高い物質です。燃料を取り扱うときは、火を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。

燃料を給油する前に、エンジンを停止してください。

 警告

肌や衣服に燃料が付着しないように注意してください。燃料が肌に直接触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康を害するおそれがあります。

！ 燃料を給油するときは、以下の点に注意してください。

- 燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪なガソリン、指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用すると、エンジンなどを損傷するおそれがあります。
- 燃料の添加剤は、純正品または承認されている製品のみを使用してください。故障の原因になります。
- 燃料に軽油を使用したり、無鉛プレミアムガソリンに混ぜて使用しないでください。少量を混ぜただけでもエンジンなどを損傷するおそれがあります。また、このような場合は保証の適用外になります。
- 誤って軽油を給油してしまった場合は、決してエンジンを始動しないでください。軽油が燃料系部品全体にまわるおそれがあります。誤って給油した場合はメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
- 目的地まで余裕をもって走れるように、十分な量を給油してください。
- 燃料給油口には、純正品以外のキャップを使用しないでください。

！ セルフ式のガソリンスタンドなどで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。

- エンジンを停止して、ドアやサイドウインドウなどを閉じてください。
- 燃料給油口を開くことから始まる一連の給油作業は、必ずひとりで行ってください。
- 給油作業をする人以外は燃料給油口に近付かないでください。
- 給油作業をする人は、作業の前に金属部分に触れるなどして身体の静電気を除去してください。
身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火したり、火傷をするおそれがあります。
- 作業中は車内に戻らないでください。帯電するおそれがあります。
- キャップの取り外し / 取り付けは確実にしない、火気を近づけないようにしてください。
- 燃料が塗装面に付着しないように注意してください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 給油ノズルは給油口の奥まで確実に差し込んでください。

- 給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料漏れのおそれや、エンジンが不調になったり停止するおそれがあります。
- 手動で給油しているときは、状況を見ながら、給油の勢いを強くしないでゆっくりと給油してください。燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を遵守してください。

i 燃料給油フラップの裏側に、タイヤ空気圧ラベル ③ が貼付してあります。タイヤ空気圧ラベルの見かたについては (▶247 ページ) をご覧ください。

i リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で燃料給油フラップが解錠されないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

i 車を施錠する前に燃料給油フラップを閉じてください。施錠後に燃料給油フラップを閉じようとしても、ロックピンにより、燃料給油フラップが閉じなくなります。



- ① 燃料給油フラップ
- ② ホルダー
- ③ タイヤ空気圧ラベル
- ④ 燃料種別表示ラベル

燃料給油フラップは、リモコン操作またはキーレスゴー操作 * での解錠 / 施錠に連動して解錠 / 施錠されます。

燃料給油口は車体の右側後方にあります。また、メーターパネルには給油口の位置を示す  が表示されています。

給油口を開いて給油する

- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、エンジンスイッチからキーを抜きます。

または

- ▶ エンジンスイッチにキーレスゴースイッチ * を取り付けているときは、運転席ドアを開き、イグニッション位置を **0** にします。

再び運転席ドアを閉じても、イグニッション位置は **0** のままになります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

- ▶ 燃料給油フラップ①の矢印の位置を押します。

燃料給油フラップ①が少し開きます。

- ▶ 燃料給油フラップ①をいっぱいまで開きます。

- ▶ キャップを反時計回りに少しゆるめて、タンク内の圧力を抜きます。

圧力が抜けたら、さらに反時計回りにまわして取り外します。

- ▶ 外したキャップを燃料給油フラップ①の裏側にあるホルダー②に置きます。

- ▶ 給油ノズルを給油口にいっぱいまで差し込み、給油を開始します。

給油ノズルが最初に自動停止した時点で給油を停止してください。

- ❗ 給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料漏れのおそれや、エンジンが不調になったり停止するおそれがあります。

給油口を閉じる

- ▶ キャップを燃料給油口に合わせ、ロックされた音が聞こえるまで時計回りにいっぱいまでまわします。

- ▶ 燃料給油フラップ①を閉じます。

燃料と燃料タンクのトラブル

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
車から燃料が漏れている。	燃料供給システム、または燃料タンクに問題がある。  警告 ▶ ただちにイグニッション位置を 0 にして、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
燃料給油フラップが開かない。	燃料給油フラップが解錠されていない。 または キーの電池が消耗している。 ▶ リモコン操作またはエマージェンシーキーで車を解錠してください（▷68、298 ページ）。 燃料給油フラップは解錠されるが、給油フラップの開閉機構に異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

エンジンルーム

ボンネット

ボンネットを開く

 警告

走行中はボンネットロック解除レバーを引かないでください。ボンネットが開いて、視界が遮られるおそれがあります。

 警告

エンジンがかかっていないときでも、ボンネットが開いているとけがの危険性があります。

いくつかのエンジン構成部品が高温になっているおそれがあります。

火傷の危険性を避けるため、取扱説明書に記載されている構成部品にのみ触れ、関連する安全に関する注意事項を守ってください。

 警告

ラジエーターとエンジンの間にあるラジエーターファンは、エンジンスイッチからキーを抜いてあるときでも自動的に作動するおそれがあります。この理由により、ファンの回転範囲には手を伸ばさないでください。

 警告

電子式イグニッションシステムは高電圧を使用しています。この理由により、以下の間は、イグニッションシステムの構成部品（イグニッションコイル、イグニッションケーブル、点火プラグコネクタ、またはテストソケット）に触れないでください。

- エンジンがかかっている
- エンジンを始動している

さもないと、感電したり、重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。

- ▶ フロントワイパーが停止していることを確認します。

 警告

フロントワイパーやワイパーの作動部品が動き出すおそれがあります。

ボンネットを開くときは、お客様や他の方がワイパーの作動部品でけがをするおそれがあります。

ワイパーが停止していることを確認してください。エンジンスイッチからキーを抜くか、キーレスゴー * でイグニッションがオフになっていることを確認してください。メーターパネルのすべての表示灯が消灯していなければなりません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。



- ▶ 運転席側のインストルメントパネル下にあるボンネットロック解除レバー ① を手前に引きます。

! ワイパーアームを起こしたままボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが当たり、損傷するおそれがあります。



- ▶ ボンネットの裏側にあるロック解除ノブ ② を矢印の方向に押し上げながらボンネットを開きます。

ボンネットを約 40cm ほど持ち上げると、ガス封入式ダンパーによりボンネットは自動的に開き、保持されます。

ボンネットを閉じる

警告

ボンネットを閉じるときに、挟まれるおそれのある人がいないことを確認してください。

- ▶ ボンネットを引き下げ、グリル上部から約 20cm の位置で押し下げて閉じます。
- ▶ ボンネットが確実に閉じていることを確認します。

完全に閉じなかったときは、もう一度ボンネットを開き、同じ方法で少し強めに閉じます。

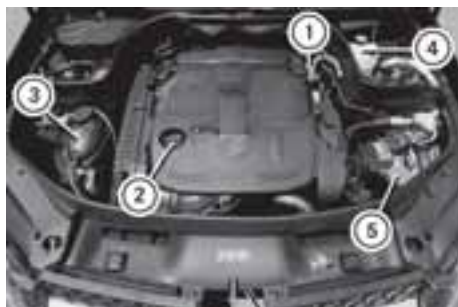
エンジンルーム

警告

- イグニッションシステムおよびバイセノンヘッドライトのバルブソケットや配線に手を触れないでください。高電圧が発生しているため、感電するおそれがあります。
- エンジンスイッチからキーを抜いて、イグニッション位置が **0** のときでも、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部には身体や物を近付けないでください。

🌿 環境

環境保護のため、オイルなどの各種の油脂類やフルード類の交換および廃棄は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。



- | | |
|---|------------------|
| ① | エンジンオイルレベルゲージ |
| ② | エンジンオイルフィルターキャップ |
| ③ | 冷却水リザーブタンク |
| ④ | ブレーキ液リザーブタンク |
| ⑤ | ウォッシャー液リザーブタンク |

エンジンルーム内の手入れ

手作業で拭いてください。火傷や感電に注意してください。

エンジンルームには多くの電気装備があり、水分や湿気を嫌います。水をかけたり、スチーム洗浄をしないでください。

エンジンオイル

エンジンオイル量に関する注意

運転スタイルより、1,000kmにつき最大で約 0.8 リットルのエンジンオイルが消費されます。新車時やエンジンを高回転にして頻繁に運転しているときは、エンジンオイル消費量はこれより多くなることがあります。

エンジンオイル量を点検するときは、以下の点に注意してください。

- 水平な場所に停車します。
- エンジンが通常の作動温度のときは、エンジンを約 5 分間停止します。
- エンジンを短時間のみかけたときなど、通常の作動温度でないときは、測定を行なう前に約 30 分間待ちます。

エンジンオイルレベルゲージを使用し てのオイル量の点検



- ▶ 水平な場所に停車します。

通常の作動温度のエンジンでオイル量を確認するためには、エンジンを停止して、約 5 分間待ってください。

- ▶ エンジンオイルレベルゲージのチューブからエンジンオイルレベルゲージ ① を抜きます。

▶ エンジンオイルレベルゲージ ① を拭きます。

▶ エンジンオイルレベルゲージ ① を、ガイドチューブにいっぱいまでゆっくりに差し込み、再度抜きます。

オイル量が MIN マーク ③ と MAX マーク ② との間であれば、オイル量は正常です。

▶ エンジンオイル量が下限かそれ以下のときは、エンジンオイルを約 1.0 リットル補給します。

エンジンオイルを補給する

警告

エンジンオイルが熱くなったエンジン部品に触れると、発火して火傷をするおそれがあります。エンジンオイルを熱くなったエンジン部品にこぼさないでください。

環境

エンジンオイルを補給するときは、こぼさないように注意してください。エンジンオイルが地面や排水溝に流れると、環境に悪影響を与えます。

❗ 車両の点検整備用として承認された、エンジンオイルとオイルフィルターのみを使用してください。メルセデス・ベンツによりテストされ、承認されたエンジンオイルやオイルフィルターについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

以下のことが、エンジンや排気システムの損傷の原因になります。

- 点検整備用として承認されていないエンジンオイルとオイルフィルターを使用すること
- 点検整備により要求されている交換時期を過ぎてからエンジンオイルとオイルフィルターを交換すること
- エンジンオイルに添加剤を入れること

❗ エンジンオイルを補給しすぎないでください。エンジンオイルの過度の補給は、エンジンや触媒コンバーターの損傷につながるおそれがあります。エンジンオイルを抜いてください。



エンジンオイルフィルターキャップの例

▶ エンジンオイルフィルターキャップ ① を反時計回りにまわして取り外します。

▶ エンジンオイルを補給します。

エンジンオイル量がエンジンオイルレベルゲージの下限かそれ以下のときは、エンジンオイルを約 0.5 ～ 1 リットル補給します。

- ▶ エンジンオイルフィルターキャップ①を補給口に合わせ、時計回りにいっぱいにまわします。

エンジンオイルフィルターキャップが確実にロックされていることを確認します。

- ▶ エンジンオイルレベルゲージで、エンジンオイル量を再度点検します。

エンジンオイルについては (▷336 ページ) をご覧ください。

他のサービス用品の点検と補給

冷却水の量の点検

⚠ 警告

冷却システムには圧力がかかっています。そのため、エンジンが冷えてからのみ、キャップをゆるめてください。冷却水温度表示が 70℃ 以下でなければなりません。さもないと、高温の冷却水が吹き出して、火傷をすることがあります。

冷却水量の点検は、水平な場所に停車して、エンジンが冷えているときにのみ行なってください。

- ▶ イグニッション位置を 2 にします。
キーレスゴー装備車は、キーレスゴースイッチを 2 回押します (▷80 ページ)。
- ▶ メーターパネルのエンジン冷却水温度計を点検します。

冷却水温度が約 70℃ 以下になっていなければなりません。



- ▶ キャップ ① を反時計回りにゆっくり約 1/2 回転までまわして、圧力を抜きます。

- ▶ キャップ ① をさらに反時計回りにまわして取り外します。

冷えているときに、補充口のマーカーバー ③ の高さにあれば、リザーブタンク ② に十分な冷却水があります。

冷却水が温かいときは、液面がマーカーバー ③ より約 1.5cm 上にあれば、リザーブタンク ② に十分な冷却水があります。

- ▶ 必要であれば、メルセデス・ベンツによりテストされ、承認された冷却水を補給します。

- ▶ キャップ ① を合わせ、いっぱいまで時計回りにまわします。

冷却水について、詳しくは (▷337 ページ) をご覧ください。

ウインドウウォッシャー / ヘッドライトウォッシャーの補給

⚠ 警告

ウォッシャー液は高い可燃性です。発火し、燃焼するおそれがあるため、熱くなったエンジン構成部品にウォッシャー液をこぼさないでください。重大な火災につながるおそれがあります



開く

- ▶ タブを持ってキャップ①を上にも引きます。
- ▶ 水と適正な混合比に混ぜたウォッシャー液を補給します。

閉じる

- ▶ 固定するまでキャップ①を補給口に押し込みます。

リザーブタンクは、ウインドウウォッシャーとヘッドライトウォッシャー両方に使用されています。

ウォッシャー液について、詳しくは(▷338 ページ)をご覧ください。

タイヤとホイール

重要な安全上の注意

⚠ 警告

サイズの異なるホイールやタイヤを使用すると、ブレーキやサスペンションの部品を損傷するおそれがあります。事故の危険があります。

純正品および承認されているホイールおよびタイヤに交換してください。

⚠ 警告

パンクしたタイヤにより、車両の走行、ステアリング、制動特性が著しく損なわれます。事故の危険があります。

以下を守ってください。

- パンクしたタイヤでは走行しないでください。
- ただちに応急用スペアタイヤに交換するか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

メルセデス・ベンツにより承認されていない、または正しく装着されていないアクセサリにより、操作安全性が損なわれます。

お客様の車両のホイールおよびタイヤのサイズや種類については、"タイヤとホイールの組み合わせ"の項目をご覧ください(▷339 ページ)。

タイヤ空気圧に関する情報については、以下をご覧ください。

- 燃料給油フラップのタイヤ空気圧ラベル
- " タイヤ空気圧 " の項目

ブレーキシステムやホイールの改造は許可されていません。また、ホイールスパーサーやダストシールドは許可されていません。保証の適用外になります。

i タイヤとホイールに関する詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

操作

走行時の注意

- 走行しているときは、振動や騒音、ステアリングが片方向にとられるなどの不自然なステアリングの動きに注意してください。ホイールやタイヤが損傷しているおそれがあります。タイヤやホイールの損傷が疑われるときは、ただちに速度を落としてください。すみやかに安全な場所に停車して、タイヤとホイールを点検してください。目に見えないタイヤやホイールの損傷も、不自然なステアリングの動きの原因になります。異常が見つからないときも、メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。

- 車両を駐車するときは、縁石や他の障害物でタイヤが変形していないことを確認してください。縁石や速度抑制用の突起、類似の突起物を持ち越える必要があるときは、縁石に対してタイヤをできるだけ直角にしてください。さもないと、タイヤ、特にサイドウォールを損傷するおそれがあります。

ホイールおよびタイヤの定期的な点検

警告

損傷しているタイヤは空気圧低下の原因になります。その結果、車のコントロールを失うことがあります。事故の危険性があります。

損傷している兆候がないかタイヤを定期的に点検し、損傷しているタイヤはただちに交換してください。

- 車両のホイールおよびタイヤの損傷（タイヤの亀裂、パンク、裂け目、膨らみ、およびホイールの変形、ひびまたは著しい腐食）を定期的に、特にオフロードや不整路を走行した後に点検してください。車輪の損傷は空気圧低下の原因になるおそれがあります。
- タイヤの溝の深さやタイヤの幅全体にわたる接地面の状態は定期的に点検してください。必要であれば、前輪をいっぱいまで切り、タイヤの内側も点検してください。

- ほこりや水分の浸入を防ぎバルブを保護するため、ホイールバルブのキャップを必ず装着してください。また、市販のタイヤ空気圧計測装置をホイールバルブに装着するなど、純正品または承認されたバルブキャップ以外のものをホイールバルブに装着しないでください。
- 定期的に、特に長距離走行の前には、応急用スペアタイヤを含めたすべてのタイヤの空気圧を点検し、必要であればタイヤ空気圧を調整してください（▶246 ページ）。

タイヤトレッド

警告

溝の深さが十分でないタイヤはタイヤの駆動力を低下させます。また、タイヤが水を排水できなくなります。これにより、特に速度が走行状況に合っていないときは、濡れた路面でハイドロプレーニング現象を起こす危険性が増加します。事故の危険があります。

タイヤ空気圧が非常に高い、または低いときは、タイヤはタイヤトレッドの異なる部位で様々な度合いで摩耗します。すべてのタイヤのトレッド全体にわたり、溝の深さを定期的に点検してください。

溝の深さの最低値は以下の通りです。

- 標準タイヤ：3mm
- ウィンタータイヤ：4mm

安全上の理由により、溝の深さが最低値になる前に、必ず新品と交換してください。

タイヤの選択、装着と交換

- 同じサイズ、および同じ銘柄のタイヤとホイールのみを装着してください。
- ホイールに対して適切なサイズのタイヤのみを装着してください。
- 最大限の性能は走行距離が約100kmを超えてからのみ発揮されるため、この距離の間は控えめの速度で走行してください。
- 特に濡れた路面での駆動力が著しく減少するため（ハイドロプレーニング）、溝の深さがほとんどないタイヤで走行しないでください。
- 摩耗にかかわらず、6年以上経過したタイヤは新品のタイヤと交換してください。

応急用スペアタイヤも同様に交換してください。

タイヤの寿命は以下を含め、様々な要因に左右されます。

- 運転スタイル
- タイヤ空気圧
- 走行距離

冬季の使用

覚えておいていただきたい項目

冬季になる前に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で冬季の準備を行なってください。

"パンクしたとき"の注意事項に従ってください（▶305 ページ）。

標準タイヤでの走行

外気温度が約 7℃以下のときは、標準タイヤは弾力性を失い、それにより駆動力や制動力も失います。ウィンタータイヤに交換してください。非常に低い温度で標準タイヤを使用すると、亀裂が生じてタイヤの損傷の原因になることがあります。この種類の損傷については、メルセデス・ベンツは責任を負いません。

ウィンタータイヤ

警告

溝の深さが 4mm 以下になったウィンタータイヤは、十分な駆動力を確保できないため、冬季の使用には適していません。事故の危険があります。溝の深さが 4mm 以下になったウィンタータイヤは交換してください。

警告

標準タイヤ / ホイールと応急用スペアタイヤのサイズおよびタイヤの種類は異なります。応急用スペアタイヤを装着すると、走行特性が著しく損なわれます。事故の危険があります。

以下の事項を守ってください。

- 状況に合わせて慎重に運転してください。
- 応急用スペアタイヤを 2 本以上装着して走行しないでください。
- 応急用スペアタイヤはウィンタータイヤとはサイズが異なるため、短時間のみ使用してください。
- ESP® の機能を解除しないでください。

- 応急用スペアタイヤを交換するときは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。交換するタイヤのサイズと種類が正しいことを確認してください。

外気温度が約 7℃以下のときは、ウィンタータイヤを使用してください。

冬季の道路状況では、ウィンタータイヤでのみ最良のグリップを得ることができます。これらのタイヤは雪の上での走行のために特別に設計されているため、冬季はこれらのタイヤでのみ ABS や ESP® などの走行安全装備が適切に機能します。

安全なハンドリング特性を維持するため、同じ種類、同じトレッドのタイヤのみを使用してください。

ウィンタータイヤを装着したときは、常にウィンタータイヤに明記された許容最高速度を守ってください。

車両の最高速度よりも低い許容最高速度のウィンタータイヤを装着したときは、ウィンタータイヤの許容最高速度を越えないように、ウィンタータイヤスピードリミッターを使用して、車両の最高速度を制限してください。

ウィンタータイヤを装着したときは、以下を行なってください。

- ▶ タイヤ空気圧を点検してください (▷246 ページ)。
- ▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動してください (▷249 ページ)。

応急用スペアタイヤを装着したときは、80km/h 以上で走行しないでください。

スノーチェーン

 警告

前輪にスノーチェーンを装着すると、車体やシャシー構成部品に接触することがあります。このことは、車両やタイヤの損傷の原因になります。

事故のおそれがあります。

危険な状況避けるためには、

- 前輪には決してスノーチェーンを装着しないでください。
- スノーチェーンは左右後輪に装着してください。

安全上の理由により、メルセデス・ベンツによりお客様の車両のために特別に承認された、または同等の品質基準のスノーチェーンのみを使用することをお勧めします。

スノーチェーンを装着するときは、以下のことに注意してください。

- スノーチェーンは、すべてのホイールおよびタイヤの組み合わせに装着できるわけではありません。許容されているホイールおよびタイヤの組み合わせについては(▷339 ページ)をご覧ください。
- 路面が完全に雪に覆われているときにのみ、スノーチェーンを使用してください。雪に覆われていない路面にきたときは、すみやかにスノーチェーンを取り外してください。
- スノーチェーンを装着するときは、関連する法規に従ってください。
- 最高速度が約 50km/h を超えないでください。

- 応急用スペアタイヤにはスノーチェーンを装着しないでください。

 スノーチェーン装着中に発進するときは、ESP® の機能を解除したほうがよい場合があります。このようにして車輪をコントロールしながら空転させ、駆動力を増やすことができます（地面を掘る動作）。

タイヤ空気圧

指定のタイヤ空気圧

 警告

空気圧が非常に低い、または非常に高いタイヤには、以下の危険があります。

- 特に車両に大きな荷重がかかったときや高い速度で走行しているときに、破裂するおそれがあります。
- タイヤが過度に、または不均等に摩耗して、タイヤの駆動力を著しく損なうおそれがあります。
- 走行やステアリングおよびブレーキの特性を著しく損なうおそれがあります。

事故の危険があります。

以下のときは、推奨タイヤ空気圧に従い、応急用スペアタイヤも含めたすべてのタイヤの空気圧を点検してください。

- 少なくとも 2 週間ごと
- 荷重が変わったとき
- 長距離走行前
- 不整地の走行など、使用条件が変わったとき

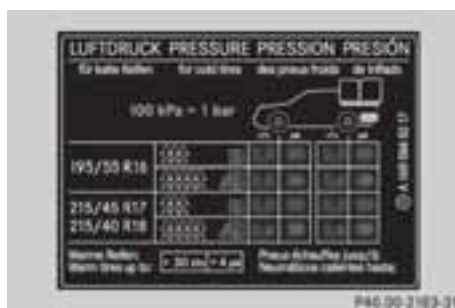
必要であれば、タイヤ空気圧を調整してください。

燃料給油フラップ内のタイヤ空気圧ラベルにより、様々な使用状況でのタイヤ空気圧を確認できます。

応急用スペアタイヤに適用されるタイヤ空気圧は、応急用スペアタイヤまたは「タイヤとホイールの組み合わせ」に記載されています（▶339 ページ）。

燃料給油フラップ内のラベルには、様々な使用状況でのタイヤ空気圧が記載されていることがあります。乗車人数や荷物の量の違いに応じて、ラベルに定義されています。実際の座席数も様々ですので、詳しい情報は車両の登録書類を参照してください。

タイヤサイズが特定されていないときは、タイヤ空気圧ラベルに記載されているタイヤ空気圧は、この車両のために承認されている、すべてのタイヤに適用されます。



タイヤ空気圧の前にタイヤサイズがある場合、後に続くタイヤ空気圧はそのタイヤサイズのみ有効です。

適切なタイヤ空気圧ゲージを使用してタイヤ空気圧を点検してください。タイヤの外見を点検しても、空気圧を正しく判断することはできません。

⚠ 警告

市販のタイヤ空気圧計測装置をホイールバルブに装着するなど、純正品または承認されたタイヤバルブに不適切なアクセサリを装着すると、タイヤ空気圧低下の原因になるようなタイヤバルブの過負荷、および不具合が発生することがあります。設計上、後付けのタイヤ空気圧モニターはタイヤバルブを開いたままにします。これもタイヤ空気圧低下につながるおそれがあります。事故の危険があります。

タイヤバルブには、純正バルブキャップまたはお客様の車両のためにメルセデス・ベンツにより指定されたバルブキャップのみを装着してください。

⚠ 警告

タイヤ空気圧が繰り返し低下するときは、ホイール、バルブ、またはタイヤが損傷しているおそれがあります。非常に低すぎるタイヤ空気圧は、タイヤの破裂につながるおそれがあります。事故の危険があります。

- タイヤに異物がないか確認してください。
- ホイールやバルブから空気が漏れていないか確認してください。

問題を解消できない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

タイヤ空気圧は、できるだけタイヤが冷えているときに測定してください。以下のときはタイヤは冷えています。

- 直射日光を浴びていない場所で、少なくとも約 3 時間以上駐車したままのとき、そして
- 車両が約 1.6km 以上走行していないとき

周囲の気温、走行速度そしてタイヤへの荷重により、タイヤ温度およびタイヤ空気圧は変化することがあります。10℃あたり 10kPa (0.1bar/1.5psi) です。暖まったタイヤの空気圧を点検するときはこのことを考慮に入れ、そのときの使用状況に対してタイヤ空気圧が低すぎるときのみ、空気圧を修正してください。

タイヤ空気圧が高すぎたり低すぎる状態で走行すると、以下のようなことが起こります。

- タイヤの寿命が短くなります。
- タイヤの損傷につながります。
- 車両操縦性や走行安全性に悪影響を与えます (ハイドロプレーニングなど)。

i 少ない荷物に対応した空気圧値は、良い乗り心地をもたらすための最低空気圧です。

ただし、多い荷物に対応した空気圧を使用することもできます。これらは許容されており、車両の走行に悪影響を与えません。

タイヤ空気圧警告システム

重要な安全上の注意

車両が走行しているとき、タイヤ空気圧警告システムは車輪の回転速度を使用して、設定したタイヤ空気圧をモニターします。これにより、システムはタイヤの急激な空気圧低下を検知することができます。空気圧低下の結果、車輪の回転速度が変化すると、対応する警告メッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

タイヤ空気圧警告システムは、誤ったタイヤ空気圧の設定に対しては警告は行ないません。推奨タイヤ空気圧に関する注意事項は (▶246 ページ) をご覧ください。

タイヤ空気圧警告システムは複数のタイヤから同量の空気が漏れた場合には検知できないため、定期的なタイヤ空気圧点検の代わりになるものではありません。

タイヤに異物が貫通した場合など、突然の空気圧低下に対しては、タイヤ空気圧警告システムは警告を行なうことができません。急激な空気圧低下のときは、慎重にブレーキ操作を行なって停車してください。急なステアリング操作は避けてください。



環境

タイヤ空気圧は定期的に点検してください

タイヤ空気圧警告システムの機能は、以下のときに制限されたり、遅れることがあります。

- 車両のタイヤにスノーチェーンが装着されているとき
- 冬季の道路状況のとき
- 砂地や砂利道などを走行しているとき
- 非常にスポーティな運転スタイル（高速でのコーナリングや急加速）のとき
- 重い荷物を積載して走行しているとき（車内やルーフの上）

タイヤ空気圧警告システムの再起動

以下のときは、タイヤ空気圧警告システムを再起動させてください。

- タイヤ空気圧を変更したとき
- ホイールやタイヤを交換したとき
- 新しいホイールやタイヤを装着したとき

- ▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動する前に、燃料給油フラップ内側のタイヤ空気圧ラベルを参照して、4 輪すべてのタイヤが対応する使用状況に対して適正に調整されていることを確認してください。

タイヤ空気圧警告システムは、適正なタイヤ空気圧に設定されているときのみ、信頼性のある警告を行なうことができます。不適切なタイヤ空気圧に設定されている場合は、それらの不適切な値がモニターされます。

- ▶ タイヤ空気圧に関する注意事項を確認します（▶246 ページ）。

- ▶ イグニッション位置が **2** になっていることを確認します。

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**メンテナンス**メニューを選択します。

- ▶  または  スイッチを押して、**タイヤ空気圧**を選択します。

- ▶ **OK** スイッチを押します。

タイヤ空気圧 警告システム オンというメッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

再起動を確定したいとき

- ▶ **OK** スイッチを押します。

タイヤ空気圧 正常ですか？というメッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

- ▶  または  スイッチを押して**はい**を選択します。

- ▶ **OK** スイッチを押します。

タイヤ空気圧 警告システム 再始動しましたというメッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

読み込み期間終了後に、タイヤ空気圧警告システムが4 輪すべての設定したタイヤ空気圧をモニターします。

または

再起動を中断したいとき

- ▶  スイッチを押します。

または

▶ **タイヤ空気圧 正常ですか?** というメッセージが表示されているときに、 または  スイッチを使用して**キャンセル**を選択します。

▶ **OK** スイッチを押します。

最後の再起動時に保存されたタイヤ空気圧の値が引き続きモニターされます。

前輪と後輪のサイズが同じ車種の場合は、タイヤの摩耗具合により 5,000 ～ 10,000km 毎に車輪を入れ替えることができます。タイヤの回転方向は維持してください。

車輪を入れ替えるときは常に、ホイールとブレーキディスクの接合面全体を清掃してください。タイヤ空気圧を点検し、必要であればタイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

車輪の入れ替え

警告

ホイールまたはタイヤが異なるサイズのときに前輪と後輪を入れ替えると、走行特性を著しく損なうことがあります。ブレーキやサスペンション構成部品を損傷するおそれもあります。事故の危険があります。

ホイールおよびタイヤが同じサイズの場合にのみ前輪と後輪を入れ替えてください。

サイズが異なる前輪と後輪の入れ替えは、保証を無効にします。

"パンクしたとき" の項目にある指示と安全に関する警告に常に注意を払ってください (▷305 ページ)。

使用状況により、フロントタイヤとリアタイヤの摩耗パターンは異なります。タイヤに明確な摩耗パターンが形成される前に、車輪の入れ替えを行なってください。通常はフロントタイヤはショルダー部が、リアタイヤはセンター部がより摩耗します。

回転方向

タイヤの回転方向が指定されているタイヤは、例えばハイドロブレーニング現象のおそれがある状況などで補助的な効果を発揮します。回転方向が指定されているタイヤは、指定された回転方向になるように装着することで性能を十分に発揮できます。

タイヤの側面にある矢印は、適切な回転方向を示しています。

応急用スペアタイヤは回転方向に反して装着できます。

応急用スペアタイヤに規定された使用期間制限、ならびに速度制限に従ってください。

タイヤの保管

使用していないタイヤは、乾燥した冷暗所に保管してください。オイルやグリース、燃料などからタイヤを保護してください。

タイヤの清掃

警告

回転式ジェットノズル付きの高圧式クリーナーは、外見からは見えないタイヤや車体構成部品の損傷の原因になるおそれがあります。そのようにして損傷した構成部品は、予期せず故障するおそれがあります。事故の危険性があります。

車両を清掃するときに、回転式ジェットノズル付きの高圧式クリーナーを使用しないでください。損傷した車体やタイヤはただちに交換しなければなりません。

走行時の注意

エンジンを停止しての走行

警告

走行中はエンジンを停止しないでください。

エンジンが停止しているときは、パワーステアリングやブレーキの倍力装置が作動しません。

ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になるため、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

ブレーキ

警告

エンジンブレーキを強くするために滑りやすい路面でシフトダウンした場合は、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。横滑りしたり、事故を起こす危険性が増します。

滑りやすい路面では、エンジンブレーキを強くするためにシフトダウンしないでください。

下り坂を走行するとき

長い下り坂や急な下り坂では必ずティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキを効かせてください。

これは特に、荷物を積載した車両で走行するときに当てはまります。

 クルーズコントロールや可変スビードリミッターの作動中も、このことが当てはまります。

エンジンブレーキを併用することにより、車両の加速を抑えるために必要なブレーキを軽減することができます。これにより、ブレーキシステムへの負荷が減り、ブレーキの過熱を防ぐことができます。また、ブレーキの摩耗を防ぐことができます。

ブレーキシステムに強い負荷がかかったとき

警告

走行している間に足をブレーキペダルの上に置いた場合は、ブレーキシシステムが過熱するおそれがあります。これにより、制動距離が長くなり、ブレーキシシステムが故障する原因になります。事故の危険性があります。

ブレーキペダルを足置きとして使用しないでください。走行している間は、ブレーキペダルとアクセルペダルを同時に踏まないでください。

! ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキパッドの過度の、および早期の摩耗につながります。

ブレーキに大きな負担がかかったときは、すぐに停車するのではなく、しばらく走行を続けてください。ブレーキシシステムに風を当てることにより、より早く冷却することができます。

ブレーキを効かせずに長時間走行しているときなどは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは後続車に注意しながら、ブレーキの効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

路面が濡れているとき

激しい雨の中でブレーキを踏まずに長時間走行した後、最初にブレーキを踏んだときにブレーキの反応時間が遅れることがあります。洗車直後も同様の反応が起こることがあります。

滑りやすい路面では、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。前車との車間距離を十分に保ってください。

滑りやすい路面の走行後や洗車直後は、周囲の道路状況に注意しながらブレーキを強めに効かせてください。これによりブレーキディスクを暖め、より早く乾燥させて腐食を防ぐことができます。

凍結防止剤を散布した路面でのブレーキ性能の制限について

塩分を散布した道路を走行した場合は、ブレーキディスクやブレーキパッドに塩の膜が形成されます。これにより、制動距離が著しく長くなるおそれがあります。

- 塩分の残留物を除去するために、ときどきブレーキを効かせてください。そうするときは、他の道路使用者に危険を及ぼさないことを確認してください。
- 走行を終了したとき、および次に走行を開始するときは、注意してブレーキペダルを踏んでください。
- 前車との車間距離を十分に確保してください。

ブレーキパッドについて

警告

新車時または交換した新品のブレーキパッドは、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは制動性能を完全には発揮できません。最初の数百 km までは、必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。

! ブレーキが過熱している状態のときは、ブレーキに水がかからないようにしてください。ブレーキディスクを損傷するおそれがあります。

必ず純正のブレーキパッドを使用してください。純正以外のブレーキパッドを使用すると、ブレーキ特性が変わって安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

パーキングブレーキについて

警告

パーキングブレーキで車両にブレーキを効かせなければならない場合、制動距離は著しく長くなり、車輪がロックするおそれがあります。これにより、横滑りや事故の危険性が増えます。

ブレーキが故障しているときにのみ、パーキングブレーキを使用して車両にブレーキを効かせてください。パーキングブレーキを効かせ過ぎないでください。車輪がロックした場合は、車輪が再度回転し始めるまで、パーキングブレーキを解除してください。

パーキングブレーキで車両にブレーキを効かせる場合は、ブレーキライトは点灯しません。

滑りやすい路面、または砂に覆われた路面を走行する場合は、路面の塩分や砂などがパーキングブレーキに入り込むおそれがあります。

パーキングブレーキの腐食や、制動力の低下を防ぐために、以下に従ってください。

- 走行を開始する前に、軽くパーキングブレーキペダルを踏んでください。
- 20km/h 以下の速度で、約 100m 走行してください。

タイヤのグリップについて

警告

安全な走行のため、濡れた路面や凍結した路面では、乾燥した路面を走行するときよりも低い速度で走行してください。

外気温度が低いときは、路面の状態に十分注意してください。路面が凍結しているときは、ブレーキ時にタイヤと路面の間に薄い水の層が形成され、タイヤのグリップが大きく低下します。

濡れた路面での走行

ハイドロブレーニング現象

一定以上の深さがある水たまりを走行するときは、以下の状態でも、ハイドロブレーニング現象が発生するおそれがあります。

- ・ 走行速度を落としている
- ・ タイヤトレッドの溝の深さが十分にある

できるだけ水たまりや轍を避け、ブレーキを効かせるときは注意してください。

道路が冠水しているときや車が水没したとき

やむを得ず冠水した道路を走行するときは、以下の点に注意してください。

- ・ 許容されている最大水深は約 30cm です。
- ・ 波が立たないように速度で走行してください。

! 前方を走行している車両や、すれ違う車両からも波が発生します。これにより、最大水深を超えることがあります。

! 豪雨などで道路が冠水し、マフラーに水が入ったときは決してエンジンを始動しないでください。そのままエンジンを始動すると、エンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。

! 車が水没した場合は、水が引いた後でもエンジンを始動せずに、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

雪道や凍結路面の走行

重要な安全上の注意

 警告

エンジンプレーキを強くするために滑りやすい路面でシフトダウンした場合は、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。横滑りしたり、事故を起こす危険性が増します。

滑りやすい路面では、エンジンプレーキを強くするためにシフトダウンしないでください。

 警告

排気マフラーが塞がれていたり、適切な換気が不可能な場合は、一酸化炭素 (CO) などの有害ガスが車内に侵入するおそれがあります。これは、たとえば車両が雪に埋まってしまった場合などです。致命的なけがの危険性があります。

エンジンをかけたままにする場合は、排気マフラーと車両周囲の範囲に雪がないことを確認してください。新鮮な空気を十分に供給するために、風下に面したサイドウィンドウを開いてください。

冬になる前に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で車両に寒冷時の対応作業を行なってください。

" 冬季の使用 " に記載されている注意事項を守ってください (▷244 ページ)。

滑りやすい路面での走行

警告

エンジンブレーキを強くするために滑りやすい路面でシフトダウンした場合は、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。横滑りしたり、事故を起こす危険性が増します。

滑りやすい路面では、エンジンブレーキを強くするためにシフトダウンしないでください。

雪道や凍結路面ではタイヤが非常に滑りやすくなっています。十分な車間距離を確保し、いつもより控えめな速度で慎重に走行してください。

安全な走行と車両操縦性を確保するため、以下の注意事項を守ってください。

- ウィンタータイヤまたはスノーチェーンを必ず使用してください。
- 走行モードをEモードに切り替えてください（▶127ページ）。
- 急ハンドル、急ブレーキ、急加速などは避けてください。
- クルーズコントロールは使用しないでください。
- ブレーキに付着した雪や水滴が凍結して、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行して、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

走行するとき

アクセルペダルはおだやかに操作

- 発進や加速するときは、タイヤを空転させないようにおだやかにアクセルペダルを操作してください。タイヤを空転させると、タイヤだけでなくトランスミッションや駆動系部品を損傷するおそれがあります。
- 車間距離を十分に確保し、不要な急発進や急加速、急ブレーキを避けてください。

横風が強いとき

横風が強く、車が横方向に流されそうなときは、ステアリングをしっかり握り、いつもより速度を下げた進路を保ってください。

トンネルの通過

トンネルに進入するときは、ヘッドライトを点灯してください。内部照明が暗いトンネルでは、進入直後に視界が悪くなることがありますので、十分注意してください。

走行中に異常を感じたら

警告灯が点灯したときやマルチファンクションディスプレイにディスプレイメッセージが表示されたとき

ただちに安全な場所に停車してエンジンを停止し、本書に従い対処してください。それでも警告灯やディスプレイメッセージが消灯しないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。そのまま走行を続けると、事故を起こしたり、車に重大な損傷を与えるおそれがあります。

ボディ下部に強い衝撃を受けたとき

ただちに安全な場所に停車してボディの下部を点検し、ブレーキ液や燃料などが漏れていないか確認してください。漏れやボディ下部に損傷を見つけたときは、運転を中止してメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。損傷を放置したまま走行を続けると、事故を起こすおそれがあります。

走行中にタイヤがパンクしたり、破裂したとき

あわてずにしっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。急ブレーキや急ハンドル操作をすると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

駐停車するとき

駐車するときの注意事項

- マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。
- 同乗者がドアを開くときは、周囲に危険がないことを運転者が確認してください。
- 見通しの悪い場所や暗い場所では駐車しないでください。
- 炎天下での駐車時には、車内各部の温度が非常に高くなります。ステアリングや DIRECT SELECT レバー、シートなどに触れると、火傷をするおそれがあります。

- 炎天下に駐車するときは、ウィンドウにカバーをしたり、ステアリングや DIRECT SELECT レバー、シートなどにカバーやタオルをかけて、温度の上昇を抑えてください。
- 炎天下に駐車した後は、乗車する前に換気をするなどして、車内各部の温度を下げてください。
- フロントウィンドウやボンネットの周囲に枯れ葉や異物がある場合は、必ず取り除いてください。車両下部の排水口が目詰まりを起こし、車内に水が浸入するおそれがあります。

急な坂道で駐車するとき

急な坂道で駐車するときは、トランスミッションをポジション P にして、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをして、前輪を歩道方向に向けてください。

仮眠するとき

やむを得ず車内で仮眠するときは、安全な場所に駐車して必ずエンジンを停止してください。無意識のうちに DIRECT SELECT レバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込むと、車が動き出して事故を起こすおそれがあります。

また、アクセルペダルを踏み続けると、エンジンやマフラーが異常過熱して火災の原因になります。

後退するとき

後方視界が十分に確保できないときは、車から降りて後方の安全を確認してください。

雨降りや濃霧時の運転

雨が降っていたり、濃霧が発生しているときは、以下の点に注意して、いつもより慎重に運転してください。

- 路面が滑りやすいため、タイヤの接地力が大きく低下し、通常より制動距離も長くなります。

また、見通しが悪いため、歩行者や障害物の発見が遅れがちになります。いつもより速度を下げ、車間距離を十分に確保してください。

- 安全な視界を確保するため、必要に応じてデフロスターやリアデフォッガーを作動させてください。また、ACモードでエアコンディショナーを作動させて車内を除湿してください。
- 雨降りや濃霧時は、自分の車の存在を周囲に知らせるため、ヘッドライトやリアフォグランプを点灯してください。ただし、ヘッドライトを上向きにすると、雨や濃霧に反射して視界を損なったり、対向車を眩惑するので、下向きで点灯してください。
- 濃霧のときはリアフォグランプを点灯し、速度を落として走行してください。危険を感じるときは、霧が晴れるまで安全な場所に停車してください。

メンテナンス

車の性能を十分に発揮させ、安全かつ快適に運転するためには、メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検整備を受ける必要があります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場では以下のようない点検を行ないます。

Daimler AG 指定の点検整備

Daimler AG の指示による点検整備項目があります。これらはメンテナンスインジケータの表示に応じて実施します。

1 年および 2 年点検整備

1 年、2 年点検整備は、車検時を含め、法律で定められ実施するものです。

次の点検時期を示すステッカーがフロントウインドウに貼付してあります。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

整備手帳

車には整備手帳が備えてあります。点検整備で実施された作業は整備手帳で確認してください。

日常点検

長距離走行前や洗車時、燃料補給時など、日常、車を使用するときにお客様ご自身の判断で実施していただく点検です。

点検項目は整備手帳に記載されています。

点検を実施したときに異常が発見された場合は、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。

メンテナンスインジケーター

メンテナンスインジケーターは、次のメーカー指定点検整備の時期を知らせます。

点検整備の種類や点検整備の間隔については、別冊の整備手帳をご覧ください。

i メンテナンスインジケーターは、エンジンオイル量に関する情報は表示しません。エンジンオイルについての注意事項は (▶239 ページ) をご覧ください。

マルチファンクションディスプレイに以下のようなメッセージが数秒間表示されます。

次のメンテナンス A (または B) あと
XXX 日です

メンテナンス A (または B) 期限が切
れます

メンテナンス A (または B) 期限超過
しました - XXX 日

文字はいずれの点検整備が予定されているかを示しています。A は小規模な点検整備を、B は大規模な点検整備を表しています。文字の後に、数字または他の文字が表示されることがあります。この数字は実施すべき他の必要な点検整備作業を示しています。

ただし、日本では法定点検があるため、これらの範囲と法定点検の範囲は異なります。

メンテナンスインジケーターは、バッテリーの接続を外している期間は考慮に入れません。

期日に応じたメーカー指定点検整備時期を維持するには、以下を行ないます。

▶ バッテリーの接続を外す前に、マルチファンクションディスプレイに表示されている点検整備時期を書き留めます。

または

▶ バッテリーを再接続した後に、マルチファンクションディスプレイに表示されている点検整備時期からバッテリーの接続を外していた期間を差し引きます。

メンテナンスメッセージを消去する

▶ ステアリングの  または  スイッチを押します。

メンテナンスメッセージを表示させる

▶ イグニッション位置を 1 か 2 にします。

▶ ステアリングの  か  スイッチを押して、マルチファンクションディスプレイのメインメニューから **メンテナンス** を選択します。

▶ ステアリングの  か  スイッチを押して、**メンテナンス** を選択し、 スイッチを押して確定します。

マルチファンクションディスプレイにメーカー指定点検整備時期が表示されます。

点検整備に関する情報

メンテナンスインジケーターのリセット

! メンテナンスインジケーターが不意にリセットされた場合は、この設定をメルセデス・ベンツ指定サービス工場で修正ください。

点検整備作業は、整備手帳に記載されているように実施してください。さもないと、車両の主要部品の摩耗の増加や損傷につながる場合があります。

メーカー指定点検整備の実施後に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場メンテナンスインジケーターをリセットしてください。さらなる情報については、整備手帳などをご覧ください。

日常の手入れ

手入れに関する注意事項

! 車の手入れをするときは、以下のものを使用しないでください。

- 乾いた布や目の粗い布、かたい布など
- 研磨剤を含むクリーナー
- 有機溶剤
- 有機溶剤を含むクリーナー

強くこすらないでください。

指輪やアイススクレーパーなどのかたい物で塗装面や保護フィルムなどに触れないでください。さもないと、塗装面や保護フィルムなどを損傷したり、こすり傷が付くおそれがあります。

環境

空の容器や汚れた布は、環境に配慮した方法で廃棄してください。

! 洗車してそのままの状態、特にホイールクリーナーでホイールを清掃したときは、長期間車を駐車したままにしないでください。ホイールクリーナーはブレーキディスクやブレーキパッド / ライニングの腐食の原因になります。この理由により、洗車した後にしばらく走行してください。ブレーキ操作でブレーキディスクやブレーキパッド / ライニングを温め、乾燥させることができます。その後に駐車してください。

定期的な車の手入れにより、長い期間に渡って品質を保つことができます。

メルセデス・ベンツが推奨し、承認した用品およびクリーナーを使用してください。

外装の手入れ

自動洗車機の使用

警告

洗車した後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。事故の原因になることがあります。この理由により、洗車した後はブレーキが乾くまで、特に注意して走行してください。

⚠ 警告

ホールド機能やディストロニック・プラスが作動しているときは車両にブレーキが効いています。そのため、自動洗車機で洗車する前に、ホールド機能やディストロニック・プラスを解除してください。

※ ディストロニック・プラスは、日本仕様車には装備されません。

! 自走式の自動洗車機で洗車するときは、オートマチックトランスミッションのシフトポジションが **N** になっていることを確認してください。トランスミッションが他のポジションになっていると、車を損傷するおそれがあります。

! 以下の点を確認してください。

- サイドウィンドウとパノラミックスライディングルーフ*が完全に閉じていること
- エアコンディショナーの送風が停止している（OFF スイッチが押されている）こと
- ワイパースイッチが **0** の位置になっていること

車両を損傷するおそれがあります。

新車時から自動洗車機で洗車することができます。

自動洗車機で洗車する前に、余分な汚れを洗い流してください。

自動洗車機を使用した後は、フロントウィンドウやワイパーブレードからワックスを拭き取ってください。これにより、フロントウィンドウの残留物による汚れを防ぎ、ワイパーノイズを低減させます。

手洗いによる洗車

- ▶ 熱湯を使用せず、直射日光下では洗車をしないでください。
- ▶ 柔らかいスポンジで洗車してください。
- ▶ 水にカーシャンプーなどを混ぜた洗淨液を使用してください。
- ▶ 低圧の水流で車体全体に水をかけます。
- ▶ 吸気口に向けて直接水流を当てないでください。
- ▶ 十分な量の水を使用して、スポンジで洗い流します。
- ▶ きれいな水で洗い流し、セーム皮などで水滴を拭き取ります。
- ▶ 塗装面に洗淨液がある状態で乾かさないでください。

冬季に車両を使用したときは、すみやかに凍結防止剤を丁寧に取り除いてください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

高圧式スプレーガンの使用

警告

高圧式スプレーガンのノズルをタイヤに向けしないでください。水圧が高いため、タイヤを損傷するおそれがあります。

! 車両と高圧式スプレーガンのノズル間には、常に最低でも 30cm の間隔を確保してください。

高圧式スプレーガンのノズルは円を描くように動かしてください。

高圧式スプレーガンのノズルを直接、以下の物に向けしないでください。

- タイヤ
- ドア接合面、ルーフ接合面、ジョイントなど
- 電気装備
- バッテリー
- コネクター
- ライト
- シール部
- トリム部品
- 吸気口

シール部や電気装備の損傷により、水漏れや故障につながるおそれがあります。

ホイールの清掃

! ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルト、ブレーキ構成部品を損傷するおそれがあります。

! ホイールクリーナーなどでホイールを清掃した後にそのまま放置しないでください。ブレーキディスクやブレーキパッド / ライニングなどが腐食するおそれがあります。この理由により、清掃後は数分間走行し、ブレーキディスクとブレーキパッド / ライニングを温めて乾燥させてください。その後、車を駐車してください。

塗装面の清掃

引っかけ傷、腐食残留物、腐食作用を受けた範囲、不適切な取り扱いが原因の損傷は完全に修復することはできません。その場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で補修を行なってください。

- ▶ 不純物は、強くこすることなく、ただちに取り除いてください。
- ▶ 虫の死がいはいんせクトリムーバーで取り除き、周囲をよく洗い流してください。
- ▶ 鳥のふんは水で落とし、周囲をよく洗い流してください。
- ▶ 油脂類、樹液、オイル、燃料、グリースなどは、ベンジンまたはライター用オイルを染み込ませた布で軽く拭いてください。
- ▶ タールはタールリムーバーで取り除いてください。

▶ ワックスはシリコンリムーバーで取り除いてください。

! 塗装面に以下の物を貼付しないでください。

- ステッカー
- フィルム
- マグネットや類似の物

塗装面を損傷するおそれがあります。

マットペイント塗装車の取り扱い

お車がマットペイント塗装の場合は、不適切な取り扱いによる塗装面の損傷を防ぐために、以下の指示に従ってください。

マットペイント塗装されたホイールについても、同様の手入れを行なってください。

! 車体またはホイールを磨かないでください。磨くことにより、塗装面に光沢が出ます。

! 以下のことは塗装面に光沢を持たせたり、マット塗装の質感を損なわせるおそれがあります。

- 不適切な素材で力強くこすること
- 頻繁に洗車を行なうこと
- 直射日光下で洗車を行なうこと

! 塗装クリーナー、磨き布または研磨剤、またはワックスなどの光沢剤を使用しないでください。これらの製品は高い光沢の表面にのみ適しています。マット仕上げの車両にこれらを使用すると、表面の著しい損傷（光沢、まだら）につながります。

塗装の修復は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

! いかなる状況でもホットワックス仕上げの洗車コースを使用しないでください。

i 洗車は、柔らかいスポンジとカーシャンプー、十分な水で、手洗いで行なうことをおすすめします。

i インセクトリムーバーやカーシャンプーは、メルセデス・ベンツにより推奨され、承認された製品のみを使用してください。

ウインドウの清掃

警告

フロントウインドウやワイパーブレードを清掃する前に、フロントワイパーを停止し、エンジンスイッチからキーを抜いてください。キーレスゴー装備車は、メーターパネルのすべての表示灯が消灯するまでキーレスゴースイッチを繰り返し押してください。さもないと、ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

! フロントウインドウからワイパーを起こすときは、ボンネットやフロントウインドウを損傷しないように注意してください。

！ ウインドウの内側を清掃するときは、乾いた布や研磨剤、有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。アイススクレーパーや指輪などのかたい物でウインドウの内側に触れないでください。さもないと、ウインドウを損傷する危険性があります。

！ フロントウインドウおよびリアウインドウの排水口を定期的に清掃してください。特定の状況で、葉、花およびほこりなどの残留物が排水を妨げることがあります。これにより、腐食による損傷や電気装備の損傷につながるおそれがあります。

▶ ウインドウの外側と内側を水で湿らせた柔らかい布で清掃してください。

ワイパーブレードの清掃

警告

フロントウインドウやワイパーブレードを清掃する前に、フロントワイパーを停止し、エンジンスイッチからキーを抜いてください。さもないと、ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

！ フロントウインドウからワイパーを起こすときは、ボンネットやフロントウインドウを損傷しないように注意してください。

！ ワイパーブレードを引っ張らないでください。さもないと、ワイパーブレードを損傷するおそれがあります。

！ ワイパーブレードの清掃を頻繁に行なったり、強くこすらないでください。さもないと、表面のコーティングが損傷するおそれがあります。これは異音の原因になります。

！ ワイパーアームを元の位置に戻すときは、ワイパーアームをしっかり持ってください。ワイパーアームがフロントウインドウにぶつかると、フロントウインドウを損傷するおそれがあります。

▶ フロントウインドウからワイパーアームを起こします。

▶ ワイパーブレードを、湿らせた柔らかい布で軽く拭きます。

▶ イグニッション位置を **1** や **2** にする前に、ワイパーアームを元の位置に戻します。

ライト類の清掃

！ ライト類の清掃には、樹脂製レンズに適したクリーナーと布を使用してください。有機溶剤や強アルカリ洗剤などを使用したり、乾いた布などで強くこすらないでください。

▶ 湿らせたスポンジとカーシャンプーを混ぜた洗浄液、または清潔な柔らかい布でライト類の樹脂製レンズを清掃します。

ドアミラー方向指示灯の清掃

！ ドアミラー方向指示灯の清掃には、樹脂製レンズに適したクリーナーと布を使用してください。有機溶剤や強アルカリ洗剤などを使用したり、乾いた布などで強くこすらないでください。

- ▶ 湿らせたスポンジとカーシャンプーを混ぜた洗浄液、または清潔な柔らかい布でドアミラー方向指示灯の樹脂製レンズを清掃します。

センサーの清掃

- ❗ 高圧式スプレーガンでセンサーを清掃するときは、車両と高圧式スプレーガンとの間に最低でも 30cm の間隔があることを確認してください。適正な間隔についての情報は、用品の製造者から得ることができます。



- ▶ 流水または水とカーシャンプーを混ぜた洗浄液で走行装備のセンサー①を清掃します。

パーキングアシストリアビューカメラ / サイドビューカメラの清掃

- ❗ 高圧式スプレーガンで、カメラのレンズやカメラの周辺を清掃しないでください。



パーキングアシストリアビューカメラ

- ▶ きれいな水で汚れを落とし、やわらかい布でカメラのレンズ①を拭き取ってください。

マフラーの清掃

- ❗ ホイールクリーナーなど、アルカリ性のクリーナーでマフラーの手入れを行なわないでください。

路面の小石や腐食性のある環境物質などの不純物の影響により、マフラーの表面にサビが発生することがあります。冬季や洗車後は特に、定期的にマフラーを手入れすることにより、マフラーの輝きを保ち、また元の輝きを取り戻すことができます。

- ▶ マフラーの手入れについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

内装の手入れ

COMAND ディスプレイの清掃

❗ 清掃するときは、以下の物を使用しないでください。

- アルコール分を含んだ溶剤や有機溶剤、燃料
- 研磨剤を含んだクリーナー
- 家庭用クリーナー

ディスプレイ表面を損傷するおそれがあります。清掃するときは、ディスプレイ表面に圧力を加えないでください。ディスプレイに復元不可能な損傷を与えるおそれがあります。

- ▶ ディスプレイを清掃する前に、ディスプレイがオフになっていて、冷えていることを確認してください。
- ▶ 市販の不織布とディスプレイクリーナーを使用して、ディスプレイの表面を拭き取ります。
- ▶ 乾いた不織布でディスプレイを拭きます。

プラスチックトリムの清掃

⚠ 警告

エアバッグの収納部分には、スプレー式の車内クリーナーや有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。有機溶剤を含むクリーナーなどで清掃すると、収納部分の表面が劣化し、エアバッグが作動したときにプラスチック部品が損傷して車内に飛散し、重大なけがをするおそれがあります。

❗ プラスチックトリムに、以下の物を貼付しないでください。

- ステッカー
- フィルム
- 芳香剤のボトルや類似の物

プラスチックトリムを損傷するおそれがあります。

❗ プラスチックトリムに、化粧品や防虫剤、日焼け止めなどが付着しないようにしてください。表面の劣化の原因になります。

- ▶ 水で湿らせた不織布で拭き取ります。
- ▶ 頑固な汚れには専用のクリーナーを使用します。

表面の色が一時的に変化しますが、乾くと元に戻ります。

ステアリングの清掃

- ▶ 水で湿らせた布で全体を拭くか、指定のレザーケア用品を使用してください。

ウッドトリムの清掃

❗ 有機溶剤を含むクリーナーや研磨剤、ワックスなどは使用しないでください。さもないと、ウッドトリムを損傷するおそれがあります。

- ▶ 水で湿らせた不織布で拭き取ります。
- ▶ 頑固な汚れには専用のクリーナーを使用します。

シート表皮の清掃

! 本革、人工皮革または アルカンターラ® の表皮の清掃には、不織布を使用しないでください。頻繁に使用すると、表皮を損傷するおそれがあります。

! 清掃するときは、以下のことに注意してください。

- 本革の表皮は、湿らせた布で注意して清掃し、その後に乾いた布で表皮を拭き取ります。革が濡れないように注意してください。硬化やひび割れにつながります。承認されたレザーケア用品のみを使用してください。詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。
- 人工皮革の表皮は、1%の洗剤（洗濯液など）を含む溶液で湿らせた布で清掃します。
- 布の表皮は、1%の洗剤（洗濯液など）を含む溶液で湿らせた不織布で清掃します。拭き残しがないように、注意深くこすり、シート全体をまんべんなく拭きます。その後、シートを乾燥させます。清掃の効果は、汚れの種類およびどの程度の期間汚れていたかによります。
- アルカンターラ® の表皮は、湿らせた布で清掃します。拭き残しがないように、シート全体をまんべんなく拭きます。

i 定期的な手入れを行なうことにより、表皮の見栄えと快適さを長期間維持することができます。

シートベルトの清掃

! 化学薬品を含むクリーナーを使用しないでください。直射日光に当たったり、80℃以上の温度で乾燥させないでください。

▶ めるま湯か薄めた石鹼水を使用して拭き取ります。

ルーフライニングおよびカーペットの清掃

▶ **ルーフライニング**：柔らかいブラシを使用して清掃します。ひどい汚れには、指定のクリーナーを使用します。

▶ **カーペット**：指定のクリーナーを使用して清掃します。

車載品の収納場所.....	268
ディスプレイメッセージ.....	272
メーターパネルの表示灯 / 警告灯	290
非常時の解錠 / 施錠	298
NECK PRO アクティブ	
ヘッドレストのリセット.....	300
キーの電池交換.....	300
電球の交換.....	302
ワイパーブレードの交換.....	303
パンクしたとき.....	305
車両のバッテリー.....	316
ジャンプスタート.....	320
けん引.....	323
ヒューズ.....	326



車載品の収納場所

事故・故障のとき

 警告

燃料などが漏れている場合は、ただちにエンジンを停止してください。また、車に火気を近づけないように注意してください。火災が発生したり、爆発するおそれがあります。

事故が起きたとき

すみやかに、以下の処置を行なってください。

- 続発事故を防ぐため、交通の妨げにならない安全な場所に停車し、エンジンを停止してください。
- 負傷者がいるときは、消防署に救急車の出動を要請するとともに、負傷者の救護を行なってください。ただし、頭部を負傷している場合は負傷者をむやみに動かさないでください。
- 警察に連絡してください。事故が発生した場所や事故状況、負傷者の有無や負傷状態などを報告してください。
- 相手の方の氏名や住所、電話番号などを確認してください。
- 自動車保険会社に連絡してください。

路上で故障したとき

安全な場所に停車して、非常点滅灯を点滅させてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。追突のおそれがあるため、乗員は車内に残らず、ただちに安全な場所に避難してください。

車が動かなくなったとき

トランスミッションをポジション N にシフトして、パーキングブレーキを解除し、同乗者や付近の人に救援を求めて、安全な場所まで車を押して移動してください。このときは、車速感応ドアロックによるキーの閉じ込みに注意してください。

トランスミッションをポジション N にシフトできないときは、乗員を安全な場所に避難させ、続発事故を防いでください。

! 踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。緊急を要するときは非常信号用具も使用してください。

非常信号用具

懐中電灯をフロントドアポケットに装備しています。

i 新品時は電池の自然放電を防ぐため、電池の間に紙が挟まれています。使用するときには紙を取り除いてください。

懐中電灯が十分な明るさで点灯することを定期的に点検してください。

停止表示板

停止表示板を取り出す

- ▶ テールゲートを開きます。



- ▶ ノブ①を矢印の方向にまわして、カバーを開きます。



- ▶ 停止表示板ケース②を取り出します。

停止表示板の組み立て



- ▶ スタンド③を引き出して、停止表示板を地面に立てます。

- ▶ 反射板②を開いて、先端のフック①をかみ合わせます。

※ 車種や仕様により、停止表示板の形状が異なる場合があります。

救急セット

- ▶ テールゲートを開きます。



- ▶ ラゲッジネットから救急セット①を取り出します。

i 救急セットの中身が揃っていて、使用期限が過ぎていないことを確認してください。

車載工具

車載工具はラゲッジフロアボード下のカバー内に収納されています。

- ▶ ラゲッジフロアボードを開きます (▷223 ページ)。



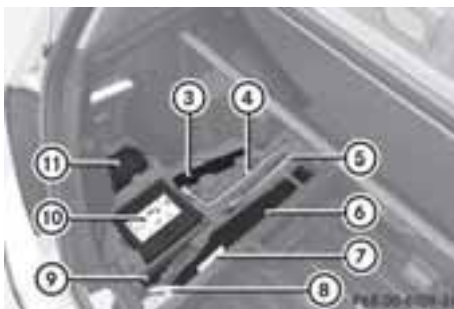
▶ カバー ① を矢印の方向に取り外します。

応急用スペアタイヤが車載されている場合



- ③ ホイールレンチ
- ④ けん引フック
- ⑤ ジャッキ
- ⑥ ヒューズ配置表（英文）
- ⑦ 応急用スペアタイヤ用ホイールボルト
- ⑧ 手袋
- ⑨ ジャッキハンドル
- ⑩ 電動エアポンプ
- ⑪ バルブリムーバー
- ⑫ 輪止め

タイヤフィットが車載されている場合



- ③ 輪止め
- ④ ホイールレンチ
- ⑤ けん引フック
- ⑥ ジャッキ
- ⑦ ヒューズ配置表（英文）
- ⑧ 手袋
- ⑨ ジャッキハンドル
- ⑩ 電動エアポンプ
- ⑪ タイヤフィット

※ タイヤフィットは、日本仕様には装備されません。

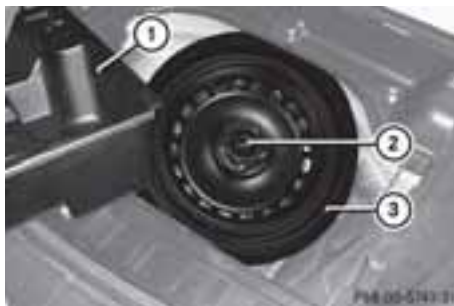
※ 仕様により、車載工具の配置や内容が異なる場合があります。

応急用スペアタイヤ

応急用スペアタイヤはラゲッジルームトレイの下に収納されています。

応急用スペアタイヤを取り出す

- ▶ ラゲッジフロアボードを開きます（▶223 ページ）。
- ▶ ラゲッジルームトレイ ① を取り出します。



- ▶ スクリュー ② を反時計回りにまわして取り外します。
- ▶ 応急用スペアタイヤ ③ を取り出します。

タイヤ交換と応急用スペアタイヤの装着について、詳しくは (▷305 ページ) をご覧ください。

応急用スペアタイヤを収納する

使用した応急用スペアタイヤを元の位置に収納するときは、以下の手順に従ってください。さもないと、応急用スペアタイヤを元の場所に収納できなくなります。

この作業はメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼することをお勧めします。

! 応急用スペアタイヤは乾燥した状態のときのみ収納してください。さもないと、ラゲッジルームが濡れるおそれがあります。

- ▶ 車載工具からバルブリムーバー (▷270 ページ) を取り出します。
- ▶ バルブからバルブキャップを取り外します。
- ▶ バルブリムーバーを使用してバルブを取り外し、完全に空気を抜きます。
- i** タイヤから完全に空気が抜けるまでには数分間かかります。
- ▶ バルブリムーバーを使用してバルブを取り付けます。
- ▶ バルブキャップを取り付けます。
- ▶ バルブリムーバーを車載工具に収納します。
- ▶ 応急用スペアタイヤをラゲッジルームトレイの下に収納し、スクリューで固定します。

ディスプレイメッセージ

はじめに

マルチファンクションディスプレイには、ディスプレイメッセージが表示されます。

この取扱説明書ではマークを含むディスプレイメッセージの表記を簡略化しているため、マルチファンクションディスプレイに実際に表示されるマークと異なる場合があります。

ディスプレイメッセージの指示に従って適切な処置を行ない、この取扱説明書に記載された注意事項をお守りください。

特定のディスプレイメッセージが表示されると、断続的または連続的な警告音も鳴ります。

停車または駐車するときは、ホールド機能（▷171 ページ）と駐車（▷119 ページ）に関する注意事項をお守りください。

ディスプレイメッセージを非表示にする

- ▶ ディスプレイメッセージを非表示にするには、ステアリングの **[OK]** または **[↔]** スイッチを押します。

ディスプレイメッセージが消えます。

重要度の高いメッセージは赤色で表示されます。特に重要度の高いディスプレイメッセージは、非表示にすることができません。

これらのメッセージは、故障や異常の原因が解決するまでマルチファンクションディスプレイに常時表示されます。

メッセージメモリー

マルチファンクションディスプレイには、特定のディスプレイメッセージが記憶されています。メッセージメモリーに記憶されたディスプレイメッセージを呼び出し、表示させることができます。

- ▶ ステアリングの **[◀]** または **[▶]** スイッチを押して、**メンテナンス** サブメニューを選択します。

メッセージがある場合は、ディスプレイに **2 メッセージ** のように故障の件数が表示されます。

- ▶ **[▼]** または **[▲]** スイッチを押して、2 メッセージなどを選択します。
- ▶ **[OK]** スイッチを押して確定します。
- ▶ **[▼]** または **[▲]** スイッチを押して、ディスプレイメッセージをスクロールします。

安全装備

ディスプレイ表示



現在 使用できません
取扱説明書を参照

考えられる原因および症状 /▶ 対応

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）、ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）、BAS（ブレーキアシスト）、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。アダプティブブレーキライト、BAS プラス、PRE-SAFE® ブレーキも作動しない。

加えて、メーターパネルの と 、 も点灯している。アテンションアシストは解除される。

可能性のある原因：

- 自己診断機能が終了していない
- バッテリー電圧が不十分である

⚠ 警告

ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、たとえば急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがあります。

ステアリング特性およびブレーキ特性が著しく影響を受けます。緊急ブレーキ時の制動距離が増えるおそれがあります。

ESP® が待機状態でないときは、ESP® は車両を安定させることができません。横すべりや事故に遭う危険性が増します。

▶ 適切な直線路で約 20km/h 以上の速度でステアリングを軽く左右に動かしながら、注意して走行してください。

メッセージが消えると、上記の機能は再度作動できる状態になります。メッセージが表示されたままのとき：

- ▶ 注意して走行してください。
- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示

考えられる原因および症状 /▶ 対応



故障

取扱説明書を参照

故障のため、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。
アダプティブブレーキライト、BAS プラス、PRE-SAFE® ブレーキも作動しない。

加えて、メーターパネルの  と  も点灯している。
たとえば、自己診断機能が終了していない可能性がある。
アテンションアシストは解除される。

⚠ 警告

ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。

緊急ブレーキ時の制動距離が増えるおそれがあります。

ESP® が待機状態でないときは、ESP® は車両を安定させることができません。横すべりや事故に遭う危険性が増します。

▶ 適切な直線路で約 20km/h 以上の速度でステアリングを軽く左右に動かしながら、注意して走行してください。

メッセージが消えると、上記の機能は再度作動できる状態になります。
メッセージが表示されたままのとき：

▶ 注意して走行してください。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。



故障

取扱説明書を参照

故障のため、EBD (エレクトロニック・ブレーキ・ディストリビューション)、ABS、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが作動しない状態になっている。

アダプティブブレーキライト、BAS プラス、PRE-SAFE® ブレーキも作動しない。

加えて、メーターパネルの  と 、 も点灯し、警告音が鳴った。

⚠ 警告

ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、急ブレーキ時などに前後輪がロックするおそれがあります。

ステアリング特性およびブレーキ特性が著しく影響を受けます。緊急ブレーキ時の制動距離が増えるおそれがあります。

ESP® が待機状態でないときは、ESP® は車両を安定させることができません。横すべりや事故に遭う危険性が増します。

▶ 注意して走行してください。

▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。



パ・キング ブレーキ

解除してください

パーキングブレーキを効かせたまま走行している。警告音も鳴っている。

▶ パーキングブレーキを解除してください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 すぐにブレーキを踏んでください	ホールド機能またはディストロニック・プラスの作動中に故障が発生した。ホーンが断続的に鳴る。このときにリモコン操作で施錠操作を行なうと、ホーンの音量が上がる。イグニッション位置を 0 か 1 にしたときは、エンジンを始動することができない。 ▶ 周囲の交通状況に注意しながら、ただちにブレーキペダルをいっぱいまで踏み、メッセージが消えるまで保持してください。 ▶ 車両を動き出さないようにするため、車載工具の輪止めを使用してください。 エンジンが始動できるようになります。
 ブレーキ液レベル点検してください	リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 加えて、メーターパネルの  が点灯し、警告音も鳴った。  警告 ブレーキ性能が損なわれることがあります。 事故の危険性があります。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ 車両が動き出さないようにしてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ▶ ブレーキ液を補給しないでください。問題は解消しません。
 ブレーキパッド摩耗点検してください	ブレーキパッド / ライニングの摩耗が限界に達している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場点検を受けてください。
プレセーフ故障 取扱説明書を参照	PRE-SAFE® の重要な機能に異常がある。エアバッグなど他の乗員保護システムの機能は確保されている。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
プレセーフ 機能が現在 制限されています 取扱説明書を参照	以下により、PRE-SAFE® ブレーキが一時的に作動停止している。 • 豪雨や雪のため機能に支障がある • フロントグリルまたはバンパーのセンサーが汚れている • 近くのテレビ局やラジオ局からの電磁波や、その他の電磁波の発生源などにより、レーダーセンサーシステムが一時的に作動停止している • システムが作動温度外になっている • バッテリーの電圧が低くなっている 上に挙げた原因がなくなると、メッセージは消えます。 PRE-SAFE® ブレーキは再度作動可能になります。 メッセージが消えないとき： ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ フロントグリルおよびバンパーのセンサーを清掃してください（▶264 ページ）。 ▶ エンジンを再始動してください。
プレセーフ 機能が制限 されています 取扱説明書を参照	PRE-SAFE® ブレーキが故障している。BAS プラスまたは車間距離警告も機能しない。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 SRS システム 故障 工場で点検	SRS（乗員保護補助装置）が故障している。メーターパネルの SRS 警告灯  も点灯している。 ⚠ 警告 エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに全く作動しないことがあります。 けがの危険性が高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 乗員安全装備の詳しい情報は、（▶34 ページ）をご覧ください。
 フロント左 SRS 故障 工場で点検 または フロント右 SRS 故障 工場で点検	フロント左側、または右側の SRS に異常がある。メーターパネルの SRS 警告灯  も点灯している。 ⚠ 警告 エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに全く作動しないことがあります。 けがの危険性が高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 リア左 SRS 故障 工場で点検 または リア右 SRS 故障 工場で点検	 警告 エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに全く作動しないことがあります。 けがの危険性が高まります。 リア左側、または右側の SRS に異常がある。メーターパネルの SRS 警告灯  も点灯している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 ウィンドウバッグ左 SRS 故障 工場で点検 または ウィンドウバッグ右 SRS 故障 工場で点検	左側、または右側のウィンドウバッグに異常がある。 メーターパネルの SRS 警告灯  も点灯している。  警告 左側、または右側のウィンドウバッグが不意に作動したり、事故のときに全く作動しないことがあります。 けがの危険性が高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ライト

 LED に関するディスプレイメッセージは、すべての LED が切れたときにのみ表示されます。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 左コーナリングライト または 右コーナリングライト	左側または右側のコーナリングライトが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶302 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 左ロービーム または 右ロービーム	左側または右側のロービームが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶302 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 左リアウinker または 右リアウinker	リア左側またはリア右側の方向指示灯が切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶302 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 左フロント ウインカー または 右フロント ウインカー	フロント左側またはフロント右側の方向指示灯が切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶302 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 左ドアミラー ウインカー または 右ドアミラー ウインカー	左側または右側のドアミラー方向指示灯が切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶302 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 ハイマウント ブレーキランプ	ハイマウントブレーキライトが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶302 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 左テールランプ / ブレーキランプ または 右テールランプ / ブレーキランプ	左側または右側のテールライト / ブレーキライトが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶302 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 左ハイビーム または 右ハイビーム	左側または右側のハイビームが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶302 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 左ライセンスランプ または 右ライセンスランプ	左側または右側のライセンスライトが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶302 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 リアフォグランプ	リアフォグランプが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶302 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 左フロント パーキングランプ または 右フロント パーキングランプ	フロント左側またはフロント右側のパーキングライトが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▷302 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 左バックランプ または 右バックランプ	左側または右側のバックライトが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▷302 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 左デイトタイム ドライビングランプ または 右デイトタイム ドライビングランプ	左側または右側のデイトタイムドライビングライトが故障している。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▷302 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 インテリジェントライト システム故障	インテリジェントライトシステムが故障している。インテリジェントライトシステムは作動しないが、ライトは通常通り点灯する。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 故障 取扱説明書を参照	車外ライトが切れている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 オートライト 故障	ライトセンサーが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 ライトを 消してください	車両から離れるときにライトが点灯していた。警告音も鳴った。 ▶ ライトスイッチを AUTO の位置にしてください。
アダプティブ ハイビームアシスト 作動できません	アダプティブハイビームアシストが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
アダプティブ ハイビームアシスト 現在 使用できません 取扱説明書を参照	アダプティブハイビームアシストが解除され、一時的に作動停止している。 可能性のある原因： • フロントウインドウのカメラ付近が汚れている。 • 豪雨や雪、霧などのために、視界が妨げられている。 ▶ フロントウインドウを清掃してください。 カメラが再び完全に機能しているとシステムが判断したときは、アダプティブハイビームアシスト 再び使用可能ですのメッセージが表示されます。 アダプティブハイビームアシストが再度作動できるようになります。

エンジン	
ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 冷却水を点検 してください 取扱説明書を参照	冷却水量が非常に不足している。 ! エンジン冷却システムの冷却水が非常に少ない状態での長い走行は避けてください。さもないと、エンジンを損傷します。 ▶ 作業をする前に注意事項を読んでから、冷却水を補給してください（▶241 ページ）。 ▶ 通常よりも頻繁に冷却水を補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でエンジン冷却システムの点検を受けてください。
	ファンのモーターが故障している。 ▶ 冷却水温度が約 120℃以下の場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行を続けることができます。 ▶ 山道の走行や発進と停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷がかかる走行は避けてください。

ディスプレイ表示

考えられる原因および症状 /▶ 対応



停車して
エンジンを停止

冷却水の温度が高すぎる。

警告音も鳴っている。

⚠ 警告

エンジンがオーバーヒートしているときは走行しないでください。冷却水がエンジンルーム内に漏れて、発火する原因になります。

オーバーヒートしているエンジンからの蒸気は、ボンネットを開いたときの深刻な火傷の原因にもなります。

火傷の危険性があります。

- ▶ 道路や交通状況に注意しながら、ただちに停車して、エンジンを停止してください。
 - ▶ 車両が動き出さないようにしてください。
 - ▶ エンジンが冷えるまで車両から離れ、車両との安全な距離を確保してください。
 - ▶ 凍った泥などにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。
 - ▶ ディスプレイメッセージが消え、冷却水の温度が 120℃ 以下になるまでは、エンジンを再始動しないでください。さもないと、エンジンを損傷することがあります。
 - ▶ エンジン冷却水表示に注意を払ってください。
 - ▶ 冷却水温度が再び上昇する場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
- 冷却水が適切に補充されているときは、通常の走行状況下では数値は 120℃ まで上昇することがあります。



バッテリーが充電されていない。

可能性のある原因：

- オルタネーターの故障
- V ベルトの摩耗
- 電気システムの故障

- ▶ 道路や交通状況に注意しながら、ただちに停車して、エンジンを停止してください。
- ▶ 車両が動き出さないようにしてください。
- ▶ ボンネットを開いてください。
- ▶ V ベルトを点検してください。

V ベルトが摩耗しているとき：

! 走行を続けしないでください。エンジンがオーバーヒートするおそれがあります。

- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

V ベルトが損傷していないとき：

- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐに点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 給油の際 エンジンオイル量を 点検してください	エンジンオイル量が最低量まで不足している。 警告音も鳴った。 ▶ 遅くとも次の燃料補給までに、エンジンオイル量を点検してください。 ▶ 必要であれば、エンジンオイルを補給してください。 ▶ 通常よりも頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でオイルが漏れていないかエンジンの点検を受けてください。
 給油してください	燃料の残量が少なくなっている。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
 	燃料タンクに燃料がほとんどない。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

走行装備	
ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 アテンションアシスト 休憩してください	評価基準を基に、運転者が疲労しているか、または注意力が欠如しているとアテンションアシストが判断している。警告音も鳴った。 ▶ 必要であれば、休憩を取ってください。 長距離運転時では、定期的に休憩を取り、身体を十分に休ませてください。
 アテンションアシスト 故障	アテンションアシストが作動しない状態になっている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 オフ	ホールド機能が解除されている。車が横すべりしている。 警告音も鳴った。 ▶ 時間をおいてから、再度ホールド機能を作動させてください。 ホールド機能が解除されている。ホールド機能の作動条件を満たしていないときにブレーキペダルを強く踏み込んだ。 警告音も鳴った。 ▶ ホールド機能の作動条件を確認してください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
レーダーセンサー 停止しました 取扱説明書を参照	レーダーセンサーシステムが解除されている。 ▶ レーダーセンサーシステムが作動していることを確認してください（▶151 ページ）。 ▶ レーダーセンサーシステムを作動させてください（▶151 ページ）。
レーダーセンサー 自動的に 停止しました 取扱説明書を参照	電波望遠鏡施設の周辺では、レーダーからの電波の発信が禁止されているため、レーダーセンサーシステムが自動的に停止する（▶468 ページ）。ディストロニック・プラス（▶161 ページ）が作動していた場合は、システムが自動的に解除される。警告音も鳴る。 アクティブブラインドスポットアシスト（▶191 ページ）が作動していた場合は、自動的に解除され、ドアミラーの黄色の表示灯  が点灯する。BAS プラス（▶59 ページ）と PRE-SAFE® ブレーキ（▶63 ページ）の機能も停止する。 ▶ 走行を続けてください。 電波望遠鏡から十分離れた場所に移動すれば、上記の機能は再び作動させることができます。
アクティブ レーンキープアシスト 現在使用不可 取扱説明書参照	以下の理由により、アクティブレーンキーピングアシストが一時的に停止している。 • カメラ部分のフロントウインドウが汚れている • 大雨や雪、霧などにより、視界が妨げられている • 車線ラインがない道路を長時間走行している • 車線ラインが汚れや雪などにより覆われている 上に挙げた原因がなくなると、メッセージは消えます。アクティブレーンキーピングアシストは再度作動可能になります。 メッセージが消えないとき： ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ 車両が動き出さないようにしてください。 ▶ フロントウインドウを清掃してください（▶262 ページ）。
アクティブ レーンキープアシスト 故障	アクティブレーンキーピングアシストが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
アクティブ ブラインドスポット 故障	アクティブブラインドスポットアシストが故障している。 ドアミラーの黄色の表示灯  も点灯している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
パーキングアシスト 中止	運転席ドアを開き、運転席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用し、運転席ドアを閉じた状態で、駐車操作を繰り返してください。 ステアリングがシステムにより動かされているときに、マルチファンクションステアリングに不注意に触れた。 ▶ ステアリングがシステムにより動かされているときは、マルチファンクションステアリングに触れていないことを確認してください。 車両が横滑りして、ESP[®] が作動した。 ▶ 時間をおいてから、アクティブパーキングガイダンスを使用してください（▶179 ページ）。
パーキングアシスト 作動できません	何度もステアリング操作を行なったり、駐車操作を繰り返していた。アクティブパーキングガイダンスは、約 10 分後に再び作動可能になります（▶177 ページ）。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ エンジンを停止してから再始動してください。 ディスプレイメッセージが消えないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 パークトロニックが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
パーキングアシスト 終了	車両が駐車した。警告音も鳴った。 メッセージは自動的に消えます。
ディストロニックプラス オフ	ディストロニック・プラスが解除された（▶169 ページ）。自動的に解除されたときは、警告音も鳴る。
ディストロニックプラス 再び使用できます	ディストロニック・プラスが一時的に停止した状態から再び作動可能な状態になった。ディストロニック・プラスを再度作動できます（▶163 ページ）。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
ディストロニックプラス 現在 使用できません 取扱説明書を参照	以下により、ディストロニック・プラスが解除され、一時的に作動停止している。 • 豪雨や雪などのため機能に支障がある • フロントグリルまたはバンパーのセンサーが汚れている • 近くのテレビ局やラジオ局からの電磁波や、その他の電磁波の発生源などにより、レーダーセンサシステムが一時的に作動停止している • システムが作動温度外になっている • バッテリーの電圧が低くなっている 警告音も鳴った。 上に挙げた原因がなくなると、メッセージは消えます。 ディストロニック・プラスは再度作動可能になります。 メッセージが消えないとき： ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ 車両が動き出さないようにしてください。 ▶ フロントグリルとバンパーのセンサーを清掃してください (▶264 ページ)。 ▶ エンジンを再始動してください。
ディストロニックプラス 故障	ディストロニック・プラスが故障している。BAS プラスと PRE-SAFE® ブレーキも機能しない。 警告音も鳴った。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ディストロニックプラス 制御待機中	アクセルペダルを踏んだ。ディストロニック・プラスが車両の速度の制御しなくなった。 ▶ アクセルペダルから足を放してください。
ディストロニックプラス --- km/h	ディストロニック・プラスの作動条件を満たしていない。 ▶ ディストロニック・プラスの作動条件を確認してください (▶163 ページ)。
ディストロニックプラス と可変スピードリミッター 故障	ディストロニック・プラスと可変スピードリミッターが故障している。警告音も鳴った。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
クルーズコントロール とスピードリミッター 故障	クルーズコントロールと可変スピードリミッターが故障している。警告音も鳴った。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
制限速度 --- km/h	アクセルペダルをいっぱいまで踏み込んでいるとき (キックダウン) は、可変スピードリミッターを作動させることができない。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
クルーズコントロール --- km/h	クルーズコントロールの作動条件を満たしていない。例えば、約 30km/h 以下の速度でクルーズコントロールを作動させようとした。 ▶ 作動条件が満たされていれば、約 30km/h 以上の速度で走行し、クルーズコントロールを設定してください。 ▶ クルーズコントロールの作動条件を確認してください（▶154 ページ）。

タイヤ	
ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
タイヤ空気圧 タイヤを点検 してください	タイヤ空気圧警告システムが空気圧の急激な低下を検知した。 警告音も鳴った。 ⚠ 警告 空気圧が低いタイヤにより、以下の危険性があります。 • 荷物を積載したり速度が上昇すると、特にタイヤがバーストすることがあります。 • タイヤが過度に、または不均一に摩耗し、タイヤの駆動力が著しく損なわれることがあります。 • 走行特性や操舵特性、ブレーキ特性が著しく損なわれることがあります。事故の危険性があります。 ▶ 急ハンドルや急ブレーキを避けて停車してください。そのときは、交通状況に注意してください。 ▶ 車両が動き出さないようにしてください。 ▶パンクしているときは、タイヤを点検してください（▶305 ページ）。 ▶ タイヤ空気圧を点検し、必要であれば空気圧を適正にしてください。 ▶ 適正なタイヤ空気圧に調整した後に、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（▶249 ページ）。
空気圧点検後 タイヤ空気圧 警告システム 再始動	タイヤ空気圧警告システムの警告が行なわれ、その後に再起動が行なわれていない。 ▶ すべてのタイヤの空気圧を適正にしてください。 ▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。
タイヤ空気圧 警告システム 作動できません	タイヤ空気圧警告システムが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

車両	
ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
エンジン始動 P または N にシフト	トランスミッションがポジション D または R のときにエンジンを始動しようとした。 ▶ トランスミッションをポジション P または N にシフトしてください。
シフトポジションが P ではないため 車が動く恐れがあり ます	運転席側ドアを開いて、トランスミッションをポジション N 、 D 、 R にした。 ▶ トランスミッションをポジション P にシフトしてください。
	テールゲートが開いている。 ⚠ 警告 エンジンがかかっているときは、テールゲートが開いていると排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。 中毒の危険性があります。 ▶ テールゲートを閉じてください。
	いずれかのドアが開いている。警告音も鳴った。 ▶ すべてのドアを閉じてください。
 パワーステアリング 故障 取扱説明書を参照	パワーステアリングの補助が故障している。 警告音も鳴った。 ⚠ 警告 ステアリング操作には、より大きな力が必要になります。 事故の危険性があります。 ▶ 大きな力でステアリングが操作できるか確認してください。 ▶ 安全にステアリング操作ができるとき ：メルセデス・ベンツ指定サービス工場まで注意して走行してください。 ▶ 安全にステアリング操作ができないとき ：走行を続けしないでください。最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
発信できません	車両がネットワークプロバイダーの送受信範囲外にある。 ▶ 携帯電話が使用可能になる表示が現れるまで待ってください。
 ウォッシャー液を 補充してください	リザーブタンクのウォッシャー液量が最低レベルまで減っている。 ▶ ウォッシャー液を補給してください (▶242 ページ)。

キー	
ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
 キーが違います	エンジンスイッチに別の車両のキーを差し込んでいる。 ▶ 正しいキーを使用してください。
 キーを交換してください	キーが機能しなくなっている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 キーの電池を交換してください	キーの電池が消耗している。 ▶ 電池を交換してください。
 キーを認識できません (赤色のメッセージ)	システムが車内にキーがないと判断している。 警告音も鳴った。 エンジンを停止すると、車の施錠やエンジン始動ができなくなる。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ 車両が動き出さないようにしてください。 ▶ キーを探してください。
	電磁波などの影響により、走行中にシステムがキーを認識できない。 警告音も鳴った。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ 車両が動き出さないようにしてください。 ▶ 必要であれば、エンジンスイッチにキーを差し込んで操作を行なってください。
 キーを認識できません (白色のメッセージ)	システムがキーを認識できない。 ▶ キーの位置を変えてください。 それでもキーがシステムに認識されないとき： ▶ 必要であれば、エンジンスイッチにキーを差し込んで操作を行なってください。
 キーが車内にあります	施錠時にシステムが車内にキーがあると判断している。 ▶ キーを車から遠ざけてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
 スタートボタンを外し キーを入れてください	キーが検知され続けていない。システムが一時的に故障しているか異常がある。警告音も鳴った。 ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んで操作を行なってください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 ドアを閉めてから ロックしてください	施錠時にいずれかのドアが開いている。 警告音も鳴った。 ▶ すべてのドアを閉じてから、再度施錠操作を行なってください。

メーターパネルの表示灯 / 警告灯

シートベルト

トラブル	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 特定の国のみ：エンジン始動後に、赤色のシートベルト警告灯が約 6 秒間点灯する。	シートベルト警告灯が運転席と助手席の乗員にシートベルトの着用を促している。 ▶ シートベルトを着用してください。（▷94 ページ）
 特定の国のみ：エンジン始動後に、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。さらに、警告音が約 6 秒以内で鳴る。	運転席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください（▷94 ページ）。 警告音が鳴り止みます。
 運転席ドアまたは助手席ドアを閉じてエンジンを始動すると、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。	運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください（▷94 ページ）。 シートベルト警告灯が消灯します。
	助手席シートの上に荷物を置いている。 ▶ 助手席シートに置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。 シートベルト警告灯が消灯します。
 赤色のシートベルト警告灯が点滅し、断続的な警告音も鳴る。	運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。その状態で走行速度が約 25km/h を超えるか、または速度が一時的に約 25km/h を超えた。 ▶ シートベルトを着用してください（▷94 ページ）。 シートベルト警告灯が消灯し、断続的な警告音も停止します。
	助手席シートの上に荷物を置いている。その状態で速度が約 25km/h を超えるか、または速度が一時的に約 25km/h を超えた。 ▶ 助手席シートに置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。 シートベルト警告灯が消灯し、断続的な警告音も停止します。

安全装備

トラブル	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯する。警告音も鳴った。	リザーブタンクに十分な量のブレーキ液がない。  警告 ブレーキ性能が損なわれることがあります。事故の危険性があります。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。状況を問わず、走行を続けなください。 ▶ 車両が動き出さないようにしてください。 ▶ ブレーキ液を補給しないでください。補給によりこの故障は解消しません。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。
 エンジンがかかっているときに黄色のABS警告灯が点灯する。	ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）に異常があるため機能が解除されている。この理由により、BAS（ブレーキアシスト）、ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）、PRE-SAFE®, PRE-SAFE® ブレーキ、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトも解除されている。 アテンションアシストは解除される。  警告 ブレーキシステムは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、急ブレーキ時などには車輪がロックする可能性があります。ステアリング特性およびブレーキ特性が著しく影響を受けます。緊急ブレーキ時の制動距離が増えるおそれがあります。 ESP® が待機状態でないときは、ESP® は車両を安定させることができません。横すべりや事故に遭う危険性が増します。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行を続けてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ABS コントロールユニットが故障しているときは、ナビゲーションシステムやオートマチックトランスミッションなどの他のシステムも使用できない可能性があります。

トラブル	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 エンジンがかかっているときに黄色のABS警告灯が点灯する。	ABSの機能が一時的に作動しない。BAS、ESP[®]、EBD（エレクトロニック・ブレーキ・ディストリビューション）、PRE-SAFE[®]、PRE-SAFE[®] ブレーキ、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトも解除されている。 可能性のある原因： • 自己診断機能が終了していない • バッテリー電圧が不十分である アテンションアシストは解除される。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、急ブレーキ時などには車輪がロックする可能性があります。 ステアリング特性およびブレーキ特性が著しく影響を受けます。緊急ブレーキ時の制動距離が増えるおそれがあります。 ESP[®] が待機状態でないときは、ESP[®] は車両を安定させることができません。横すべりや事故に遭う危険性が増します。 ▶ 適切な直線路で約 20km/h 以上の速度でステアリングを軽く左右に動かしながら、注意して走行してください。 警告灯が消灯すれば、上記の機能は再度作動できる状態になります。 警告灯が点灯したままのとき： ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行を続けてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 エンジンがかかっているときに黄色のABS警告灯が点灯する。警告音も鳴った。	EBD が故障している。そのため、ABS、BAS、ESP[®]、PRE-SAFE[®]、PRE-SAFE[®] ブレーキ、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトも作動しない状態になっている。 アテンションアシストは解除される。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、急ブレーキ時などには前後輪がロックする可能性があります。 ステアリング特性およびブレーキ特性が著しく影響を受けます。緊急ブレーキ時の制動距離が増えるおそれがあります。 ESP[®] が待機状態でないときは、ESP[®] は車両を安定させることができません。横すべりや事故に遭う危険性が増します。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行を続けてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯と黄色のESP®表示灯、ESP®オフ表示灯、黄色のABS警告灯が点灯する。	ABS と ESP® に異常がある。そのため、BAS、EBD、PRE-SAFE®、PRE-SAFE® ブレーキ、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトも故障のため作動しない状態になっている。 アテンションアシストは解除される。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、急ブレーキ時などには前後輪がロックする可能性があります。 ステアリング特性およびブレーキ特性が著しく影響を受けます。緊急ブレーキ時の制動距離が増えるおそれがあります。 ESP® が待機状態でないときは、ESP® は車両を安定させることができません。横すべりや事故に遭う危険性が増します。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行を続けてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 走行中に黄色のESP®表示灯が点滅する。	車が横滑りをする危険性があるか、少なくとも 1 つの車輪が空転し始めているため、ESP® やトラクションコントロールなどが作動している。 クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスは解除される。 ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。 ▶ 走行中はよりゆるやかに加速ください。 ▶ 道路と天候の状態に運転スタイルを合わせてください。 ▶ ESP® の機能を解除しないでください。 例外は (▶62 ページ) をご覧ください。
 エンジンがかかっているときに黄色のESP®オフ表示灯が点灯する。	ESP® が解除されている。 ⚠ 警告 ESP® が待機状態でないときは、ESP® は車両を安定させることができません。横すべりや事故に遭う危険性が増します。 ▶ ESP® を待機状態にしてください。 例外は (▶62 ページ) をご覧ください。 ▶ 道路と天候の状態に運転スタイルを合わせてください。 ESP® を待機状態にできないとき： ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場、ESP® の点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 エンジンがかかっているときに黄色の ESP® 表示灯と ESP® オフ表示灯が点灯する。	故障のため、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、PRE-SAFE® ブレーキ、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトが解除されている。 アテンションアシストは解除される。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。 緊急ブレーキ時の制動距離が増えるおそれがあります。 ESP® が待機状態でないときは、ESP® は車両を安定させることができません。横すべりや事故に遭う危険性が増します。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行を続けてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 エンジンがかかっているときに黄色の ESP® 表示灯と ESP® オフ表示灯が点灯する。	ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキライト、BAS プラス、および PRE-SAFE® ブレーキ、も作動しない可能性がある。 アテンションアシストは解除される。 システムの自己診断が終了していない。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。 緊急ブレーキ時の制動距離が増えるおそれがあります。 ESP® が待機状態でないときは、ESP® は車両を安定させることができません。横すべりや事故に遭う危険性が増します。 ▶ 適切な直線路で約 20km/h 以上の速度でステアリングを軽く左右に動かしながら、注意して走行してください。 メッセージが消えれば、上記の機能は作動できる状態になります。 表示灯が点灯したままのとき： ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行を続けてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 車両が動いているときに、赤色のブレーキ警告灯が点灯する。警告音も鳴った。	パーキングブレーキを効かせながら走行している。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。 警告灯が消灯し、警告音も停止します。

トラブル	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 エンジンがかかっているときに赤色のSRS警告灯が点灯する。	SRS（乗員保護補助装置）が故障している。 ▲ 警告 エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに全く作動しないことがあります。 けがの危険性が高まります。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場 で SRS の点検を受けてください。 乗員安全装備の詳細な情報は（▶34 ページ）をご覧ください。

エンジン

トラブル	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 エンジンがかかっているときに黄色のエンジン警告灯が点灯する。	以下のものが故障している可能性がある。 • エンジン制御システム • 燃料噴射システム • 排気システム • イグニッションシステム • 燃料システム 排出ガスの制限値を超えたために、エンジンがエマージェンシーモードになっている可能性がある。 ▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場 で点検を受けてください。
 エンジンがかかっているときに黄色の燃料残量警告灯が点灯する。	燃料の残量が少なくなっている。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
 エンジンがかかっているときに赤色の冷却水警告灯が点灯し、エンジン冷却水温度計の指針が下限にある。	エンジン冷却水温度計の温度センサーが故障している。 冷却水温度を確認することができない。冷却水温度が高すぎる場合は、エンジンを損傷するおそれがある。 ▶ 道路や交通状況に注意しながらただちに停車し、エンジンを停止してください。状況を問わず走行を続けしないでください。 ▶ 車両が動き出さないようにしてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

トラブル	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 エンジンがかかっているときに赤色の冷却水警告灯が点灯する。	冷却水量が非常に不足している。 冷却水量が正常なときは、ラジエターへの送風が遮られているか、ラジエターの冷却ファンが故障している可能性がある。 冷却水量の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されない。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 道路や交通状況に注意しながらただちに停車し、エンジンを停止してください。 ▶ エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ 冷却水量を点検し、補給してください (▶241 ページ)。注意事項を守ってください。 ▶ 通常よりも頻繁に冷却水を補給する必要がある場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ▶ 凍結した泥などにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ 冷却水の温度が 120℃ 以下のときは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行を続けることができます。 ▶ そのときは、山道の走行や発進と停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷がかかる走行は避けてください。
 エンジンがかかっているときに赤色の冷却水警告灯が点灯する。警告音も鳴った。	冷却水温度が約 120℃ を超えている。ラジエターへの送風が遮られているか、リザーブタンクの冷却水量が非常に不足している可能性がある。 エンジンが十分に冷却されないため、エンジンを損傷するおそれがある。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 道路や交通状況に注意しながらただちに停車し、エンジンを停止してください。 ▶ エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ 冷却水量を点検し、補給してください (▶241 ページ)。注意事項を守ってください。 ▶ 通常よりも頻繁に冷却水を補給する必要がある場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ▶ 凍結した泥などにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ 冷却水温度が 120℃ 以下のときは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行を続けることができます。 ▶ 山道の走行や発進と停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷がかかる走行は避けてください。

走行装備

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
 走行中に赤色の車間距離警告灯が点灯する。	 事故のおそれがあります 先行車との車間距離が短すぎる。 事故の危険性がある。 ▶ 車間距離を長くってください。
 走行中に赤色の車間距離警告灯が点灯した。 警告音も鳴った。	 事故のおそれがあります 先行車または走行車線上にある障害物に、非常に高い速度で接近している。 事故の危険性がある。 ▶ ただちにブレーキ操作を行なう準備を整えてください。 ▶ 交通状況に十分注意してください。必要であれば、ブレーキペダルを踏むか、回避操作を行なってください。 さらなる情報については、ディストニック・プラス (▷161 ページ)、または PRE-SAFE® ブレーキ (▷63 ページ) をご覧ください。

非常時の解錠 / 施錠

エマージェンシーキー

全体的な注意事項

車両をキーで解錠できなくなった場合は、エマージェンシーキーを使用してください。

エマージェンシーキーを使用して解錠したときは、燃料給油フラップは自動的に解錠されません。

エマージェンシーキーの取り外し



- ▶ 解除キャッチ ① を矢印の方向に押し、同時にエマージェンシーキー ② をキーから取り外します。

運転席ドアの解錠（エマージェンシーキー）

キーで車両を解錠できなくなった場合は、エマージェンシーキーを使用してください。

- ▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します（▷298 ページ）。
- ▶ エマージェンシーキーを、運転席ドアの鍵にいっぱいまで差し込みます。



- ▶ エマージェンシーキーを反時計回りに ① の位置にまわします。
ドアが解錠されます。
- ▶ エマージェンシーキーをまわして戻し、抜きます。
- ▶ エマージェンシーキーをキーに差し込みます。

車両の施錠

キーで車両を施錠できなくなった場合は、エマージェンシーキーを使用してください。

- ▶ 運転席ドアを開きます。
- ▶ 助手席ドア、リアドアおよびテールゲートを閉じます。
- ▶ 集中施錠スイッチを押します（▷74 ページ）。
- ▶ 助手席ドアとリアドアのロックノブがまだ見えているかどうかを確認します。必要であれば、手でロックノブを押し込みます。
- ▶ 運転席ドアを閉じます。
- ▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します（▷298 ページ）。

- ▶ エマージェンシーキーを、運転席ドアの鍵にいっぱいまで差し込みます。



- ▶ エマージェンシーキーを時計回りに ① の位置にいっぱいまでまわします。
- ▶ エマージェンシーキーをまわして戻し、抜きます。
- ▶ ドアとテールゲートが施錠されていることを確認します。
- ▶ エマージェンシーキーをキーに差し込みます。

テールゲートの非常解除

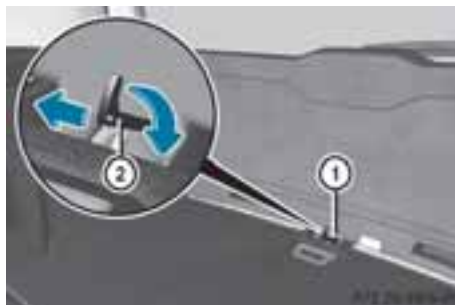
重要な安全上の注意

- ❗ 開くときは、テールゲートは上方および後方に動きます。そのため、テールゲートの上方および後方に十分な間隔があることを確認してください。

車外からテールゲートを解錠できないときは、テールゲート内側の非常解除を使用します。

- ❗ テールゲート開口部の寸法についての詳細は、テクニカルデータの項目にあります (▷339 ページ)。

開く



- ▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します (▷298 ページ)。
- ▶ エマージェンシーキー ② をテールゲート裏側の挿入口 ① に差し込みます。
- ▶ エマージェンシーキー ② を時計回りに 90° まわします。
- ▶ エマージェンシーキー ② を矢印の方向に押しながら、テールゲートを開きます。

NECK PRO アクティブヘッドレストのリセット

重要な安全上の注意

車両が追突された場合には、メルセデス・ベンツ指定サービス工場では NECK PRO アクティブヘッドレストを点検することをお勧めします。

i NECK PRO アクティブヘッドレストのリセット作業には強い力が必要です。ご自身による NECK PRO アクティブヘッドレストのリセット作業が困難なときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ではリセット作業を行なってください。



- ▶ ヘッドレストの上部を、前方の矢印①の方向に動かします。
- ▶ ヘッドレストの下部を矢印②の方向に停止するまで押します。
- ▶ ヘッドレストがロックされるまで、ヘッドレストを後方の矢印③の方向に強く押し下げます。
- ▶ もう一方のヘッドレストでも同様の作業を行います。

キーの電池交換

重要な安全上の注意

キーの電池の交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

⚠ 警告

電池は有毒で、腐食性物質が含まれています。この理由により、電池は子供の手の届かないところに離してください。

電池を飲み込んだときは、ただちに医師のところに行ってください。

♻ 環境



バッテリーには有害物質が含まれています。家庭ごみとして廃棄することは違法です。分別して収集され、環境を配慮したリサイクルシステムで廃棄されなければなりません。



バッテリーは環境を配慮した方法で廃棄されなければなりません。放電したバッテリーは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場、または使用済みバッテリーの収集場所にお持ちください。

キーの電池を点検する



- ▶  または  スイッチを押します。

バッテリーチェックランプ ① が短時間点灯する場合は、電池は正常に作動しています。

バッテリーチェックランプ ① が短時間点灯しない場合は、バッテリーが放電しています。

- i** 車両の信号受信範囲内でキーのバッテリーを点検した場合は、 または  スイッチを押すと以下ようになります。

- 車両が施錠します。または
- 車両が解錠します。

- ▶ 電池を交換してください (▶301 ページ)。

- i** 電池はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で購入できます。

電池の交換手順

CR2025 3V の電池が必要です。

- ▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します (▶298 ページ)。



- ▶ バッテリートレイカバー ① が開くまで、キーの開口部に矢印の方向にエマージェンシーキー ② を押し込みます。このときは、カバー ① を押さえなくてください。

- ▶ バッテリートレイカバー ① を取り外します。



- ▶ 電池 ③ が落ちるまで、手のひらでキーを繰り返し軽くたたきます。

- ▶ プラス電極が上方を向くように新しい電池を差し込みます。このときは、糸くずのない布を使用してください。

- ▶ 電池の表面に糸くず、脂分および他の汚れがないことを確認してください。

- ▶ バッテリートレイカバー ① の前方のタブを差し込み、それを押して閉じます。

- ▶ エマージェンシーキー ② をキーに差し込みます。
- ▶ 車両でキーのすべてのスイッチの機能を点検します。

電球の交換

重要な安全上の注意

バイキセノンヘッドライト

⚠ 警告

バイキセノンヘッドライトには高電圧が発生しています。バイキセノンヘッドライトの電気接続部に触れると、感電して、重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。この理由のため、バイキセノンヘッドライトのカバーは取り外さないでください。

バイキセノンヘッドライトの交換はご自身では行わず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

車両にバイキセノンヘッドライトが装備されているときは、以下のことにより認識することができます。エンジンを始動すると、バイキセノンヘッドライトからの配光は上から下に動き、再度戻ります。このことを見るためには、エンジンを始動する前に、ライトが点灯されていなければなりません。

バルブとライトは車両安全性に対して重要な要因です。そのため、これらが正しく機能することを常に確認しなければなりません。定期的にヘッドライトの設定を点検してください。

その他のライト

⚠ 警告

電球やライトは非常に熱くなります。そのため、交換する前に電球を冷やしてください。さもないと、それらに触れたときに火傷をするおそれがあります。

電球は子供の手の届かないところに保管してください。さもないと、電球を損傷したり、子供がけがをするおそれがあります。

落下した電球を使用しないでください。そのような電球は、割れたり破裂して、けがをすることがあります。

ハロゲンライトには圧力がかかっており、交換するときに破裂するおそれがあります。そのため、交換するときは、防護眼鏡や手袋などを着用してください。

バイキセノンヘッドライト以外にもお客様自身で交換できない電球があります。リストに挙げられている電球のみを交換してください（▶303 ページ）。お客様自身で交換できない電球は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

新しい電球のガラス部分には素手で触れないでください。少しの汚れであってもガラス表面で溶け、電球の寿命を縮めます。装着するときは常に、きれいな布を使用するか、バルブのベース部分にのみ触れてください。

適切な種類の電球のみを使用してください。

バルブとライトは車両安全性に対して重要な要因です。そのため、これらが正しく機能することを常に確認しなければなりません。定期的にヘッドライトの設定を点検してください。

電球交換の概要

以下の電球を交換することができません。



① コーナリングライト：H7 55W



① バックライト：W 16W

② 方向指示灯：PY 21W

ワイパーブレードの交換

重要な安全上の注意

⚠ 警告

ワイパーを作動させているときは、ワイパーアームが動きだし、けがの原因になることがあります。

ワイパーブレードを交換する前に、エンジンスイッチからキーを抜いてください。

! ワイパーアームがウインドウ / リアウインドウから起きているときは、決してボンネット / テールゲートを開かないでください。

ワイパーブレードがないワイパーアームをウインドウ / リアウインドウの上に載せないでください。

ワイパーブレードを交換するときは、ワイパーアームを確実に持ってください。ワイパーブレードがないワイパーアームを放して、ウインドウ / リアウインドウに落ちると、衝撃の力によりウインドウ / リアウインドウを損傷するおそれがあります。

ワイパーブレードの交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

! ワイパーブレードの損傷を避けるため、ワイパーアーム部分にのみ触れるようにしてください。

フロントウィンドウのワイパーブレードの交換

ワイパーブレードを垂直の位置に動かす

! ワイパーブレードを交換する前には、コンビネーションスイッチを使用して、常にワイパーアームを垂直の位置に起こします。さもないと、ボンネットを損傷するおそれがあります。

キーレスゴー非装備車

- ▶ イグニッション位置を **1** または **2** にします。
- ▶ コンビネーションスイッチを  の位置にします。
- ▶ ワイパーアームが垂直の位置になったときに、イグニッション位置を **0** にして、キーを抜きます。

キーレスゴー装備車

- ▶ イグニッション位置を **0** にします。
- ▶ コンビネーションスイッチを  の位置にします。
- ▶ エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押します。
- ▶ ワイパーアームが垂直の位置になったときに、キーレスゴースイッチを繰り返し押します。

ワイパーブレードを取り外す

- ▶ ワイパーアームを固定されるまでいっぱい起こします。
- ▶ ワイパーブレードをまわして図の位置にします。



- ▶ ワイパーブレードを矢印の方向に動かし、ワイパーアームの固定部から取り外します。

ワイパーブレードを取り付ける

- ▶ 新しいワイパーブレードを、取り付けたときとは反対の方向にワイパーアームの固定部に差し込みます。
ワイパーブレードが確実に差し込まれていることを確認してください。
- ▶ ワイパーブレードをワイパーアームと平行の位置にします。
- ▶ ワイパーアームを元の位置に戻します。

リアワイパーのワイパーブレードの交換

警告

ワイパーを作動させているときは、ワイパーアームが動きだし、けがの原因になることがあります。

ワイパーブレードを交換する前に、エンジンスイッチからキーを抜いてください。

ワイパーブレードを取り外す



- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ ワイパーアーム ① を固定されるまでいっぱい起こします。
- ▶ ワイパーアーム ① からワイパーブレード ② を起こします。
- ▶ ワイパーアーム ① を持ちながら、ワイパーブレード ② を矢印の方向に押して、ロックを外します。
- ▶ ワイパーブレード ② を取り外します。

ワイパーブレードを取り付ける

- ▶ 新しいワイパーブレード ② をワイパーアーム ① にのせます。
- ▶ ワイパーアーム ① を持ちながら、ワイパーブレード ② を取り付けたときとは反対の方向に押し込みます。
- ▶ ワイパーブレード ② が確実に固定されたことを確認します。
- ▶ ワイパーブレード ② をワイパーアーム ① と平行の位置にします。
- ▶ ワイパーアーム ① を元の位置に戻します。

パンクしたとき

タイヤ交換およびタイヤ修理の準備

- ▶ かたくてすべりにくい、水平な場所に停車します。
- ▶ 非常点滅灯を点滅させます。
- ▶ パーキングブレーキを確実に効かせます。
- ▶ ステアリングを直進の位置にします。
- ▶ DIRECT SELECT レバーでポジション P にシフトします。
- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ キーレスゴー非装備車：エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ キーレスゴー装備車：運転席ドアを開きます。

車両の電気装備が、キーを抜いたことと同様の、**0**の状態になります。

- ▶ キーレスゴー装備車：エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外します（▶80 ページ）。
- ▶ すべての乗員が車両から出なければなりません。そのときは、彼らに危険がおよばないことを確認してください。
- ▶ 車輪を交換している間は、危険な範囲に誰もいないことを確認してください。車輪交換を直接補助しない人は、バリアの後方に立つなどしてください。
- ▶ 交通状況に注意しながら、車外に出ます。
- ▶ 運転席ドアを閉じます。

- ▶ 車両の後方から離れた適切な場所に停止表示板を置きます（▷269 ページ）。

応急用スペアタイヤが搭載されている場合

タイヤ交換の準備

応急用スペアタイヤに交換したときは、標準タイヤとサイズが異なるため、必ず 80km/h 以下で走行してください。

⚠ 警告

応急用スペアタイヤと標準タイヤではタイヤのサイズと種類が異なります。応急用スペアタイヤの装着は、走行特性を著しく損なうことがあります。事故の危険性があります。

危険な状況避けるために、以下を行ってください。

- 状況に合わせて慎重に運転してください。
- 応急用スペアタイヤを 2 本以上装着して走行しないでください。
- 応急用スペアタイヤの使用は短い時間にとどめてください。
- ESP® の機能を解除しないでください。
- 応急用スペアタイヤを交換するときは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行ってください。交換するタイヤのサイズと種類が正しいことを確認してください。

- ▶ タイヤ交換に必要な準備を行いません（▷305 ページ）。

- ▶ ラゲッジフロアボード下の収納スペースから以下のものを取り出します。

- 応急用スペアタイヤ
- 応急用スペアタイヤ用ホイールボルト
- 電動エアポンプ
- ホイールレンチ
- 輪止め
- ジャッキ
- ジャッキハンドル

- ▶ 車が動き出すのを防ぐため、車を固定します。

車が動き出さないように固定する

車両の輪止めが装備されている場合は、車載工具にあります（▷270 ページ）。

折りたたみ式の輪止めは、車輪を交換するときなどに車が動き出すのを防止するための補助的な固定手段です。



- ▶ 両方のプレートを引き起こします ①。
- ▶ 裏面のプレートを引き出します ②。

- ▶ 裏面のプレートの突起部分を、ベースプレートの開口部に差し込みます③。



水平な場所で輪止めをする場合

- ▶ **水平な場所**：交換する車輪の対角にある車輪の前後に輪止めまたは類似の物を置きます。



緩い下り坂勾配で輪止めをする場合

- ▶ **下り勾配**：前輪および後輪の前側に輪止めまたは類似の物を置きます。

車両を上げる

⚠ 警告

車両の適切なジャッキポイントにジャッキを正しく合わせないと、車両を上げたときにジャッキが倒れるおそれがあります。けがの危険があります。

車両の適切なジャッキポイントにのみジャッキを合わせてください。ジャッキは車両のジャッキポイントの真下にくるようにしてください。

車両を上げるときは、以下の点に注意してください。

- 車両を上げるときは、メルセデス・ベンツによりテストされ承認された、車両専用のジャッキのみを使用してください。不適切なジャッキを使用すると、車両を上げたときにジャッキが倒れるおそれがあります。
- ジャッキは、車輪を交換するときには短時間車両を上げたままにするために設計されています。車両の下での整備作業には適していません。
- 上り坂や下り坂での車輪交換は避けてください。
- 車両を上げる前に、パーキングブレーキを効かせ、また輪止めをして、車両を固定してください。車両を上げているときは、決してパーキングブレーキを解除しないでください。

- ジャッキは、かたく、平坦で滑りにくい路面に置いてください。不整地などでは、大型の耐荷重マットを使用してください。滑りやすい路面では、ラバーマットなどの滑りにくい敷物を使用してください。
- ジャッキの敷物として、木製のブロックなどを使用しないでください。さもないと、高さが制限されることによりジャッキの耐荷重を得られないおそれがあります。
- タイヤ底面と地面との間の距離が3cmを超えないようにしてください。
- 上げた車両の下には決して手や足を入れないでください。
- 上げた車両の下には決して横たわないでください。
- 車両を上げているときは、決してエンジンを始動しないでください。
- 車両を上げているときは、決してドアやテールゲートを開閉しないでください。
- 車両を上げているときは、車両に人が乗っていないことを確認してください。



- ▶ ホイールレンチ ① を使用して、交換する車輪のボルトを約 1 回転ほど緩めます。ボルトを完全に緩めないでください。

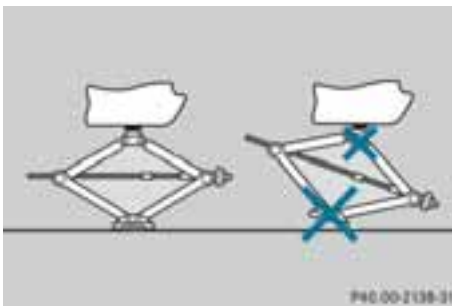
ジャッキポイントは、フロントホイールアーチのすぐ後方、リアホイールアーチのすぐ前方（矢印の位置）にあります。



- ▶ タイヤ交換工具からラチェットレンチを取り出し、**AUF** の文字が見えるようにジャッキの六角ナットに合わせます。



- ▶ ジャッキポイント ② にジャッキ ③ を合わせます。



- ▶ ジャッキ ③ がジャッキポイント ② に完全にはまり、ジャッキの底部が均一に地面に接するまで、ラチェットレンチ ④ をまわします。
- ▶ タイヤが地面から最大で約3cm離れるまで、ラチェットレンチ ④ をまわします。

車輪を取り外す

- ▶ ホイールボルトを外します。
- ❗ ホイールボルトを砂や汚れのあるところに置かないでください。さもないと、ボルトを締めるときにホイールボルトのネジ山やホイールハブを損傷するおそれがあります。
- ▶ タイヤを取り外します。

車輪を取り付ける

⚠ 警告

オイルまたはグリースが付着したホイールボルト、または損傷したホイールボルト / ハブのネジ山はホイールボルトが緩む原因になるおそれがあります。結果として、走行しているときに車輪が外れるおそれがあります。事故の危険があります。

ホイールボルトにオイルやグリースを付着させないでください。ネジ山が損傷している場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。損傷したホイールボルトまたはハブのネジ山を交換 / 再生してください。走行を続けしないでください。

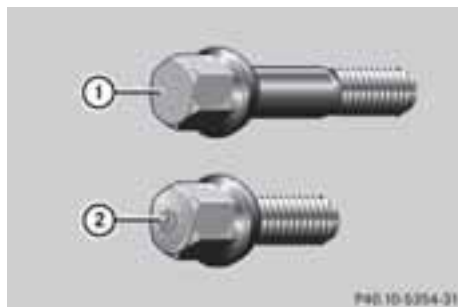
⚠ 警告

車両が上がっているときにホイールボルトまたはホイールナットを締めると、ジャッキが倒れるおそれがあります。けがの危険があります。

車両が地面の上にあるときのみ、ホイールボルトまたはホイールナットを締めてください。

"パンクしたとき"の指示や注意事項にも常に注意を払ってください (▷305 ページ)。

必ずホイールおよび車両のために設計されたホイールボルトのみを使用してください。安全上の理由により、メルセデス・ベンツ車および対応するホイールのために承認されたホイールボルトのみ使用することをお勧めします。



- ① 工場ですべてのホイールに装着されているホイールボルト
- ② 応急用スペアタイヤ用ホイールボルト

! 応急用スペアタイヤを装着するときは、常にホイールボルト②を使用してください。他のホイールボルトを応急用スペアタイヤに使用するとブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

修理した後に元のホイールを再装着するときは、必ず元の長さのホイールボルトを使用してください。

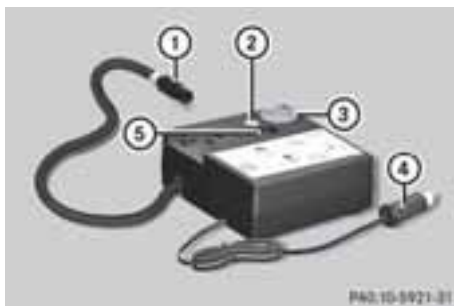
- ▶ ホイールとホイールハブの接合面を清掃します。



- ▶ ホイールハブのネジ穴とホイールの穴の位置が合うように応急用スペアタイヤを持ち上げます。
- ▶ ホイールボルトを手で締めます。
- ▶ 応急用スペアタイヤに空気を入れます。

応急用スペアタイヤに空気を入れる

! 必ず応急用スペアタイヤに空気を入れてからジャッキダウンしてください。ホイールリムを損傷するおそれがあります。



※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なることがあります。使用方法がわからないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

- ▶ 電動エアポンプの裏面から電源プラグ④とエアホースを取り出します。
- ▶ 応急用スペアタイヤのバルブキャップを取り外します。
- ▶ エアホースのナット①を応急用スペアタイヤのバルブに取り付けます。
- ▶ 電動エアポンプの電源スイッチ⑤が**0**（停止の位置）になっていることを確認します。
- ▶ 電源プラグ④をライターソケット（▷227ページ）または12V電源ソケット（▷228ページ）に差し込みます。
- ▶ イグニッション位置を**1**にします。
- ▶ 電動エアポンプの電源スイッチ⑤を**I**（作動の位置）にします。

電動エアポンプが作動して、応急用スペアタイヤに空気が送り込まれます。タイヤ空気圧は空気圧ゲージ③で確認できます。

- !** 電動エアポンプの最大連続作動時間を守ってください。ポンプが過熱して損傷したり、火傷をするおそれがあります。

最大連続作動時間は、電動エアポンプに貼付されているステッカーに記載されています。

ポンプが冷えれば、電動エアポンプを再び作動させることができます。

- ▶ 規定の空気圧になるまで空気を入れます。

規定の空気圧は、応急用スペアタイヤのホイールに黄色で記載されています。

- ▶ 規定の空気圧になったら、電動エアポンプの電源スイッチ②を**0**（停止の位置）にします。

電動エアポンプが停止します。

- ▶ イグニッション位置を**0**にします。
- ▶ 規定の空気圧を超えたときは、規定の空気圧になるまで、空気圧調整ボタン②を押します。
- ▶ 応急用スペアタイヤのバルブからエアホースのナット①を取り外します。
- ▶ 応急用スペアタイヤにバルブキャップを取り付けます。
- ▶ 電源プラグ④とエアホースを電動エアポンプの下部に収納します。
- ▶ 電動エアポンプを車に収納します。

車両を下げる

警告

非常に高い、または非常に低いタイヤ空気圧は、特に重い荷物で走行したときや速度を上げたときに応急用スペアタイヤの破裂につながるおそれがあります。事故の危険性があります。

応急用スペアタイヤの空気圧を点検し、調整してください。そのためには、規定タイヤ空気圧に従ってください。

- !** 必ず応急用スペアタイヤに空気を入れてからジャッキダウンしてください。ホイールリムを損傷するおそれがあります。

- ▶ **AB** の文字が見えるようにラチェットレンチをジャッキの六角ナットに合わせます。
- ▶ 車両が再度地面に確実に着くまで、ラチェットレンチをまわします。
- ▶ ジャッキを脇に置きます。



⚠ 警告

ホイールナットおよびボルトが規定の締め付けトルクで締められていないときは、ホイールが緩むおそれがあります。事故の危険があります。

車輪を交換した後は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で締め付けトルクを点検してください。

- ▶ 図のように対角パターンの順番（①～⑤）で、ホイールボルトを均一に締め付けます。規定の締め付けトルクは **150 Nm** です。
- ▶ ジャッキを元の位置にまわして戻します。
- ▶ ジャッキを元の状態に戻し、他の車載工具とともにラゲッジルームに収納します。
- ▶ ラゲッジルームでパンクしたタイヤを運搬します。

- ▶ **i** 応急用スペアタイヤを装着して走行したときは、タイヤ空気圧警告システムは正常に作動しません。不具合のある車輪を新しい車輪に交換したときにのみ、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

タイヤフィットが搭載されている場合

タイヤフィットの使用

タイヤフィットはタイヤシール剤です。4mm までのパンク、特にタイヤトレッドの傷を塞ぐためにタイヤフィットを使用できます。－ 20℃ までの外気温度でタイヤフィットを使用できます。

⚠ 警告

以下の状況では、タイヤを適切に塞ぐことができないため、タイヤシール剤は十分な緊急補助を行なうことができません。

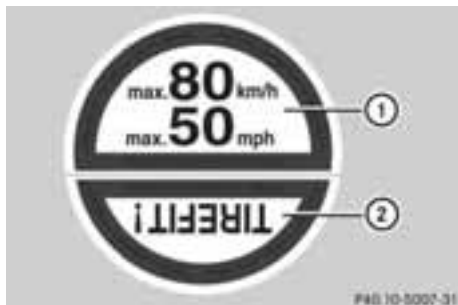
- 上記以上のタイヤの裂け目や穴がある
- ホイールリムが損傷している
- 非常に低いタイヤ空気圧で、または空気が完全に抜けたタイヤで走行した

事故の危険性があります。

それ以上走行しないでください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

- ▶ ネジまたはクギなどのタイヤに刺さった異物は取り除かないでください。

- ▶ ラゲッジルームトレイの下からタイヤフィットのボトル、付属の"max.80km/h" ステッカー、および電動エアポンプを取り出します。



- ▶ ステッカーの①部分を運転者の視界内に貼付します。
- ▶ ステッカーの②部分を不具合のあるタイヤのホイールのバルブ付近に貼付します。

⚠ 警告

タイヤシール剤は有害で、炎症の原因になります。皮膚、眼または衣服に付着しないように、また飲み込まないようにしてください。また、タイヤフィットの臭気を吸い込まないでください。タイヤシール剤は、子供から離してください。けがの危険性があります。

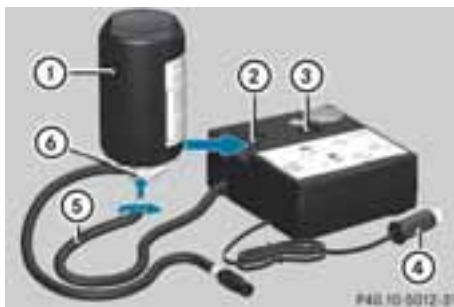
タイヤシール剤に触れた場合は、以下に従ってください。

- ただちに水で皮膚からすすぎ落としてください。
- タイヤシール剤が眼に付着した場合は、ただちに清潔な水で十分にすすいでください。

- タイヤシール剤を飲み込んだ場合は、ただちに口全体をすすぎ、大量の水を飲んでください。吐こうとせず、ただちに治療を受けてください。
- 衣服に付着した場合は、ただちに付着した衣服を着替えてください。
- アレルギー症状が出た場合は、ただちに医師の診断を受けてください。

- ① タイヤシール剤が漏れ出した場合は、乾かしてください。その後にフィルムの層のように取り除くことができます。

タイヤシール剤が衣類に付着した場合は、すみやかにドライクリーニングで洗濯してください。

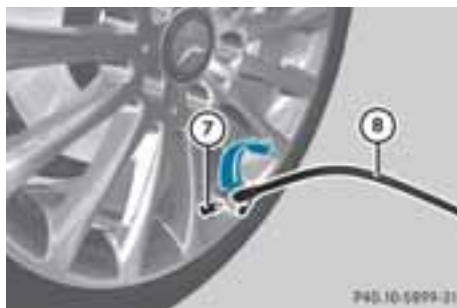


※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なることがあります。使用方法がわからないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

- ▶ 電動エアポンプから電源プラグ④とエアホース⑤を取り出します。
- ▶ エアホース⑤をタイヤシール剤ボトル①のバルブ⑥に確実に取り付けます。

! 電動エアポンプのエアホースはタイヤシール剤ボトルのバルブに確実に取り付けてください。電動エアポンプの作動時に接続部からタイヤフィットが漏れ、身体や衣類に付着するおそれがあります。

- ▶ タイヤシール剤ボトル ① のバルブ ⑥ を下にして持ち、電動エアポンプの凹部 ② に差し込みます。



- ▶ パンクしたタイヤのバルブ ⑦ からバルブキャップを取り外します。
- ▶ タイヤシール剤ボトルのホース ⑧ を、パンクしたタイヤのバルブ ⑦ に確実に取り付けます。
- ▶ 電源プラグ ④ をライターソケット (▶227 ページ) または 12V 電源ソケット (▶228 ページ) に差し込みます。
- ▶ イグニッション位置を 1 にします。
- ▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ③ を I (作動の位置) にします。
電動エアポンプが作動して、タイヤが膨らみはじめます。

i 最初にパンクしたタイヤにタイヤシール剤が送り込まれます。このとき、空気圧が一時的に約 500kPa (5bar/73psi) まで高まる場合があります。

この間は電動エアポンプの電源スイッチ ③ を停止しないでください。

- ▶ 電動エアポンプを約 5 分間作動させます。空気圧が少なくとも 180kPa (1.8bar/26psi) に達していることを確認してください。

! 電動エアポンプを、作動時間の上限を超えて連続して作動させないでください。ポンプが過熱して損傷したり、火傷をするおそれがあります。

連続作動時間の上限は、電動エアポンプに貼付してあるステッカーに記載されています。

ポンプが冷えれば、電動エアポンプを再び作動させることができます。

約 5 分後に空気圧が 180kPa (1.8bar/26psi) に達しているときは、(▶315 ページ) をご覧ください。

約 5 分後に空気圧が 180kPa (1.8bar/26psi) に達していないときは、(▶314 ページ) をご覧ください。

空気圧が達しない場合

5 分後に 180kPa (1.8bar/26psi) のタイヤ空気圧に達していない場合は、以下のようにします。

- ▶ 電動エアポンプを停止します。
- ▶ タイヤのバルブからタイヤシール剤ボトルのホースを取り外します。
- ▶ ごく低速で約 10m 前進または後退します。

- ▶ 再度、タイヤに空気を入れます。

最大で 5 分後には、タイヤ空気圧は少なくとも 180kPa (1.8bar/26psi) に達していなければなりません。

警告

規定時間後に要求されたタイヤ空気圧に達していない場合は、タイヤがかなり損傷しています。このときはタイヤシール剤でタイヤを修理することはできません。損傷したタイヤと非常に低下したタイヤ空気圧で、車両の制動および走行特性が著しく損なわれます。事故の危険性があります。

走行を続けしないでください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

空気圧が達している場合

- ▶ 電動エアポンプを停止します。
- ▶ タイヤのバルブからタイヤシール剤ボトルのホースを取り外します。
- ❗ 使用後、余分なタイヤシール剤が充填ホースから出てくる場合があります。これはシミにつながるおそれがあります。
そのため、タイヤシール剤ボトルが入っていたプラスチックの袋に充填ホースを入れてください。
- ▶ タイヤシール剤ボトルと電動エアポンプ、停止表示板を収納します。
- ▶ ただちに走行します。

警告

タイヤシール剤で一時的に塞いだタイヤは走行特性が損なわれるため、高速走行に適していません。事故の危険性があります。

そのため、それに応じて運転スタイルを合わせ、慎重に運転してください。タイヤシール剤を使用して修理されたタイヤに規定された最高速度を超えないようにしてください。

タイヤシール剤で塞いだタイヤの最高速度は 80km/h です。"max 80km/h" のステッカーをメーターパネルの運転者の視界内に貼付してください。

- ▶ 約 10 分間走行した後に停止し、電動エアポンプでタイヤ空気圧を点検します。

このとき、タイヤ空気圧が少なくとも 130kPa (1.3bar/19psi) になっていなければなりません。

警告

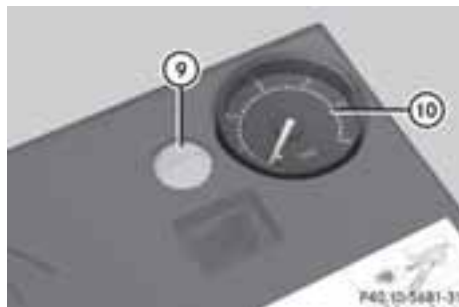
短時間の走行後に要求されたタイヤ空気圧に達していない場合は、タイヤがかなり損傷しています。このときはタイヤシール剤でタイヤを修理することはできません。損傷したタイヤと非常に低下したタイヤ空気圧で、車両の制動および走行特性が著しく損なわれます。事故の危険性があります。

走行を続けしないでください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

- ▶ 空気圧が 130kPa (1.3bar / 19psi) 以上ある場合は、タイヤ空気圧を修正します (数値は燃料給油フラップをご覧ください)。

空気圧を上げる

- ▶ 電動エアポンプを作動させます。



空気圧を下げる

- ▶ 空気圧ゲージ ⑩ の横にある空気圧調整ボタン ⑨ を押して調整します。
- ▶ タイヤシール剤ボトルと電動エアポンプ、停止表示板を収納します。
- ▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行し、そこでタイヤを交換します。
- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、すみやかにタイヤシール剤ボトルを交換します。

Ⓐ 環境

タイヤフィットやそのボトルの廃棄は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

- ▶ タイヤフィットは、4 年ごとにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

車両のバッテリー

重要な安全上の注意

交換や取り付けなど、バッテリーに関する作業を行なうときは、特別な工具と専門の知識が要求されます。そのため、バッテリーにかかわるすべての作業はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で実施してください。

⚠ 警告

不適切に実施されたバッテリーへの作業は、たとえばショートや車両の電気システムの損傷につながるおそれがあります。これは、ABS (アンチロック・ブレーキング・システム) または ESP® (エレクトロニック・スタビリティ・プログラム) のような走行安全装備が作動しなくなるおそれがあります。

- ABS が故障した場合は、ブレーキ操作中に車輪がロックすることがあります。これにより、ブレーキ時の車両操縦性が制限され、制動距離が長くなることがあります。事故の危険性があります。
- ESP® が故障した場合は、滑り始めたときや車輪が空転し始めたときに、車両を安定させることができません。事故の危険性があります。

そのため、バッテリーにかかわるすべての作業はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で実施してください。

 警告

バッテリーを取り扱うときは、安全上の注意に従い、保護対策を取ってください。



爆発の危険があります。



バッテリーを取り扱っているときは、火気、裸火および喫煙は禁止されています。

火花の発生を避けてください。



バッテリーの酸は腐食性です。皮膚、眼および衣服に触れないようにしてください。

手袋、エプロンおよびマスクなどの適切な保護用衣類を着用してください。

飛散した酸は、清潔な水でただちにすすぎ落としてください。必要であれば、医師に相談してください。



保護眼鏡を着用してください。



子供から離してください。



取扱説明書に従ってください。

 警告

安全上の理由により、メルセデス・ベンツがお客様の車両のためにテストを行ない、承認したバッテリーのみを使用することをお勧めします。これらのバッテリーは、事故でバッテリーが損傷したときに、乗員が酸による火傷を負うことを防ぐ、優れた衝撃保護をもたらします。

酸による火傷を防ぐため、バッテリーを取り扱うときは以下の安全事項に従ってください。

- バッテリーをのぞきこまないでください。
- 金属製の物をバッテリーの上に置かないでください。さもないと、ショートにつながるおそれがあり、バッテリーガスの混合気が発火するおそれがあります。
- 合成繊維の衣服の着用や繊維を擦ることによる静電気の帯電が発生していないことを確認してください。そのため、カーペットや他の合成繊維物の上でバッテリーを引いたり、スライドさせないでください。
- 最初にバッテリーに触れないでください。帯電した静電気を放電させるためには、最初に車から降りて、車体に触れてください。
- 布を使用してバッテリーを拭かないでください。これにより、静電気の帯電の結果、または火花の発生により、バッテリーが爆発することがあります。

🌀 環境



バッテリーには有害物質が含まれています。家庭ごみとして廃棄することは違法です。分別して収集され、環境を配慮したリサイクルシステムで廃棄されなければなりません。



バッテリーは環境を配慮した方法で廃棄されなければなりません。放電したバッテリーは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場、または使用済みバッテリーの収集場所にお持ちください。

! バッテリーはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で定期的に点検してください。

詳しい情報は整備手帳の点検整備時期をご覧ください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! バッテリーにかかわるすべての作業はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で実施してください。例外的にお客様ご自身でバッテリーの接続を外す必要があるときは、以下を確認してください。

- エンジンを停止し、キーを抜いてください。キーレスゴー装備車はイグニッションがオフになったことを確認してください。メーターパネルのすべての表示灯が消灯していることを点検してください。さもないと、オルタネーターのような電気部品を損傷するおそれがあります。

- 最初にマイナス端子を、それからプラス端子を取り外してください。端子を入れ替えないでください。さもないと、車両の電気システムを損傷するおそれがあります。
- バッテリーの接続を外した後にトランスミッションがポジション **P** にロックされます。車両は固定され、動き出さなくなります。その後は車両を動かすことができません。

作業している間は、バッテリーとプラス端子のカバーが確実に取り付けられていなければなりません。

バッテリーが最大限の寿命を得るためには、常に十分に充電されていなければなりません。

他のバッテリーと同じように、車両を使用しない場合は時間とともに車両のバッテリーが放電することがあります。この場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのバッテリーの接続を外してください。

主に短い走行で車両を使用する場合は、長い期間使用しないでいる場合は、より頻繁にバッテリーの充電状態を点検してください。長い期間車両を駐車したままにしたい場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に相談してください。

i 電気装備が必要でなければ、車両を駐車するときはキーを抜いてください。キーが差し込まれた状態では、車両はわずかな電力を使用し、バッテリーの電力を消耗します。

i バッテリーが放電した場合など、電力供給が中断された場合は、以下の作業を実施しなければなりません。

- 時計の設定（別冊の COMAND システム取扱説明書をご覧ください）
- ドアミラーの自動格納 / 展開機能のリセット（▷90 ページ）

バッテリーの充電

警告

バッテリーは換気のよい場所でのみ充電してください。バッテリーが充電されると、ガスが発生し、小規模な爆発が発生するおそれがあります。これにより、お客様や他の方がけがをしたり、塗装の損傷や車両の腐食につながるおそれがあります。

警告

充電作業の間は、バッテリーから発生したガスによる酸により、火傷のおそれがあります。充電作業の間は、バッテリーをのぞき込まないでください。

警告

バッテリーの酸は腐食性です。皮膚、目および衣類に触れないようにしてください。

! 装着されているバッテリーは、メルセデス・ベンツによりテストされ、承認されたバッテリー充電器のみで充電してください。これらのバッテリー充電器は、バッテリーを車両に装着している間に充電することができます。

! 最大充電電圧 14.8V のバッテリー充電器のみを使用してください。

! バッテリーを充電するときは、ジャンプスタートの接続端子のみを使用してください。

ジャンプスタートの接続端子はエンジンルーム内にあります（▷322 ページ）。

- ▶ ボンネットを開きます。
- ▶ ジャンプスタートの手順で救援用バッテリーを接続するときと同じ順番で、バッテリー充電器をプラス端子とアース端子に接続します（▷322 ページ）。
- ▶ バッテリーを充電する前に、バッテリー充電器の操作説明もご覧ください。

VRLA バッテリー

バッテリーのケースが黒色で、上面に VRLA-BATTERY のラベルがある場合は、バッテリー液のレベル点検や補充はできません。

また、危険ですので分解は絶対に行わないでください。

点検についてはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

インジケーター付きバッテリー



ケースが黒色で、上面にインジケーター ① があるバッテリーは、バッテリー液の補充はできません。

インジケーター ① は、バッテリーの液量や充電状態が適正なときは黒色に、バッテリーの交換が必要なときは白色になります。

インジケーターが白色になったときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に交換を依頼してください。

また、危険ですので分解は絶対に行わないでください。

ジャンプスタート

⚠ 警告

車両をジャンプスタートするときは、バッテリーから発生したガスによる酸により、火傷をする危険性があります。エンジンをジャンプスタートしている間は、バッテリーをのぞき込まないでください。

⚠ 警告

ジャンプスタートの間にバッテリーから発生したガスは、小規模な爆発につながる可能性があります。火花の発生を防いでください。裸火はバッテリーから離し、喫煙しないでください。

⚠ 警告

未燃焼の燃料が排気システムに集まり、発火するおそれがあります。火災の危険性があります。始動操作を長時間繰り返し行なうことは避けてください。

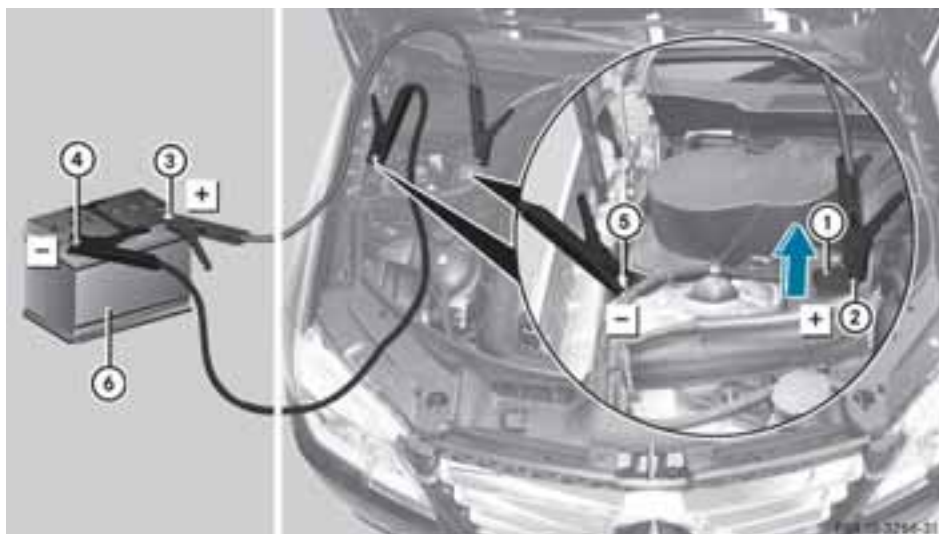
! 始動操作を長時間繰り返し行なうことは避けてください。さもないと、未燃焼の燃料により、触媒コンバーターを損傷するおそれがあります。

車両を始動するために急速充電器を使用しないでください。車両のバッテリーが放電した場合は、他の車両のバッテリー、または他のバッテリーから、ジャンプケーブルを使用してエンジンをジャンプスタートすることができます。以下の項目に従ってください。

- すべての車両でバッテリーに手が届くわけではありません。他の車両のバッテリーに手が届かない場合は、他のバッテリーやジャンプスタート機器を使用して、エンジンを始動してください。
- エンジンおよび触媒コンバーターが冷えているときにのみ、車両をジャンプスタートすることができます。
- バッテリーが凍結しているときは、エンジンを始動しないでください。最初にバッテリーを解凍してください。
- ジャンプスタートは電圧 12V バッテリーからのみ行なうことができます。
- 十分な太さがあり、絶縁された端子クランプを持つジャンプケーブルのみを使用してください。
- バッテリーが完全に放電している場合は、始動の試みの前に数分間、バッテリーをジャンプケーブルで接続したままにしてください。これにより、空のバッテリーに少しだけ充電が行なわれます。
- 2 台の車両が接触していないことを確認してください。

以下を確認してください。

- ジャンプケーブルが損傷していないこと
- ジャンプケーブルがバッテリーに接続されている間は、端子クランプのむき出しの部品が他の金属部品に触れていないこと
- ジャンプケーブルがVベルトのプーリーやファンのような部品に触れていないこと。エンジンを始動するときやかかっている間は、これらの部品が動きます。
- ▶ パーキングブレーキを確実に効かせます。
- ▶ トランスミッションをポジション P にシフトします。
- ▶ すべての電力装備（オーディオ、送風など）を停止します。
- ▶ ボンネットを開きます。



⑥は他の車両または同様のジャンプスタート機器の充電されたバッテリーを示しています。

- ▶ プラス端子②のカバー①を矢印の方向にスライドします。
- ▶ ジャンプケーブルを使用して、お客様の車両のプラス端子②と救援用バッテリー⑥のプラス端子③を、お客様のバッテリーから先に接続します。
- ▶ 救援車のエンジンを始動し、エンジンをアイドリングさせます。
- ▶ ジャンプケーブルを使用して、救援用バッテリー⑥のマイナス端子④とお客様の車両のアース端子⑤を、先に救援用バッテリー⑥から接続します。
- ▶ エンジンを始動します。
- ▶ ジャンプケーブルの接続を外す前に、数分間エンジンをかけたままにします。

▶ いずれの場合もお客様の車両の接続から先に、まずアース端子⑤とマイナス端子④から、そしてプラス端子②とプラス端子③からジャンプケーブルを取り外します。

▶ ジャンプケーブルを取り外した後に、プラス端子②のカバー①を閉じます。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのバッテリーの点検を受けてください。

i ジャンプスタートは通常の操作状況とはみなされていません。

i ジャンプスタートケーブルやジャンプスタートに関する詳しい情報については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

けん引

重要な安全上の注意

けん引するときは、関連する法規に従ってください。

 警告

エンジンがかかっていないときは、ステアリングのパワーアシストや制動力ブースターは作動しません。ステアリング操作やブレーキ操作に、より大きな力が必要になり、ブレーキペダルを最大の力で踏まなければならないことがあります。

けん引される前に、ステアリングが動き、ロックされていないことを確認してください。

 警告

ホールド機能またはディストロニック・プラスが作動しているときは、車両にブレーキが効いています。そのため、車両がけん引される前に、ホールド機能またはディストロニック・プラスを解除してください。

※ ディストロニック・プラスは、日本仕様車には装備されません。

! 最大で 50km まで車両をけん引できます。けん引速度は、50km/h を超えてはいけません。

50km を超えるけん引距離の場合は、車両全体を上げて運搬しなければなりません。

! けん引ロープは、けん引フックにのみ固定してください。さもないと、車両を損傷するおそれがあります。

! 車両を損傷するおそれがあるため、車両を復帰させるためにけん引フックを使用しないでください。可能であれば、車両をクレーンで復帰させてください。

! けん引の際にはスムーズに発進してください。駆動力が大きすぎるときは、車両を損傷するおそれがあります。

! キーレスゴー装備車では、キーレスゴースイッチの代わりにキーを使用してください。エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわして、トランスミッションをポジション **N** にします。その後、キーを **0** の位置にまわして、そのままの位置にしておきます。

けん引されるときは、トランスミッションがポジション **N** になければいけません。

バッテリーが接続されていて、充電されていなければなりません。さもないと、以下のようになります。

- エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわすことができません。
- トランスミッションをポジション **N** にシフトできません。

i 車速感応ドアロックを解除してください (▷75 ページ)。さもないと、車両を押したりけん引されるときに、閉め出されるおそれがあります。

けん引フックの取り付け / 取り外し

けん引フックの取り付け

- ▶ 車載工具（▷269 ページ）からけん引フックを取り出します。

 警告

リアのカバーを取り外すときは、マフラーに注意してください。マフラーは高温になるため、マフラーに触れると火傷をするおそれがあります。

けん引フックの取り付け部はフロントとリアのバンパーにあります。けん引フックを取り付けるときはカバーを外します。



AMG スポーツパッケージ非装着車



AMG スポーツパッケージ装着車

- ▶ カバー ① のマーク部を矢印の方向に押します。

AMG スポーツパッケージ非装着車のフロントバンパー：矢印のカバーの穴に指を入れて引っばります。

AMG スポーツパッケージ装着車のフロントバンパー：矢印のカバーの切り欠き部にへらなどを差し込みます。

- ▶ カバー ① を外します。
- ▶ けん引フックを時計回りに停止するまでまわして締めます。

けん引フックの取り外し

- ▶ けん引フックを緩めて、取り外します。
- ▶ カバー ① をバンパーに押し込んで取り付けます。
- ▶ けん引フックを車載工具に入れます。

両アクスルを接地させて車両をけん引する

車両をけん引するときは、安全上の指示に従うことが重要です（▷323 ページ）。

 警告

エンジンがかかっていないときは、ステアリングのパワーアシストや制動力ブースターは作動しません。車両にブレーキを効かせたり、操舵するために、より多くの力が必要になります。それに応じて運転スタイルを合わせてください。

- ▶ 非常点滅灯を点滅させます (▷100 ページ)。

i 非常点滅灯を作動させてけん引されているときに方向変更の合図が必要なときは、通常通りコンビネーションスイッチを使用してください。この場合、望む方向の方向指示灯のみが点滅します。コンビネーションスイッチを元に戻すと、再度非常点滅灯が点滅し始めます。

- ▶ イグニッション位置を **2** にします。
- ▶ 停止しているときは、ブレーキペダルを踏んだままにします。
- ▶ トランスミッションをポジション **N** にします。
- ▶ ブレーキペダルから足を放します。
- ▶ パーキングブレーキを解除します。

車両を運搬する

運搬したいときは、車両を車両運搬車に引き上げたり、運搬するために、けん引フックを使用することができます。

- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にします。
- ▶ オートマチックトランスミッションをポジション **N** にシフトします。

車両が積載されたら、すぐに以下のことを行ないます。

- ▶ パーキングブレーキを効かせて、車両が動かないようにします。
- ▶ オートマチックトランスミッションをポジション **P** にシフトします。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **0** の位置にまわして抜きます。
- ▶ 車両を固定します。

! アクスルやサスペンション構成部品のような車両部品ではなく、ホイールまたはホイールリムでのみ車両を固定してください。さもないと、車両を損傷するおそれがあります。

4MATIC 車両の注意点

! 4MATIC 車は、フロントまたはリアのみを持ち上げてけん引しないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

トランスミッションまたはフロント / リアアクスルを損傷しているときは、車両運搬車で運搬してください。

電気システムが損傷しているとき

バッテリーに不具合があるときは、トランスミッションがポジション **P** に固定されます。他車のバッテリーを電源としたエンジン始動と同様に、オートマチックトランスミッションをポジション **N** にシフトするためには、車両の電気システムに電力を供給しなくてはなりません (▷320 ページ)。

電力が供給できない場合は、車両運搬車で運搬してください。

ぬかるみなどから復帰するとき

! 動けなくなった車両を復帰させるときは、車両を急激に引き出したり、斜めに引き出さないでください。引き出す力が強いと、車両を損傷するおそれがあります。

ぬかるみや泥地で駆動輪がはまった場合は、特に車両に荷物を積んでいるときは、細心の注意とともに車両を復帰させてください。

トレーラーを接続したまま車を引き出さないでください。

スタックしたときは、できるだけ走行してきたわだちに沿って後方へ車両を引き出してください。

けん引始動（緊急エンジン始動）

! けん引始動を行なわないでください。さもないと、オートマチックトランスミッションを損傷するおそれがあります。

ジャンプスタートに関する情報は（▶320 ページ）にあります。

ヒューズ

 警告

メルセデス・ベンツにより承認され、システムの要求に合った適切な規格のヒューズのみを使用してください。不具合のあるヒューズを修理したり、代用品で接続しようとししないでください。承認されていない、または修理および代用しようとしたヒューズの使用は、ヒューズの過熱の原因になり、火災につながるおそれがあります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で原因を特定し、修理してください。

車両のヒューズは、不具合のある回路を切断する働きをします。ヒューズが切れた場合は、回路のすべての構成部品とそれらの機能は作動を停止します。

切れたヒューズは、色やヒューズ規格で区別することができる、同じ規格のヒューズと交換してください。ヒューズの規格はヒューズ一覧表に記載されています。

新しく差し込んだヒューズも切れるときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で原因を特定し、修理してください。

ヒューズを交換する前に

- ▶ 車両が動き出さないようにします (▶121 ページ)。
- ▶ すべての電気装備を停止します。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **0** の位置にまわして抜きます (▶79 ページ)。

または

- ▶ キーレスゴー装備車は、イグニッション位置を **0** にします (▶80 ページ)。

メーターパネルのすべての表示灯が消灯します。

ヒューズは複数のヒューズボックスに収められています。

- エンジンルーム内運転席側
- ラゲッジフロアボード下の小物入れ右側

ラゲッジフロアボード下の小物入れにある車載工具内にヒューズ配置表があります (▶270 ページ)。

エンジンルーム内のヒューズボックス

- ▶ ワイパーが停止位置になっていることを確認します。

警告

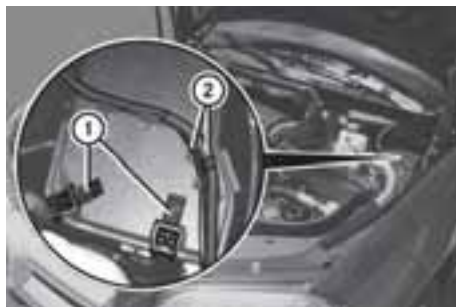
エンジンルーム内のヒューズボックスを点検するときは、必ずワイパーを停止し、エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてください。ワイパーが作動するとけがをするおそれがあります。

! カバーが開いているときに、湿気が入らないことを確認してください。

! カバーを閉じるときは、ヒューズボックスに正しくかぶさっていることを確認してください。さもないと、湿気や汚れによりヒューズの作動を損なうおそれがあります。

- ▶ ワイパーが停止していることを確認します。

- ▶ ボンネットを開きます。



- ▶ カバーに水分や汚れが付着しているときは、布などで拭き取ります。

ヒューズボックスのカバーを外す

- ▶ ホース ② をカバーのクリップから外します。
- ▶ クリップ ① を外します。
- ▶ 前方に向けてカバーを取り外します。

! ヒューズボックスのカバーを取り外したときに、ヒューズボックスの内部に水などが入らないようにしてください。

ヒューズボックスのカバーを取り付ける

- ▶ ヒューズボックスカバーのシール部が正しい位置にあることを確認します。
- ▶ 後部から先に、カバーをヒューズボックスに取り付けます。
- ▶ クリップ①でカバーを固定します。
- ▶ ホース②をカバーのフックに取り付けます。
- ▶ ボンネットを閉じます。

ラゲッジルーム内のヒューズボックス

- ❗ カバーが開いているときに、湿気が入らないことを確認してください。
- ▶ テールゲートを開きます。



ヒューズボックスのカバーを開く

- ▶ ラゲッジフロアボードを開きます (p.223 ページ)。
- ▶ ラゲッジルームトレイ①を取り出します。
- ▶ カバー②を開きます。

ヒューズ一覧

エンジンルーム内のヒューズボックス

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
1	25A	ABS/ASR/BAS/ESP®
2	30A	セントラルロック、乗降用ライト、ドア赤色灯、ドアミラー、パワーウインドウ、前席シート調整、スイッチ照明
3	30A	乗降用ライト、ドア赤色灯、パワーウインドウ、スイッチ照明
4	20A	ヘッドライト
5	7.5A	ライトスイッチ
6	10A	ABS/ASR/BAS/ESP®, エンジンエレクトロニクス、燃料システム、スターター
7	20A	スターター
8	7.5A	エアバッグ
9	15A	ライター
10	30A	フロントワイパー
11	7.5A	COMAND ディスプレイ、COMAND システム
12	7.5A	エアコンディショナー、パークトロンニック、シートヒーター、スイッチ照明
13	7.5A	ABS/ASR/BAS/ESP®, ホーン、ヘッドライト、マルチファンクションステアリング、方向指示灯、ウインドウウォッシャー、リアウインドウウォッシャー、フロントワイパー、リアワイパー、ステアリング調整、ドライバースタンスシステム
14	7.5A	ABS/ASR/BAS/ESP®
15	7.5A	エアバッグ
16	5A	ABS/ASR/BAS/ESP®, オートマチックトランスミッション、燃料システム、ECO スタートストップ、電話
17	30A	パノラミックスライディングルーフ

ヒューズ 番号	アンペア 数	装置名
18	7.5A	オートマチックトランスミッション、ライトスイッチ、非常点滅灯、ECO スタートストップ
19	20A	エンジンエレクトロニクス、燃料システム、イグニッションロック、スターター、ステアリングロック
20	40A	ABS/ASR/BAS/ESP®
21	7.5A	エアバッグ、グローブボックスライト
22	15A	エンジンエレクトロニクス
23	20A	エンジンエレクトロニクス、燃料システム
24	15A	エンジンエレクトロニクス
25	15A	エンジンエレクトロニクス
26	20A	COMAND システム
27	7.5A	エンジンエレクトロニクス、燃料システム、イグニッションロック、スターター、ステアリングロック
28	7.5A	メーターパネル
29	10A	ヘッドライト照射角度調整
30	10A	ヘッドライト照射角度調整
31	15A	ホーン
32	40A	エンジンエレクトロニクス
33	10A	オートマチックトランスミッション
34	7.5A	燃料システム
35	5A	オプション
36	7.5A	ディストロニック・プラス

ラゲッジルーム内のヒューズボックス

ヒューズ 番号	アンペア 数	装置名
37	5A	エアバッグ、NECK PRO アクティブヘッドレスト
38	15A	リアウインドウウォッシャー、リアワイパー

ヒューズ 番号	アンペア 数	装置名
39	30A	乗降用ライト、ドア赤色灯、パワーウインドウ、スイッチ照明
40	—	未使用
41	30A	乗降用ライト、ドア赤色灯、セントラルロック、ドアミラー、前席シート調整、パワーウインドウ、スイッチ照明
42	25A	燃料システム
43	5A	エアコンディショナー
44	30A	前席シート調整
45	30A	前席シート調整
46	7.5A	アンテナモジュール、セントラルロック、COMAND システム
47	—	未使用
48	—	未使用
49	40A	リアデフォグガー
50	50A	PRE-SAFE®
51	50A	PRE-SAFE®
52	—	未使用
53	—	未使用
54	—	未使用
55	—	未使用
56	—	未使用
57	—	未使用
58	—	未使用
59	—	未使用
60	—	未使用
61	—	未使用
62	30A	前席シート調整、ステアリング調整
63	30A	前席シート調整
64	—	未使用
65	10A	ドライバーアシスタンスシステム
66	—	未使用
67	—	未使用

ヒューズ 番号	アンペア 数	装置名
68	－	未使用
69	－	未使用
70	－	未使用
71	15A	ライター
72	15A	12V 電源ソケット（ラゲッジ ルーム）
73	7.5A	診断ソケット
74	15A	キーレスゴー
75	－	未使用
76	15A	12V 電源ソケット（後席）
77	－	未使用
78	－	未使用
79	－	未使用
80	5A	ドライバースシスタンスシス テム
81	5A	パークトロニック
82	－	未使用
83	7.5A	パーキングアシストリア ビューカメラ
84	7.5A	COMAND システム、パーキ ングアシストリアビューカ メラ
85	7.5A	COMAND システム
86	－	未使用
87	－	未使用
88	15A	オートマチックトランスミッ ション
89	－	未使用
90	－	未使用
91	20A	オートマチックトランスミッ ション、燃料システム、ECO スタートストップ

- i

ヒューズ配置表（英文）が、車載
工具に収納されています。ヒューズ
配置表にはヒューズ容量も記載され
ています。
- i

記載の内容は取扱説明書作成時点
のもので、予告なく変更されること
があります。

純正部品 / 純正アクセサリ	… 332
車両の電子機器	…………… 333
ビークルプレート	…………… 333
サービスプロダクトと容量	…………… 334
積載荷物の制限重量	…………… 339
テールゲート開口時の寸法	…………… 339
タイヤとホイールの組み合わせ	… 339
24GHz レーダーセンサーシステム	…………… 343



テクニカルデータに関する注意事項

i テクニカルデータは EC 指令に準拠して決定されています。すべてのデータは車両の標準装備に該当します。そのため、オプション装備を装備した車両では異なることがあります。

メルセデス・ベンツ純正部品

警告

承認されていない部品、タイヤやホイール、または安全に関するアクセサリを使用すると、走行安全性が損なわれるおそれがあります。

これらはブレーキシステムなどの安全性に関連したシステムの故障につながる可能性があります。車両のコントロールを失う原因になったり、事故の原因になるおそれがあります。

この理由により、メルセデス・ベンツ純正部品、または同品質の部品を使用することをお勧めします。お客様の車両のために特別に承認されたタイヤ、ホイールおよびアクセサリのみを使用してください。

環境

Daimler AG は、新品と同じ品質の再生アセンブリおよび部品を供給しています。これらには、新品と同様の保証が適用されます。

! 車両の以下の範囲には、エアバッグやシートベルトテンショナー、およびそれらの保護システムのコントロールユニットやセンサーが取り付けられていることがあります。

- ドア
- ドアピラー
- ドアシル
- シート
- ダッシュボード
- メーターパネル
- センターコンソール

これらの範囲には、オーディオシステムのようなアクセサリを取り付けないでください。修理や钣金作業を実施しないでください。保護システムの十分な作動を損なうおそれがあります。

アクセサリはメルセデス・ベンツ指定サービス工場に取り付けることをお勧めします。

メルセデス・ベンツでは、お客様の車両に対して特別に承認された純正部品や交換部品、アクセサリに対して、それらの信頼性、安全性および適合性をテストしています。継続的な市場調査にもかかわらず、メルセデス・ベンツは他の部品を評価することはできません。したがって、個別にまたは公式に承認された部品であっても、これらの使用に対しては、メルセデス・ベンツは責任を負いません。

メルセデス・ベンツ純正部品を注文するときは、常に車台番号 (▷333 ページ) およびエンジン番号 (▷333 ページ) を特定してください。

車両の電子機器

電子部品の改造

⚠ 警告

エンジン電子機器および関連する構成部品に関わる作業は、常にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行ってください。さもないと、車両の安全性に影響を与えるおそれがあります。

- ❗ エンジン電子機器およびそれに関連するコントロールユニット、センサー配線類のような部品に関わる作業は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのみ実施してください。さもないと、車両の構成部品がより早く摩耗することがあったり、車両の使用に関する保証が無効になることがあります。

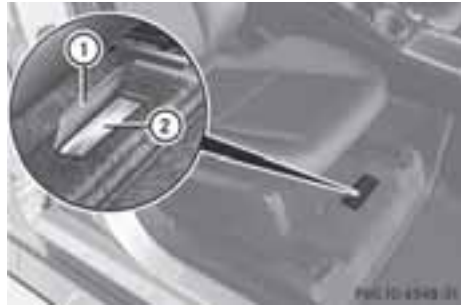
ビークルプレート

車台番号やカラーコードが記載されたビークルプレート



- ▶ 左側または右側フロントドアを開きます。
- ビークルプレート ① があります。

車台番号



- ▶ 右側前席をもっとも後方の位置にします。
 - ▶ カバー ① を上方に開きます。
- 車台番号 ② が確認できます。
- 車台番号はビークルプレートにもあります。

エンジン番号

エンジン番号はクランクケースに刻印されています。詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

サービスプロダクトと容量

重要な安全上の注意

 警告

お客様自身や他の方を危険にさらすおそれがあるため、サービスプロダクトの取り扱い、保管、廃棄については、関連する規定に従ってください。

サービスプロダクトは子供の手の届かない場所に保管してください。

お客様の健康を守るために、サービスプロダクトが目や傷に触れないようにしてください。誤ってサービスプロダクトを飲み込んだときは、ただちに医師の診断を受けてください。

 環境

サービスプロダクトは、環境に配慮した方法で廃棄してください。

サービスプロダクトには以下が含まれます。

- 燃料
- 油脂(エンジンオイル、トランスミッションオイルなど)
- 冷却水
- ブレーキ液
- ウォッシャー液
- エアコンディショナーの冷媒

車両の構成部品とそれぞれの油脂は適合していなければなりません。メルセデス・ベンツによりテストされ、特別に承認された製品を使用することをお勧めします。

詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

燃料

重要な安全上の注意

 警告

燃料は高い可燃性です。そのため、燃料を取り扱うときは、火、裸火および喫煙は禁止されています。

補給の前にエンジンを停止してください。

 警告

燃料への接触を避けてください。

皮膚が直接燃料に触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康に危険を及ぼします。

燃料タンク容量

燃料タンク容量	約 66.0 ℓ
---------	----------

警告灯点灯時の残量	約 8.0 ℓ
-----------	---------

ガソリン

! ガソリンエンジン車に軽油を補給しないでください。少量の軽油でも、燃料噴射システムを損傷します。

! 無鉛プレミアムガソリンのみを補給してください。

! 以下は使用しないでください。

- 有鉛ガソリン
- 軽油

これらの燃料をガソリンに混合しないでください。また、いかなる添加剤も使用しないでください。エンジンの損傷につながる可能性があります。生成残留物の除去および防止のための添加剤は、これには含まれません。ガソリンには、メルセデス・ベンツにより推奨された添加剤のみを混合してください。推奨されている添加剤の詳細な情報は、メルセデス・ベンツ指定サービスにおたずねください。

添加剤

! 低いグレードのガソリンを補給したり、メルセデス・ベンツによりテストおよび承認されていない添加剤を使用しないでください。さもないと、燃料システムが故障したり、損傷するおそれがあります。

低いグレードの燃料による主なトラブルのひとつに、燃料が燃焼する過程でのカーボン堆積物の生成があります。メルセデス・ベンツは、清浄剤を含有する種類の燃料の使用をお勧めします。

これらの清浄剤を含まない燃料を長期間使用した場合は、カーボン堆積物が生成されることがあります。これらは特に、吸気バルブや燃焼室に発生します。

これにより、エンジン作動の以下の問題につながるおそれがあります。

- エンジン暖気時間の長期化
- 不安定なアイドリング
- エンジン騒音
- ミスファイア
- 出力の低下

燃料に他の燃料の添加剤を混合しないでください。これにより、エンジンを損傷するおそれがあります。

燃料消費について

🌱 環境

CO₂の排出は、地球温暖化の主な原因となります。お客様の車両のCO₂排出量は燃料消費率に直接関係があり、以下の条件により左右されます。

- エンジンの燃焼効率
- 運転スタイル
- 環境的な影響や道路状況のような、技術的ではない他の要因

慎重に運転し、定期的に点検整備を行なうことにより、車両のCO₂排出量を最小限にできます。

以下の状況では、車両は通常より多くの燃料を使用します。

- 外気温度が非常に低いとき
- 市街地を走行するとき
- 短い距離を走行するとき
- 山道や坂道を走行しているとき

エンジンオイル

全体的な注意事項

エンジンオイルの品質は、エンジンの機能や使用寿命を決定します。多くのテストの後で、メルセデス・ベンツは現在の技術基準に対応するエンジンオイルを承認しています。

そのため、メルセデス・ベンツが承認したエンジンオイルのみを使用してください。

テストされ、承認されたエンジンオイルに関する詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。オイル交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で実施することをお勧めします。

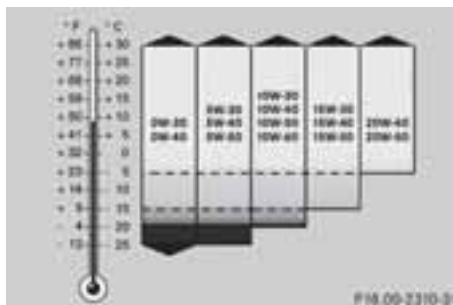
容量

車種	交換量
GLK 350 4MATIC BlueEFFICIENCY	約 6.5 ℓ

添加剤

! エンジンオイルに添加剤を使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

エンジンオイルの粘度



粘度は液体の流動性を示します。エンジンオイルが高い粘度値を持つ場合は、ゆっくり流れます。粘度が低いほど、速く流れます。

エンジンオイルの選択は、対応する外気温度および SAE 等級（粘度）に基づきます。表は使用する SAE 等級を示しています。劣化または煤煙および燃料付着等の原因により、低い温度でのエンジンオイルの特性は著しく損なわれます。そのため、適切な SAE 等級での承認されたエンジンオイルを使用して、定期的なオイル交換を行なうことを強くお勧めします。

ブレーキ液

⚠ 警告

時間の経過とともに、ブレーキ液は空気から湿気を吸収します。これにより、沸点が下がります。

ブレーキ液の沸点が非常に低い場合は、ブレーキを過酷に効かせたとき（下り坂での走行など）にブレーキシステムに気泡が形成されることがあります。これによりブレーキ効果が損なわれます。

定期的な間隔でブレーキ液を交換しなければなりません。ブレーキ液交換の間隔は整備手帳にあります。

メルセデス・ベンツにより承認されたブレーキ液のみを使用してください。承認されたブレーキ液の情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i ブレーキ液は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で定期的に点検してください。

冷却水

重要な安全上の注意

⚠ 警告

不凍液は高い可燃性です。不凍液を扱うときは、火、裸火および喫煙は禁止されています。

熱くなったエンジン部品に不凍液が触れると、発火して、お客様自身が火傷をするおそれがあります。熱くなったエンジン部品の上に不凍液をこぼさないでください。

! あらかじめ希望の濃度に混合した冷却水のみを加えてください。

冷却水に関する詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 適切な冷却水混合液を使用してください。

さもないと、エンジン冷却システムが腐食から十分に保護されず、オーバーヒートします。

! エンジン冷却システムには、15 年または走行距離 250,000km 走行後に交換が必要な冷却水が充填されています。

冷却水は水と防錆不凍液の混合液です。以下の役割を果たします。

- 防錆保護
- 凍結防止
- 沸点の上昇

適切な濃度の防錆不凍液では、作動時の冷却水の沸点は約 130°C になります。

エンジン冷却システム内の防錆不凍液の濃度は以下でなければなりません。

- 少なくとも約 50% 以上にしてください。約 -37℃までエンジン冷却システムの凍結を防止します。
- 約 55% を超えないようにしてください。(約 -45℃までの凍結防止)。さもないと、熱が効果的に発散しません。

車両の冷却水が不足している場合は、水と防錆不凍液の混合液を補充してください。メルセデス・ベンツは、サービスプロダクト 310.1 に関する MB 仕様に準拠した防錆不凍液をお勧めします。

冷却水は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのメーカー指定点検整備実施時に、毎回点検が行なわれます。

- i** 車両の納車時には、弊社指定の防錆不凍液を適正な濃度で混合した冷却水がリザーブタンクに充填されています。

ウォッシャー液

重要な安全上の注意

警告

ウォッシャー液 / 不凍液は高い可燃性です。発火したり、燃えるおそれがあるため、熱くなったエンジン構成部品の上にウォッシャー液 / 不凍液をこぼさないでください。重度の火傷を負うおそれがあります。

! MB SummerFit または MB WinterFit などのプラスチック製ライトレンズに適したウォッシャー液のみを使用してください。適していないウォッシャー液は、ヘッドライトのプラスチックレンズを損傷するおそれがあります。

! ウォッシャー液に蒸留水や脱イオン水を使用しないでください。さもないと、液量のセンサーを損傷するおそれがあります。

! MB SummerFit や MB WinterFit は必ず水と混ぜて使用してください。さもないと、スプレーノズルが詰まるおそれがあります。

気温が氷点より高いときは、以下のようになっています。

- ▶ 水と MB SummerFit などのウォッシャー液の混合液をリザーブタンクに補充します。
- ▶ 水の量 100 に対して MB SummerFit の量 1 を混合します。

気温が氷点以下のときは、以下のようになっています。

- ▶ 水と MB WinterFit などのウォッシャー液の混合液をリザーブタンクに補充します。混合比を外気温度に合わせます。
- ▶ -10℃までは、水の量 2 に対して MB WinterFit の量 1 を混合します。
- ▶ -20℃までは、水の量 1 に対して MB WinterFit の量 1 を混合します。
- ▶ -29℃までは、水の量 1 に対して MB WinterFit の量 2 を混合します。

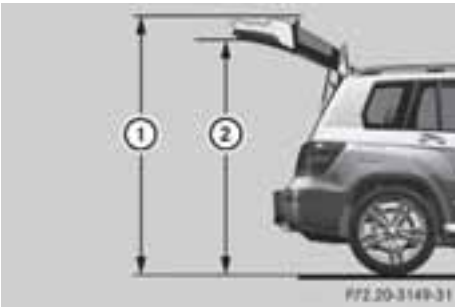
i 1 年を通して、MB SummerFit または MB WinterFit などの濃縮ウォッシャー液をウォッシャー液に加えてください。

積載荷物の制限重量

車種	ルーフ
全車	75kg

i ルーフの制限重量には、ルーフラックやアタッチメントの重量も含まれます。

テールゲート開口時の寸法



GLK 350 4MATIC BlueEFFICIENCY

① 開口部高さ	② 最大頭上高
2087mm	1955mm

上記の数値は本国仕様のもので、日本仕様とは異なる場合があります。

タイヤとホイールの組み合わせ

全体的な注意事項

! 安全上の理由により、車両のためにメルセデス・ベンツにより特別に承認されたタイヤとホイールのみを使用することをお勧めします。

それらは、ABS や ESP® などの制御システムに特別に適合しており、以下のマークが付いています。

- MO =メルセデス・ベンツ純正タイヤ
- MOE =メルセデス・ベンツ純正ランフラットタイヤ（ランフラット特性を持つタイヤ）
- MO1 =メルセデス・ベンツ純正タイヤ（特定の AMG タイヤのみ）

メルセデス・ベンツによりテストされ、承認されたタイヤ、ホイールおよびアクセサリのみを使用してください。さもないと、ハンドリングなどの特定の特性、車両排出騒音および燃料消費に悪影響を与えます。さらに、荷物を積んで走行しているとき、タイヤサイズの種類によっては、タイヤが車体やアクスル構成部品と接触するおそれがあります。これにより、タイヤまたは車両の損傷につながるおそれがあります。

テストおよび承認されていないタイヤ、ホイールおよびアクセサリの使用に起因する損傷については、メルセデス・ベンツは責任を負いません。

ホイール、タイヤおよび承認された組み合わせについての詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 再生タイヤはメルセデス・ベンツでテストを行っていないため、それらの装着はお勧めできません。元の損傷状態を常に確認することはできません。結果的に、メルセデス・ベンツでは再生タイヤを装着した場合の安全性は保証できません。

i 車両の燃料給油フラップの裏側に、タイヤ空気圧ラベルがあります。タイヤ空気圧に関するさらなる情報は (▷246 ページ) をご覧ください。

タイヤが冷えているときにのみ、定期的にタイヤ空気圧を点検してください。

i タイヤとホイールは、以下の点を確認して正しく装着してください。

- 左右には必ず同サイズのタイヤを装着してください。
- サマータイヤ、ウィンタータイヤ、ランフラットタイヤなど、異なる種類のタイヤを同時に装着しないでください。

標準タイヤ

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
GLK 350 4MATIC	235 / 60R17	7.5J × 17	47.5mm
GLK 350 4MATIC AMG スポーツパッケージ	前輪 235 / 50R19	前輪 7.5J × 19	前輪 47mm
	後輪 255 / 45R19	後輪 8.5J × 19	後輪 52mm
GLK 350 4MATIC AMG エクスクルーシブ パッケージ	前輪 235 / 45R20	前輪 8.5J × 20	前輪 45mm
	後輪 255 / 40R20	後輪 9.5J × 20	後輪 57mm

オプションまたは仕様により、以下のタイヤ / ホイールが装着される場合があります。

	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
17 インチホイール	235 / 60R17	7.5J × 17	47.5mm
	前輪 235 / 60R17 後輪 255 / 55R17	前輪 7.5J × 17 後輪 8.0J × 17	前輪 47.5mm 後輪 57mm
19 インチホイール	235 / 50R19	7.5J × 19	47mm
	前輪 235 / 50R19 後輪 255 / 45R19	前輪 7.5J × 19 後輪 8.5J × 19	前輪 47mm 後輪 52mm
20 インチホイール	前輪 235 / 45R20 後輪 255 / 40R20	前輪 8.5J × 20 後輪 9.5J × 20	前輪 45mm 後輪 57mm

! タイヤまたはホイールのサイズが前後で異なる車両は、タイヤローテーションを行なわないでください。

! タイヤサイズ 255/55R17、255/45R19、255/40R20 の標準タイヤにはスノーチェーンを装着できません。

ウィンタータイヤ

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
全車	235 / 60R17 M+S	7.5J × 17	47.5mm
	235 / 50R19 M+S	7.5J × 19	47mm

応急用スペアタイヤ

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ
全車	185/75-17 タイヤ空気圧： 280kPa（2.8bar/41psi）	6.00B × 17 オフセット 25mm

- i

応急用スペアタイヤのタイヤ空気圧は、ホイールに黄色で記載されています。
- i

上記の内容は本国仕様のもので、日本においては購入や装着ができない場合があります。適切なホイール / タイヤの組み合わせについては、購入前に必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

24 GHz レーダーセンサーシステム

24 GHz レーダーセンサーシステムは、各々の国により、それぞれの承認を必要とします。レーダーセンサーシステムが承認されていない国で走行するときは、マルチファンクションディスプレイを使用して、システムを停止しなければなりません（▷151 ページ）。

※ 24 GHz レーダーセンサーシステムは、日本仕様車には装備されません。

電波望遠鏡施設の周辺では、レーダーセンサーシステムは自動的に停止します。現在作動中のシステムは自動的に停止します。

- ディストロニック・プラス（▷161 ページ）
- アクティブブラインドスポットアシスト（▷191 ページ）
- PRE-SAFE® ブレーキ（▷63 ページ）

マルチファンクションディスプレイに、レーダーセンサーシステムが停止していることが表示されます（▷283 ページ）。

さらに BAS プラス（▷59 ページ）も機能しません。

マルチファンクションディスプレイを使用して、レーダーセンサーシステムを解除することもできます（▷151 ページ）。

国名	施設名	地理緯度	地理経度	施設からの 周辺距離
日本	野辺山 長野県南佐久郡南牧村 野辺山 462-2	北緯 35° 56′ 40.9″	東経 138° 28′ 23.2″	約 8 km
	水沢 岩手県奥州市水沢区 星が丘町 2-12	北緯 39° 08′ 01″	東経 141° 07′ 57″	約 14 km
	入来 鹿児島県薩摩川内市入来町 浦之名 4018-3	北緯 31° 44′ 52″	東経 130° 26′ 24″	約 11 km
	小笠原 東京都小笠原村父島字旭山	北緯 27° 05′ 31″	東経 142° 13′ 00″	約 1 km
	石垣島 沖縄県石垣市登野城嵩田 2389-1	北緯 24° 24′ 44″	東経 124° 10′ 16″	約 2 km
	鹿嶋 茨城県鹿嶋市平井 893-1	北緯 35° 57′ 21″	東経 140° 39′ 36″	約 15 km
	苫小牧 北海道苫小牧市字高丘	北緯 42° 40′ 25″	東経 141° 35′ 49″	約 17 km
	岐阜大学 岐阜市柳戸 1-1	北緯 35° 28′ 03″	東経 136° 44′ 14″	約 13 km
	鹿児島大学 鹿児島県鹿児島市平川町	北緯 31° 28′ 04″	東経 130° 30′ 18″	約 5 km
	国土地理院 茨城県つくば市北郷 1	北緯 36° 06′ 11″	東経 140° 05′ 20″	約 20 km
	臼田 長野県佐久市上小田切 字大曲 1831-6	北緯 36° 07′ 57″	東経 138° 21′ 46″	約 6 km
	山口大学 山口県山口市仁保中郷 123	北緯 34° 12′ 58″	東経 131° 33′ 26″	約 3 km

国名	施設名	地理緯度	地理経度	施設からの 周辺距離
日本	日立 茨城県日立市十王町大字 伊師字加幸沢 3866	北緯 36° 41′ 51″	東経 140° 41′ 32″	約 20 km
	高萩 茨城県高萩市大字石滝 字呉坪 650	北緯 36° 41′ 54″	東経 140° 41′ 40″	約 20 km
	内之浦 鹿児島県肝属郡肝付町南方 1791-13	北緯 31° 15′ 16″	東経 131° 04′ 42″	約 20 km

対象モデル

GLK 350 4MATIC

"ESP®" は Daimler AG の登録商標です。

※この取扱説明書の内容は、2012 年 5 月現在のものです。

総輸入元

メルセデス・ベンツ日本株式会社

〒106-8506 東京都港区六本木一丁目 9 番 9 号 六本木ファーストビル

環境保護のため、この取扱説明書は再生紙を使用致しました。

MBJCSD 32600-061200400 H
6515 0773 20 ÄJ2012-Ma, 06/12